CITROËN

C4 CITROËN PICASSO

GRAND C4 PICASSO

取扱説明書

CRÉATIVE TECHNOLOGIE

ごあいさつ

このたびはシトロエン C4 Picasso をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
この取扱説明書は、シトロエン C4 Picasso の取り扱いについて記載してあります。
ご使用になる前に本書をよくお読みになり、ご理解を深めるようお願い申し上げます。
本書は車内に保管し、いつでも読み返すことができるようにしてください。
車に添え付けられているメンテナンスノート（整備手帳）は、携行が義務付けられています。この取扱説明書とともに常時携行していただくようお願い申し上げます。



おことわり

・この取扱説明書は、発売時点の車両仕様をもとに作成しております。
オートモビル・シトロエン社では絶えず製品の改良を行っており、予告なく仕様が変更されることがあります。お客様の車両と装備品、仕様等が本書に掲載されている写真、イラスト、仕様等と細部が異なる場合がありますが、あらかじめご了承ください。
・本書は、オプション装備を含む当モデルの全ての装備の説明を記載しております。各装備の有無については車両の仕様によって異なるため、お求めいただいた車両に装備されていない物が記載されていることがありますのであらかじめご了承ください。

重要安全情報

この取扱説明書には、車を安全に取り扱うために必要な情報が記載されています。
また、車を取り扱う上での危険性や注意点などについても説明されており、それに伴う事故を避けるためのアドバイスも含まれています。これらの警告や注意を守らない場合には、死亡を含む人的な傷害や車の破損などにつながる可能性があります。
危険に関する警告や注意は、車体各部に貼り付けた 3 種類の警告ラベルで表示されています。さらに、本書は注意に関する記載を、人身と物損に分けています。

⚠警 告

指示に従わなかった場合、乗員や第三者が死亡または重度の傷害を負うおそれがあることを示しています。

⚠注 意

指示に従わなかった場合、乗員や第三者が傷害を負うおそれがあることを示しています。

注 意

指示に従わなかった場合、車を破損させるおそれがあることを示しています。

MEMO

取り扱い上で、重要な点や注意点、アドバイスなどを示しています。

⚠ このマークが付いた指示に従わなかった場合、人身に関わる (死亡や傷害の) おそれがあることを示しています。

車をご使用いただく前に

●消耗品、アクセサリーについて

シトロエン C4 Picasso に使用する消耗品やアクセサリー類は、シトロエンの純正部品をご使用ください。市販されている汎用の消耗品やアクセサリー類のなかには、車の機器に適合しなかったり正常な作動を妨げる可能性がある製品が含まれていることがあります。シトロエン車本来の安全性や耐久性を損わないためにも、純正の部品やアクセサリー類のご使用をお勧めします。

●改造について

シトロエン C4 Picasso の非合法な改造は、法に触れるだけでなく車の安全性や耐久性を著しく損なうおそれがあります。また、車の保証修理が受けられなくなることがありますので、むやみな改造を行わないでください。本書に記載のない整備や修理については、シトロエン指定サービス工場にご用命ください。

この車の電気配線には、多重通信システムの制御信号が流れています。シトロエン純正以外のナビゲーションシステムやラジオなどのアクセサリー類の取り付けのために車の配線に加工や接続をすると、エンジンやブレーキの制御に障害を与え、その結果、機器の故障や事故にいたるおそれがあります。これらの取り付けにあたっては、シトロエン指定サービス工場にご相談ください。

また、シトロエンが供給していないアクセサリー類の取り付けや、あるいはシトロエンの指示に従わない装着方法によって発生した、車または機器の不具合もしくは事故等に関わる損害の補償をいたしません。

●エコノミーモード

エンジンが停止してからも、オーディオ機器などへの電源供給を走行直後は最大40 分間行います。電源が切れると、メッセージが表示されます。

エンジンを再始動すると、電源の供給が再開されます。

すぐにアクセサリーを使用したいときは、エンジンを始動して数分間まわしてください。

エンジンをかけていた時間の倍の間、アクセサリーを使用できます。ただし、この時間は 5 ～ 30 分に限られます。

●ディーゼル車について

AdBlue® の残量がなくなった場合、エンジンを始動できなくなります。AdBlue® の補充は早めにシトロエン指定サービス工場にお申し付けください。

環境・リサイクルへの取り組み

●自動車リサイクル法

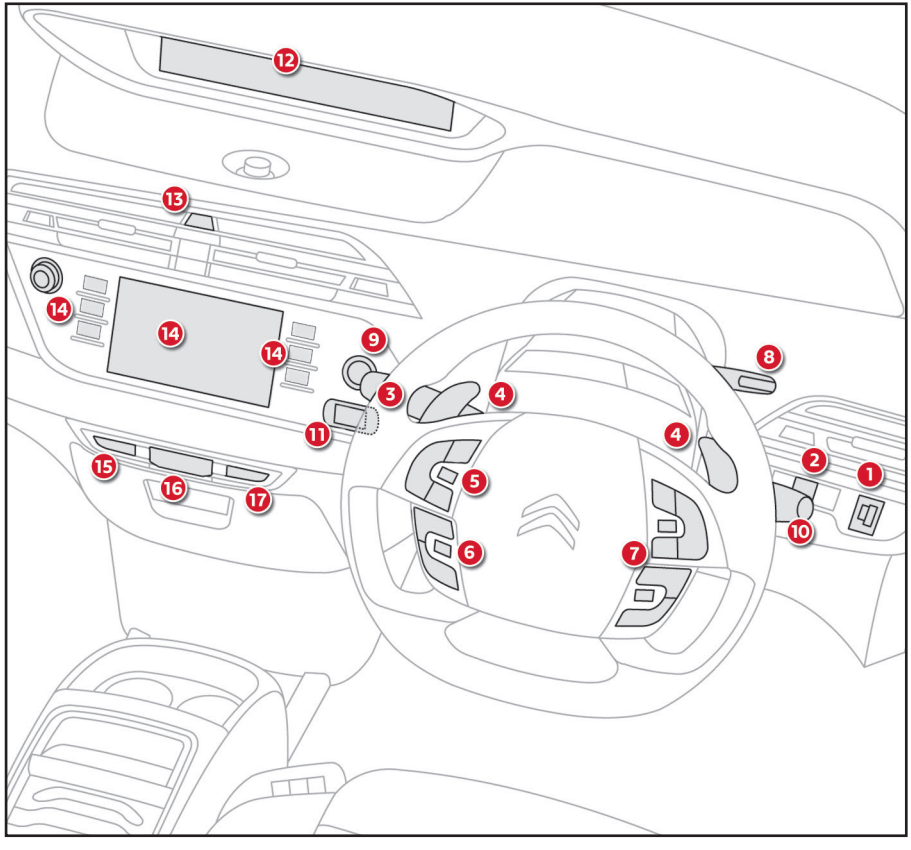
自動車リサイクル法は、使用済自動車（廃車）を適正に処理して、資源の再利用を促進することでゴミを減らすことを目的に作られた法律です。
具体的には、廃車することで発生する再利用できないシュレッダーダストの削減、環境に有害な物質（フロン等）の適正処理などを行い、環境保護に役立てるものです。そのため、車の所有者、自動車会社（輸入事業者を含む）、自動車関連事業者それぞれに役割が定められています。

●リサイクルへの取り組み

シトロエンでは、自動車リサイクル法が制定される以前から環境保護を行うためのリサイクルに関して対応してきております。
シトロエン C4 Picasso は、リサイクル可能な素材を車体の多くの部分や部品に採用しています。
車の総重量のうち、90% は何らかの形でリサイクルすることが可能です。
すべてのプラスチック部品には、素材を表す記号がつけられており、簡単に取りはずしや分解ができるように考慮されています。
そのほとんどは熱可塑型を使用していますので、熔解したり粉砕して別の自動車部品として蘇らせることができます。
金属部品も同様に、100% の再利用が可能です。この中にはアルミニウムを始め、プラチナやロジウムといった貴重な金属も含まれます。
なお、アスベストやカドミウムといった有害物質は、設計の段階から使用を除外しています。

●環境への配慮

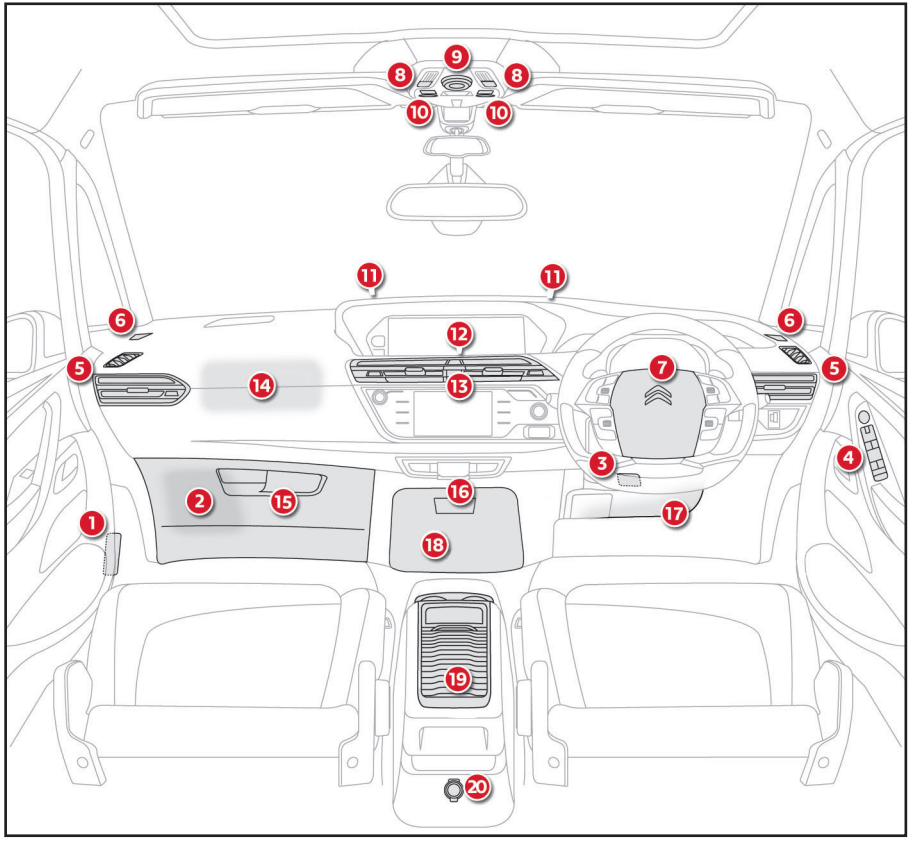
シトロエン指定サービス工場での定期点検整備をきちんと行うことは、環境保護と公害発散の防止につながります。
シトロエン指定サービス工場では、交換済みのオイルや油脂類、損耗部品などを正しく処理することによって環境保護のために貢献しています。
特にエアコンに使用されている冷媒ガス（フロン：HFC134a）は、地球温暖化につながるため大気に放出してはなりません。回収や破壊などの適正な処置をとるためにも、車を廃車にするときはシトロエン指定サービス工場にご相談ください。
環境保護は、たとえキーレスエントリーのリモコンの電池 1 個であっても、お客様のご協力によって実践することができます。



①：ヘッドランプ照射角度調整 *
②：チケットホルダー
③：ライトコントロールスイッチ、方向指示器レバー、フォグランプスイッチ
④：パドルスイッチ
⑤：スピードリミッター／クルーズコントロール *／アクティブクルーズコントロール *／アクティブクルーズコントロール（ブレーキサポート付）*
⑥：ブラックパネルモードボタン、モードダイヤル
⑦：タッチスクリーンコントロールスイッチ
⑧：シフトモードセレクター
⑨：START ／ STOP スイッチ
⑩：ワイパーコントロールレバー、ドライブコンピュータースイッチ
⑪：スマートキー挿入スロット
⑫：インストルメントパネル
⑬：ハザードスイッチ
⑭：タッチスクリーン
⑮：パークアシストスイッチ
⑯：エレクトリックパーキングブレーキスイッチ
⑰：集中ドアロックボタン

本書のイラストは日本仕様ではないため、実車と異なることがあります。

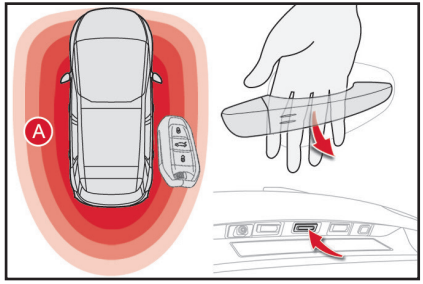
*仕様により異なります。



①：ボンネット解除レバー
②：ヒューズボックス
③：チルト・テレスコピックステアリングレバー
④：パワーウィンドウスイッチ、チャイルドセーフティスイッチ
⑤：ダッシュボード左右吹き出し口
⑥：サイドウィンドウ吹き出し口
⑦：運転席エアバッグ
⑧：ルームランプ、マップランプ
⑨：パノラミックガラスルーフブラインドスイッチ *
⑩：アシスタンスコールスイッチ *
⑪：フロントウィンドウ吹き出し口
⑫：パルファムエアフレッシュナー *
⑬：ダッシュボード中央吹き出し口
⑭：助手席エアバッグ
⑮：グローブボックス
⑯：センターコンソール、12V 電源ソケット、USB ポート
⑰：ブックホルダー
⑱：カップホルダー
⑲：脱着式センターコンソール
⑳：12V 電源ソケット

本書のイラストは日本仕様ではないため、実車と異なることがあります。

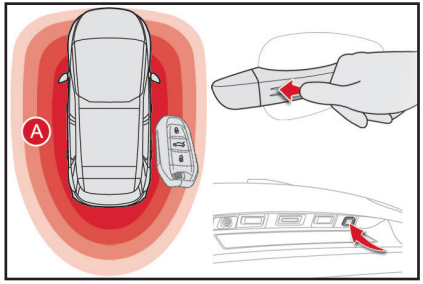
●スマートキー（→ P.2-2）



車の解錠

車両周辺の検知エリア **A** 内でスマートキーを携帯してフロントドアハンドルに手を通す、またはテールゲートのスイッチを押すと、すべてのドアおよびテールゲートが解錠されます。ドアハンドルをそのまま引くとドアを開けることができます（運転席側、助手席側とも）。

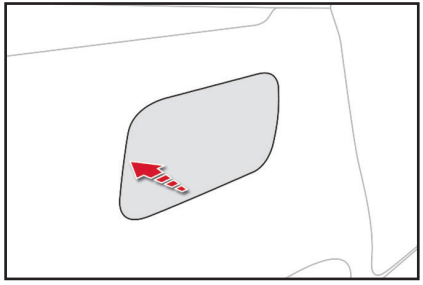
テールゲートのスイッチを押したとき、エレクトリックテールゲート * の設定がオンになっているとテールゲートが開きます。

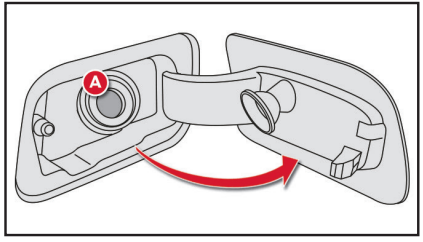


車の施錠

車両周辺の検知エリア **A** にスマートキーがあるときに、フロントドアハンドルのスイッチまたはテールゲートのスイッチを押します。すべてのドアおよびテールゲートが施錠されます。

●フュエルリッド（給油口）（→ P. 2-22）

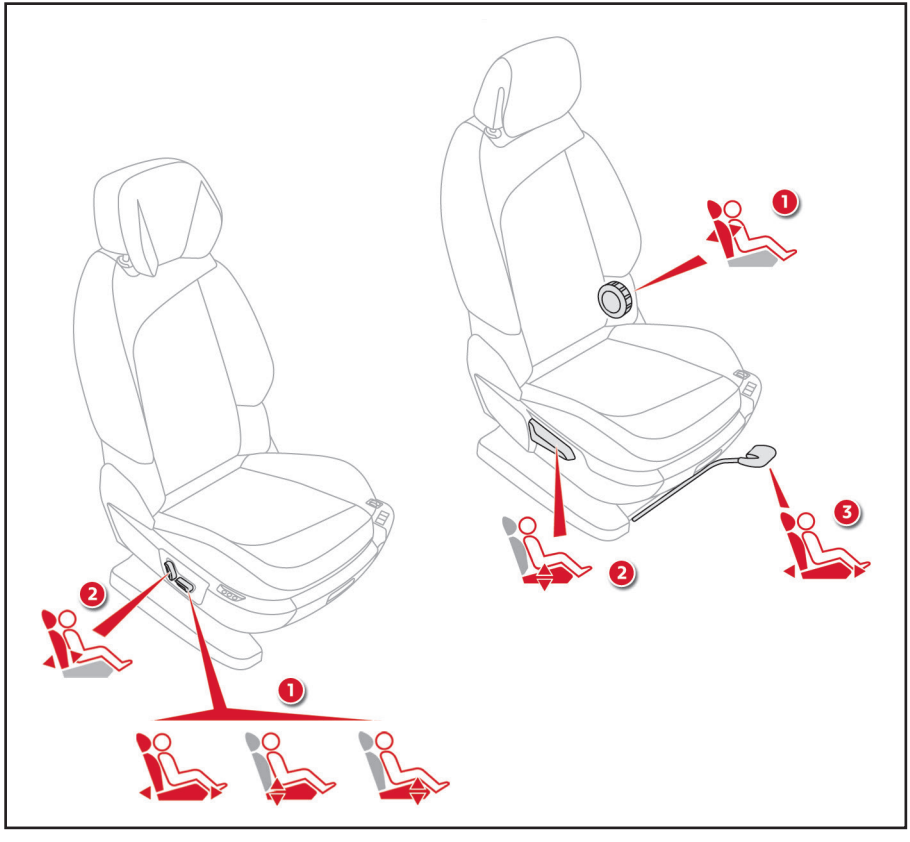




1. 車の解錠後フュエルリッドフラップの後部を押して開きます。
2. 給油口には、金属製のバルブ **A** が付いています。このバルブに給油ノズルをそのまま差し込みます。

燃料タンクの容量は、ガソリン車が約 57 リットル、ディーゼル車が約 55 リットルです。

●フロントシートの調整 (運転席)(→ P. 1-2)



電動

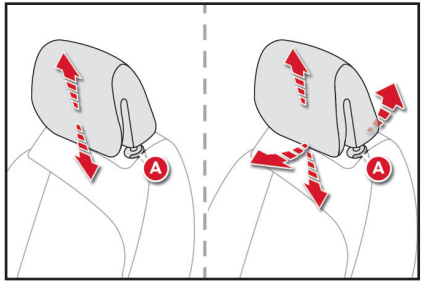
①：シートの角度／高さ／前後の調整
②：バックレストの角度調整

手動

①：バックレストの角度調整
②：シートの高さ調整
③：シートの前後調整

＊仕様により異なります。

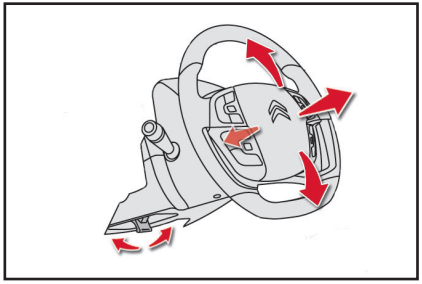
●フロントヘッドレストの調整 (→ P.1-3)



ヘッドレストの上端と乗員の頭の上が揃うように、ヘッドレストを上下および前後 * に動かして調整します。

下げるときは、ボタン**A**を押しながらヘッドレストを押します。

●チルト・テレスコピックステアリング (→ P.3-4)



ロックレバーを手前に引くと、ステアリングのロックが解除されます。
ステアリングホイールの高さや奥行きを調整し、ロックレバーを押し下げてロックしてください。ステアリングがしっかり固定されていることを確かめてください。

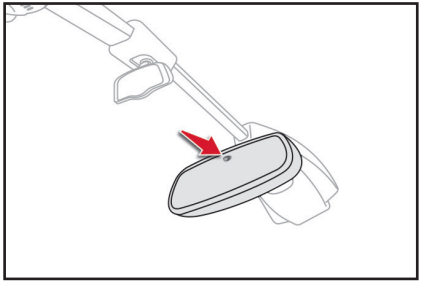
⚠警 告

ステアリングの調整は、車を停止して行ってください。

⚠注 意

シート位置を調整してからステアリング位置を調整してください。

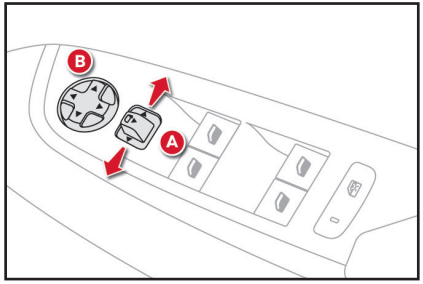
●バックミラーの調整 (→ P.1-11)



昼と夜で自動的にミラーの明るさを調整します。ミラーは後方がよく見える位置に調整してください。

* 仕様により異なります。

●電動ドアミラー (→ P.1-10)



ドアミラーの調整

1. スイッチ **A** を、調整するドアミラー側に動かします。
2. スイッチ **B** で角度を調整します。

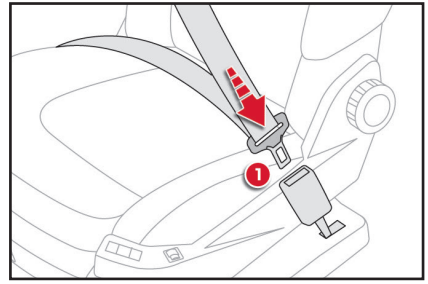
ドアミラーの格納

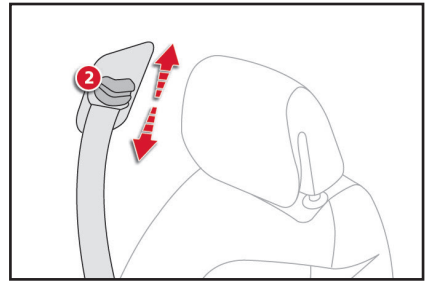
スイッチ **A** を中央位置にして後方へ引くと、ミラーが格納できます。

MEMO

シフトモードセレクターを **R** に入れると、ドアミラーの角度が下向きになり、駐車時などの後退時に下方が見えやすくなります。

●フロントシートベルト(→ P.1-19)





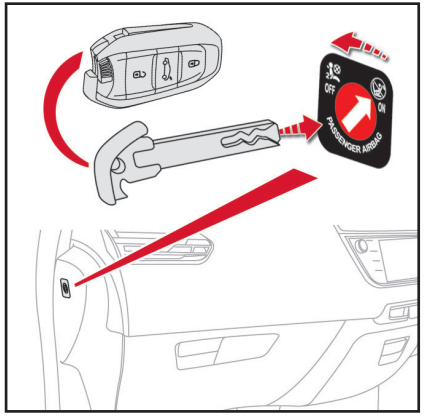
1. シートベルトのプレートをバックル①に差し込みます。
2. アンカー②の突起をつまみながらアンカーを上下にスライドさせて高さを調整します。

●シートベルト警告灯 (→ P.1-21)



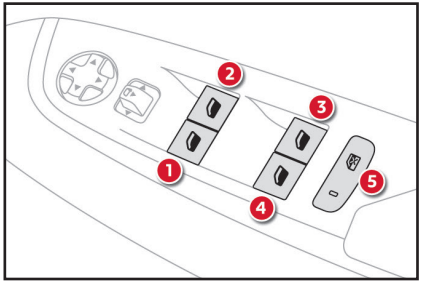
イグニッションをオンにしたとき、シートベルトを着用していない、または着用していたシートベルトをはずしたときに、インストルメントパネルのシートベルト警告灯および該当する座席位置の警告灯が点灯または点滅します。

●助手席エアバッグキャンセルスイッチ（→ P.1-34）



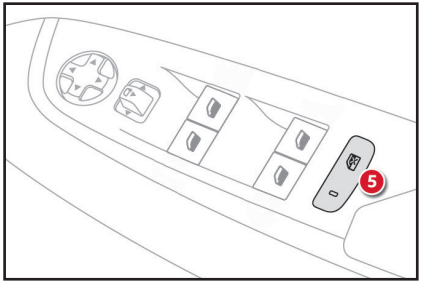
1. 緊急用キーをスイッチに差し込みます。
2. 助手席に大人が乗車しているとき、もしくは前向きチャイルドシートを取り付けた場合、**ON** にします。
   後ろ向きにチャイルドシートを取り付けた場合には必ず **OFF** にします。
3. そのままキーを抜きます。

●パワーウィンドウ（→ P.2-11）



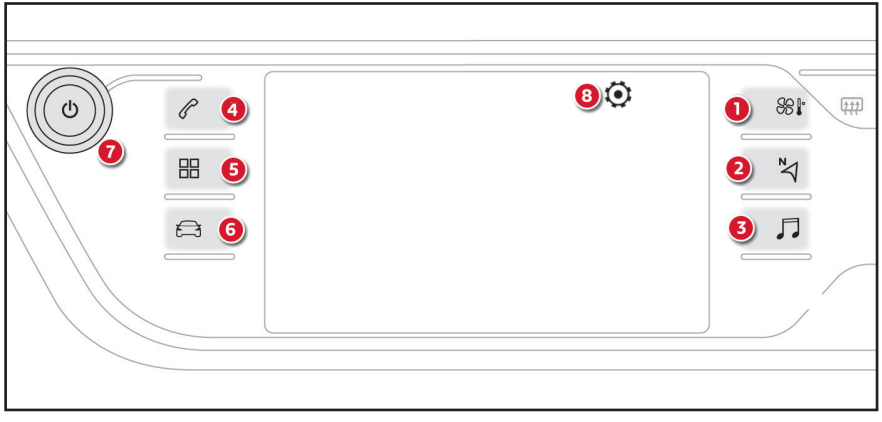
①：助手席側ウィンドウ開閉スイッチ
②：運転席側ウィンドウ開閉スイッチ
③：後席右側ウィンドウ開閉スイッチ
④：後席左側ウィンドウ開閉スイッチ
⑤：チャイルドセーフティスイッチ

●チャイルドセーフティスイッチ（→ P. 2-13）



チャイルドセーフティスイッチ⑤を押すと、後席のパワーウィンドウスイッチによる操作ができなくなります。
運転席のパワーウィンドウスイッチによる操作はいつでも可能です。

●タッチスクリーン (→ P.5-12)



①：エアコンの設定画面を表示します。

②：ナビゲーションを表示します。(装着車のみ)

③：オーディオやラジオの再生・設定画面を表示します。

④：ハンズフリー通話の通話・設定画面を表示します。

⑤：画像ファイルの表示など、その他の設定画面を表示します。

⑥：車の機能の設定を表示します。

⑦：ツマミを回して音量を調節できます。ツマミを押すと、ミュート（消音／停止）になります。

⑧：タッチスクリーンの設定画面を表示します。

ページの移動

← 前のページに戻ります。

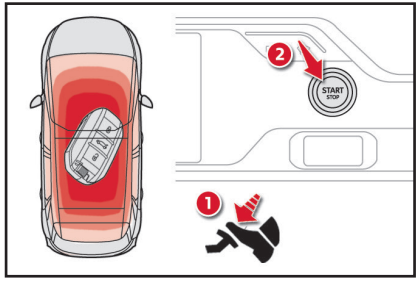
MEMO

タッチスクリーンのグレーアウトされたエリアをタッチすると前のページに戻ります。

設定の変更

OK 設定項目の変更後、変更画面にある OK ボタンにタッチして設定を有効にします。

●エンジンの始動 (→ P.3-2)



スマートキーが車内の検知エリアにあるときに、エンジンを始動および停止することができます。

エンジンの始動

1. スマートキーを携帯して乗車します。
2. シフトモードセレクターを **P** または **N** の位置にします。
3. パーキングブレーキがかかっていることを確認します。
4. ブレーキペダル①を踏みながら **START/STOP** スイッチ②を押します。
5. スターターが回り、エンジンが始動します。

ディーゼル車は、予熱表示灯が点灯後消灯したらエンジンが始動します。

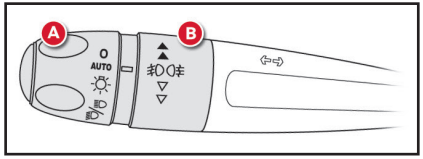
エンジンの停止

1. 車を完全に停止します。
   シフトモードセレクターを **P** または **N** の位置にします。
2. **START/STOP** スイッチを押します。
3. エンジンが停止し、ステアリングがロックされます。

START/STOP スイッチの役割

スイッチの状況	運転者の操作内容	車両の動作内容
アクセサリーポジション	ブレーキペダルを踏まずに、**START/STOP** スイッチを押します。スイッチを押すたびに、イグニッションのオン／オフが切り替わります。	イグニッションがオンとなり、警告灯類が点灯します。しばらくの間、ラジオやパワーウィンドウなどのアクセサリー装備が使用できます。
スタートポジション	ブレーキペダルを踏みながら、**START/STOP** スイッチを押します。	エンジンが始動します。ラジオやパワーウィンドウなどのアクセサリー装備が使用できます。

●ライトスイッチ（→ P. 4-25）



リングA

0 すべてのランプが消灯します。

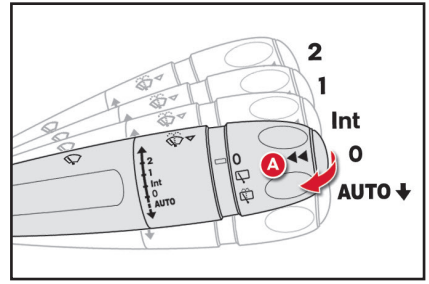
AUTO オートライトが機能します。

ポジションランプが点灯します。

ロービームが点灯します。
ハイビームに切り替える場合はスイッチレバーを手前に引きます。

リング B
フロントフォグランプ、リアフォグランプが点灯 / 消灯します。

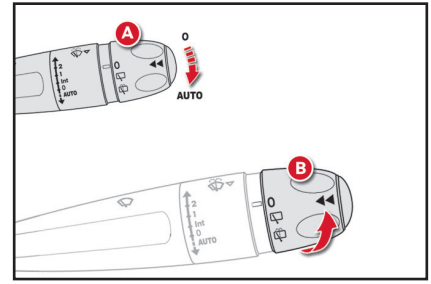
●ワイパー / ウォッシャー（→ P. 4-35）



レバー A　フロントワイパー

2	高速作動
1	通常作動
Int	間欠作動
0	停止
AUTO ↓	自動作動（雨滴感知式）／1 回作動

ウィンドウウォッシャー
レバー **A** を手前に引きます



AUTO モードにする
レバー **A** を押し下げます。

AUTO モードを解除する
もう一度レバー **A** を押し下げるか、0 以外のポジションにすると AUTO モードが解除されます。

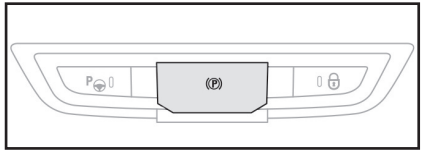
リング B　リアワイパー

0 停止

間欠動作

ウォッシャー作動

●エレクトリックパーキングブレーキ（→ P. 3-10）



手動操作

エンジンの作動状態に関わらず、停車中にパーキングブレーキスイッチを手前に引くと、パーキングブレーキがかかります。イグニッションがオンのとき、またはエンジン作動中にブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキスイッチを手前に引いて離すと、パーキングブレーキが解除されます。

MEMO

エンジンをかけたまま車を離れるときは、手動でパーキングブレーキをかけてください。

自動作動

エンジンが停止すると自動的にパーキングブレーキがかかり、アクセルペダルを踏んで発進すると自動的にパーキングブレーキが解除されます。

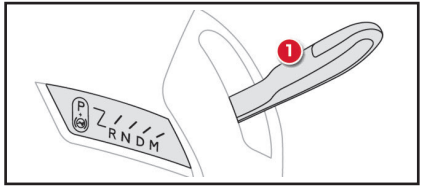
AUTO (P) OFF

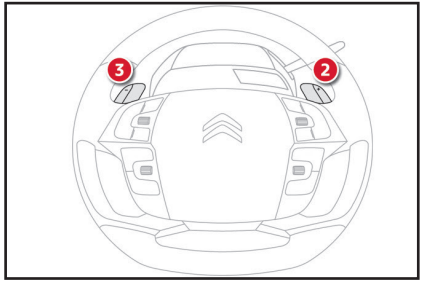
この表示灯が点灯しているときは、パーキングブレーキの操作をすべて手動で行う必要があります。

⚠警 告

エレクトリックパーキングブレーキは、お子さまでも簡単に解除できます。イグニッションをオンにしたままの状態で、お子さまを車内に残して車を離れないでください。

●6速エフィシェント・オートマチック・トランスミッション（→P.3-5）



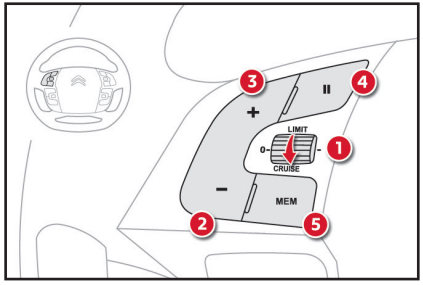


① シフトモードセレクター：
- **P.** パーキング
- **R.** リバース
- **N.** ニュートラル
- **D.** オートマチックモード
- **M.** マニュアルモード

② パドルスイッチ：シフトアップ
③ パドルスイッチ：シフトダウン

*仕様により異なります。

●クルーズコントロール *／スピードリミッター（→ P.3-56、3-58）

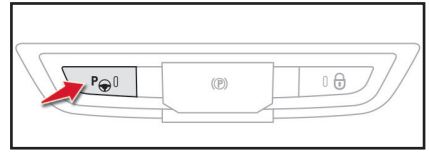


①：スピードリミッター / クルーズコントロール切り替えスイッチ
②：速度設定 / 設定速度の減少
③：速度設定 / 設定速度の増加
④：システムの一時停止 / 復帰
⑤：スピードリミットインフォメーションの表示速度受付

クルーズコントロール * の速度の設定およびシステムの作動は、シフトモードセレクターが **D** または **M** のときは 2 速以上で、時速 40km 以上のときに可能です。
スピードリミッターは、エンジン運転時に設定してください。

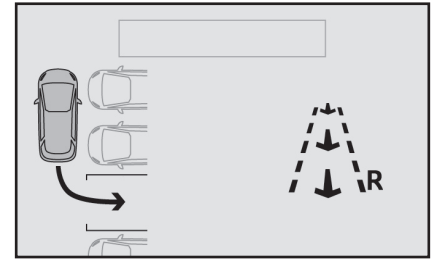
●パークアシスト（→ P.3-66）

パークアシストの開始

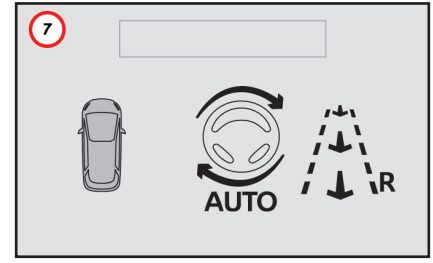


1. 駐車できそうな場所の手前でスイッチを押します。
2. タッチスクリーンで、駐車の種類を選択します。

垂直に駐車する場合



前進の表示が消えチャイムが鳴るまで前進を続け、後退が表示されたところで車を止めてシフトモードセレクターを **R** に入れます。



アクセルペダルを踏み、ゆっくり後退します。ステアリング操作が自動的に行われます。

目　次

安全なドライブについて
安全装置について
運転装置について
もしものとき
その他

第１章　安全に運転するために

フロントシート……1-2
ミラー……1-10
リアヘッドレスト……1-12
２列目シート……1-13
3列目シート(7シーター)……1-16
シートアレンジ……1-18
シートベルト……1-19
チャイルドシート……1-23
エアバッグ……1-33
走行する前に……1-38
使用燃料について……1-38
冬季の取り扱い……1-39
保安炎筒……1-40
触媒コンバーター……1-40

第２章　各部の開閉のしかた

スマートキー……2-2
イモビライザー（盗難防止システム）……2-8
ドア／ドアロック……2-9
パワーウィンドウ……2-11
チャイルドセーフティ……2-13
パノラミックガラスルーフ……2-14
ボンネット……2-15
テールゲート……2-16
エレクトリックテールゲート……2-17
ハンズフリーエレクトリックテールゲート……2-20
フュエルリッド(給油口)……2-22

第３章　運転装置の使いかた

エンジンの始動……3-2
ステアリング／ホーン……3-4
シフトタイミングインジケーター……3-4
6速エフィシェント・オートマチック・トランスミッション
(シフトモードセレクター)……3-5
エレクトリックパーキングブレーキ……3-10
ヒルスタートアシスタンス……3-15
ESC（エレクトロニックスタビリティコントロール）……3-16
SCR（選択式還元触媒）システム（ディーゼル車）……3-18
DPF（ディーゼルパティキュレートフィルター）
（ディーゼル車）……3-21
ストップ&スタート……3-22
ブラインドスポットモニター……3-25
レーンキープアシスト……3-28
ドライバーアテンションアラート……3-32
アクティブセーフティブレーキ……3-35
スピードリミットインフォメーション……3-40
アクティブクルーズコントロール……3-44
アクティブクルーズコントロール（ブレーキサポート付）…3-49

クルーズコントロール……3-56
スピードリミッター……3-58
バック／フロントソナー……3-61
バックカメラ……3-63
360° ビジョン……3-64
パークアシスト……3-66

第４章　メーター・ライト・ワイパー装置の使いかた

インストルメントパネル…… 4-2
表示灯類…… 4-6
警告灯類……4-11
冷却水温度計……4-19
サービスインジケーター……4-20
エンジン油量インジケーター……4-22
インストルメントパネルの調整（リセット、明るさ調整）‥4-23
ライト類（ヘッドランプ、フォグランプ、方向指示器、
ハザードランプ)……4-25
ワイパー／ウォッシャー……4-35
間接式タイヤ空気圧警告……4-39
ドライブコンピューター……4-40

第５章　室内装置の使いかた

エアコンディショナー…… 5-2
タッチスクリーン……5-12
ラゲッジルームのレイアウト（5シーター）……5-19
ラゲッジルームのレイアウト（7シーター）……5-21
ルームランプ……5-23
インテリアレイアウト……5-27

第６章　お手入れ・メンテナンス

外装のお手入れ…… 6-2
内装のお手入れ…… 6-2
エンジンルームの点検…… 6-3
電球の交換…… 6-7
ヒューズの交換……6-16
燃費の改善について……6-20
推奨交換時期……6-21
推奨油脂類……6-21
推奨点検時期……6-22

もしものとき

ホイール（タイヤ）の交換…… 7-2
パンク修理キット……7-10
バッテリーが上がったとき……7-17
けん引されるとき……7-20
AdBlue® （尿素水）の補充(ディーゼル車) ……7-22
燃料切れしたとき(ディーゼル車) ……7-24

車両データ・アクセサリー類・索引

識別表示…… 8-2
外形寸法…… 8-3
アクセサリー類…… 8-4
索引…… 8-7
付録……8-13

安全のために

重大な事故や車両火災に及ぶおそれのある内容と回避方法、一般的な注意事項などについて記載してあります。重要な内容ですので、必ずお読みください。

点検整備のお願い

点検整備を必ず実施してください

・車を安全に使用していただくため、お客様の責任において日常点検と法定定期点検の実施が法律で義務づけられています。
点検内容については、別冊の「**メンテナンスノート**」をお読みください。

・日常点検を行い異常があるときは、シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。（音、振動、におい、水・油漏れなど）

走行する前の注意

燃えやすいものは積まないでください

・燃料が入った容器や可燃性のガスが入ったスプレー缶などは積まないでください。炎天下の駐車で室内が高温になったときや万一のとき、引火や爆発するおそれがあります。



安 全 な ド ラ イ ブ に つ い て

運転席足元・運転席下にはものを置かないでください

・ 空き缶などを置くと、ブレーキペダルやアクセルペダルにはさまり、走行中にペダル操作ができなくなるおそれがあります。思わぬ事故につながりますので、絶対に行わないでください。



フロアマットはしっかりと固定して使用してください

・ 運転前にフロアマットが正しく取り付けられていることを点検してください。また、フロアマットを重ねて敷くことはしないでください。フロアマットがペダル操作の妨げになり、重大な事故につながるおそれがあります。

スピードメーターの速度の単位は必ず km/h 表示を使用してください

・ 誤って mph 表示（マイル）にすると、正確な速度を認識できず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ダッシュボードなどにものを取り付けたり、置かないでください

・ ダッシュボードなどにものを置いたまま運転すると、視界の妨げや移動して安全運転の妨げになり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

・ また、アクセサリー品を取り付けたり、シールを貼り付けると、エアバッグ作動の妨げやエアバッグ作動時にアクセサリー品が飛ばされて、思わぬケガや事故につながるおそれがあります。



荷物は確実に固定してください

・ 助手席や後席に荷物を積むと、急ブレーキのときなど荷物が放り出されて乗員に当たり、思わぬケガをするおそれがあります。荷物はできるだけラゲッジルームに積み、アクセサリー品（オプション）のネットやベルトを使用して固定してください。

・ 荷物の積み重ねによる後方視界の妨げがないようにしてください。

燃料補給時の注意

指定以外の燃料を使用しないでください

- 燃料は、ガソリン車には無鉛プレミアム（無鉛ハイオク）ガソリン、ディーゼル車には超低硫黄軽油（サルファーフリー／S10ppm 以下）を給油してください。
- ガソリン車に有鉛ガソリンや粗悪なガソリン、指定以外の燃料（軽油、高濃度アルコール含有燃料など）を給油したり、ディーゼル車にガソリンや灯油を給油すると、エンジンなどに悪影響を与えますので使用しないでください。
- ディーゼル車に指定以外の軽油を補給すると、白煙が発生し続けることがあります。また、DPF（ディーゼルパティキュレートフィルター）の故障につながるおそれがあります。

燃料補給時には次のことをお守りください

セルフ式のガソリンスタンドで給油するときは、十分に注意して給油してください。

1. エンジンは必ず止めて、ドアやウィンドウを閉めます。
   タバコなどの火気は近付けないでください。
2. フュエルリッドを開けるなどの給油作業を行う前に、車体や給油機などの金属部分に触れて身体の静電気を除去してください。
   身体に静電気が帯電していると、放電による火花で燃料に引火し、やけどをするおそれがあります。また給油口には、身体の静電気を除去した方以外の人を近付けないでください。
3. 給油ノズルは奥まで確実に差し込んで、丸い金属製のバルブが開いていることを確認してから給油を始めてください。また、給油中はノズルをしっかりと押さえていてください。ノズルが動くと、バルブが閉じて燃料が吹き返すおそれがあります。
4. 給油作業中は、車内に戻ったり、帯電している人やものに触れないでください。再び帯電するおそれがあります。
5. 燃料を車体にこぼさないように注意してください。塗装面を傷めるおそれがあります。
6. 給油時に気化した燃料を吸いこまないように注意してください。燃料の成分には、有害物質を含んでいるものがあります。
7. 給油後は、フュエルリッドが確実に閉まっていることを確認してください。
8. その他、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。

走行するときの注意

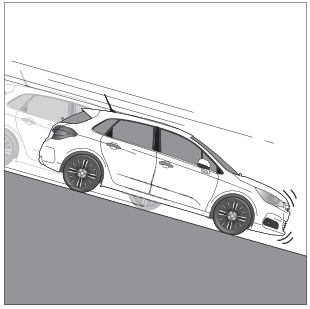
走行中は START/STOP スイッチを押さないでください

・ 走行中に START/STOP スイッチを押し続けるとエンジンが停止して、ブレーキ倍力装置が働きません。
そのためにブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。非常に危険なので、絶対に行わないでください。

長い下り坂ではエンジンブレーキ * を併用してください

・ ブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱して効きが悪くなるおそれがあります。坂の勾配に応じて、適切なギアを選択し、エンジンブレーキを併用してください。

* エンジンブレーキ
走行中にアクセルペダルから足を離したときにかかるブレーキ



安 全 な ド ラ イ ブ に つ い て

車を移動するときはエンジンをかけてください

・ エンジンがかかっていないときは、ブレーキの効きが悪くなります。ハンドルがロックされて操作ができなくなることもあります。
車を少し移動させるときでも、必ずエンジンをかけてください。車を押したり傾斜を利用して車を移動させると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ブレーキペダルに足を乗せたまま走行しないでください

・ ブレーキパッドが早く摩耗したり、ブレーキが過熱して効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

運転中にハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を使用しないでください

・ ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を、運転中に操作することは法律で禁止されています。
・ ハンズフリーであっても注意力が散漫になり、事故の原因につながるおそれがありますので、車を安全な場所に停車して使用することをお勧めします。



カーナビゲーションシステム等の操作は停車時に行ってください

・ 運転中にカーナビゲーションシステム等を操作しないでください。操作は安全な場所に停車して行ってください。

雨天の走行は次のことに注意してください

・濡れた路面では、タイヤのグリップが低下して滑りやすくなります。通常より注意して安全運転に心がけ、急加速、急ブレーキ、急激なエンジンブレーキ、急ハンドルを避けてください。
・わだちなどにできた水たまりに高速で進入すると、ハイドロプレーニング現象 * を起こしてハンドル操作やブレーキが効かなくなります。特に摩耗したタイヤは、ハイドロプレーニング現象が起きやすいので注意してください。

* ハイドロプレーニング現象
水たまりを高速で走行しているときに、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いた状態になり、車がコントロールできなくなる現象。

・水たまり走行後や洗車後は、ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキの効き具合を確認してください。ブレーキの効きが悪いときは、周囲の車に十分注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまで繰り返しブレーキペダルを軽く踏んでください。

冠水した道路の走行は避けてください

・冠水した道路を走行すると、エンストするだけでなく、水を吸い込んでのエンジン破損などの車両故障につながるおそれがあります。



やむを得ず冠水した道路を走行するときは次のことをお守りください。ただし、冠水した道路の水面が 15cm を超えるような場合は走行しないでください

・ストップ&スタートを解除する
・エンストしない程度に速度を落とし、時速 10km 以上で走行しない
・車を停止したり、エンジンを停止したりしない

冠水した道路から脱出したら、できるだけ早く安全な場所で、ブレーキペダルを軽く数回踏み、ブレーキの湿りを乾かしてください。お車の状態に不安がある場合は、シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。

安 全 な ド ラ イ ブ に つ い て

霧で見えにくいときはフォグランプを併用してください

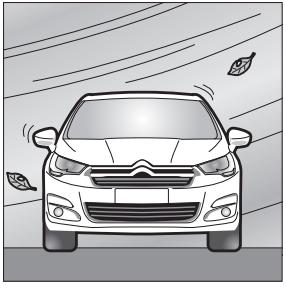
・霧で視界が悪いときは、昼間でもヘッドランプ（下向き）とフォグランプを点灯して、周囲の車や歩行者に車の存在を知らせてください。走行は、センターライン、ガードレール、前の車のテールランプを目安にして十分な車間距離をとってください。
・オートライトシステムは、周囲が明るい昼間はヘッドランプが点灯しません。手動で点灯してください。

雪が降っているときの滑りやすい路面に注意してください

・雪道や路面が凍結しているときは、非常に滑りやすくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。冬用タイヤまたはタイヤチェーン／ネットを使用していても急加速、急ブレーキ、急激なエンジンブレーキ、急ハンドルを避け、十分な車間距離をとり低速で走行してください。

横風が強いときに走行が乱れないように注意してください

・横風を受け、車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握り、速度を徐々に下げてください。
・特にトンネルの出口、橋や土手の上、大型車の追い越しや追い越されたときなどには、横風の影響を受けやすいので注意してください。



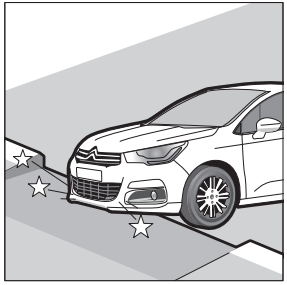
高速道路に入る前には燃料などの確認をしてください

・燃料は十分に給油してあるかを確認してください。
・タイヤの空気圧を確認してください。空気圧不足で高速走行すると、タイヤがバースト（破裂）するおそれがあります。
・万一のために、停止表示板（停止表示灯）を車に用意しておいてください。（法律で義務づけられています。）

段差ではフロントスポイラーのこすれに注意してください

・段差のある場所は、速度を落としてゆっくりと進んでください。路面の状態によっては、フロントスポイラーがこすれることがあります。

・フロント側から進入すると車止めにこすれたり当たることがありますので注意してください。



車を後退させるときは周囲に注意してください

・バックミラーやバックカメラには確認できない死角があります。車を後退させるときは、前もって車から降りて後方の人や障害物を確認してください。

お子さまを乗せるときの注意

お子さまは後席に座らせてください

・ お子さまを助手席に乗せないでください。走行中にお子さまの動作が気になったり、運転装置のいたずらなど事故につながるおそれがあります。
・ また、万一の事故などで助手席の SRS エアバッグが作動したときに、ケガをするおそれがあります。

お子さまにもシートベルトを着用させてください

・ お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。お子さまを膝の上に抱いての乗車は、絶対にしないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときにお子さまを支えることができず、ケガをするおそれがあります。
シートベルトが首や顔に当たったり、腰骨にかからないなどで正しく着用できない小さなお子さまには、ベビーシートやチャイルドシートを使用してください。



安 全 な ド ラ イ ブ に つ い て

チャイルドシートは後席に正しく取り付けてください
(→ P. 1-23)

- チャイルドシートの使用は 6 歳未満のお子さまに法律で義務付けられています。6 歳以上のお子さまでもシートベルトが正しく着用できないときは、チャイルドシートを使用してください。
  お子さまの安全のため、短時間の走行でも身体に合ったシトロエン純正品のベビーシートやチャイルドシートを使用してください。
- 取り付け方法は、シートに付属している取扱説明書に従って後席に正しく取り付けてください。乳幼児用のベビーシートは進行方向に対して後ろ向きに、チャイルドシートは前向きに取り付けてください。
- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付けるときは、助手席の位置を中間部に移動して前向きに取り付けてください。ベビーシートタイプで後ろ向きに装着するときは、助手席エアバッグキャンセルスイッチを **OFF** にしてください。衝撃でケガをしたり、最悪の場合死亡するおそれがあります。キャンセルスイッチがない車では、進行方向に対して後ろ向きに装着しないでください。
- シトロエン純正のベビーシート、チャイルドシートの詳細については、シトロエン販売店にお問い合わせください。

ドア、ウィンドウなどの開閉は大人が操作してください

- ドアやウィンドウなどの開閉は、お子さまに操作させないでください。開閉時に手や首、足などをはさみ、思わぬケガをするおそれがあります。また、同乗者が操作するときも十分に注意してください。
- 後席にいるお子さまが操作できないように、リアドアのパワーウィンドウが作動しなくなり、室内からリアドアを開けられなくするチャイルドセーフティ機能を必ずご利用ください。

ウィンドウから手や顔を出さないでください

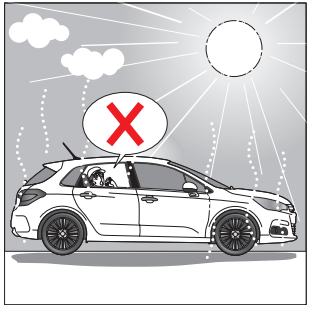
- 急ブレーキ時に窓枠にぶつけたり、車外の障害物に当たったりして、思わぬケガをするおそれがあります。

シートの可動部分に気をつけてください

- お子さまが、リアシートやフロントシートの隙間に手を入れたり、可動部分に触れたりして思わぬケガにつながるおそれがあります。同乗者の方が十分に注意をしてください。
- 走行中は必ずベビーシートやチャイルドシートに座らせるか、シートベルトをさせてください。

お子さまだけを車内に残さないでください

- 車から離れるときは、エンジンを止め、キーを携行して必ずお子さまも一緒に降ろしてください。
- お子さまのいたずらにより、車の発進、火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 炎天下の車内は 50℃以上の高温になり、脱水症状、熱射病などの生命の危険に関わるおそれがあります。



駐停車するときの注意

燃えやすいものや植え込みに注意してください

- 紙や枯草、木材などの燃えやすいものの上や近くには駐停車しないでください。特に走行後の排気管や排気ガスは高温になるため引火するおそれがあります。
- 車両後方に燃えやすいものや植え込みがあるときは、車両後端から十分に距離を取って駐車してください。すき間が少ないと、排気ガスによる変色や着火、生育への悪影響につながるおそれがありますので、車の向きも配慮してください。

ハンドルをいっぱいに回した状態を続けないでください

- 車庫入れなどで、エンジンをかけたままハンドルをいっぱいに切った状態を長く続けると、ハンドル操作力が重くなることがありますが異常ではありません。

安 全 な ド ラ イ ブ に つ い て

車から離れるときはエンジンを止め、施錠してください

- シフトモードセレクターを P(パーキング) にし、エンジンを止めてパーキングブレーキがかかっていることを確認してからドアを施錠してください。無人で車が動き出して、思わぬ事故につながるおそれがあります。坂道では、状況に応じてタイヤに輪止めをしてください。
- 貴重品を車内に残さないでください。施錠しても盗難につながるおそれがあります。
- お子さまや介護の必要な方だけを車内に残さないでください。車の発進や車内の高温／低温による思わぬ傷害などが発生するおそれがあります。

炎天下での駐車時は、ライター、スプレー缶、炭酸飲料などを車内に放置しないでください

- 車体やシート、ステアリングなどが高温となり、やけどをするおそれがあります。駐車後に乗車されるときは注意してください。
- 車内にお子さまやペットなどを乗せたまま車から離れることは、絶対におやめください。車内の温度が 50℃を超えることもあり、大変危険な状態になります。
- ライターやスプレー缶、炭酸飲料などは、自然発火や破裂を起こすおそれがあります。車内に放置しないでください。
- ガスライターを床やシートのすき間に落としたままにすると、シートを動かしたときに着火して火災につながるおそれがあります。
- メガネをダッシュボードなどに置いたままにすると、変形やひび割れのおそれがあります。また、レンズにより火災を起こすことがあり危険です。

仮眠するときは必ずエンジンを止めてください

- 無意識にシフトモードセレクターを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして車が発進するおそれがあります。
- エンジンや排気管の異常過熱による火災が発生するなどの思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車内で仮眠するときは、エンジンを止め、助手席または後席でしてください。
- 排気管が損傷していたり、風向きや風通しの悪い場所では、排気ガスが車内に侵入し一酸化炭素中毒になるおそれがあります。



エンジンルーム内に可燃物を放置しないでください

- エンジンルーム内に燃えやすい物を置き忘れないように注意してください。引火のおそれがあります。
- 車両を長時間使用しなかった場合は、小動物や鳥類に持ち込まれた小枝等がないことを確認してください。もし走行中に焦げた臭いを感じたときは、直ちに停車して確認してください。

走行中に異常を感じたとき

警告灯が点灯・点滅したときは、直ちに停車して適切な処置をしてください

・ 走行中に警告灯が点灯や点滅したときは、直ちに安全な場所に停車し、適切な処置をしてください。(「第４章　メーター･ライト・ワイパー装置の使いかた」を参照)
そのまま走行すると故障の原因になるだけでなく、重大な事故につながるおそれがあります。
・ 走行中は車の状態に気を配り、いつもと異なる音や臭い、振動などを感じたときは、直ちにシトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。
・ 故障等でやむを得ず路上に停車するときは、ハザードランプの他に停止表示板を使用して、他の車両に停止している事を知らせてください。

走行中にタイヤがパンクやバーストしたときは、あわてずに安全な場所に停車してください

・ 走行中、タイヤに異常があったときは、あわてずにハンドルをしっかり握り、徐々に速度を下げて安全な場所に停車してください。
急ブレーキや急ハンドルは、車のコントロールができなくなるおそれがあります。

走行中に床下やタイヤなどに大きな音や衝撃を感じたときは車の下部を点検してください

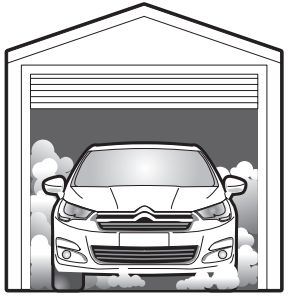
・ 直ちに安全な場所に停車し、車の下部を点検してください。
ブレーキ液や燃料の漏れ、サスペンション部品、タイヤ関係、駆動系部品などの変形や損傷は、そのまま使用すると思わぬ事故につながるおそれがあります。漏れや損傷を見つけたときは、運転を中止してシトロエン指定サービス工場にご連絡ください。

排気ガスについての注意

換気が悪い場所や屋内ではエンジンをかけたままにしないでください

・ 車庫や屋内などの換気が悪い場所では、排気ガスが充満しやすいのでエンジンをかけたままにしないでください。排気ガスには無色無臭の有害な一酸化炭素が含まれており、吸い込むと排気ガスによる一酸化炭素中毒になり重大な障害におよぶか死亡につながるおそれがあります。

・ 排気管に腐食などによる穴や亀裂がないかをときどき点検してください。走行中に排気ガスが車内に侵入するおそれがあります。



・降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入する恐れがあります。

車内で排気ガスの臭いがしたら次のことをしてください

・ 直ちにすべてのウィンドウを全開にする。

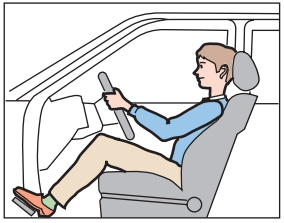
・ エアコンの内外気の切り替えを外気にして風量を最大にする。

・ すみやかにシトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。
放置すると、排気ガスによる一酸化炭素中毒になり重大な傷害におよぶか死亡につながるおそれがあります。

シート位置についての注意

正しい運転（乗車）姿勢がとれるシート位置に設定してください

・運転操作を誤り思わぬ事故につながるおそれがあります。
・万一衝突したときにシートベルトや SRS エアバッグ、ヘッドレストなどの乗員保護装置の効果が軽減されて、重大な傷害を受けるおそれがあります。



・前後位置は、各ペダルが楽に踏めるシート位置に調節し、腿はシートクッションに乗るようにします。運転中は右足をアクセルペダルに、左足をフットレストに置きます。
・バックレストの角度は、楽に支えられるよう調節します。シートベルトの効果を発揮させるため、バックレストを倒しすぎないようにしてください。
・ヘッドレストが安全装置としての役割を果たせるよう、上面の高さが乗員の頭頂部と同じ高さかそれ以上になるように調節します。これができない場合、ヘッドレストを一番高い位置に上げて使用してください。

走行中はバックレストを倒しすぎないようにしてください

・急ブレーキをかけたときや万一衝突したときにシートベルトなどの乗員保護装置の効果が十分に発揮されず、身体がシートベルトの下に潜り込んだり、シートベルトが首にかかり傷害を受けるおそれがあります。

シートベルトについての注意

シートベルトは正しく着用してください

・ 乗車した全員が正しくシートベルトを着用してください。シートベルトを着用しなかったり、正しく着用していないと、万一衝突したときにプリテンショナー *、フォースリミッター ** 付きシートベルト、エアバッグなどの乗員保護装置の機能が適切に発揮されず、重大な傷害を受けるおそれがあります。

* プリテンショナー
前方からの強い衝撃を受けたときに、瞬間的にシートベルトを引き込み身体を固定して乗員保護装置の効果を高める装置。

** フォースリミッター
シートベルトに一定以上の衝撃を受けたときに、身体にかかる衝撃を減少させる装置。

妊娠中の方や疾患のある方も必ずシートベルトを正しく着用してください

・ 医師に注意事項をご確認ください。
・ 腰部ベルトが腹部にかからないように、腰骨のできるだけ低い位置にしてください。また、肩部ベルトは腹部を避けて胸部にかかるように着用してください。

損傷のあるシートベルトは直ちに交換してください

・ 損傷したシートベルトを使用すると、衝突したときなどに十分な効果を発揮できず、重大な傷害を受けるおそれがあります。シートベルトやプレートを、シートやドアに挟まないでください。傷が付くおそれがあります。
・ 万一重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見受けられなくても、シート、シートベルトを交換してください。
・ プリテンショナー付きシートベルトの取りはずしや交換・廃棄はシトロエン指定サービス工場以外では行わないでください。

SRS エアバッグについての注意

- SRS エアバッグシステムは（SRS = Supplemental Restraint System）補助拘束の事です。
- SRS エアバッグは、センサーが一定以上の衝撃を感知したときにのみ作動します。衝突などで車が大きく変形しても、衝撃吸収ボディ構造により衝撃が段階的に吸収されたときは、SRS エアバッグが作動しないことがあります。

フロントエアバッグの効果は正しい姿勢とシートベルトとで発揮します

- SRS エアバッグシステムはシートベルトを補助するシステムで、シートベルトに代わるものではありません。このシステムはシートベルトを必ず着用してください。
- シートに正しく座りシートベルトを正しく着用していないと、衝突などで身体が前方に放り出されたときに SRS エアバッグシステムがふくらみ、強い衝撃を受け重大な傷害につながるおそれがあります。
- 運転者とステアリングホイールとの間には、適当な距離を確保してください。あまり近すぎると、エアバッグの効果が低下したり、エアバッグそのものでケガを負うおそれがあります。
- ステアリングホイールは、9 時と 3 時の位置を外側から両手で持ってください。他の位置（12 時の位置や真ん中、内側）を持つと思わぬケガにつながったり、エアバッグが作動した際に重大なケガを負うおそれがあります。

フロントエアバッグは車両前方からの衝撃を緩和します

・ SRS フロントエアバッグは、イグニッションがオンのときに車両前方から乗員に重大な危害が及ぶような強い衝撃を受けたときに瞬時にふくらみ、乗員の頭や胸にかかる衝撃を緩和するシステムです。

フロントエアバッグの保護性能が発揮されるために次の点に注意してください

・ 運転者が顔や胸をステアリングに近付けすぎると、SRS エアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け非常に危険です。常に正しい運転姿勢で座り、ステアリングに近付きすぎないようにしてください。
・ 助手席に乗車する人は、シート前端に座ったり、ダッシュボードに足を乗せていたりすると、SRS エアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け非常に危険です。常に正しい乗車姿勢で座り、ダッシュボードに近付きすぎないようにしてください。

エアバッグの近くにものを置いたり、ステッカーなどを貼り付けないでください

・ ステアリングを交換したり、ステアリングのパット部にステッカーなどを貼り付けないでください。
・ 助手席側エアバッグの周辺（ダッシュボード）にカー用品や芳香剤を置いたり、傘などを立てかけないでください。エアバッグが正常に作動しなかったり、エアバッグがふくらんだときに飛ばされて、ケガをするおそれがあります。



SRS サイドエアバッグ／カーテンエアバッグについての注意

・SRS サイドエアバッグ／カーテンエアバッグは、車両側面から乗員に重大な危害が及ぶような強い衝撃を受けたときに瞬時にふくらみ、乗員の頭や胸にかかる衝撃を分散、緩和させる乗員保護装置です。

サイドエアバッグ／カーテンエアバッグは車両側面からの衝撃を緩和します

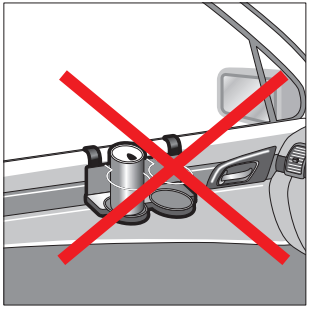
・サイドエアバッグは、前席のバックレスト側面（ドア側）に収納されています。カーテンエアバッグは、ドアピラー部から天井にかけて収納されています。
・シートの側面周囲には、ものを置かないでください。
・シートにシートカバーや上着をかけたり、ベルトを巻きつけないでください。

ドアやウィンドウにもたれかからないでください

・SRS サイドエアバッグ収納部に手、足、顔を近付けたり、ドアやウィンドウにもたれかかるような姿勢でシートに座らないでください。エアバッグがふくらむときに強い衝撃を受け、非常に危険です。

ドアやサイドエアバッグの近くにカップホルダーなどのカー用品を取り付けないでください

・SRS サイドエアバッグ収納部の近くにカップホルダーなどのカー用品を取り付けたり、ステッカーなどを貼らないでください。エアバッグが正常に作動しなかったり、エアバッグがふくらんだときに飛ばされてケガをするおそれがあります。



運 転 装 置 に つ い て

ABS と ESC ／ ASR についての注意

ABS（アンチロックブレーキシステム）を過信しないでください

・ ABS は Antilock Brake System の略で、急ブレーキをかけたときに車輪がロックするのを防ぎ車の操縦性を確保しようとする装置で、制動距離を短くするための装置ではありません。

・ 次のような路面では、ABS なしの車よりも制動距離が長くなることがあります。速度は控えめにして車間距離を十分にとってください。
  ・ 砂利道や雪道、凍結路などを走行しているとき
  ・ タイヤチェーン／ネットを装着しているとき
  ・ 道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき
  ・ 石だたみなどの悪路を走行しているとき

ESC ／ ASR（エレクトロニックスタビリティコントロール／アンチスケーティングレギュレーション）を過信しないでください

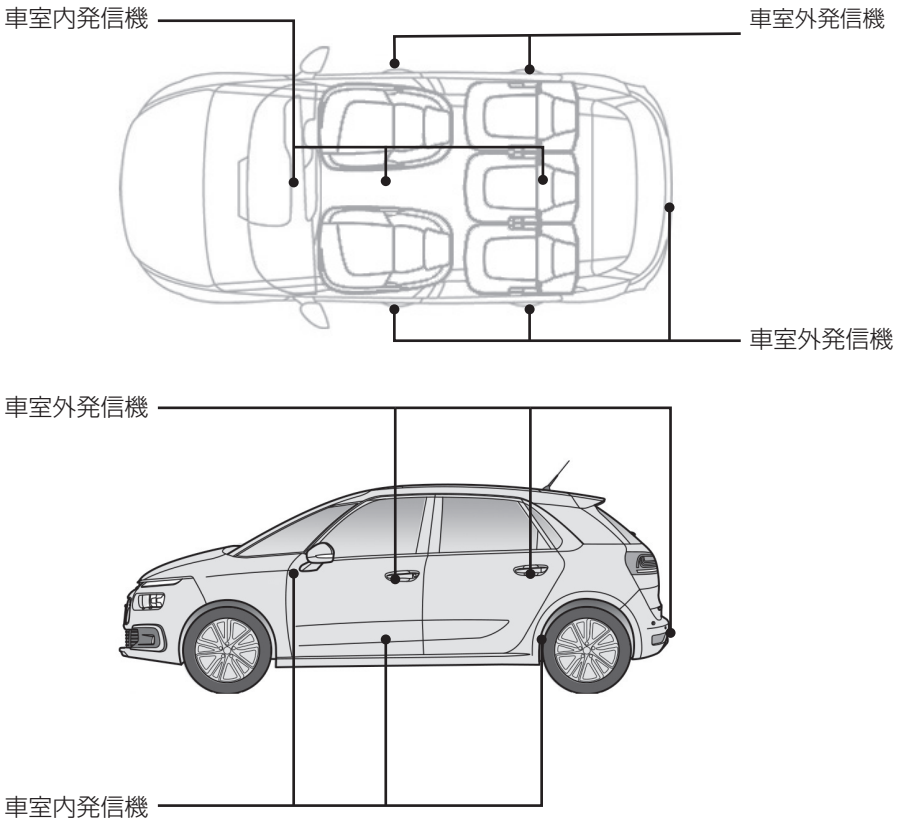
・ ESC システムは、滑りやすい道路での旋回時などに、車の動きと運転者が意図するコースとに著しい差が発生したとき、自動的にブレーキやエンジンの出力を制御して車の走行安定性を確保しようとするシステムです。
・ ASR は滑りやすい道路での発進や急加速時に生じる空転を防ぎ、車の走行安定性を向上させようとするシステムです。
・ ESC ／ ASR が作動した状態でも、車の走行安定性には限界があります。ESC ／ ASR を過信せずに速度を下げて、車間距離を十分にとって安全運転を心がけてください。

スマートキーについての注意

植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を使用されている方は、スマートキー検知用の車室内発信器・車室外発信器から約 22cm 以内に近付かないようにしてください

・ 電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
・ 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器以外の医療用機器を使用される場合は、電波による影響について医療用機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

アンテナ位置



6 速エフィシェント・オートマチック・トランスミッションシステム車についての注意

クリープ現象に注意してください

- クリープ現象とは、エンジンがかかっているときにシフトモードセレクターを P または N 以外にすると、アクセルペダルを踏まなくても車が動き出すことです。
- 停車中はブレーキペダルをしっかりと踏んでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 特にエンジンの始動直後やエアコン作動時のエンジン回転が上がっているときは、ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。

ブレーキとアクセルのペダル位置に注意してください

- ペダルの踏み違いは、思わぬ事故につながります。エンジンをかける前にペダルの位置を確認してください。
- また、アクセルペダルとブレーキペダルは右足で操作してください。



発進前／停車後のシフトモードセレクターの操作はブレーキを踏んでください

- エンジンをかけるときはシフトモードセレクターが P にあることを確認し、ブレーキペダルをしっかり踏み込んでください。
- シフトモードセレクターの操作は、エンジン始動直後やエアコン作動時などはエンジン回転数が高くなるので、特にしっかりとブレーキペダルを踏んで行ってください。
- 発進時のシフトモードセレクターの操作は、ブレーキペダルをしっかり踏み込んで行ってください。急発進して、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アクセルペダルはゆっくり踏んでください

- アクセルペダルを急激に踏み込むと、急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

走行中はギアを N に入れないでください

- 走行中にシフトモードセレクターを N にすると、エンジンブレーキが効かなくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。
- オートマチックトランスミッション内のオイルの潤滑が悪くなり、故障するおそれがあります。

運 転 装 置 に つ い て

後退した後はギアを N に戻してください

・後退した後は、すぐシフトモードセレクターを R から N に戻す習慣をつけてください。

シフトモードセレクター位置は目で確認してください

・エンジンをかけるときは P、前進するときは D、後退するときは R にあることを目で確認してください。

追い越しにはキックダウンを利用してください

・D または 2 速以上（マニュアルシフトポジション）で走行中に、アクセルペダルをいっぱいに踏み込むと自動的に低速ギアに切り替わり、急加速が得られます。
・滑りやすい路面や急カーブなどでは使用しないでください。タイヤがスリップして思わぬ事故につながるおそれがあります。

駐車はシフトモードセレクターを P に入れてください

・駐車するときはシフトモードセレクターを P にしてパーキングブレーキをしっかりかけてください。クリープ現象などで無人で車が動き出したり、誤ってアクセルを踏み、急発進したりし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

無用な空ぶかしはしないでください

・万一、シフトモードセレクターが P、N 以外に入っていると、急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

クルーズコントロールについての注意

クルーズコントロールを使用しないときはメインスイッチをオフにしてください

誤ってクルーズコントロールを作動させると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ストップ&スタートについての注意

車から離れるときは、必ずイグニッションをオフにしてキーを携行してください。ストップ&スタート機能が作動していると、シートベルトをはずしたりドアを開けたときに自動的にエンジンが始動して、思わぬ事故につながるおそれがあります。

オーバーヒートについての注意

オーバーヒートの症状について

・次のような症状が現れるとともに、インストルメントパネルの STOP 警告灯が点灯します。
  ・冷却水温警告灯が点灯したり、エンジンの出力が急に低下する。
  ・ボンネット（エンジンルーム）から蒸気が出てくる。

オーバーヒートの対応について

・ボンネットから蒸気が出ているときは、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどをするおそれがあります。
・冷却水温度が下がるまで、冷却水タンクのキャップを開けないでください。蒸気や熱湯が噴き出して、やけどをするおそれがあります。
・オーバーヒートを起こしたまま走行を続けると、エンジンなどに重大な損傷を起こすおそれがあります。安全な場所に停車し、シトロエン指定サービス工場にご連絡ください。

故障したとき／事故が起きたときの注意

走行中に路上で故障したとき

・一般道では、車を路肩などの安全な場所へ移動させ、非常点滅灯を点滅させます。必要に応じて、車の後方に停止表示板を置いてください。
・高速道路や自動車専用道路では、車を路肩などの安全な場所へ移動させ、車内の乗員を安全な場所に避難させてください。次に非常点滅灯を点滅させ、車の後方に停止表示板を置いて（法律で義務付けられています）ください。

路上で動けなくなったとき

・車を移動するときは、シフトモードセレクターを N にしてパーキングブレーキを解除し、安全な場所へ移動させてください。

踏切内で動けなくなったとき

・同乗者や付近の人に協力してもらい安全な場所まで押してもらってください。車を移動するときは、イグニッションをオンにして、シフトモードセレクターを N にしてパーキングブレーキは解除します。
・車を移動できないときは、乗員を安全な場所へ避難させ、直ちに踏切警報機に設置してある非常ボタンを押します。緊急を要するときは、保安炎筒を使用して列車に車が踏切内に停車していることを知らせます。

事故が起きたとき

・事故が起きてしまったときは、あわてずに次の処置をとります。

1. 続発事故を防ぐために、他の交通の妨げにならない安全な場所へ車を移動し、エンジンを止めます。
2. 負傷者がいるときは、救急車の出動を要請すると共に負傷者に応急手当を行います。
   ただし、頭部を負傷しているときは動かさないようにしますが、続発事故のおそれがあるときは安全な場所へ避難させます。
3. 警察に連絡します。
   事故が発生した場所、事故状況、負傷者の有無、負傷の程度を報告し、指示を受けてください。
4. 事故の相手があるときは、相手側の氏名や住所、電話番号、自動車保険の番号などを確認してください。
5. 車をご購入された販売店と保険会社に事故状況をご連絡ください。

その他

盗難についての注意

キーは必ず携行してください

・車から離れるときは、必ずエンジンを停止し、キーを携行してください。
・また、スペアキーを車内に置いたり、バンパーや車体の一部に貼り付けておくことは、盗難のおそれがありますので絶対におやめください。

ドア、ウィンドウを確認してください

・車から離れるときは、すべてのドアが正しくロックされていることを確認してください。また、ウィンドウもきちんと閉じているかを確認してください。

路上駐車は絶対におやめください

・短時間の駐車でも、いたずらや盗難を防ぐために違法な路上駐車を避け、明るく管理の行き届いた駐車場に入ることを心がけてください。

車内に現金や貴重品は絶対に置いたままにしないでください

・現金や貴重品、携帯電話、バッグ、上着などを車内に置いたまま車を離れないでください。

こんなことにもご注意を

車の改造は禁止されています

・車の改造やシトロエン純正部品以外の使用は、車の性能が十分に発揮できないだけでなく、思わぬ事故の原因につながるおそれがあります。また、保証の適用外になるだけでなく、故障の原因になることがあります。
・電装品や無線機などの取り付け、取りはずしは、シトロエン指定サービス工場にご相談ください。
取り付け、取りはずしが適切でないと、電子機器部品に悪影響を及ぼすだけでなく、故障や火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。
・ハンドルの取りはずしや交換は、絶対に行わないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されていますので、正常に作動しなかったり不意に作動して思わぬ事故になるおそれがあります。

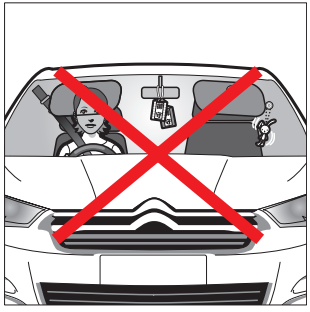
タイヤ、ホイールは指定サイズを使用してください

・タイヤ、ホイールは指定された規格の製品を使用してください。指定以外の製品を装着すると、ブレーキシステムに悪影響をおよぼしたり、走行安定性を損なうおそれがあります。
・交換はシトロエン指定サービス工場で行ってください。

そ の 他

ウィンドウにアクセサリーを取り付けないでください

・ ガラス面にアクセサリーなどを取り付けると、視界の妨げになったり、走行中に飛んでケガをするなど思わぬ事故につながるおそれがあります。
・ アクセサリーの吸盤がレンズの働きをして、火災を起こすことがあり危険です。



夏季はバッテリーあがりが起きやすくなります

・ 電装品の使いすぎは、バッテリーあがりにつながります。特に夏季は、エアコンなどの電装品の使用が増えますのでバッテリーにも負担がかかります。渋滞時の走行では充電量が不足してバッテリーあがりを起こしやすくなりますのでこまめな点検と早めの交換を心がけてください。

冬季はタイヤの滑り止めや解凍剤などをご用意ください

・ 冬季のトラブルを軽減するために、冬用タイヤチェーン／ネットや解凍剤などの準備およびバッテリーの点検を行っておくことをお勧めします。詳しくはシトロエン指定サービス工場にご相談ください。
・ 積雪や凍結した道路を走行するときは、安全のため冬用タイヤを装着してください。
冬用タイヤに交換するときは、必ず指定サイズで同じメーカーの同じ銘柄のものを 4 輪に装着してください。
・ タイヤチェーン／ネットは、タイヤサイズに合ったものを前輪に取り付けてください。
・ タイヤチェーン／ネットの装着は、安全な場所に停車し、各取扱説明書に従って確実に取り付けてください。
装着後は 100m くらい走行して、緩みや車体に当たっていないかを再度確認してください。
・ バッテリーは、気温が低くなると性能も低下します。バッテリー液や比重、充電状態を点検してください。
・ ウォッシャー液の凍結を防ぐために、夏季よりも混合割合を高くしてください。

タバコの吸殻の火は消して灰皿へ入れてください

・ タバコやマッチなどの火は、確実に消して灰皿へ入れてフタを閉めてください。
・ 灰皿の中に吸殻を入れすぎたり、燃えやすいものを入れたりしないでください。思わぬ火災につながるおそれがあります。

オーディオについての注意

このオーディオは Bluetooth® の機能を備えています。植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を使用されている方は、オーディオから約 22cm 以内に近付かないようにしてください

- 電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器以外の医療用機器を使用される場合は、電波による影響について医療用機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

第1章　安全に運転するために

フロントシート ····· 1-2
ミラー ····· 1-10
リアヘッドレスト ····· 1-12
2列目シート ····· 1-13
3列目シート(7シーター) ····· 1-16
シートアレンジ ····· 1-18
シートベルト ····· 1-19
チャイルドシート ····· 1-23
エアバッグ ····· 1-33
走行する前に ····· 1-38
使用燃料について ····· 1-38
冬季の取り扱い ····· 1-39
保安炎筒 ····· 1-40
触媒コンバーター ····· 1-40

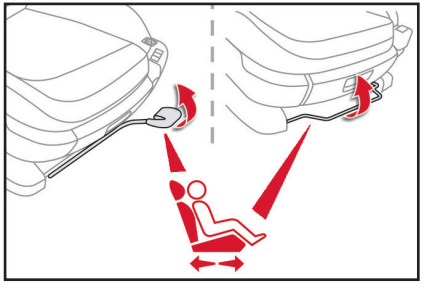
フロントシート

⚠警 告

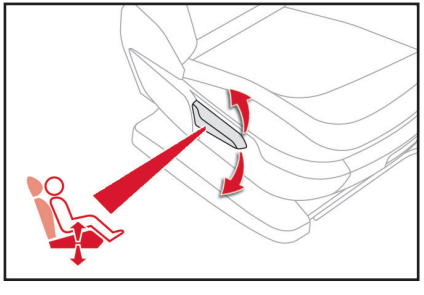
●運転席のシート調整は、安全のため停車中に行ってください。
●シートを元に戻すときには、身体の一部や障害物が妨げにならないように注意し、正しい位置に固定してください。

●フロントシートの調整（手動）

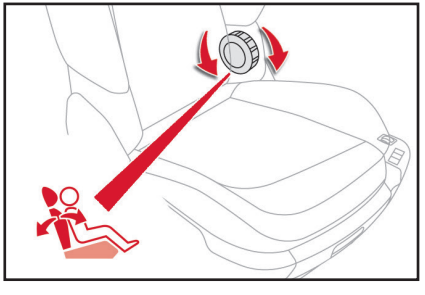
シートの前後調整
レバーを引き上げたままシートを前後に動かします。レバーを離すとその位置で固定されます。



シートの高さ調整
レバーを上下に動かして高さを調整します。



運転席バックレストの角度調整
ダイヤルを回して背もたれの角度を調整します。

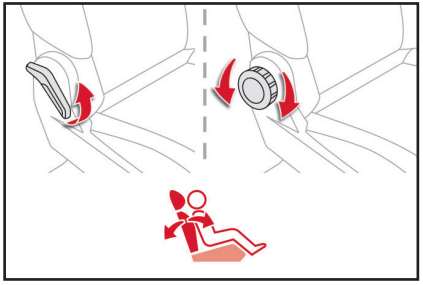


* 仕様により異なります。

助手席バックレストの角度調整

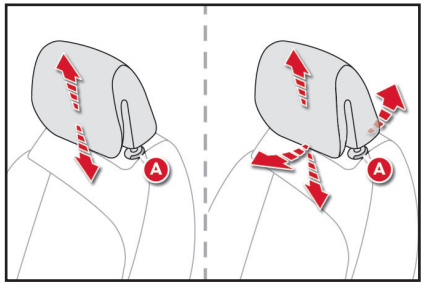
レバーを引き上げたままバックレストの位置を調整します。レバーを離すとその位置で固定されます。

または、ダイヤルを回して背もたれの角度を調整します。



●ヘッドレストの高さと角度調整

調整は、ヘッドレストの上端と前席乗員の頭の上が揃うようにします。



高さ調整

ヘッドレストを引き上げると上がります。

ラグ **A** を押しながらヘッドレストを押すと下がります。

角度調整 *

ヘッドレストの下部を前後させます。

ヘッドレストの脱着

1. ヘッドレストを最上の位置に移動します。
2. 根元のラグ **A** を押しながら引き上げます。
3. ヘッドレストを戻すには、ヘッドレストの支柱をシートの穴に合わせて押し込みます。

⚠警 告

●ヘッドレストは衝突の際にはずれないように、支柱によって支えられています。

●高さはヘッドレストの上端と前席乗員の頭の上が揃うように調整してください。

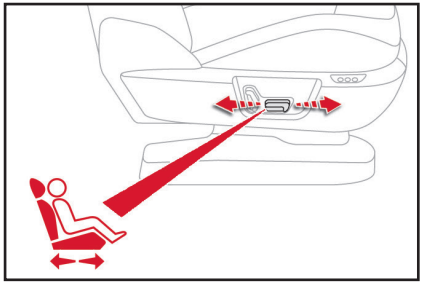
●ヘッドレストをはずして運転しないでください。

●フロントシートの調整（電動）

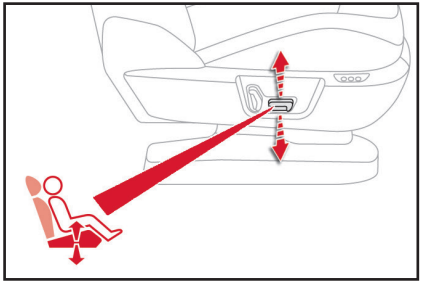
MEMO

フロントドアを開けてから約 1 分間、シートの調整ができます。イグニッションをオフにしてから約 1 分後、およびエコノミーモードに入るとシート調整ができなくなります。さらに調整したいときは、イグニッションをオンにしてください。

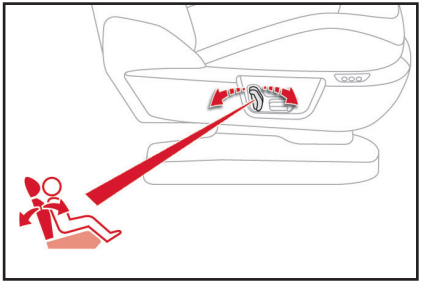
シートの前後調整 *
スイッチを前後にスライドしてシートの位置を調整します。



シートの高さと角度調整
高さ調整：スイッチの後端を上下して調整します。
角度調整：スイッチの前端を上下して調整します。

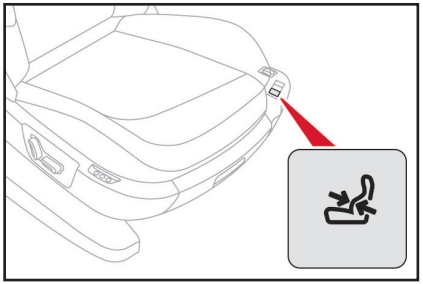


バックレストの角度調整
スイッチを前後に倒して調整します。



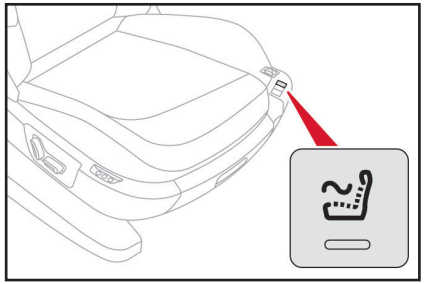
* 仕様により異なります。

●ランバーサポート*



スイッチを押して調整します。

●アクティブランバーサポート*



機能をオンにするには

エンジン作動中またはストップ＆スタートのストップモード中にスイッチを押すと、インジケーターが点灯し、運転席背部のランバーサポートがオン／オフを繰り返します。
10分1サイクル（6分作動、4分休止）で1時間（6回）作動します。

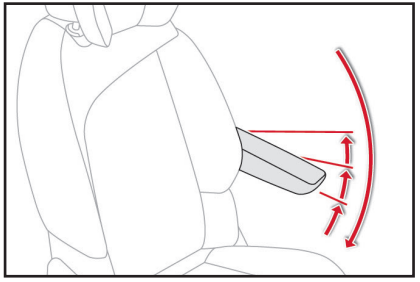
機能をオフにするには

1時間経過するとインジケーターが消灯し、アクティブランバーサポートが停止します。
途中で停止したいときは、スイッチを押します。

サポート量を調整するには

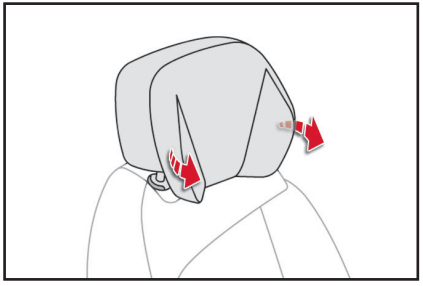
ボタンを押すとアクティブランバーサポートのサポート量を2段階で調整できます。

●アームレストの高さ調整



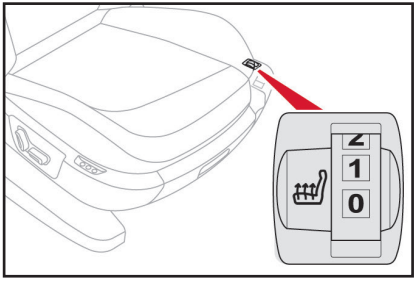
1. アームレストを高位置より少し高くまで引き上げ、低位置まで戻します。
2. アームレストをお好みの高さ (低 / 中 / 高) まで引き上げます。

●コンフォートヘッドレスト*



ヘッドレストの両端を動かしてお好みの位置に調整します。

●フロントシートヒーター*



シートヒーターは運転席と助手席に装備され、別々に作動させることができます。
シート横にあるダイヤルを回すとヒーター温度が調整できます。
設定した温度は自動的に保たれます。

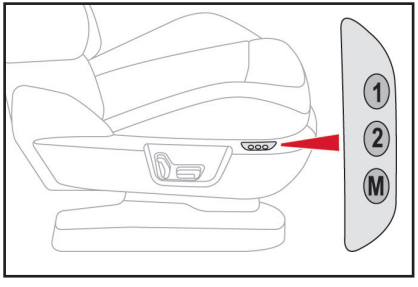
0 : オフ
1 : 低
2 : 中
3 : 高

MEMO

シートヒーターはエンジンが作動しているときのみ使用できます。

* 仕様により異なります。

●シートポジションメモリー*



お好みのシートポジション（運転席の位置、ドアミラーの角度）を登録し、ワンタッチで呼び出すことができます。シートポジションは運転席シートにあるボタンに２人分まで登録できます。

シートポジションを登録する

1. イグニッションをオンにします。
2. 運転席の位置およびドアミラーの角度を調整します。
3. ボタン **M** を押して４秒以内に、登録したいボタン **1** または **2** を押します。登録が完了すると、チャイムが鳴ります。

MEMO

新しいシートポジションを登録すると、前の登録に上書きされます。

登録ポジションを呼び出す

車が停止状態で、イグニッションがオンまたはエンジンが作動中のときにボタン **1** または **2** を短く押します。
呼び出しが完了すると、チャイムが鳴ります。

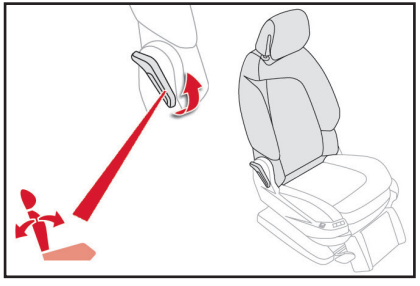
MEMO

- ●エンジンが停止しているときに数回連続してシートポジションの変更をすると、バッテリー上がり防止のため、エンジンを始動するまでシートポジションの呼び出しができなくなります。
- ●イグニッションをオフにした後、しばらくするとシートポジションの呼び出しができなくなります。

⚠警 告

シートポジションメモリーの操作は、安全のため停車中に行ってください。

●助手席バックレストの折りたたみ*



長い物を載せるときなどに、助手席を折りたたむと荷室を広く使用できます。
事前にアームレストを一番上まで引き上げ、フロントシートバックテーブルを元に戻します。

⚠警 告

●シートを操作するときは、車を安全な場所に停車させてから行ってください。
●助手席を折りたたむときは、助手席のすぐ後ろの２列目シートおよび中央の２列目シートに乗員を乗せないでください。

⚠注 意

30kg 以上の物を載せないでください。シートが破損するおそれがあります。

折りたたみかた

1. ヘッドレストを一番低い位置にします。シートが一番前にあるときは、ヘッドレストを取りはずします。
2. レバーを引き上げてバックレストを前方に倒します。

⚠注 意

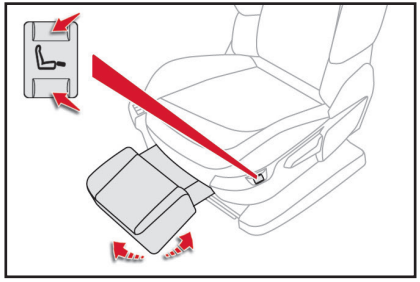
シートのまわりに障害物がないか確認してください。また、体がはさまれないように十分注意してください。

戻しかた

バックレストを持ち上げて固定します。戻した後は、バックレストをゆすって確実に固定されているか確認してください。

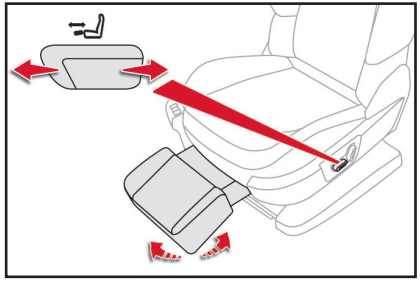
* 仕様により異なります。

●助手席電動カーフレスト*



手動シート

スイッチの前後を押してカーフレストの位置を調整します。



電動シート

スイッチを前後にスライドしてカーフレストの位置を調整します。

MEMO

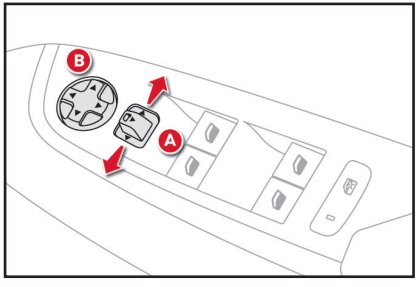
スイッチを離すとその位置でカーフレストが停止します。

⚠注 意

シートのまわりに障害物がないか確認してください。

ミラー

●電動ドアミラー



調整するミラーに合わせて、スイッチ **A** を左側または右側に動かします。
ミラーは上下左右に角度が変えられます。スイッチ **B** の動かしたい側のボタンを押します。
調整が終わったら、スイッチ **A** を中央の位置に戻します。

⚠注 意

ミラーで見た距離感覚と実際の車との距離が異なります。車との感覚を判断する際には、この点に十分ご注意ください。

●ドアミラーの格納

スイッチ **A** を中央位置にして後方へ引くと、ミラーを格納できます。
手などを挟まないように、安全を確認してから操作してください。
スマートキー機能、リモコン、または緊急用キーで施錠すると、ミラーが自動的に格納されます。
この機能を使用したくないときは、シトロエン指定サービス工場に設定の変更をお申し付けください。

⚠注 意

電動ドアミラーを手で倒したり、戻したりしないでください。

MEMO

- ●スイッチ **A** を使用してドアミラーを格納した場合は、車を解錠してもドアミラーは復帰しません。スイッチ **A** を使用してドアミラーを復帰してください。
- ●エアコンコントロールパネルのリアウィンドウデフォッガーボタンは、ドアミラーの曇り取りも兼用しています。

●後退時のミラー位置自動調整*

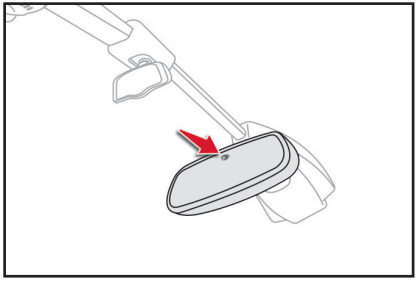
シフトモードセレクターを **R** に入れると、ドアミラーの角度が変化し、後方側面が見やすくなります。
ドアミラーは以下のときに、元の位置に戻ります。

- ・ シフトモードセレクターを **R** 以外にして数秒間経過する。
- ・ 時速 10km 以上で走行する。
- ・ エンジンを停止する。

この機能をオン／オフするには、タッチスクリーンで設定します。

* 仕様により異なります。

●自動防眩バックミラー

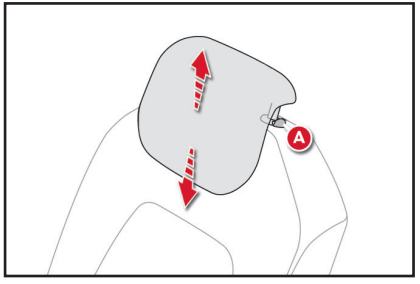


昼と夜で自動的にミラーの明るさを調整します。また、夜間に後続車のヘッドランプがミラーに反射した場合も、自動的に暗くなって後方の視界を確保します。なお、シフトモードセレクターを R の位置にすると、後方視界を確保するために一時的に明るくなります。

⚠注 意

安全のため、ミラーは後方がよく見える位置に調整してください。

リアヘッドレスト



ヘッドレストは2つの高さを選択できます。

●収納位置
シートを使用していないときは、低い位置にします。

●通常位置
乗員が乗るときは、安全のためヘッドレストをロックするまで引き上げます。

⚠警 告

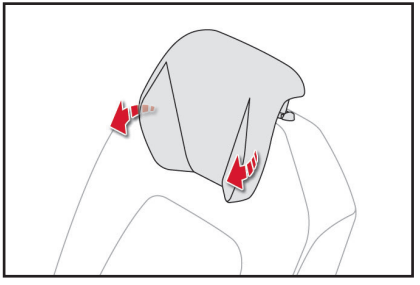
リアシートに乗るときは、ヘッドレストを通常位置に調整してください。また、ヘッドレストを取りはずしたまま走行しないでください。事故などのときにケガをする危険性があります。

●下げるとき
ラグ **A** を押しながら、ヘッドレストを押します。

●上げるとき
ヘッドレストをロックするところまで引き上げます。

●取りはずし
ラグ **A** を押しながらヘッドレストを引き上げます。

●コンフォートヘッドレスト*



ヘッドレストの両端を動かしてお好みの位置に調整します。

* 仕様により異なります。

2列目シート

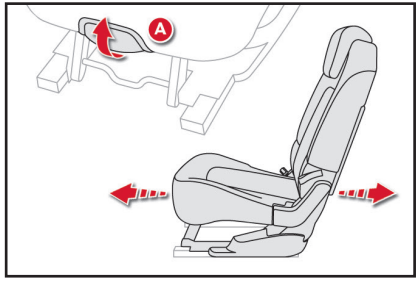
⚠警 告

●シートを操作するときは、車を安全な場所に停車させてから行ってください。
●シートを元に戻すときには、身体の一部や障害物が妨げにならないように注意し、正しい位置に固定してください。

⚠注 意

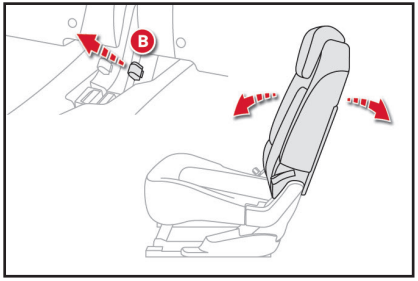
お子さまがシートを調整する場合は、常に大人がいっしょに確認してください。

●前後調整



シートの前にあるレバー **A** を引き上げたままシートを前後に動かします。レバー **A** を離すとその位置で固定されます。

●コンフォートポジション

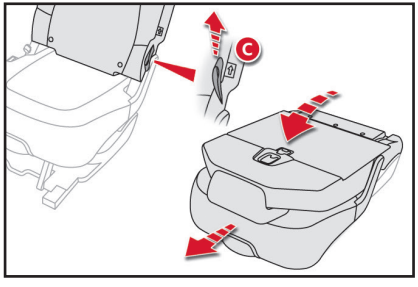


コンフォートポジションにする
つまみ **B** を引き上げます。
バックレストがリクライニングし、シートが若干沈みます。

元の位置に戻す
つまみ **B** を引き上げ、シートを前方へ動かします。

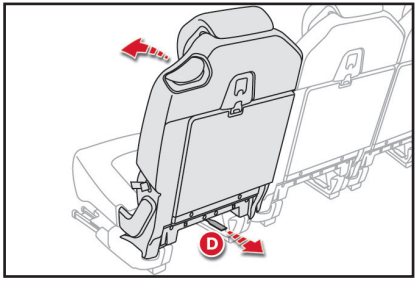
●バックレストの折りたたみ

後席ドア側から折りたたむ



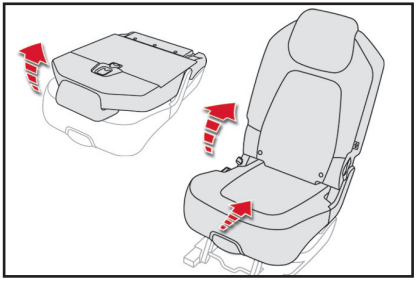
1. シートを一番後ろまで下げます。
2. 黒いストラップ **C** を真上に引き上げてバックレストのロックを解除します。
3. バックレストを静かに前方に倒してシートクッションの上に折りたたみます。

ラゲッジルーム側から折りたたむ（荷物を積むときなど）（7 シーター）



1. シートを一番後ろまで下げます。
2. 3 列目シートを折りたたみます。
3. ストラップ **D** を上に引いてバックレストのロックを解除します。
4. バックレストを静かに前方に倒してシートクッションの上に折りたたみます。

●バックレストの戻しかた



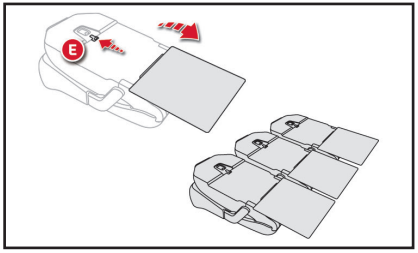
1. 2 列目シートのリジッドボード * が開いているときは元の位置に戻し、ロックします。
2. バックレストを持ち上げ、後方へ押してロックします。

⚠注 意

シートのまわりに障害物がないか確認してください。また、体がはさまれないように十分注意してください。

* 仕様により異なります。

●リジッドボード*



各シートにはリジッドボードが装備されています。
リジッドボードがシートとフロア間のすき間をなくし、荷物が 2 列目シートの下に入り込むのを防ぎます。

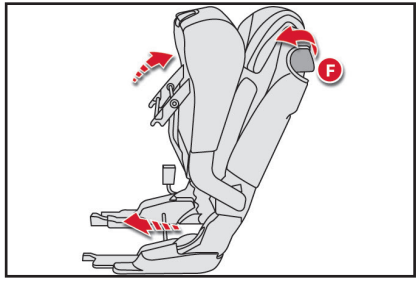
リジッドボードのロックとロック解除

リジッドボードのラッチ **E** を前方にスライドさせるとロックが解除され、パネルが開きます。
リジッドボードを閉じ、ラッチ **E** を後方にスライドさせるとボードがロックされます。

MEMO

●2 列目シートを一番後ろまで下げてから、リジッドボードを開いてください。
●リジッドボードの耐荷重は 1 枚あたり 30kg です。

●3列目シートへの乗り降り（7シーター）



1. レバー **F** を引き上げます。シートのロックが解除され、シートクッションがバックレスト側へはね上がります。
2. レバー **F** を引き上げたままシート全体を前方へいっぱいまでスライドさせます。

⚠注 意

フロントシートバックテーブルを開いているときは、テーブルを収納してからこの操作を行ってください。

MEMO

レバー **F** を引き上げてもシートのロックが解除されない場合は、2 列目シートのバックレスト背面下側にあるストラップを引いてバックレストを倒してください。

●シートの戻しかた

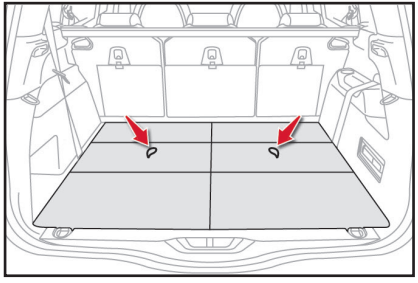
1. シートをできるだけ後方へスライドさせます。
2. シートクッションを下ろしてロックします。
3. バックレストを持ち上げ、後方へ押してロックします。

⚠注 意

シートのまわりに障害物がないか確認してください。また、体がはさまれないように十分注意してください。

3列目シート(7シーター)

●ラゲッジルームボード

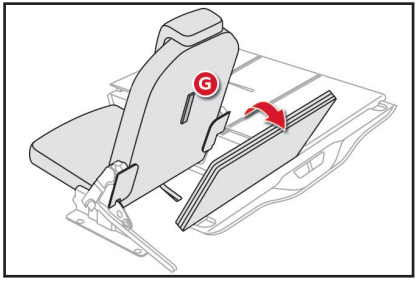


収納スペースを広くするときは、3 列目シートを格納してラゲッジルームボードを展開します。
3 列目シートを使用するときは、ラゲッジルームボードを手前に折りたたみます。

MEMO

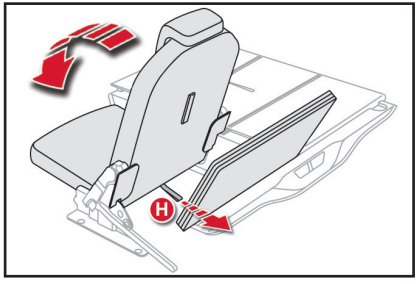
- ●ラゲッジルームボードは取りはずすことはできません。
- ●ラゲッジルームボードの耐荷重は 1 枚で 100kg です。

●シートの取り出し



1. ラゲッジルームボードのストラップを引いて、手前に折りたたみます。
2. バックレストのストラップ **G** を引き上げます。
3. バックレストを後方に起こし、ロックします。

●シートの格納



1. ヘッドレストを一番下まで下ろします。
2. ラゲッジルームボードを折りたたんだまま手前に起こします。
3. バックレストの底面にある赤いストラップ **H** を引いて、シートのロックを解除します。
4. バックレストを静かに前方へ押します。バックレストがシートクッション側に倒れると、シート全体がラゲッジルーム下のスペースに格納されます。
5. ラゲッジルームボードを格納したシートの上に展開します。

* 仕様により異なります。

⚠注 意

3 列目シートを格納する際は、指を挟むおそれがあるので、ストラップ **H** から手を離してください。

注 意

- ●3 列目シートの操作は、2 列目シートのリジッドボード * を元の位置に戻し、ロックしてから行ってください。
- ●バックレストが完全にロックされずに起きている状態から、3 列目シートを折りたたまないでください。シートが破損するおそれがあります。
- ●3 列目シートを折りたたむ際には、3 列目シートのシートクッションの上または下に物を放置しないでください。

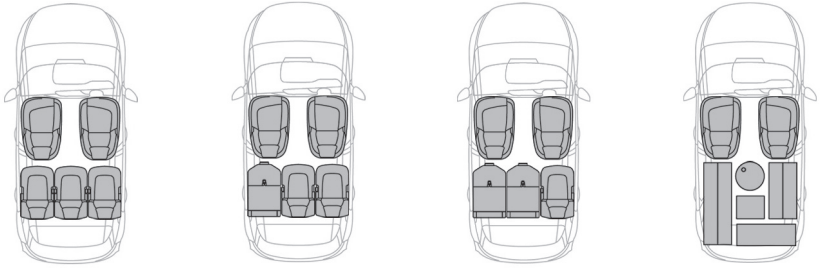
シートアレンジ

後部座席は、各シートを別々に折りたたむことができ、さまざまなシートアレンジに対応できます。
2 列目シートは、フロアの上に折りたたむことができ、3 列目シートは、フロアの下に折りたたんで収納することができます。後部座席をすべて折りたたむと、テールゲート開口部からフロントシートのバックレストまでを荷室にすることができます。

⚠警 告

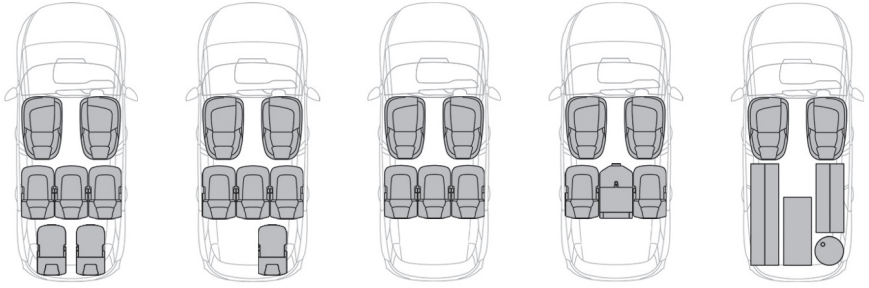
- ●2 列目を折りたたんでいるときは、3 列目に乗員を乗せないでください。
- ●シートの配置の変更は、車両が停止しているときに行ってください。

●5シーター



5 シート　4 シート　3 シート　2 シート + 荷物

●7シーター



7 シート　6 シート　5 シート　4 シート　2 シート + 荷物

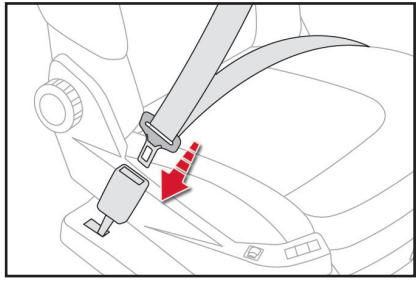
シートベルト

●フォースリミッター付シートベルトプリテンションシステム

車体が強い衝撃を受けたとき、瞬間的にシートベルトを引き込み、身体を拘束する効果を高める装置です。
この機構は、イグニッションがオンのときに作動します。
フォースリミッターは、事故の際に身体にかかるシートベルトの衝撃を和らげる働きをします。

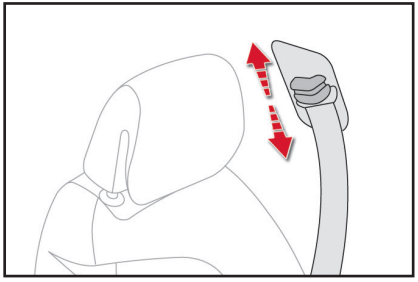
●フロントシートベルト

フロントシートベルトの着用



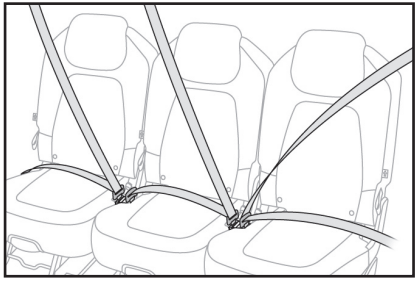
フォースリミッター付シートベルトプリテンションシステムが装備されています。
水平方向にあるベルトを、腹部でなく腰骨に当たるようにしてプレートをカチッと音がするまでバックルに差し込みます。
バックルの赤いボタンを押すとはずれます。

シートベルトの高さ調整



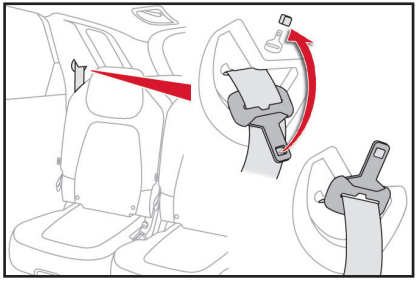
アンカーの突起をつまみながらアンカーを上下にスライドさせて、ベルトが肩先と首との間に当たるように合わせます。

●リアシートベルト



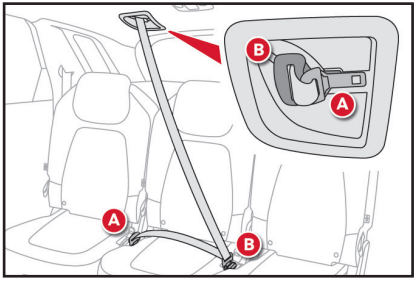
3 点式のシートベルトが装備されています。両サイドはフォースリミッター付きです。

2 列目左右シートベルトの着用



シートベルトのストラップを引き出し、バックルに差し込みます。ストラップを引っ張って、正常に装着されたかを確認します。バックルの赤いボタンを押すとはずれます。ストラップを巻き戻して、プレートをアンカーのマグネットで固定します。

2 列目中央シートベルトの着用



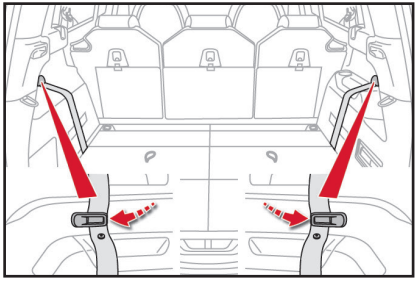
・着用するときは

1. ストラップを引いてプレート **A** をシート右側のバックルに差し込みます。
2. プレート **B** をシート左側のバックルに差し込みます。
3. ストラップを引っ張ってプレートがバックルに確実に差し込まれていることを確認します。

・取りはずすときは

1. バックル **B** の赤いボタンを押します。
2. バックル **A** の赤いボタンを押します。
3. ストラップを巻き戻して、プレート **B**、プレート **A** の順でルーフのアンカーにマグネットで固定します。

3 列目シートベルトの着用（7 シーター）



1. ラゲッジルームのサイドトリムからシートベルトのストラップをはずします。
2. ストラップを引き出し、バックルに差し込みます。

ストラップを引っ張って、正常に装着されたかを確認します。
取りはずすときは、バックルの赤いボタンを押すとはずれます。ストラップを巻き戻して、サイドトリムの格納位置にねじれないように収納します。

注 意

シートベルトが傷んだり、絡まったりしないように、シートベルトを使用しないときは、必ず正しい位置に収納してください。

●シートベルト警告灯



イグニッションをオンにしたとき、シートベルトを着用していない、または着用していたシートベルトをはずしたときに、インストルメントパネルのシートベルト警告灯および該当する座席位置の警告灯が点灯または点滅します。

運転席／助手席シートベルト警告灯
イグニッションがオンのとき、運転席／助手席シートベルトが着用されていないとシートベルト警告灯および該当する座席位置の警告灯が点灯します。

この状態で時速 20km を超えると、約 2 分間警告音とともに警告灯が点滅します。
2 分経過後は警告灯のみが点灯します。

シートベルトを着用すると警告が止まります。

リアシートベルト警告灯
イグニッションがオンのとき、エンジンを始動したとき、または時速 20km を超えたとき、シートベルトが着用されていないと、約 30 秒間シートベルト警告灯および該当する座席位置の警告灯が点灯します。

シートベルトを着用すると警告が止まります。

走行中にシートベルトをはずした場合
時速 20km 以上で走行しているときにシートベルトをはずした場合は、約 2 分間、警告音とともにシートベルト警告灯およびシートベルトをはずした位置の警告灯が点滅し、メッセージが表示されます。
2 分経過後は警告灯のみが点灯します。

シートベルトを着用すると警告が止まります。

MEMO

●降車時には、シートベルトを確実に収納させてください。
●シートベルトがロックして引き出せないときは、ベルトを強く引いてから、ゆるめてください。
●シートベルトが汚れた場合は、せっけん水や洗剤で洗ってください。

●着座検知

助手席の座面に圧力センサーがあり、約35kg 以上の重量が加わった状態でシートベルトを着用していないと警告灯は赤く点灯します。

MEMO

シートに重い荷物を置いて走行する場合は、シートベルトのストラップを引き出してバックルを差し込むと警告灯が点灯しなくなります。

⚠警 告

●運転席のシート調整は、安全のため停車中に行ってください。
●乗車中、短時間のドライブといえどもシートベルトを必ず着用してください。
●妊娠中の女性も必ずシートベルトを着用してください。ただし、医師に注意事項をご確認願います。
●シートベルトは、正しい姿勢で身体に密着させなければ効果がありません。
●バックルを逆にしてバックプレートを差し込まないでください。また、差し込むときには、ねじらないでください。
●シートベルトは、上部を肩にしっかりとかけ、下部は腰骨のできるだけ低い位置にかけてください。
●シートベルトを 2 人以上で共有しないでください。
●お子さまをひざの上に抱いて走行しないでください。

⚠警 告

●シートベルトの部品をむやみにはずしたり改造しないでください。衝突の際に作動しなくなるおそれがあります。また、誤ってプリテンションシステムを作動させると、ケガをするおそれがあります。
●シートベルトにほつれや傷跡があるようなときは、シトロエン指定サービス工場にご相談ください。部品交換が必要になることがあります。
●シートベルトを修理、交換する場合はシトロエン指定サービス工場にご相談ください。
●シートベルトプリテンションシステムは、一度しか作動しません。作動後はかならず部品交換が必要になりますので、シトロエン指定サービス工場で整備を受けてください。
●シートベルトプリテンションシステムは、エアバッグとは関係なく作動します。大きな衝撃を受けたときは、シトロエン指定サービス工場でシステムの点検を受けてください。

チャイルドシート

シトロエンでは、お子さまが乗る場合の安全を十分配慮して車の設計と製造を行っておりますが、お子さまが同乗するときの安全対策については、常に大人の方が十分ご注意いただくようお願いします。

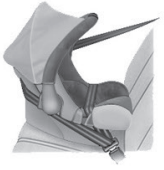
・ 後ろ向きチャイルドシートは 3 歳までのお子さまにご使用ください。
・ 前向きチャイルドシートは 3 歳以上のお子さまにご使用ください。

⚠警 告

●短時間の乗車でも、チャイルドシートとシートベルトを着用してください。
また、思わぬ事故を防ぐためにも、リアドアのパワーウィンドウが作動しなくなり、室内からリアドアを開けられなくするチャイルドセーフティ機能をご利用ください。
●後席のウィンドウは 3 分の 2 以上開けないようにしてください。
●お子さまの体格に合った正式に認可されたチャイルドシートを使用してください。適切なチャイルドシートにより、お子さまが守られます。
●お子さまを膝に乗せての運転はしないでください。大ケガや致命傷を負うおそれがあります。
●お子さまが正しい着座位置に座っていないと、急ブレーキや事故の際に大けがや致命傷を負うおそれがあります。また、エアバッグが作動した場合にも、思わぬケガを負うおそれがあります。

●3点式シートベルトを使用したチャイルドシート

新生児から体重 13kg まで



このタイプのシートは、体重 13kg 位までのお子さまに適しています。減速時に首に負担がかからないように、進行方向とは反対向きに取り付けてください。

体重 15kg から 36kg まで



体重 15kg ～ 36kg 位までのお子さまにお勧めするタイプです。



●チャイルドシートの推奨取り付け位置(5シーター)

以下の表は、お子さまの体重と車のシート形状により、シートベルトを使用してどの位置に一般的なチャイルドシートを取り付けるかを示しています。取り付けは、後ろ向き、前向きともに可能です。

シート	体重			
	13kgまで（グループ0、0+）	9～18kg（グループ1）	15～25kg（グループ2）	22～36kg（グループ3）
助手席 	○	○	○	○
2列目(左右) 	○	○	○	○
2列目(中央) 	○	○	○	○

※ 10kg 以下では、乳児用チャイルドシートおよびキャリコットは助手席に取り付けられません。
※ 助手席に取り付ける場合、シートの高さを一番低い位置に調整してから、レバーを 11 回引いた高さにし、前後調整機能が装備されている場合は、シートを中間位置まで下げてください。
※ 後ろ向きまたは前向きの大型チャイルドシートを、リアシートに設置する際、前のシートに接触しないように注意してください。2 列目シートは、バックレストを元に戻し、座席を後方へスライドさせて位置を調整してください。前後調整機能が装備されていない場合は、バックレストを元に戻し、フロントシートを前方へスライドさせて位置を調整してください。
※ チャイルドシートを取り付ける際には、車のシートバックに確実に固定されているか確認してください。ヘッドレストを取りはずし、チャイルドシートを確実に固定してください。
※ シトロエンでは可能なかぎり、すべてのチャイルドシートにおいてリアシートに設置することを奨励しています。

⚠警 告

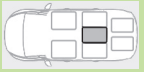
●助手席に後ろ向きチャイルドシートを取り付ける際には、必ず助手席エアバッグの機能をキャンセルしてください。お子さまが大けがを負ったり、場合によっては致命傷を受けるおそれがあります。
●チャイルドシートを取りはずしたら、必ずヘッドレストを取り付けてください。事故などのときにケガをする危険性があります。

MEMO

チャイルドシートは、メーカーの取扱説明書に従って正しく取り扱ってください。

●チャイルドシートの推奨取り付け位置(7シーター)

右の表は、お子さまの体重と車のシート形状により、シートベルトを使用してどの位置に一般的なチャイルドシートを取り付けるかを示しています。取り付けは、後ろ向き、前向きともに可能です。

シート	体重			
	13kgまで（グループ0、0+）	9～18kg（グループ1）	15～25kg（グループ2）	22～36kg（グループ3）
助手席 	○	○	○	○
2列目（左右） 	○	○	○	○
2列目（中央） 	○	○	○	○
3列目 	○	○	○	○

※ 10kg 以下では、乳児用チャイルドシートおよびキャリコットは助手席および３列目シートに取り付けられません。
※ 助手席に取り付ける場合、シートの高さを一番低い位置に調整してから、レバーを 11 回引いた高さにし、前後調整機能が装備されている場合は、シートを中間位置まで下げてください。
※ 後ろ向きまたは前向きの大型チャイルドシートを、リアシートに設置する際、前のシートに接触しないように注意してください。２列目シートは、バックレストを元に戻し、座席を後方へスライドさせて位置を調整してください。前後調整機能が装備されていない場合は、バックレストを元に戻し、フロントシートを前方へスライドさせて位置を調整してください。
※ ３列目シートに取り付ける場合、２列目シートを前方へスライドさせて、バックレストを元の位置に戻してください。
※ レッグサポート付のチャイルドシートは３列目シートには取り付けられません。
※ チャイルドシートを取り付ける際には、車のシートバックに確実に固定されているか確認してください。ヘッドレストを取りはずし、チャイルドシートを確実に固定してください。
※ シトロエンでは可能なかぎり、すべてのチャイルドシートにおいてリアシートに設置することを奨励しています。

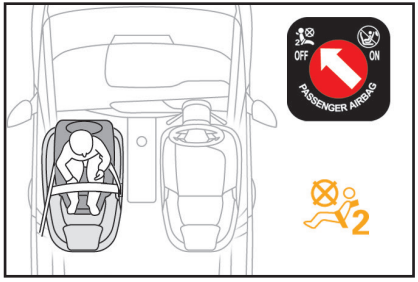
⚠警 告

- ●助手席に後ろ向きチャイルドシートを取り付ける際には、必ず助手席エアバッグの機能をキャンセルしてください。お子さまが大けがを負ったり、場合によっては致命傷を受けるおそれがあります。
- ●チャイルドシートを取りはずしたら、必ずヘッドレストを取り付けてください。事故などのときにケガをする危険性があります。

MEMO

チャイルドシートは、メーカーの取扱説明書に従って正しく取り扱ってください。

●助手席へのチャイルドシートの取り付け



後ろ向きチャイルドシート

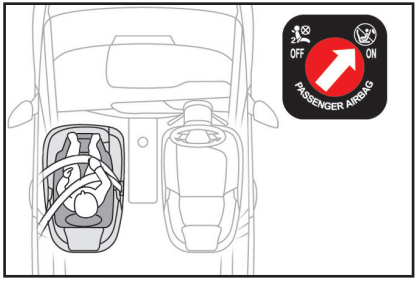
後ろ向きチャイルドシートを助手席に取り付けた際、助手席エアバッグの機能をキャンセルすることが必要です。

前後調整機能が装備されている場合は、助手席の前後スライド量は中間にしてください。

また、助手席のバックレストを元の位置に戻してください。

⚠警 告

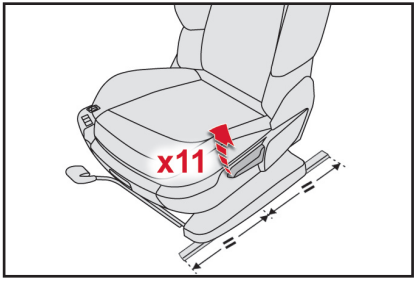
後ろ向きチャイルドシートを取り付ける際には、必ず助手席エアバッグの機能をキャンセルしてください。お子さまが大けがを負ったり、場合によっては致命傷を受けるおそれがあります。



前向きチャイルドシート

前向きチャイルドシートを助手席に取り付けた際、前後調整機能が装備されている場合は、助手席の前後スライド量は中間にしてください。エアバッグが膨らんだ際の影響を少なくします。

また、助手席のバックレストを元の位置に戻してください。

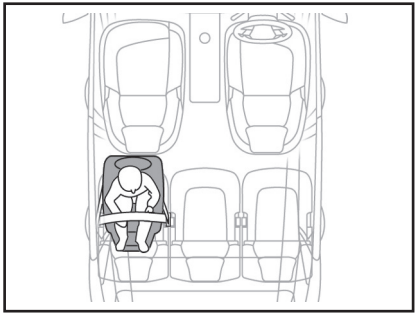


シート高さは一番低い位置に調整してから、レバーを 11 回引いた高さです。前後調整機能が装備されている場合は、シート位置は中間にしてください。

⚠警 告

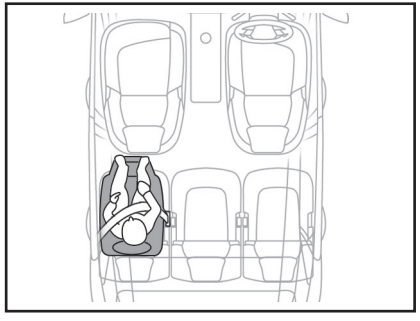
- ●シートベルトがしっかりと締まっていることを確認してください。
- ●レッグサポート付のチャイルドシートは、レッグサポートをしっかりとフロアに接地させてください。必要に応じて、助手席シート位置を調節してください。

●2列目シートへのチャイルドシートの取り付け（3点式シートベルトを使用）



後ろ向きチャイルドシート

後ろ向きチャイルドシートをリアシートに取り付けた際、チャイルドシートが前席に接触しないように、前席の前後位置およびバックレストの角度を調整してください。前席の前後調整機能が装備されていない場合は、リアシートのバックレストを元に戻し、座席を後方へスライドさせて位置を調整してください。



前向きチャイルドシート

前向きチャイルドシートをリアシートに取り付けた際、お子さまの足が前席に接触しないように、前席の前後位置およびバックレストの角度を調整してください。前席の前後調整機能が装備されていない場合は、リアシートのバックレストを元に戻し、座席を後方へスライドさせて位置を調整してください。

⚠警 告

- ●シートベルトがしっかりと締まっていることを確認してください。
- ●レッグサポート付のチャイルドシートは、レッグサポートをしっかりとフロアに接地させてください。
- ●レッグサポート付のチャイルドシートは後席中央に取り付けないでください。

●3列目シートへのチャイルドシートの取り付け（7シーター）

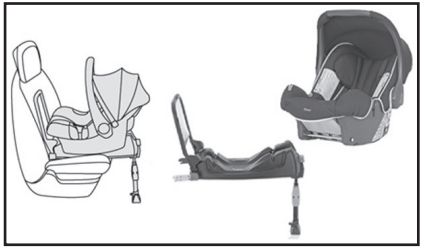
3列目シートに取り付けた際、チャイルドシートまたはお子様の足が前席に接触しないように、2列目シートの前後位置およびバックレストの角度を調整してください。

⚠警 告

レッグサポート付のチャイルドシートは3列目シートに取り付けないでください。

●ISOFIXチャイルドシート（シトロエン推奨）

新生児から体重 13kg まで



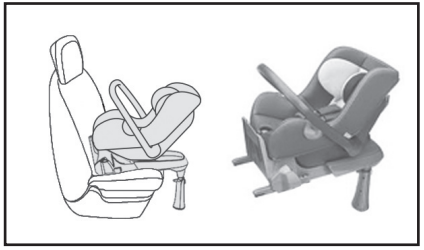
後ろ向きチャイルドシート。高さ調整が可能なバーを備えています。
3 点式のシートベルトで取り付けることも可能です。その場合シェルのみ使用してください。

体重 9kg から 13kg まで



後ろ向きチャイルドシート。高さ調整が可能なバーを備えています。
3 点式のシートベルトで取り付けることも可能です。その場合シェルのみ使用してください。

体重 9kg から 18kg まで



後ろ向きチャイルドシート。高さ調整が可能なバーを備えています。
前向きに取り付けることができますが、3 歳までのお子様には、後ろ向きに取り付けることをお勧めします。
シートベルトでの取り付けはできません。

●ISOFIXチャイルドシートの推奨取り付け位置

下の表は、ISOFIX チャイルドシートに関し、車内シート位置と一般的に認可された体重グループの関係を示しています（欧州安全規格に基づいています）。ISOFIX ユニバーサルチャイルドシートまたはセミユニバーサルチャイルドシートでは、A ～ G のアルファベットによる ISOFIX サイズコードがチャイルドシートの“ISOFIX ロゴ”の横に表示されています。

	体重／年齢									
	10kgまで（グループ0）約6ヶ月まで		10kgまで、13kgまで（グループ0、0+）約1歳まで			9～18kg（グループ1）約1歳～3歳				
ISOFIXチャイルドシートのタイプ	シェル型*1		後ろ向き			後ろ向き		前向き		
ISOFIXサイズコード	F	G	C	D	E	C	D	A	B	B1
2列目シート左右	IL-SU		IL-SU			IL-SU		IUF*2 IL-SU*2		
2列目シート中央	X		IL-SU			IL-SU		IUF IL-SU		

IUF： ISOFIX ユニバーサルチャイルドシート（トップベルトを備える ISOFIX「前向き」チャイルドシート）の取り付けに適しているシート位置。

IL-SU： ISOFIX セミユニバーサルチャイルドシート（トップベルトまたはバーを備える ISOFIX「後ろ向き」チャイルドシート、バーを備える ISOFIX「前向き」チャイルドシート、およびトップベルトまたはバーを備える ISOFIX「シェル型」シート）の取り付けに適しているシート位置。

※チャイルドシートを取り付ける際には、車のシートバックに確実に固定されているか確認してください。必要に応じて、ヘッドレストを取りはずし、チャイルドシートを確実に固定してください。

⚠警 告

チャイルドシートを取りはずしたら、必ずヘッドレストを取り付けてください。事故などのときにケガをする危険性があります。

MEMO

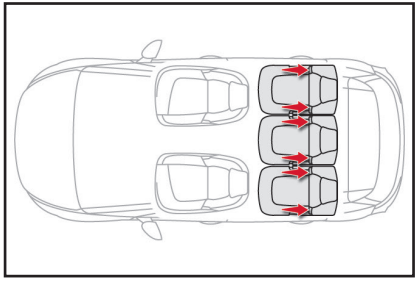
●助手席および 3 列目シートは ISOFIX チャイルドシートに対応していません。
●チャイルドシートは、メーカーの取扱説明書に従って正しく取り扱ってください。

*1 ISOFIX シェル型は、リアシート全座席分のスペースを利用して、ボトムリングへ固定します。

*2 前後調整機能が装備されていない場合、サイズコードが A の ISOFIX チャイルドシートの取り付けはできません。前後調整機能が装備されている場合、リアシートを最も前から 3 段階目の位置に調整してから ISOFIX チャイルドシートを取り付けてください。

●ISOFIXチャイルドシートの取り付け方

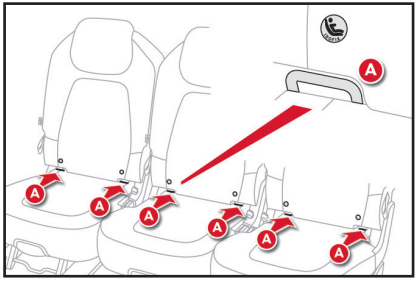
取り付け可能シート位置



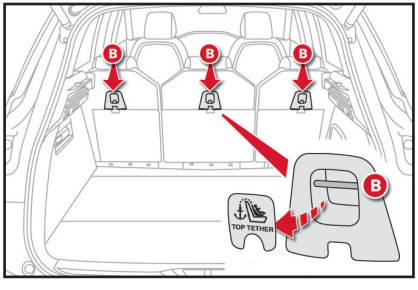
ISOFIX 規格のチャイルドシートを取り付けることができるシートを表しています。
取り付け可能なシート位置にはそれぞれ 3 つの金具が装備されています。

取り付け方法については、チャイルドシートの説明書に従ってください。

取り付け金具



シートのバックレストとシートクッションの間に2つの金具 **A** があります。



トップテザー対応のシートは、ストラップをバックレスト裏側のトップテザーアンカー **B** に装着してください。
このとき、2 列目シートのヘッドレストを取りはずし、ストラップをヘッドレストの支柱の穴の間を通してからアンカー **B** に固定してしっかり張ります。

⚠警 告

- ●チャイルドシートは正しく取り付けてください。事故などの場合に十分な保護ができなくなるおそれがあります。
- ●チャイルドシートは製造メーカーの指定に従って正しくご使用ください。チャイルドシートに指定された適正な年齢や体格を無視すると、シートベルトにより傷害を受けるおそれがあります。
- ●チャイルドシートを取りはずしたら、必ずヘッドレストを取り付けてください。事故などのときにケガをする危険性があります。

エアバッグ

エアバッグはイグニッションがオンのときだけ作動します。
エアバッグは致命的な事故の際にフォースリミッター付シートベルトを補助して乗員を最大限守るように設計されています。
万一の際、エアバッグシステムが急激な減速を感知してそれがある到達点にまで達していたら即座にシステムが起動して乗員の保護を行います。
その直後エアバッグはしぼんで乗員が脱出しやすい空間を確保します。
エアバッグはシートベルトが十分フォローできる範囲内の衝撃では開きません。

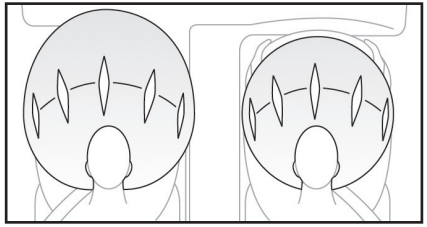
⚠警 告

展開後のエアバッグ構成部品は熱くなっておりますので、やけどを負う可能性があります。

MEMO

展開後のエアバッグはガスが抜けてすぐしぼむようにできています。このガスには若干の刺激性があります。

●フロントエアバッグ

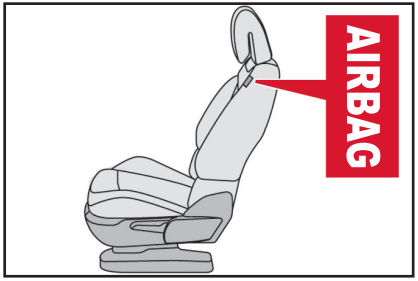


運転席エアバッグはステアリング中央部に収納されています。
助手席エアバッグはダッシュボード内に収納されています。
助手席エアバッグキャンセルスイッチがOFFのときは展開しません。

⚠警 告

●ステアリングのスポーク部を握って運転したり、センターパッド部に手をおいて運転しないでください。
●助手席に座る人は、ダッシュボードに足を乗せないでください。
●ステアリングをはずしたり、物を突き刺したり、激しく物を当てないでください。

●サイドエアバッグ



運転席および助手席のバックレスト側面（ドア側）に収納されており横からの衝撃に対してのみ、左右が独立して展開します。

⚠警 告

●シートカバーはシトロエンが推奨するものだけを使ってください。
●シートバック部にアクセサリー等をつけたり貼ったりしないでください。
●ドア側に近付きすぎた座り方をしないでください。

●カーテンエアバッグ

ドアピラー部から天井にかけて収納されており、横からの衝撃に対し前席と後席の乗員を保護するために左右が独立して展開します。

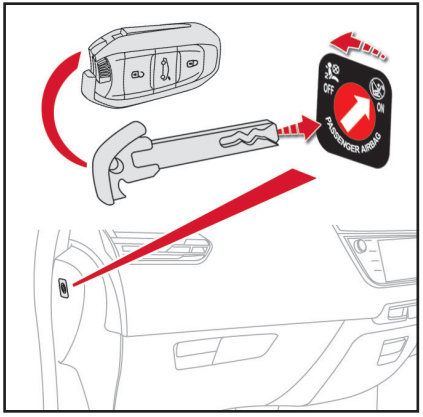
⚠警 告

- ●天井やピラーにアクセサリー等を取り付けたり貼ったりしないでください。
- ●天井に取り付けられているグリップハンドルをはずさないでください。カーテンエアバッグが機能するための一部になっています。

●故障しているときは

インストルメントパネルのエアバッグ警告灯が点灯します。
シトロエン指定サービス工場でシステムの点検を受けてください。

●助手席エアバッグキャンセルスイッチ



チャイルドシートを進行方向に対して後ろ向きに助手席へ取り付けるときは、助手席のエアバッグが作動しないようにします。
これはエアバッグが作動して膨らんだときの衝撃からお子さまを守るためです。

ON
助手席に大人が着席しているときは、必ず助手席エアバッグキャンセルスイッチを ON にします。助手席エアバッグが作動します。チャイルドシートを進行方向に対して後ろ向きに取り付けないでください。

作動中は、イグニッションをオンにすると、インストルメントパネルの警告灯が約 1 分間点灯します。

OFF

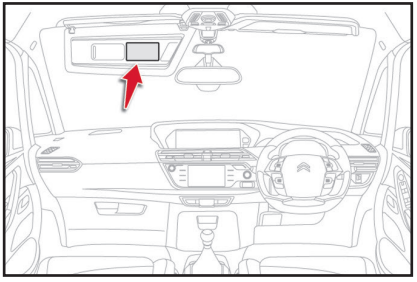
チャイルドシートを進行方向に対して後ろ向きに取り付けたときは、必ず助手席エアバッグキャンセルスイッチを **OFF** にします。助手席エアバッグは作動しません。

1. イグニッションをオフにします。
2. 助手席エアバッグキャンセルスイッチにキーを差し込み、 **OFF** の位置にします。
3. そのままキーを抜きます。



キャンセル中は、イグニッションをオンにすると、インストルメントパネルの警告灯が点灯します。



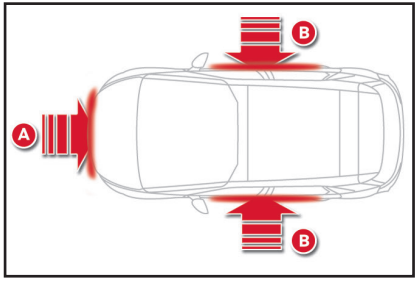


助手席サンバイザーに警告ラベルが貼り付けられています。

⚠警 告

- ●安全のためチャイルドシートはなるべく後席に取り付けてください。
- ●**作動停止設定をしていない**前側エアバッグで保護されている座席には、**絶対に**チャイルドシートを後向きに装着しないでください。**お子様の死亡**または**重症**の原因になることがあります。
- ●助手席エアバッグ OFF 機能は、助手席にチャイルドシートを装着するときのみ使用し通常助手席エアバッグは ON の状態にしてください。車両に装着された助手席エアバッグスイッチを OFF の位置にして、チャイルドシートを使用する場合は、助手席エアバッグ OFF の警告灯が点灯していることを確認してください。この場合助手席エアバッグは作動しません。

●エアバッグの作動条件



A. フロント衝撃ゾーン
B. サイド衝撃ゾーン

フロントエアバッグの作動条件
フロント衝撃ゾーン **A** に、車両前方から後方へ縦方向の強い衝撃を水平に受けたときに、運転席エアバッグと助手席エアバッグが連動して作動します。
助手席エアバッグの作動を解除しているときは、助手席エアバッグは連動して作動しません。

サイドエアバッグの作動条件
サイド衝撃ゾーン **B** に、車両外側から内側へ横方向の強い衝撃を水平に受けたときに、衝撃を受けた側が作動します。

カーテンエアバッグの作動条件
サイド衝撃ゾーン **B** に、車両外側から内側へ横方向の強い衝撃を水平に受けたときに、サイドエアバッグと連動して作動します。

⚠警 告

- ●車両側面への衝撃や衝突が弱いとき、および横転、転覆したときは、エアバッグが作動しないことがあります。
- ●正面衝突したとき、または、追突されたときは、サイドエアバッグやカーテンエアバッグは作動しません。
- ●エアバッグ単独では衝撃を吸収する効果が十分ではありません。必ず、シートベルトを正しく着用してください。
- ●エアバッグ警告灯および助手席エアバッグ警告灯の2つとも点灯しているときは、後ろ向きチャイルドシートを助手席に取り付けないで下さい。シトロエン指定サービス工場でシステムの点検を受けてください。
- ●エアバッグシステムの改造は絶対に行わないでください。

⚠警 告

●ステアリングホイールと助手席ダッシュボードには、エアバッグが組み込まれています。正しく作動させるために次のことをお守りください。
- ・エアバッグの組み込まれた箇所にカバーをかけたり、ステッカーなどを貼らないでください。
- ・助手席側のダッシュボードの上に足や物を置いたり、立てかけたりしないでください。エアバッグがふくらむときに置いた物が飛び、ケガをするおそれがあります。
- ・エアバッグや近くにある部品をむやみにはずさないでください。衝突の際に作動しなくなるおそれがあります。また、誤ってエアバッグを作動させるとケガをするおそれがあります。
- ・喫煙中にエアバッグが作動するとケガややけどをするおそれがあります。

●ステアリングホイールやダッシュボードに近付きすぎる乗車姿勢では、作動したエアバッグによりケガをするおそれがあります。

MEMO

エアバッグは一度しか作動しません。フロントエアバッグ、サイドエアバッグやカーテンエアバッグが作動した場合は、シートや内装部材、コントロールユニットなどの交換が必要になります。事故の後は、必ずシトロエン指定サービス工場で点検や部品の交換を行ってください。

走行する前に

●タイヤの点検

空気圧の確認

タイヤの空気圧は、毎月一回ないし長距離を走行する前に点検してください。

適正値は、運転席側のドアピラー部に表示されています。表示されている値は、タイヤの温度が低いときの値です。空気圧は走行してタイヤの温度が上昇すると増加しますので、暖まっている状態で空気圧が高いからといって空気を抜かないでください。

外観の点検

タイヤの接地面や両サイドに、著しい損傷や亀裂、釘や針金などの異物が刺さっていないかを点検してください。

また、タイヤの接地面に部分的な異常摩耗がないかも点検してください。

スリップサイン

タイヤには、摩耗の限度を示すスリップサインが設けられています。タイヤの表面とスリップサインが同じ高さになったら、新品と交換してください。

使用燃料について

ガソリン車には、オクタン価が 95 オクタン（リサーチ法）以上の無鉛ガソリンを使用してください。

ガソリンスタンドにおける公称オクタン価は安定していないので、無鉛プレミアム（ハイオク）ガソリンの使用をお勧めします。

ディーゼル車には超低硫黄軽油（サルファーフリー／ S10ppm 以下）を使用してください。

注 意

ガソリン車に粗悪ガソリンや有鉛ガソリン、有鉛プレミアムガソリン、アルコール含有燃料を使用したり、ディーゼル車にガソリンや灯油を使用しますと、エンジン・触媒装置などに悪影響を与えるので、絶対に使用しないでください。

●ディーゼル車の燃料について

軽油は外気温が低温になると凍結してしまい、燃料配管の詰まりなどの故障の原因となります。寒冷地へ行くときは、現地へ到着するまでに燃料残量を半分以下にし、現地でできるだけ早く寒冷地用の燃料を補給してください。

使用燃料	使用限界温度の目安
JIS 特 1 号軽油	-
JIS 1 号軽油	-1℃
JIS 2 号軽油	-5℃
JIS 3 号軽油	-12℃
JIS 特 3 号軽油	-19℃

冬季の取り扱い

●冬季用タイヤ

積雪や凍結した道路を走行するときは、安全のため冬季用タイヤを装着することをお勧めします。
冬季用タイヤに交換するときは、必ず納車時に装着されていたタイヤと同じサイズのものをご使用ください。
シトロエン販売店では、車に適した性能の冬季用スタッドレスタイヤも用意しております。
スタッドレスタイヤは、車のバランスを保つために 4 輪全部に装着してください。
雪道や凍結した道路では、スタッドレスタイヤでも万全ではありません。運転には十分ご注意ください。

●スノーチェーン、スノーネット

スノーチェーン、スノーネットは、タイヤサイズに合ったものを前輪に装着してください。
取り付けは、平坦な安全な場所で、それぞれの取扱説明書に従って確実に行ってください。
チェーンやネットの装着後は、100m 程度走行して緩みや車体への当たりがないかを確認してください。
シトロエン販売店では、それぞれのタイヤに合わせた専用チェーンやネットを用意しております。

MEMO

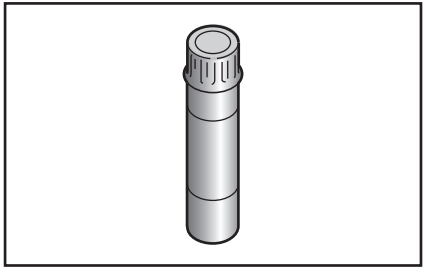
市販されているタイヤチェーンの中には、サイズが合っていても装着できないものがあります。

スタッドレスタイヤやスノーチェーンは、シトロエン販売店でお求めください。

●その他

- 冬季には、バッテリーに高い負荷がかかります。バッテリーは常にフル充電にしてください。
- 非常に冷え込んだ天候のときは、パーキングブレーキが凍結することがあります。温度が非常に低い日は、パーキングブレーキを解除し、シフトモードセレクターを P の位置に入れて輪止めをかけてください。
- ライト類や方向指示器などは、冬季は非常に汚れやすくなります。定期的に清掃するように心がけてください。
- キーシリンダーには、潤滑剤を使用して注油しておいてください。
- ドアのゴム製シールには、凍結を防ぐためにシリコン潤滑油を塗付します。
- 空気取り入れ口は、いつもきれいに保つようにしてください。
- 雪隔け時には特に車が汚れます。また、融雪剤には塩分を含んでいるものがあります。こまめに車全体を洗浄し、車体の下やホイールアーチ部もよく洗ってください。

保安炎筒



助手席足元に備えつけてあります。
踏み切りや高速道路などの危険な場所で故障したときに使用します。
使用方法は、保安炎筒に記載してあります。あらかじめよく読んでおいてください。
発炎時間は約 5 分間です。
保安炎筒に表示してある有効期間が切れる前に、新品をお求めになり交換してください。

⚠警 告

●お子さまにさわらせないでください。いたずらなどによる発火で、思わぬ事故になるおそれがあります。
●ガソリンなどの可燃物の近くでの使用は危険です。また、炎を顔や体に向けるとやけどの危険があります。

⚠注 意

●非常用信号としてのみご使用ください。
●トンネル内ではハザードランプを使用してください。トンネル内で使用すると、煙により視界が悪くなり危険です。

触媒コンバーター

シトロエン C4 Picasso には、日本の排気ガス基準に適合させるために触媒コンバーターが装着されています。

●触媒コンバーター装着車についてのご注意

・ 燃料は、ガソリン車には必ず無鉛ガソリンを使用し、ディーゼル車には指定の軽油を使用してください。指定以外の燃料は触媒をいためます。
・ 燃料は早めに補給してください。
・ ミスファイヤ等のエンジン不調のときは、運転を避け、故障箇所を直ちに修理してください。

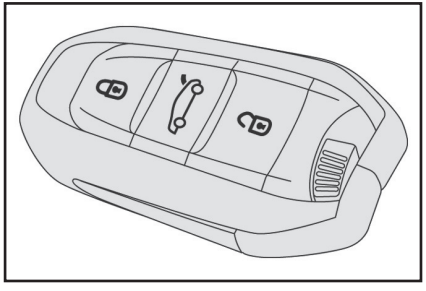
⚠警 告

長時間のエンジンの空ぶかしはしないでください。触媒コンバーターが過熱して発火、火災にいたることがあります。

第2章　各部の開閉のしかた

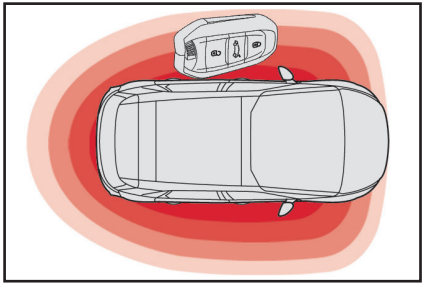
スマートキー ····· 2-2
イモビライザー（盗難防止システム）····· 2-8
ドア／ドアロック ····· 2-9
パワーウィンドウ ····· 2-11
チャイルドセーフティ ····· 2-13
パノラミックガラスルーフ ····· 2-14
ボンネット ····· 2-15
テールゲート ····· 2-16
エレクトリックテールゲート ····· 2-17
ハンズフリーエレクトリックテールゲート ····· 2-20
フュエルリッド(給油口) ····· 2-22

スマートキー



スマートキーを携帯しているだけで、ドアやテールゲートの施錠・解錠やエンジンの始動をすることができます。
リモコンとしてボタンを使って施錠・解錠することもできます。
スマートキーには緊急用キーが付いています。

●スマートキー機能の作動範囲



スマートキー機能で施錠または解錠するときの検知エリアの範囲は、車両から周囲約 1m 以内です。
車両周辺の検知エリアにスマートキーがあれば、スマートキーを携帯していない人でもドアを操作して解錠することができます。

注 意

検知エリアにスマートキーがある場合は盗難に注意してください。

MEMO

- ●スマートキーが車両に近付きすぎているときは作動しないことがあります。
- ●スマートキーは微弱な電波を使用しています。以下のようなときは、正常に作動しなかったり、不安定な動作になったりすることがあります。
  - ・近くに強い電波を発する設備があるとき
  - ・携帯電話、無線機、パソコンなどの製品と一緒にスマートキーを携帯しているとき
  - ・スマートキーが金属に接していたり、覆われたりしているとき

●解錠

解錠の仕様を、以下の 2 つから選択することができます。

1. 通常解錠モード
   すべてのドア、テールゲートを同時に解錠する
2. 選択解錠モード
   最初に運転席ドアのみ、2 回目でその他のドアおよびテールゲートを解錠する

設定の変更はタッチスクリーンで行います。

MEMO

初期設定は通常解錠モードになっています。

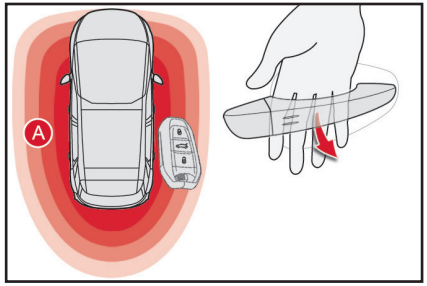
●通常解錠モード

リモコンを使用する



車に向けてリモコンの解錠ボタンを押します。すべてのドアおよびテールゲートが解錠されます。

スマートキー機能を使用する



車両周辺の検知エリア **A** 内でスマートキーを携帯してドアハンドルに手を通すと、すべてのドアおよびテールゲートが解錠されます。ドアハンドルをそのまま引くとドアを開けることができます（運転席側、助手席側とも）。

MEMO

- ●解錠するとハザードランプが数秒間点滅し、同時にドアミラーが展開します。また、ウェルカムランプが一定時間点灯します。
- ●解錠した後、30 秒以内にドアを開かないと、自動的に再度施錠されます。

●選択解錠モード

リモコンを使用する

車に向けてリモコンの解錠ボタンを 1 回押します。運転席ドアのみが解錠されます。
もう 1 度解錠ボタンを押すと、その他のドアおよびテールゲートが解錠されます。

スマートキー機能を使用する

スマートキーを携帯して運転席のドアハンドルに手を通すと、運転席ドアのみが解錠されます。また、助手席ドアのドアハンドルに手を通すと、すべてのドアおよびテールゲートが解錠されます。
ドアハンドルをそのまま引くとドアを開けることができます。

MEMO

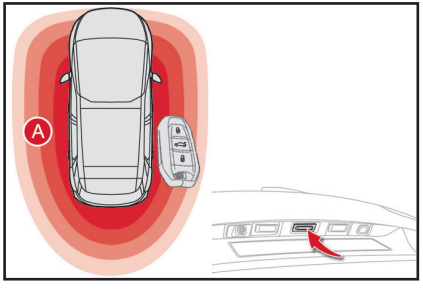
- ●解錠するとハザードランプが数秒間点滅します。ドアミラーは最初の解錠と同時に展開します。また、ウェルカムランプが一定時間点灯します。
- ●解錠した後、30 秒以内にドアを開かないと、自動的に再度施錠されます。

●テールゲートの解錠

リモコンを使用する

テールゲートオープナーボタンを長押しします。ドアおよびテールゲートが解錠されます。
エレクトリックテールゲート * の設定がオンになっているとテールゲートが開きます。

スマートキー機能を使用する



車両周辺の検知エリア **A** にスマートキーがあるときに、テールゲートのスイッチを押します。ドアおよびテールゲートが解錠されます。
エレクトリックテールゲート * の設定がオンになっているとテールゲートが開きます。

選択解錠モードに変更する

テールゲートの解錠の仕様を選択解錠モードに変更することができます。
テールゲートのみ解錠します。
設定の変更はタッチスクリーンで行います。

MEMO

テールゲートを解錠した後は、必ず施錠してください。

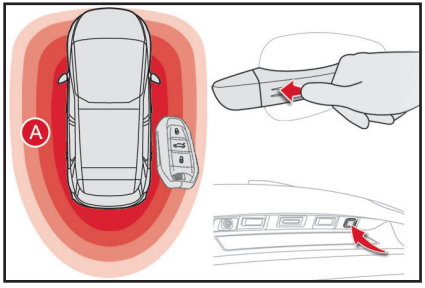
* 仕様により異なります。

●施錠

リモコンを使用する

車に向けてリモコンの施錠ボタンを押すと、すべてのドアおよびテールゲートが施錠されます。

スマートキー機能を使用する



車両周辺の検知エリア A にスマートキーがあるときに、ドアハンドルのスイッチまたはテールゲートのスイッチを押します。すべてのドアおよびテールゲートが施錠されます。

MEMO

- ●スマートキーを携帯して車両から離れても自動的に施錠されることはありません。
- ●施錠操作するリモコンのボタン、ドアハンドルのスイッチまたはテールゲートのスイッチを押し続けると、パワーウィンドウが自動的に閉まります。
- ●施錠するとハザードランプが数秒間点灯し、同時にドアミラーが格納します。
- ●車内にスマートキーがあるときは、施錠することができません。
- ●長期間（3 週間以上）車両を使用しないと、バッテリー消費を抑えるために、スタンバイモードとなってスマートキー機能が自動的に停止します。スマートキー機能を復帰させるには、リモコンのボタンを押すか、スマートキーをスマートキー挿入スロットに入れてエンジンを始動してください。これは車外に保管しておいた予備キーでも同様です。

MEMO

- ●スマートキーが家電製品の近くにあると電磁波の影響を受けて反応し、電池を著しく消耗します。これを防止するため自動的にスタンバイモードになることがあります。機能を復帰させるには、リモコンのボタンを押すか、スマートキーをスマートキー挿入スロットに入れてエンジンを始動してください。
- ●以下のときは、施錠できません。
  - ・いずれかのドアまたはテールゲートが完全に閉まっていないとき
  - ・スマートキーが車内にあるとき

⚠警 告

リモコンのボタンまたはドアハンドルのスイッチを使用してパワーウィンドウを閉めるときは、乗員が手などを挟まれないように確認してから操作してください。

●スーパードアロック

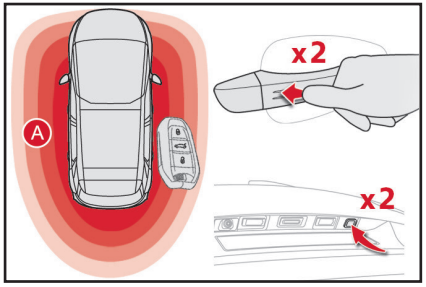
盗難防止のために、仮にガラスを壊すなどしても内側からドアロックが解除できなくなる機能です。

リモコンを使用する



施錠ボタンを押して、すべてのドアおよびテールゲートを施錠します。5 秒以内に再度施錠ボタンを押します。

スマートキー機能を使用する



車両周辺の検知エリア **A** にスマートキーがあるときに、ドアハンドルのスイッチまたはテールゲートのスイッチを押します。5 秒以内に再度スイッチを押します。

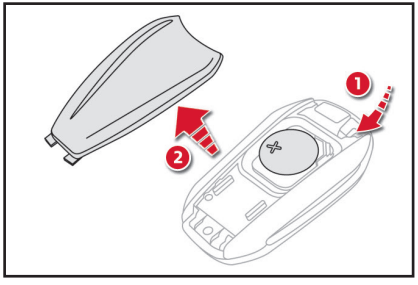
MEMO

スーパードアロックをすると、ハザードランプが数秒間点灯します。

⚠警 告

●車内に人がいるときは、スーパードアロックをかけないでください。車内からドアロックが解除できず、閉じ込められてしまいます。
●お子さまだけを車内に残して車を離れないでください。思わぬ事故やケガのもととなります。

●電池（CR2032 3V）の交換

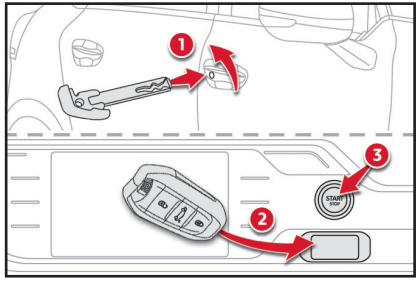


リモコンの電池が消耗するとメッセージが表示されます。
すき間に先が細い工具を差し込んでケースを開け、電池を交換してください。

⚠警告

- ●電池交換の際には、お子さまが誤って飲み込むなどしないよう注意してください。
- ●リモコンの電波が心臓ペースメーカーなど医療用機器に影響をおよぼすおそれがあります。事前に医療用機器メーカーなどに確認してください。

●リモコンの初期化



車両バッテリーの接続をはずした後やリモコンの電池を交換した後、またはリモコンが作動しなくなった場合は、以下の手順で初期化をしてください。

1. 運転席ドアの鍵穴に緊急用キーを差し込んで解錠します。
2. スロットにスマートキーを挿入します。
3. START/STOP スイッチを押してイグニッションをオンにします。

初期化の手順を行ってもリモコンが作動しないなど、不具合が解消しない場合は、シトロエン指定サービス工場へご連絡ください。

MEMO

- ●キーナンバーのついたタグを保管しておいてください。キーを紛失して、新しいキーを作成する際にこの番号が必要となります。
- ●車を離れる際、ポケットの中などでリモコンのボタンを誤って押さないようご注意ください。気がつかないうちに車のロックが解除されてしまうおそれがあります。また、車から離れたところで何度もボタンを押すと、認識されなくなることがあります。その際は初期化をしてください。
- ●交換用電池はシトロエン指定サービス工場でお求めいただけます。
- ●環境汚染防止のため、使用済みの電池は正しく廃棄してください。

イモビライザー（盗難防止システム）

シトロエン C4 Picasso には、エンジンイモビライザー（盗難防止装置）が装備されています。
これはイグニッションキーの内部に車を識別する装置が内蔵されており、車側とのコードが合致しないときは、エンジンの始動ができないようにするものです。

注 意

●エンジンイモビライザーの改造をしないでください。故障の原因になるおそれがあります。
●キーの内部には電子装置が組み込まれています。強い電磁波や高温にさらしたり、強い衝撃を与えたり、水に濡らしたりしないでください。故障の原因となります。

●イモビライザーコード

車とともにお渡しするスマートキーの内部（プラスチック部分）には、車を識別する電子装置が内蔵されています。
それぞれのキーは、車ごとに個別のコードが登録されています。イグニッションをオンにすると、車のイモビライザーシステムがこのコードを読みとって、エンジンの始動を可能にします。
もしコードが設定されていなかったり異なるコードのときは、エンジンを始動することはできません。
イグニッションをオフにすると、システムは直ちにエンジンをロックします。

SERVICE システムに異常が発生したときは、イグニッションをオンにするとメッセージが表示されます。エンジンは始動しません。
シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。

●スペアキー

お車とともにお渡しするスペアキーにもコードが登録されています。
もし予備のキーが必要なとき、あるいはキーを取り替えるときには、すべてのキーを登録し直す必要があります。お手持ちのすべてのキーをシトロエン指定サービス工場にご持参の上、登録作業をお申し付けください。

注 意

万一、スマートキーを紛失したり盗難にあった場合は、安全のために他のキーを登録し直して失ったキーを無効にする（エンジンをかけられなくする）ことをお勧めします。お近くのシトロエン指定サービス工場にご相談ください。

MEMO

新しいスマートキーを購入しても、イモビライザーシステムにコードを登録しないかぎり、そのキーでエンジンを始動することはできません。

ドア／ドアロック

●車内からドアを開ける

内側ドアハンドルを引くと、すべてのロックが解除されます。

MEMO

スーパードアロックされているときは内側ドアハンドルでは一切ドアを開けることができません。

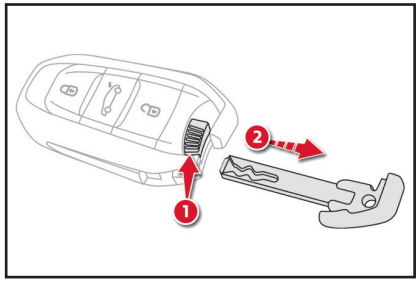
●車外からドアを開ける

2-2 ページの「スマートキー」項を参照してください。

●半ドア警告

ドアを完全に閉めずにエンジンを始動させると、メッセージが数秒間表示されます。そのまま走行すると、時速 10km 以上では警告音とともにメッセージが数秒間表示されます。

●緊急用キー



以下のようにスマートキーの機能が使用できないときは、運転席ドアの鍵穴に緊急用キーを差し込んで施錠／解錠します。

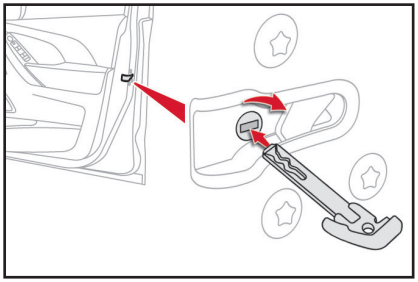
・ バッテリーが上がっているとき
・ バッテリーの接続をはずしているとき
・ スマートキーの電池がないとき
・ 車両が強い電磁波などを受けているとき

1. スマートキーのレバー①を押して、緊急用キー②を取り出します。
2. ドアの鍵穴に緊急用キーを差し込んで、車両を施錠または解錠します。

MEMO

緊急用キーを使用した後は、スマートキーに戻してください。

●マニュアルロック（非常時）



バッテリー上がりなどで、集中ドアロックが作動しないときには次の方法でドアをロックすることができます。

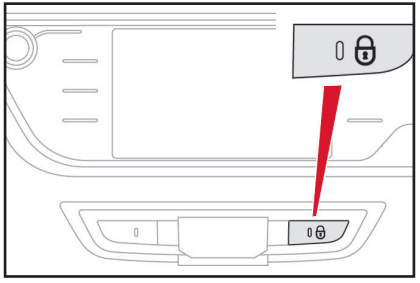
フロントドア

緊急用キーをドアの鍵穴に差し込み施錠または解錠します。

リアドア

1. チャイルドセーフティ機構が働いていないことを確認します。
2. 緊急用キーを穴に差し込み、溝が水平になるように外側に回してからドアを閉めます。

●ドアロック／オートドアロック



ロックボタンを押すと、車両の施錠ができます。
施錠するとインジケーターが点滅します。
ドアのいずれかが開いている場合には集中ロックはできません。
解錠するときはボタンを再度押してください。

MEMO

外側から施錠されている場合、またはスーパードアロックがかかっている場合は、ロックボタンを押しても解錠しません。
外側から施錠されている場合は、内側ドアハンドルを引いて解錠してください。スーパードアロックがかかっている場合は、リモコンもしくはスマートキー機能を使って解錠してください。

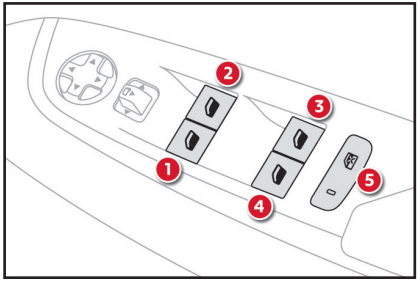
●オートドアロック機能

時速 10km 以上で走行すると、自動的に施錠されます。
完全に閉まっていないドアまたはテールゲートがあると、オートドアロックは作動しません。
この機能をオンまたはオフにするときは、メッセージが表示されるまでロックボタンを押し続けます。

⚠警 告

オートドアロックされている状態では、非常時に救助活動のため外部からドアを開けることが困難となる場合があります。

パワーウィンドウ



①：助手席側ウィンドウ開閉スイッチ
②：運転席側ウィンドウ開閉スイッチ
③：後席右側ウィンドウ開閉スイッチ
④：後席左側ウィンドウ開閉スイッチ
⑤：チャイルドセーフティスイッチ

●マニュアルウィンドウ開閉

スイッチを軽く押したり引いている間だけウィンドウが開閉します。スイッチから手を離すと同時にウィンドウも停止します。

●ワンタッチ開閉

スイッチを１回強く押すか引くと、スイッチから手を離しても、ウィンドウは自動的に全開閉します。

途中で止めるときは、再度スイッチを押すか引きます。

MEMO

- イグニッションをオフにしてから約45秒間、パワーウィンドウの操作ができます。それ以降は、再度イグニッションをオンにしてから操作をしてください。
- 運転席側のスイッチで運転席以外のパワーウィンドウの操作ができないときは、開閉したいウィンドウにあるスイッチを操作してください。

●挟み込み防止機能

パワーウィンドウには、挟み込み防止機能が付いており、障害物があると上昇をやめて数センチ下降します。
冬期など氷結のために挟み込み防止機能が働いてしまい、ウィンドウを閉じることができないときは、以下のようにしてください。

1. 一度完全にウィンドウを下げます。
2. 直ちにウィンドウが完全に閉まるまでスイッチを引き続けてください。
3. ウィンドウが完全に閉まった後、約１秒間、スイッチを引き続けます。

パワーウィンドウ挟み込み防止機能が機能しなくなったら、直ちにシトロエン指定サービス工場へご連絡ください。

●パワーウィンドウの再初期化

バッテリーをはずした後など正常に動作しないときは、以下の手順で初期化をしてください。

1. スイッチを押してウィンドウを全開にします。
2. ウィンドウを閉じる操作をします。（1 回の操作で 2 ～ 3cm 程度しか動きません）
3. ウィンドウが全閉するまで手順 2 の操作を繰り返します。
4. ウィンドウが全閉したら、さらにスイッチを 2 秒以上引き続けてください。

⚠警 告

●運転者が運転席以外のウィンドウを操作する場合は、ウィンドウを閉めるのに障害物がないか確認をしてください。
●ウィンドウを閉めているとき、誤って障害物などが接触したときは、ただちにウィンドウを開けてください。
●乗員がウィンドウを閉める際には運転者がその操作に対して注意を払ってください。
●お子さまにはウィンドウの操作をさせないでください。
●車から離れるときは、短い時間であってもエンジンを停止してキーを携帯してください。

⚠注 意

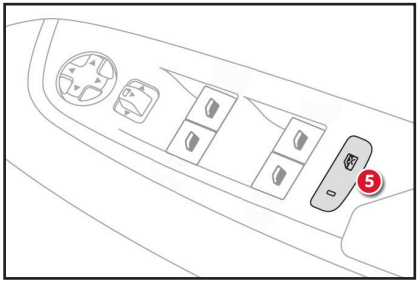
初期化中は挟み込み防止機能は働きません。安全に配慮してください。

注 意

洗車場などで高圧洗浄する場合、洗浄ノズルを少なくとも 50cm 以上ウィンドウやドアシールから離してご使用ください。

チャイルドセーフティ

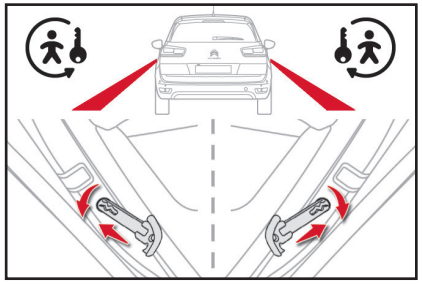
●チャイルドセーフティスイッチ



チャイルドセーフティスイッチ⑤を押すと、後席のパワーウィンドウスイッチによる操作ができなくなります。お子さまの危険防止に有効です。
運転席のパワーウィンドウスイッチによる操作はいつでも可能です。

イグニッションがオンのときにチャイルドセーフティスイッチを押すと、インジケーターが点灯し、チャイルドセーフティがオンになります。

●チャイルドロックスイッチ

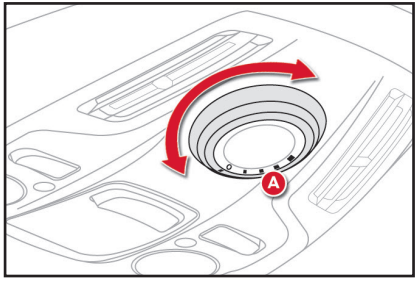


車内のドアハンドルで後席ドアを開けられなくすることができます。お子さまの危険防止に有効です。

ロック
緊急用キーをドア端部にある穴に差し込み、左側のドアは左方向に、右側のドアは右方向に回してからドアを閉めます。

ロック解除
緊急用キーをドア端部にある穴に差し込み、左側のドアは右方向に、右側のドアは左方向に回してからドアを閉めます。

パノラミックガラスルーフ*



パノラミックガラスルーフには、電動式サンブラインドが装備されています。

●サンブラインドを開けるには

スイッチ **A** を回して、サンブラインドの位置を調節します。
サンブラインドの位置は 4 段階に調節できます。

●サンブラインドを閉じるには

スイッチ **A** を **O** の位置にします。

●挟み込み防止機能

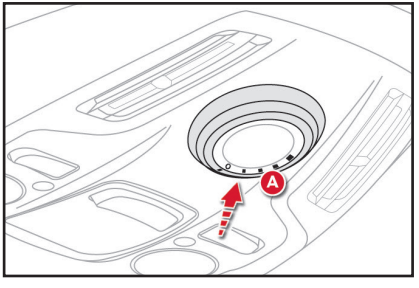
電動式サンブラインドには、挟み込み防止機能が付いており、全閉する前に障害物があるとサンブラインドが止まって少し開きます。

⚠警 告

- ●サンブラインドを操作するときは、障害物がないか確認をしてください。誤って接触したときは、ただちにサンブラインドを開けてください。
- ●同乗者がサンブラインドを操作するときも十分に注意してください。
- ●お子さまにはサンブラインドの操作をさせないでください。

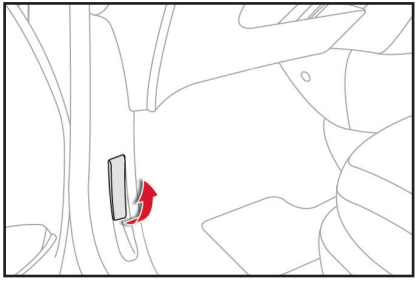
●初期化

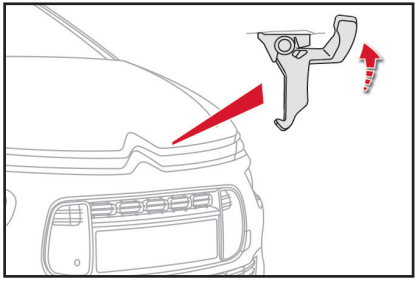
バッテリー交換などの後に、挟み込み防止機能を初期化する必要があります。初期化するには、サンブラインドを全閉位置にし、スイッチ **A** を 2 秒ほど押し続けます。



* 仕様により異なります。

ボンネット





●ボンネットを開けるには

1. 助手席ドアを開き、ドアシル部にあるレバーを引きます。
2. ボンネットの下のロックレバーを斜めに押し上げてから持ち上げます。

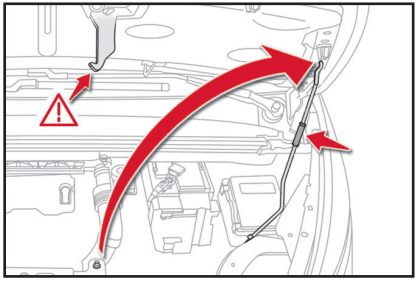
⚠警 告

エンジンルームでのどのような作業を行うときも、あらかじめストップ&スタートの作動を解除しておいてください。エンジンが急に始動して、思わぬケガをするおそれがあります。

⚠注 意

- ●ボンネットを開ける操作は、必ず停車してから行ってください。
- ●強風時はボンネットが風であおられないようご注意ください。

ボンネットを開ける際には、6-4 ページの警告をお読みください。



●ボンネットを固定するには

ボンネットを開き、支柱をキャッチに固定します。
閉めるときには、支柱を元の位置に戻します。

●ボンネットを閉めるには

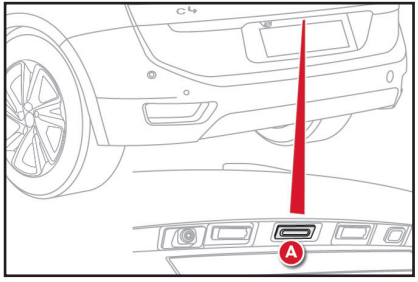
ボンネットを引き下げ、下から 30cm ぐらいの位置で手を離すと、重みで自然に閉まります。
上から押さないでください。

⚠警 告

ボンネットを閉めた後、ロックされたことを確認してください。

テールゲート

●テールゲートの開け方



ドアの施錠・解錠と連動しています。
あらかじめドアロックを解除してから、ボタン A を押して手前に持ち上げます。
ドアロックの解除方法については、2-3 ページを参照してください。

●テールゲート閉め忘れ警告

テールゲートを完全に閉めずにエンジンを始動させると、メッセージが数秒間表示されます。
そのまま走行すると、時速 10km 以上では警告音とともにメッセージが数秒間表示されます。

⚠警 告

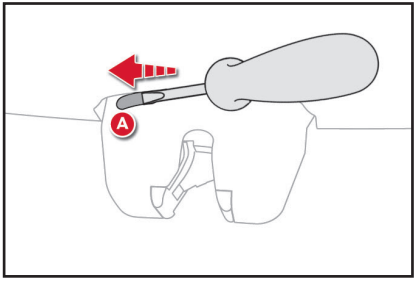
●安全上、操作上、法律上の理由で、テールゲートを開けた状態での走行はしないでください。
●テールゲートを閉めるときには、指などを挟まないよう十分に注意してください。また、開閉の際はまわりの人などにぶつからないことを確認してください。

注 意

ストラットダンパーを引いてテールゲートを閉めないでください。ダンパーが変形して開閉ができなくなるおそれがあります。



●テールゲートが解錠しないとき



テールゲートのロックが解錠できないときは、次のように行います。

1. リアシートを倒し、テールゲートの内側からロック機構にアクセスできるようにします。
2. 小さいドライバーを A に差し込んで中のバーを左に動かして解錠します。

MEMO

水没など予期せぬトラブルで車内に閉じ込められた場合、この方法でテールゲートを開けて脱出できます。ドライバーの代わりにボールペン、ヘアピン、クリップなどの先が細いものが使用できます。

* 仕様により異なります。

エレクトリックテールゲート*

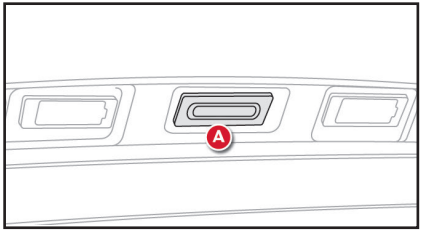
リモコン、スマートキー機能またはテールゲート内側にあるスイッチを使用して、自動でテールゲートを開閉することができます。

●テールゲートを開ける

リモコンを使用する

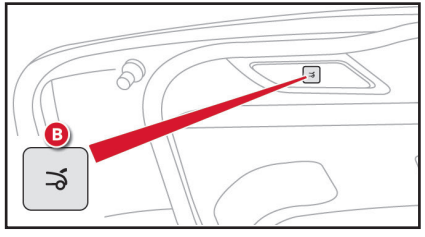
リモコンのテールゲートオープナーボタンを長押しすると、テールゲートのロックが解除され、自動で開きます。

スマートキー機能を使用する



テールゲートのスイッチ A を押すと、テールゲートのロックが解除され、自動で開きます。

●テールゲートを閉じる



テールゲートのスイッチ A またはテールゲート内側にあるスイッチ B を押すと、自動で閉じます。

MEMO

自動開閉作動中に障害物があると、挟み込み防止機能が作動して、テールゲートが止まり、反対側に少し動きます。

●テールゲート閉め忘れ警告

テールゲートを完全に閉めずにエンジンを始動させると、メッセージが数秒間表示されます。
そのまま走行すると、時速 10km 以上では警告音とともにメッセージが数秒間表示されます。

●自動開閉の中断

自動開閉を途中で止めるには、リモコンのテールゲートオープナーボタン、テールゲートのスイッチ A またはテールゲート内側にあるスイッチ B のいずれかを操作します。
自動開閉を再開させるには、いずれかのボタンまたはスイッチを再度操作します。

MEMO

自動閉作動中に中断したエレクトリックテールゲートは、リモコンのテールゲートオープナーボタンでは、自動閉を再開させることはできません。

●ポジションメモリー

エレクトリックテールゲートが止まる角度を、お好みの位置に登録することができます。

登録

1. 手動もしくは自動操作でお好みの位置までテールゲートを動かします。
2. テールゲートのスイッチ **A** またはテールゲート内側にあるスイッチ **B** を 3 秒以上押し続けます。
3. 登録が完了すると、確認音が鳴ります。

解除

1. 手動もしくは自動操作でテールゲートを開き、登録されている位置まで動かします。
2. テールゲートのスイッチ **A** またはテールゲート内側にあるスイッチ **B** を 3 秒以上押し続けます。

● エレクトリックテールゲートの初期化

バッテリーをはずした後など正常に動作しないときは、以下の手順で初期化をしてください。

1. エレクトリックテールゲートが閉じている場合は、手動で開きます。
2. エレクトリックテールゲートを手動で閉じます。

初期化の手順を行ってもエレクトリックテールゲートが作動しないなど、不具合が解消しない場合は、シトロエン指定サービス工場へご連絡ください。

● システムの作動と解除

この機能をオン／オフするには、タッチスクリーンで設定します。

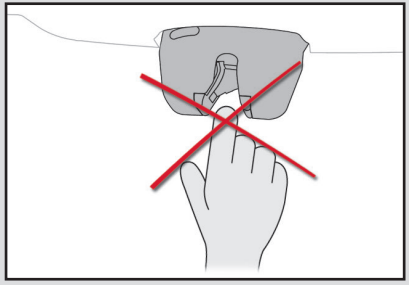
MEMO

初期設定はオンになっています。

⚠警告

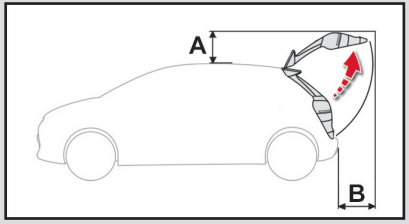
●テールゲートを閉めるときには、指などを挟まないよう十分に注意してください。また、開閉の際はまわりの人などにぶつからないことを確認してください。

●テールゲートのロック機構に指などを入れないでください。重大な事故につながるおそれがあります。



注意

●エレクトリックテールゲートを開閉するときは、車の上方や後方に十分なスペースがあることを確認してください。



5シーター：A=517 mm
B=431 mm
7シーター：A=448 mm
B=573 mm

エレクトリックテールゲートの可動範囲 **A** および **B** はあくまで参考値です。開閉するときは、壁や天井に当たらないように周囲を必ず確認してから操作してください。

●洗車時は必ず施錠してください。ブラシや水圧でスイッチが押され、テールゲートが開いてしまうおそれがあります。

MEMO

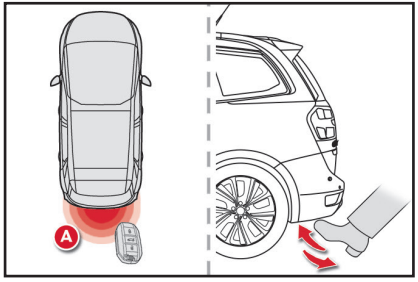
●連続して自動開閉操作を行うと、モーターの加熱により動作が停止することがあります。約 10 分間待ってから再度操作をしてください。

●自動開閉中でも、手動でエレクトリックテールゲートを開閉することができます。自動開閉中のエレクトリックテールゲートの手動開閉は、操作が通常より重くなりますが、異常ではありません。

●エレクトリックテールゲートを操作する前に、車に積もった雪や着氷を取り除いてください。エレクトリックテールゲートが凍結しているときは、車内の空調の熱で氷が溶けたことを確認してから操作してください。

●自転車用リアキャリアを装着しているときは、エレクトリックテールゲートをオフにしてください。

ハンズフリーエレクトリックテールゲート*



両手がふさがっている場合でも、手を使わずにテールゲートを開閉することができます。

●テールゲートを開ける

車両後方の検知エリア **A** にスマートキーがあるときに、リアバンパーの下に足を蹴り出すと、テールゲートのロックが解除され、自動で開きます。

MEMO

- ●テールゲートを開けると、ハザードランプが点滅し、ブザーが鳴ります。
- ●何度試みてもテールゲートが開かない場合は、数秒間待ってから、再度リアバンパーの下に足を蹴り出してください。

●テールゲートを閉じる

車両後方の検知エリア **A** にスマートキーがあるときに、リアバンパーの下に足を蹴り出すと、テールゲートが自動で閉じます。

MEMO

- ●テールゲートを閉じると、ハザードランプが点滅し、ブザーが鳴ります。
- ●ハンズフリーエレクトリックテールゲートを閉じた後に、ドアおよびテールゲートが自動で施錠されるように設定できます。
  設定はタッチスクリーンで行います。

●自動開閉の中断

自動開閉を途中で止めるには、再度リアバンパーの下に足を蹴り出します。
もう一度足を蹴り出すとテールゲートが反対側に動きます。

●システムの作動と解除

この機能のオン／オフを切り替えるときは、タッチスクリーンで行います。

MEMO

初期設定はオンになっています。

* 仕様により異なります。

⚠警 告

●テールゲートを開閉するときには、まわりの人などにぶつからないことを確認してください。特に、開閉中にお子さまがテールゲートに近付く可能性があり、ケガをするおそれがあります。
●走行後の排気管は高温になるため、ハンズフリーエレクトリックテールゲートを使用する場合は、排気管に触れないでください。やけどやケガを負うおそれがあります。
●リアバンパーの下に足を蹴り出す動作を行うときは、地面の状態やまわりを良く確認してください。バランスをくずしたり、転倒してケガをするおそれがあります。

⚠注 意

テールゲートを開閉するときには、リアバンパーから少し離れた位置から操作してください。テールゲートが開閉したときにぶつかってケガをするおそれがあります。

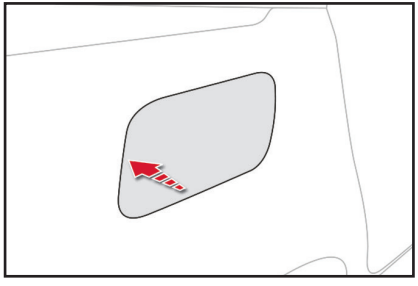
注 意

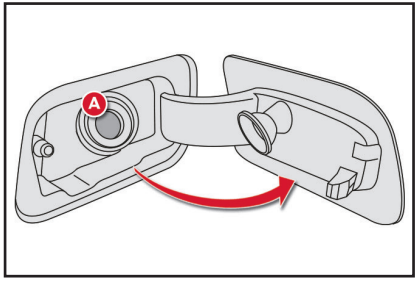
以下のようなときに、テールゲートが不意に開いたり閉じたりすることがあります。スマートキーを車両後方の検知エリアから離すか、ハンズフリーエレクトリックテールゲートを解除してください。
・けん引ボルトをリアバンパーに取り付けるとき
・自転車用リアキャリアを装着したり、キャリアに自転車を積んだり降ろしたりするとき
・車両後方で荷物を積んだり降ろしたりするとき
・スペアタイヤを取り出すなど、ラゲッジルームで作業をするとき
・車両後部を清掃するとき
・自走式の洗車機を使用するとき
・高圧ジェット噴射による洗浄をするとき
・車両の点検や整備をするとき
・動物がリアバンパーの下に侵入したとき

MEMO

●積雪や暴雨のときには、自動的にハンズフリーエレクトリックテールゲートが解除される場合があります。
●近くに強い電波を発する設備があるときや、携帯電話、無線機、パソコンなどの製品と一緒にスマートキーを携帯しているときに、ハンズフリーエレクトリックテールゲートが作動しないことがあります。
●義足でハンズフリーエレクトリックテールゲートを使用した場合、機能が制限されることがあります。

フュエルリッド(給油口)





1. 車の解錠後フュエルリッドフラップの後部を押して開きます。
2. 給油口には、金属製のバルブ **A** が付いています。このバルブに給油ノズルをそのまま差し込みます。
3. ノズルが一番奥まで差し込まれていることを確認し、給油を開始します。給油ノズルのオートストップが 3 回働いたら、それ以上給油口にあふれるまで給油しないでください。燃料タンクの容量は、ガソリン車が約 57 リットル、ディーゼル車が約 55 リットルです。
4. 給油が終わったらノズルを抜いてフュエルリッドを閉めます。

警告音とともにこの警告灯が点灯し、メッセージが表示され、フュエルゲージの最後の目盛りが黄色に点灯したときは、燃料が少なくなっています。警告灯が点灯した場合、残量は約 6 リットルです。
十分な給油が行われるまで、イグニッションをオンにする度に、警告音とともに警告灯が点灯し、メッセージが表示されます。そのまま走行した場合、警告音とメッセージの表示が繰り返し行われます。
早めに燃料を補給してください。
もし燃料をすべて使用してしまった場合、少なくとも 5 リットル以上は給油してください。

⚠警 告

- ●給油中はエンジンを停止してください。
- ●ストップ & スタートの停止モードのまま給油しないでください。必ず、イグニッションをオフにしてエンジンを停止してください。
- ●給油口にあふれるまで給油しないでください。燃料が熱で膨張し、あふれて火災を起こすおそれがあります。

⚠注 意

指定の燃料を使用してください。

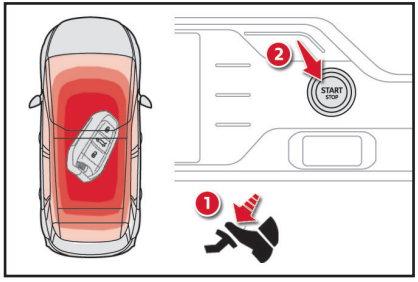
●燃料遮断装置

シトロエン C4 Picasso には、衝突したときに燃料供給を停止させる安全装置が装備されています。

第3章　運転装置の使いかた

エンジンの始動 ····· 3-2
ステアリング／ホーン ····· 3-4
シフトタイミングインジケーター ····· 3-4
6速エフィシェント・オートマチック・
トランスミッション（シフトモードセレクター）····· 3-5
エレクトリックパーキングブレーキ ····· 3-10
ヒルスタートアシスタンス ····· 3-15
ESC（エレクトロニックスタビリティコントロール）··· 3-16
SCR（選択式還元触媒）システム（ディーゼル車）··· 3-18
DPF（ディーゼルパティキュレートフィルター）
（ディーゼル車）····· 3-21
ストップ&スタート ····· 3-22
ブラインドスポットモニター ····· 3-25
レーンキープアシスト ····· 3-28
ドライバーアテンションアラート ····· 3-32
アクティブセーフティブレーキ ····· 3-35
スピードリミットインフォメーション ····· 3-40
アクティブクルーズコントロール ····· 3-44
アクティブクルーズコントロール
（ブレーキサポート付）····· 3-49
クルーズコントロール ····· 3-56
スピードリミッター ····· 3-58
バック／フロントソナー ····· 3-61
バックカメラ ····· 3-63
360° ビジョン ····· 3-64
パークアシスト ····· 3-66

エンジンの始動



スマートキーが車内の検知エリアにあるときに、エンジンを始動および停止することができます。

⚠警 告

●エンジンを始動するときは、必ずパーキングブレーキがかかっていることを確認してください。急発進して人や物を傷つけるおそれがあります。
●換気の悪い場所ではエンジンをかけないでください。
●エンジンがかかっている間は、車から離れないでください。

●エンジンの始動

1. スマートキーを携帯して乗車します。
2. シフトモードセレクターを **P** または **N** の位置にします。
3. パーキングブレーキがかかっていることを確認します。
4. ブレーキペダル①を踏みながら **START/STOP** スイッチ②を押します。
5. スターターが回り、エンジンが始動します。

ディーゼル車は、予熱表示灯が点灯後消灯したらエンジンが始動します。

●エンジンの停止

1. 車を完全に停止します。
   シフトモードセレクターを **P** または **N** の位置にします。
2. **START/STOP** スイッチを押します。
3. エンジンが停止し、ステアリングがロックされます。

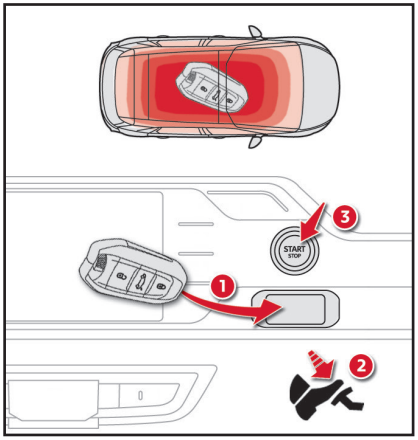
MEMO

●エンジンの始動条件を満たしていない場合は、インストルメントパネルにメッセージが表示されます。
●エンジン始動後は、不必要に長い時間の暖機運転は必要ありません。

●START/STOPスイッチの役割

スイッチの状況	運転者の操作内容	車両の動作内容
アクセサリーポジション	ブレーキペダルを踏まずに、**START/STOP** スイッチを押します。スイッチを押すたびに、イグニッションのオン／オフが切り替わります。	イグニッションがオンとなり、警告灯類が点灯します。しばらくの間、ラジオやパワーウィンドウなどのアクセサリー装備が使用できます。
スタートポジション	ブレーキペダルを踏みながら、**START/STOP** スイッチを押します。	エンジンが始動します。ラジオやパワーウィンドウなどのアクセサリー装備が使用できます。

●エンジンの緊急始動



スマートキーが車内の検知エリアにあるにも関わらず、**START/STOP** スイッチを押してもエンジンが始動しない場合は、以下の手順でエンジンを始動します。

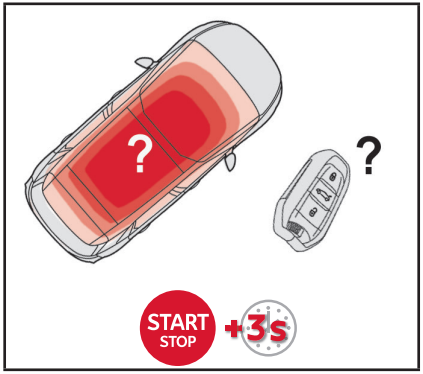
1. スマートキーをスロット①に挿入します。
2. シフトモードセレクターを **P** または **N** の位置にします。
3. パーキングブレーキがかかっていることを確認します。
4. ブレーキペダル②を踏みながら **START/STOP** スイッチ③を押します。
5. スターターが回り、エンジンが始動します。

ディーゼル車は、予熱表示灯が点灯後消灯したらエンジンが始動します。

MEMO

- ●緊急時以外は使用しないでください。
- ●エンジンを始動した後は、スロットからスマートキーを抜くことができます。

●エンジンの緊急停止

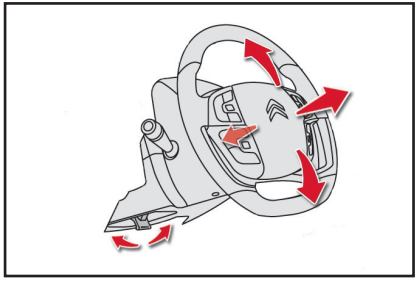


緊急時のためにエンジンを強制的に停止することができます。
スマートキーが車内の検知エリアにないときは、緊急停止の操作を確認するメッセージが表示されます。
START/STOP スイッチを約 3 秒間押し続けます。車両が停止すると同時にステアリングがロックされて動かなくなります。

MEMO

- ●緊急時以外は使用しないでください。
- ●エンジンを再始動するには、スマートキーが必要です。

ステアリング／ホーン



●チルト・テレスコピックステアリング

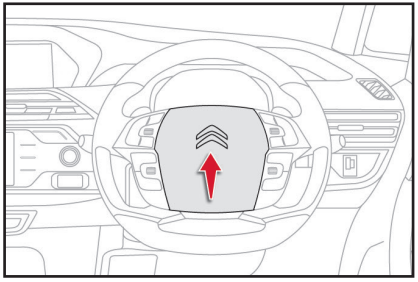
ロックレバーを手前に引くと、ステアリングのロックが解除されます。
ステアリングホイールの高さや奥行きを調整し、ロックレバーを押し下げてロックしてください。ステアリングがしっかり固定されていることを確かめてください。

⚠警 告

ステアリングの調整は、車を停止して行ってください。

⚠注 意

シート位置を調整してからステアリング位置を調整してください。



●ホーン

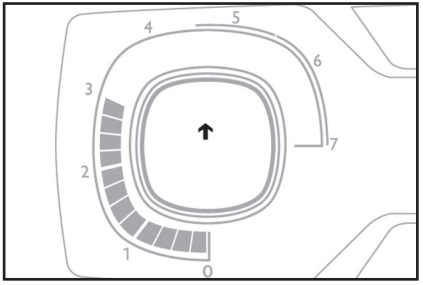
ステアリングの中心部を押してください。

MEMO

ホーンを使用する際には、節度を守り、差し迫った危険を感じるなどの緊急の場合に使用してください。

シフトタイミングインジケーター*

燃費向上のために効率的な変速を促します。



シフトアップを促して燃費向上のアドバイスをします。アクセルペダルを軽く踏んで運転している状況で、システムが燃費向上の観点から現在のギアよりも１段または２段高いギアを使用したほうが良いと判断した場合、インストルメントパネルに矢印のマークが表示されます。

* 仕様により異なります。

⚠警 告

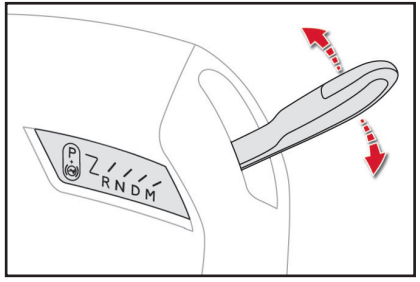
シフトタイミングインジケーターはあくまで燃費向上のための機能です。実際のギアシフトは運転者が周囲の交通量や安全性に応じて判断しておこなってください。誤った変速は事故につながるおそれがあります。

MEMO

- ●シフトモードセレクターが **M** の位置にあるときに作動します。
- ●シフトタイミングインジケーターの機能をオフにすることはできません。
- ●追い越しするときなどアクセルペダルを強く踏み込んだときは表示されません。
- ●シフトタイミングインジケーターは、以下の変速は促しません。
  - ・1 速への変速
  - ・リバースギアへの変速
  - ・シフトダウン
- ●ディーゼル車は、ストップ&スタートの停止モードへ移行するために、シフトモードセレクターを N にするように促す場合があります。

6速エフィシェント・オートマチック・トランスミッション（シフトモードセレクター）

●シフトモードセレクター



P. パーキング：駐車するときに使用します。
エンジンを始動できます。パーキングブレーキを併用してください。
シフトモードセレクターを **P** の位置にするには、レバーを一番上まで上げてから車両前方へ押して、左方向へ動かします。

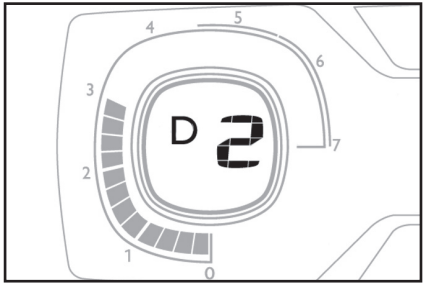
R. リバース：後退します。
エンジンがアイドリング状態で、車が停止しているときにシフトしてください。

N. ニュートラル：エンジンを始動できます。パーキングブレーキを併用してください。

D. オートマチックモード：走行に応じて自動的にギアが切り替わります。

M. マニュアルモード：パドルスイッチを使って、シフトチェンジをします。アクセルペダルを踏み込んだままシフトチェンジすることができます。

●シフトポジション表示



シフトポジションはインストルメントパネルに表示されます。

P: パーキング

R : リバース

N : ニュートラル

D: オートマチックモードのときに表示され、マニュアルモードでは消灯します。

1/2/3/4/5/6 : マニュアルモードで選択されているギア

- : この表示が点灯したときは、オートマチックトランスミッションのプログラム不良です。

●ブレーキ作動促進表示灯

エンジン始動時などに、このような警告が表示されたときは、ブレーキペダルを踏んでください。

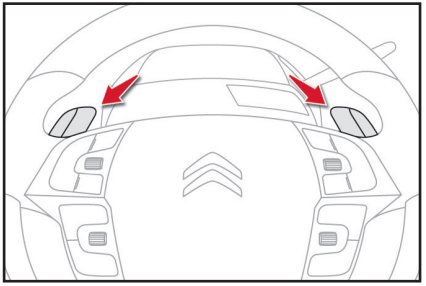
注 意

Nから**R**や**D**、**M**にシフトするときは、エンジン回転がアイドリングまで下がっていることを確認してください。

MEMO

- ●マニュアルモードのシフト操作は、エンジン回転の許容範囲内でのみ行うことができます。その範囲を超えるときは、一時的にオートマチックモードになります。
- ●シフトモードセレクターの位置とインストルメントパネルに表示されるシフトポジションが同じことを確認してください。
- ●オートマチックモード／マニュアルモードの切り替えはいつでも可能です。

●パドルスイッチ



ステアリングの裏側にパドルスイッチがあります。右側（+）のスイッチでシフトアップ、左側（−）のスイッチでシフトダウンします。

MEMO

パドルスイッチを使って、シフトポジションを **N** または **R** に切り替えることはできません。

●発進

1. シフトモードセレクターを **P** または **N** に入れて、ブレーキをしっかりと踏んだままエンジンを始動します。

MEMO

始動時にシフトモードセレクターが **P** に入っていないときは、シフトポジション表示の **P** が点灯し、警告音とともにメッセージが表示されます。

2. ブレーキを踏んだまま、シフトモードセレクターを **M** もしくは **D**（後進する場合は **R**）に入れます。インストルメントパネルに選択したシフトポジションが表示されます。
3. ブレーキペダルを離し、アクセルを軽く踏むとパーキングブレーキが自動的に解除されて、車が動き出します。

●オートマチックモード

D シフトモードセレクターを **D** の位置に入れます。インストルメントパネルに **D** と選択されているギアが表示されます。
オートマチックモードでは、「燃費向上」「運転スタイル」「道路特性」「車両重量」に合わせて最適なギアが自動的に選択されます。

MEMO

追い越しなど最大の加速が必要なときは、アクセルペダルを強く踏み込んでください。

マニュアル操作

オートマチックモードで走行中であっても、急加速をしたいときやエンジンブレーキを使いたいときにパドルスイッチでギアをシフトすると、エンジン回転数の許す範囲において一時的にマニュアルモードになります。
しばらくすると、オートマチックモードへ自動的に切り替わります。

●マニュアルモード

シフトモードセレクターを **M** の位置に入れます。インストルメントパネルに選択されているギアが表示されます。
パドルスイッチでギアを選択してください。

MEMO

- ●停止するまたは低速で走行すると自動的にギアが **1** に選択されます。
- ●選択したギアへのシフトは、速度とエンジン回転数が見合うときにのみ可能です。高いギアを選択していても、速度が低下すると自動的に低いギアに切り替わります。

●クリープ現象

停車中にシフトモードセレクターを **D**、**R** または **M** の位置にすると、アクセルペダルを踏まなくても車がゆっくりと動き出します。

特にエンジン始動直後やエアコン作動時などエンジン回転が高いときには車が動こうとする力が強くなります。そのため、お子さまが乗車しているときは、エンジンを始動したままお子さまだけを残して車を離れないでください。

点検のためにエンジンをかけたまま車外に出るときは、パーキングブレーキをかけてシフトモードセレクターを **P** に入れてください。

●キックダウン

追い越しなどで急加速したいときは、シフトモードセレクターには手を触れずにアクセルペダルをいっぱいに踏みこんでください。

シフトダウンが起こり、エンジン回転が最高に達するまでそのギアを維持し、より短い時間で加速することができます。

ある一定の速度に達すると、自動的にシフトアップします。またブレーキを踏むと、エンジンブレーキを効かせるためにシフトダウンします。ただし、安全のため、急にアクセルペダルを離してもシフトアップはしません。

●エンジンブレーキ

長い下り坂などブレーキを踏み続ける状態では、オートマチックモードでもより効果的にエンジンブレーキを効かせるため自動的に低いギアに切り替わりますが、状況に応じて随時、シフトモードセレクターをマニュアルモードにして低いギアを選択することができます。（たとえば **D** → **3**、**3** → **2**）

ただし、**2** から **1** への切り替えは急激な減速を伴いますので、滑りやすい道路条件（雪道や凍った道路）では十分にご注意ください。

MEMO

渋滞などエンジンをかけたまま停車する場合は、シフトモードセレクターを **N** に入れてパーキングブレーキをかけることにより、燃料消費を抑えることができます。

●トランスミッションの異常

SERVICE 警告音とともにこの警告灯が点灯し、メッセージが表示されたときは、システムはセーフモードに入り**3**（3 速）に固定されて走行します。

P や **N** から **R** にシフトしたときに、大きなショックを伴うことがありますがトランスミッションを損傷することはありません。時速 100km 以下の速度で走行して、シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。

⚠警 告

●走行中は、シフトモードセレクターを **N** の位置に入れないでください。エンジンブレーキが効かなくなり、ブレーキのフェード現象が起きやすくなり事故を起こすおそれがあります。

●車から離れるときは、シフトモードセレクターを **P** の位置に入れてパーキングブレーキをかけてください。クリープ現象で車がひとりでに動いて、人や物に衝突するおそれがあります。停車後、シフトモードセレクターが **P** 以外の位置にあるとドアを開けるかイグニッションをオフにして数秒後に、警告音とともにメッセージが表示されます。

●エンジンがかかっているときは、お子さまを車内に残して車を離れないでください。急発進して人や物を傷つけるおそれがあります。

●車の点検を行う場合は、必ずシフトモードセレクターを **P** に入れてください。

⚠注 意

●エンジンを始動するときは、シフトモードセレクターを **P** の位置に入れ、パーキングブレーキがかかっていることを確認してください。急発進して人や物を傷つけるおそれがあります。

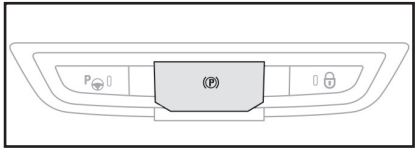
●シフトモードセレクターを **N** から **D**、**M** または **R** に入れるときは、ブレーキペダルをしっかりと踏みながら行ってください。急発進して人や物を傷つけるおそれがあります。

注 意

●車が完全に停止する前にシフトモードセレクターを **P** や **R** に入れないでください。トランスミッションを破損するおそれがあります。

●坂道で停車する場合、アクセルペダルの操作のみで車を停止しないようにしてください。必ずブレーキペダルまたはエレクトリックパーキングブレーキを使用してください。

エレクトリックパーキングブレーキ



エレクトリックパーキングブレーキには、以下の機能があります。

- エンジンが停止したときに自動的にパーキングブレーキをかけ、パーキングブレーキ作動中にアクセルペダルを踏むとパーキングブレーキが自動的に解除されるオートマチックエレクトリックパーキングブレーキ機能
- パーキングブレーキスイッチの操作でパーキングブレーキの作動／解除をいつでも手動で行うことができる手動作動機能

●オートマチックエレクトリックパーキングブレーキの作動

パーキングブレーキをかける

エンジンを停止するとエレクトリックパーキングブレーキが自動的にかかります。

パーキングブレーキがかかると、インストルメントパネルのブレーキ警告灯とパーキングブレーキスイッチのインジケーターが点灯します。

パーキングブレーキを解除する

シフトモードセレクターが **D**、**M** または **R** の位置でアクセルペダルを踏むとエレクトリックパーキングブレーキが自動的に徐々に解除されます。

パーキングブレーキが完全に解除されると、インストルメントパネルのブレーキ警告灯とパーキングブレーキスイッチのインジケーターが消灯します。

●オートマチックエレクトリックパーキングブレーキ機能の解除

気温が低下して路面が凍結するような状況やトレーラー等をけん引するときは、次の方法でオートマチックエレクトリックパーキングブレーキ機能をオフにしてください。

1. エンジンを始動します。
2. パーキングブレーキが解除されている場合は、パーキングブレーキスイッチを手前に引いて、パーキングブレーキをかけます。
3. ブレーキペダルを離します。
4. パーキングブレーキスイッチを 10 秒以上、15 秒以下押し続けます。
5. パーキングブレーキスイッチを離します。
6. ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキスイッチを 2 秒以上引きます。



オートマチックエレクトリックパーキングブレーキ機能を解除すると、インストルメントパネルの警告灯が点灯します。

オートマチックエレクトリックパーキングブレーキ機能を解除すると、自動でパーキングブレーキをかけたり解除することができません。手動で操作してください。オートマチックエレクトリックパーキングブレーキ機能を復帰させるときは、再度機能を解除する操作を行ってください。機能が復帰すると、インストルメントパネルの警告灯が消灯します。

●パーキングブレーキの手動操作

パーキングブレーキをかける

エンジンの作動状態に関わらず、停車中にパーキングブレーキスイッチを手前に引くと、パーキングブレーキがかかります。



パーキングブレーキがかかると、インストルメントパネルのブレーキ警告灯とパーキングブレーキスイッチのインジケーターが点灯します。

パーキングブレーキを解除する

イグニッションがオンのとき、またはエンジン作動中にブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキスイッチを押すと、パーキングブレーキが解除されます。



パーキングブレーキが完全に解除されると、インストルメントパネルのブレーキ警告灯とパーキングブレーキスイッチのインジケーターが消灯します。



ブレーキペダルを踏まずにパーキングブレーキスイッチを押すと、パーキングブレーキは解除されず、メッセージが表示されます。

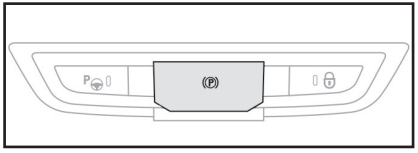
⚠警 告

●エンジンをかけて停車しているときは、誤ってアクセルペダルを踏まないように注意してください。オートマチックエレクトリックパーキングブレーキ機能を作動させている場合、ブレーキが解除され、車が飛び出すおそれがあります。
●駐車して車を離れるときは、ブレーキ警告灯およびパーキングブレーキスイッチのインジケーターが点灯していることを確認してください。
●エレクトリックパーキングブレーキは、お子さまでも簡単に解除できます。イグニッションをオンにしたままの状態で、お子さまを車内に残して車を離れないでください。

MEMO

坂道に駐車するときには、タイヤを路肩に斜めにあててパーキングブレーキをかけてください。

●非常ブレーキ



ブレーキシステム（フットブレーキ）が故障したり、運転者が運転不能な状態に陥ったときなどの緊急時には、パーキングブレーキスイッチを引き続けて車両を停止します。
非常ブレーキ作動中は、ESC が作動して、車の安定性を確保します。

⚠警 告

非常ブレーキの使用は、緊急時のみにとどめてください。



この警告灯が点灯しているときは、ESC システムに異常があり、ESC による車の安定性は確保されません。パーキングブレーキスイッチを繰り返し操作して安定性を確保してください。

●故障表示一覧

⚠警 告

エレクトリックパーキングブレーキ故障警告灯が点灯し、次のいずれかが表示されたときは、車を安全な場所に停車し、直ちにシトロエン指定サービス工場にご連絡ください。

故障表示	影響／対処方法
・パーキングブレーキ故障のメッセージ表示 ・以下が点灯 	・オートマチックでの解除ができません。 ・ブレーキペダルを踏みながら手動操作で解除してください。
・パーキングブレーキ故障のメッセージ表示 ・以下が点灯 	・オートマチックでの十分な作動ができません。 ・オートマチックでの解除ができない場合は、ブレーキペダルを踏みながら手動操作で解除してください。
・パーキングブレーキ故障のメッセージ表示 ・以下が点灯 	・オートマチックでの締結ができません。 ・手動操作で締結を行ってください。 ・オートマチックでの解除もできない場合は、ブレーキペダルを踏みながら手動操作で解除してください。

故障表示	影響／対処方法
・パーキングブレーキ故障のメッセージ表示 ・以下が点灯 	・手動操作による動作ができないときは、レバーの故障が考えられます。 ・エンジン停止時の自動締結およびアクセルを踏んだときの自動解除のみ作動します。
・パーキングブレーキ故障のメッセージ表示 ・以下が点灯 	・パーキングブレーキが作動しません。 ・車を止めておくには、7 秒から 15 秒間、警告灯が点灯するまでパーキングブレーキスイッチを引きます。 ・上記の操作も失敗した場合は、安全な場所に停車して、シフトモードセレクターが P の位置の状態で輪止めをしてください。
・パーキングブレーキ故障のメッセージ表示 ・以下が点灯 	・パーキングブレーキが締結のための十分な力を発生しません。 ・直ちに安全な場所に停車して、シフトモードセレクターが P の位置の状態で輪止めをしてください。 ・イグニッションをオンにしたときにブレーキ警告灯が点滅する場合は、パーキングブレーキが完全にかかっていません。すぐに車を止めてブレーキペダルを踏みながら手動操作でパーキングブレーキを解除してください。
・バッテリー充電機能故障のメッセージ表示 ・以下が点灯 	・バッテリー警告灯が点灯したときは、直ちに安全な場所に停車してください。必要に応じて輪止めをしてください。 ・エンジンを停止する前にエレクトリックパーキングブレーキをかけてください。

ヒルスタートアシスタンス

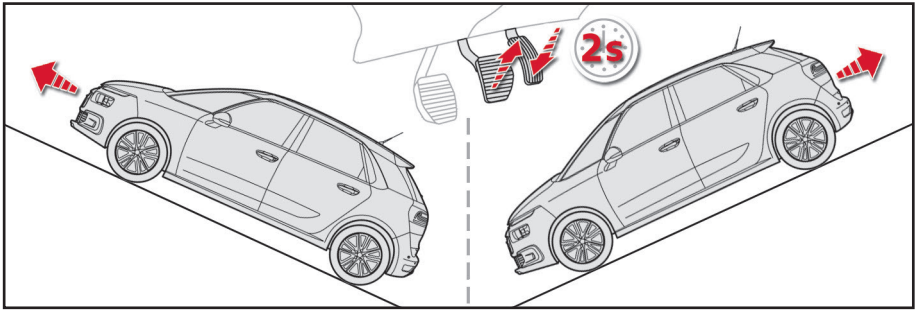
ヒルスタートアシスタンスは坂道発進を補助するための機能で、ブレーキペダルから足を離しても一定時間（ブレーキペダルからアクセルペダルまで足を移動する間）ブレーキがかかった状態を維持します。

この機能は以下の条件がすべてそろったときに作動します。

- 坂道で車が完全に停止してブレーキペダルが踏まれている。
- 運転席ドアが閉まっている。
- 坂道の勾配が適正である。

⚠警 告

ヒルスタートアシスタンス作動中は、車から出ないでください。やむをえずエンジンをかけたまま駐車して車を離れるときは、手動でパーキングブレーキをかけ、インストルメントパネルのブレーキ警告灯とパーキングブレーキスイッチのインジケーターが点灯していることを確認してください。



●登り坂で前方へ発進するとき

シフトモードセレクターが D または M のとき、ブレーキペダルから足を離すと一定時間ブレーキがかかった状態を保ちます。

MEMO

ヒルスタートアシスタンスの機能を解除することはできません。

●下り坂で後方へ発進するとき

シフトモードセレクターが R のとき、ブレーキペダルから足を離すと一定時間ブレーキがかかった状態を保ちます。

●ヒルスタートアシスタンスの故障

SERVICE

ヒルスタートアシスタンスに異常が発生した場合に点灯します。シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。

ESC(エレクトロニックスタビリティコントロール)

ESC は急なハンドル操作や急ブレーキ時および滑りやすい路面の走行時などに、次の機能を総合的に制御して運転を補助し車両の安定性を高めます。

- ABS(アンチロックブレーキシステム)
- EBFD(電子式制動力制御装置)
- EBA(ブレーキアシスト)
- ASR(トラクションコントロール)
- DSC(ダイナミックスタビリティコントロール)

●ABS(アンチロックブレーキシステム)

電子式制動力制御装置(EBFD)を備えた ABS システムは、ホイールがロックしそうになると ABS が作動して、滑りやすい路面での操縦安定性を向上させます。

●EBA(ブレーキアシスト)

ブレーキアシストシステムは、急ブレーキ時のペダルの動きに応じて作動し、ブレーキの効きを最大限に高めて停止距離を短縮する装置です。

●ASR(トラクションコントロール)

路面状況に応じた制御をすることによって、急加速時のホイールスピンを防止して、車の走行安定性を向上させる機能です。

●DSC(ダイナミックスタビリティコントロール)

4 輪のブレーキとエンジン出力を自動的に制御することによって、旋回時の前輪または後輪の横滑りを防止する機能です。

MEMO

- ●イグニッションをオンにしたまま、ホイールやタイヤ交換などの作業を行い、シャフトを回転させると、メモリーに故障情報が入力されて ABS 警告灯が点灯する場合があります。シトロエン指定サービス工場にご相談ください。
- ●ABS や EBA が作動するとブレーキペダルが振動することがありますが、正常な作動であって故障ではありません。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。
- ●凍結した路面や砂地などのオフロードを走行するときは、ASR システムを解除してください。

●システムの異常



警告音とともにこの警告灯が点灯し、メッセージが表示されたときは ABS の機能に異常があります。ブレーキをかけたときに車のコントロールを失う可能性があります。直ちに停車してシトロエン指定サービス工場にご連絡ください。



警告音とともにこの警告灯、ABS 警告灯および STOP 警告灯が点灯し、メッセージが表示されたときはブレーキシステムに異常があります。直ちに停車してシトロエン指定サービス工場にご連絡ください。

⚠警 告

ABS や EBA は、どのような状況下でも制動距離を短くする装置ではありません。
路面の摩擦によっては、かえって制動距離が伸びることがありますので、滑りやすい路面では慎重に運転してください。
この装置は、正しい仕様のタイヤを適正な状態で使用したときに効果を発揮します。

●ASR／DSCシステムの作動

エンジンを始動すると、ASR ／ DSC システムは自動的に作動可能状態になります。車両の走行安定性に問題が生じたときは、システムが作動して車両を制御します。

ASR ／ DSC 警告灯（インストルメントパネル）



ASR ／ DSC システムが作動すると、この警告灯が点滅して運転者に注意を促します。

●ASRシステムの解除

雪道や泥道で動けなくなったときなどに、ある程度ホイールスピンをさせてタイヤの接地力を回復させる必要が発生します。このようなときに、手動で ASR システムの解除ができます。

ASR システムの解除は、タッチスクリーンで設定します。

ASR システムを解除すると、メッセージが表示され、運転者に ASR システムが停止したことを知らせます。

●ASRシステムの復帰

解除したシステムは、次の状態で自動的に復帰します。

- イグニッションをオフにする。
- 時速 50km 以上で走行する。
- 手動で復帰させるときは、タッチスクリーンで設定します。

●ASR／DSCシステムの異常



システムに異常が発生したときは、警告音とともに警告灯が点灯し、メッセージが表示されます。シトロエン指定サービス工場でシステムの点検を受けてください。

⚠警 告

●ASR ／ DSC システムは、通常の運転状況下において安全性を向上させるもので、オーバースピードや危険な運転を補正する装置ではありません。急カーブや滑りやすい路面では、従来と同じく慎重に運転してください。この装置は、タイヤやホイール、ブレーキ部品、電子部品などの仕様が正しく、かつシトロエン指定サービス工場で適正な整備や修理を受けた状態で使用したときに効果を発揮します。事故の後や大きな衝撃を受けたときは、シトロエン指定サービス工場でシステムの点検を受けてください。

●この装置は、正しい仕様のタイヤを適正な状態で使用したときに効果を発揮します。

SCR(選 択 式 還 元 触 媒) システム(ディーゼル車)

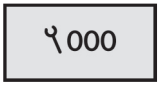
シトロエン C4 Picasso は SCR（選択式還元触媒）システムと DPF（ディーゼルパティキュレートフィルター）を採用しています。
SCR は、AdBlue® を使用することで、排気ガス中の窒素酸化物を低減します。

MEMO

- ●AdBlue® の残量がなくなるとエンジンを始動できなくなります。AdBlue® の補充は早めに行ってください。AdBlue® の補充は、シトロエン指定サービス工場にお申し付けください。
- ●SCR に異常が発生したまま走行を続けるとエンジンを始動できなくなります。シトロエン指定サービス工場でシステムの点検を受けてください。

●走行可能距離の表示

AdBlue® の残量がなくなるとエンジンを始動できなくなります。
イグニッションをオンにすると、エンジンを始動できなくなるまでの走行可能距離を表示します。



走行可能距離は、インストルメントパネルのリセットボタンを押しても表示させることができます。

走行可能距離が 2400km 以上の場合
イグニッションをオンにしてもインストルメントパネルに走行可能距離は表示されません。

MEMO

インストルメントパネルのボタンを押すと走行可能距離を表示させることができます。

走行可能距離が 600km から 2400km の場合



イグニッションをオンにすると、警告音とともに **AdBlue®** 警告灯が点灯し、メッセージが表示されます。

MEMO

AdBlue® の補充をしないと、走行中は、300km 毎にメッセージが表示されます。

走行可能距離が 600km 以内の場合



イグニッションをオンにすると、警告音が鳴り、**AdBlue®** 警告灯が点滅し、**SERVICE** 警告灯が点灯するとともに、メッセージが表示されます。

MEMO

- AdBlue® の補充をしないと、走行中は、30 秒毎にメッセージが表示されます。
- AdBlue® の残量がなくなるとエンジンを始動できなくなります。すみやかにシトロエン指定サービス工場で AdBlue® の補充をしてください。

AdBlue® の残量がなくなった場合



イグニッションをオンにすると、警告音が鳴り、**AdBlue®** 警告灯が点滅し、**SERVICE** 警告灯が点灯するとともに、メッセージが表示されます。

AdBlue® の残量がなくなったため、エンジンを始動できません。直ちにシトロエン指定サービス工場で AdBlue® の補充をしてください。

●SCRシステムの異常

SCR システムに異常が発生したら、次のような警告が表示されます。
警告が続けて表示される場合は、直ちにシトロエン指定サービス工場でシステムの点検を受けてください。
そのまま走行を続けると、約 1100km 走行した後は、エンジンを停止すると、再始動できなくなります。

SCR システムに異常がある場合



SCR システムに異常が発生した場合は、警告音とともに **AdBlue®** 警告灯、**SERVICE** 警告灯および自動診断警告灯が点灯し、メッセージが表示されます。

MEMO

一時的に警告が表示されることがありますが、その後、警告灯が消灯すれば SCR システムの異常は解消されています。
SCR システムの異常が解消されない場合は、エンジンを始動するたびに警告が表示されます。
シトロエン指定サービス工場でシステムの点検を受けてください。

SCR システムの異常により、走行可能距離が 1100km 以内になった場合



SCR システムに異常が発生した後、そのまま約 50km 走行すると、警告音が鳴り、**AdBlue®** 警告灯が点滅し、**SERVICE** 警告灯および自動診断警告灯が点灯するとともに、メッセージが表示されます。
この警告が表示されると、走行可能距離は約 1100km 以内です。
そのまま走行を続けると、約 1100km 走行した後は、エンジンを停止すると、再始動できなくなります。直ちにシトロエン指定サービス工場でシステムの点検を受けてください。

MEMO

SCR システムの異常が解消されない場合は、走行中は、30 秒毎にメッセージが表示されます。
また、エンジンを始動するたびに警告が表示されます。

SCR システムの異常によりエンジンを始動できなくなった場合



イグニッションをオンにすると、警告音が鳴り、**AdBlue®** 警告灯が点滅し、**SERVICE** 警告灯および自動診断警告灯が点灯するとともに、メッセージが表示されます。
SCR システムの異常によりエンジンを始動できません。直ちにシトロエン指定サービス工場でシステムの点検を受けてください。

DPF(ディーゼルパティキュレートフィルター)(ディーゼル車)

DPF (ディーゼルパティキュレートフィルター) は排気ガス中に含まれるススを捕集し、燃焼 (再生) 処理します。
捕集したススが一定量堆積し、警告が表示されると、時速 60km 以上の速度で走行し、堆積したススを燃焼 (再生) 処理することが必要です。

注 意

DPF の故障を防ぐため、次のことをお守りください。
- ススが一定量堆積し、警告が表示されたまま長時間走行しないでください。
- 指定以外の燃料を補給しないでください。
- 指定以外のエンジンオイルを使用しないでください。

●ススの燃焼 (再生) 処理

SERVICE DPF にススが一定量堆積すると、**SERVICE** 警告灯が一時的に点灯し、メッセージが表示されます。
警告が表示されたら、道路状況を見て、すみやかに時速 60km 以上で走行してください。ススの燃焼 (再生) 処理が行われます。
燃焼 (再生) 処理が終了すると、**SERVICE** 警告灯が消灯します。

MEMO

- ●時速 60km 以上の速度でしばらく走行しても **SERVICE** 警告灯が消灯しない場合は、シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。
- ●ご購入いただいてから最初の燃焼(再生) 処理中は、焦げたようなにおいがすることがありますが、異常ではありません。
- ●長時間の低速走行後やアイドリング運転後の発進や加速時に、排気管から白い煙 (水蒸気) が出ることがありますが、異常ではありません。

ストップ&スタート

ストップ＆スタートには交通渋滞や赤信号などで停止しているときにエンジンを止める停止モードと、発進するときにエンジンをかけるスタートモードがあります。
エンジンの始動は瞬時で騒音もなく、都市部での使用において燃費と排出ガスの削減を可能にします。

●停止モードへの移行

以下のときに停止モードに移行します。

・ シフトモードセレクターを **N** の位置にしたりブレーキペダルを踏んで停止したとき

Ⓐ エンジンが停止すると、インストルメントパネルの警告灯が点灯します。

タイマーが停止時間の積算を行います。時間は、イグニッションをオンにするたびにゼロにリセットされます。

⚠警 告

停止モードのまま給油しないでください。必ず **START/STOP** スイッチを押してエンジンを停止してください。

MEMO

●車庫入れなど、**R** からギアを入れ替えたときは、エンジンは数秒間停止モードになりません。
●停止モードによって、ブレーキの効きやパワーステアリングに影響が出ることはありません。

●停止モードにならないとき

以下のときは、エンジンは停止モードになりません。

・ 運転席のドアが開いているとき
・ 運転席のシートベルトが締められていないとき
・ **START/STOP** スイッチを押してエンジンを始動してから時速 10km を超えていないとき
・ エレクトリックパーキングブレーキが作動しているとき、または操作したとき
・ エアコンが曇りとりモードのとき
・ 客室の温度を快適に保つためにエンジンの運転が必要なとき
・ 充電その他エンジンの運転がシステム上必要なとき

Ⓐ インストルメントパネルの警告灯が数秒間点滅して消灯しますが、異常ではありません。

●スタートモードへの移行

以下のときにスタートモードに移行します。

- シフトモードセレクターを D か M にしてブレーキペダルを離したとき
- シフトモードセレクターが N の位置でブレーキペダルを離し、シフトモードセレクターを D か M に入れたとき
- シフトモードセレクターを R に入れたとき

エンジンが始動すると、インストルメントパネルの警告灯が消灯します。

●自動的にスタートモードになるとき

以下のときは、運転者への注意喚起や制動力の確保、バッテリー電圧の維持などのためにエンジンが自動的にスタートモードになります。

- 運転席のドアを開けたとき
- 運転席のシートベルトをはずしたとき
- 時速 3km を超えているとき
- エレクトリックパーキングブレーキが作動しているとき、または操作したとき
- 充電その他エンジンの運転がシステム上必要なとき

インストルメントパネルの警告灯が数秒間点滅して消灯しますが、異常ではありません。

●ストップ&スタートの解除

ストップ&スタートの解除は、タッチスクリーンで設定します。

ストップ & スタートが解除されると、インストルメントパネルの表示灯が点灯します。

注 意

停止モードのときに作動を解除すると、ただちにエンジンが始動します。

●ストップ&スタートの再作動

ストップ&スタートの再作動は、タッチスクリーンで設定します。

ストップ & スタートが作動すると、インストルメントパネルの表示灯が点灯します。

MEMO

START/STOP スイッチを押してエンジンを始動すると、システムは作動状態になります。

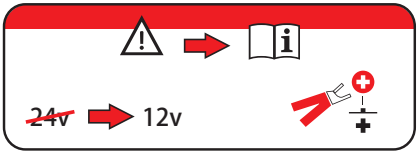
●ストップ&スタートの故障

インストルメントパネルの警告灯が点滅したのち連続点灯したときは、システムに故障が発生しています。シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。
停止モードのときに故障した場合は、警告灯が点灯してエンジンが始動しません。
イグニッションをオフにしてエンジンを始動してください。

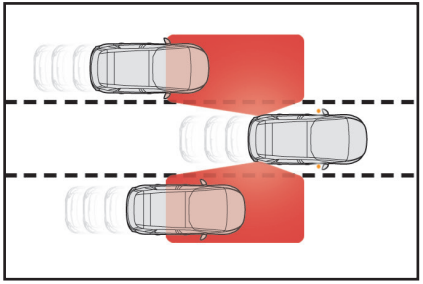
●点検時の注意点

エンジンルームでのどのような作業を行うときも、あらかじめストップ&スタートの作動を解除しておいてください。エンジンが急に始動して、思わぬ怪我をするおそれがあります。

また、このシステムではストップ&スタート専用に設計されたバッテリーを使用しています。不適当なバッテリーの使用はシステムの故障につながります。バッテリーの交換はシトロエン指定サービス工場にご相談ください。



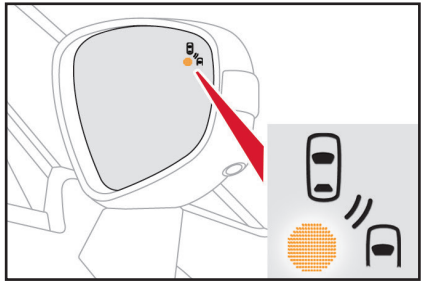
ブラインドスポットモニター



ブラインドスポットモニターは、ドアミラーでの確認が困難な範囲に他車が進入した際に、その存在を検知して運転者に警告するシステムです。

⚠警 告

このシステムは安全確認を補助するための装備であり、ルームミラーやドアミラーの代わりではありません。運転者の責任の元で、道路状況、他車との距離、相対速度を必ず確認し、車線変更などを行ってください。



他車を検知した側のドアミラーに警告灯が点灯します。

- 自車が追い越しをされる場合は、追い越そうとする車がブラインドゾーンに進入した直後に点灯します。
- 自車が追い越しをする場合は、追い越してから約 1 秒後に点灯します。

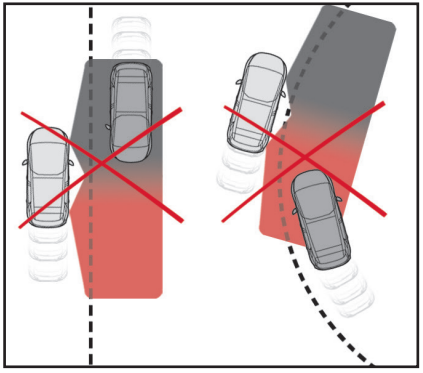
●システムの作動

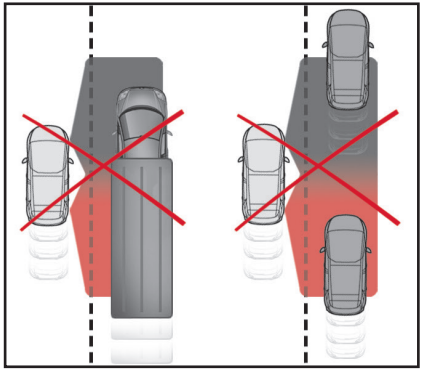
ブラインドスポットモニターの作動は、タッチスクリーンで設定します。

ブラインドスポットモニターが作動すると、インストルメントパネルの表示灯が点灯します。

以下の条件を満たすとき、車両を検知してドアミラーの警告灯が点灯します。

- 自車を含めた周囲すべての車が同じ方向に走行している
- 時速 12km 以上で走行している
- 追い越しをしている場合、他車との速度差が時速 10km 未満
- 追い越される場合、他車との速度差が時速 25km 未満
- 道路状況が混雑していない
- 追い越しをしている場合、追い越し状態が継続していて、かつ追い越された車両が依然としてブラインドゾーンにある
- 直線またはゆるやかなカーブを走行している
- トレーラー等をけん引していない





以下の物や状況の場合、警告灯は点灯しません。

- 静止している物（駐車している車、壁、街灯、道路標識）
- 自車とは逆方向に走行している車
- 曲がりくねった道や角度のきついカーブを走行しているとき
- 大型車を追い越す（または追い越される）とき
  （大型車の先頭部分が運転者の視界にあり、かつ大型車の後方部分がブラインドゾーンにあることを検知したとき）
- 道路状況が混雑しているとき
  （前方の車とブラインドゾーンにある車を同時に検知するため、システムは大型車と判断がつかない）
- 急速に追い越すとき

●システムの解除

ブラインドスポットモニターの解除は、タッチスクリーンで設定します。



ブラインドスポットモニターが解除されると、インストルメントパネルの表示灯が消灯します。

MEMO

- ●イグニッションをオフにしても、システムの作動／解除の設定は保持されます。
- ●シトロエン推奨のけん引装置を使用する場合は、システムが自動的に解除されます。

●システムの故障

システムに異常が発生したときは、表示灯が点滅した後に消灯するとともに、SERVICE 警告灯が点灯し、メッセージが表示されます。シトロエン指定サービス工場でシステムの点検を受けてください。

MEMO

- ●システムは雨や雪などの天候に左右される可能性があります。
- ●濡れた路面を走行しているときに、霧状の水しぶきなどを誤って検知することがあります。
- ●ドアミラーにある警告ゾーン、フロントバンパーおよびリアバンパーにあるセンサーをステッカーなどで覆わないでください。システムの妨げとなり、正常に機能しません。
- ●悪天候や冬期には、泥や氷雪などでセンサーが覆われないように注意してください。

注 意

洗車場などで高圧洗浄する場合、洗浄ノズルを少なくとも 30cm 以上フロントバンパーおよびリアバンパーにあるセンサーから離してご使用ください。

●アクティブブラインドスポットモニター

アクティブブラインドスポットモニターは、方向指示器を作動させて車線変更をし、走行車線の車線マーカーを越えたときにブラインドスポットモニターが他車の存在を検知した場合、他車を検知した側のドアミラーに警告灯が点灯するのに加え、ハンドル操作を自動修正して衝突を避ける支援をします。

アクティブブラインドスポットモニターは、ブラインドスポットモニターおよびレーンキープアシストが作動しているときに作動します。
レーンキープアシストの詳細は「レーンキープアシスト」項を参照してください。

レーンキープアシスト

カメラが走行車線の車線マーカーを検知し、車両が車線を逸脱する可能性があると判断したとき、警告表示とハンドル操作を自動修正して衝突を避ける支援をします。



レーンキープアシストの作動中は、警告灯が点滅します。

MEMO

- ●レーンキープアシストが作動すると、ハンドルが自動的に動いてハンドル操作を修正します。
- ●レーンキープアシストが作動しても、運転者がハンドルをしっかり持ち操作を行うことで、ハンドル操作の自動修正を中断することができます。

●動作条件

レーンキープアシストは以下のすべての条件を満たしているときに作動します。

- ・時速 65km 以上で走行しているとき
- ・道路上に車線マーカーがあるとき
- ・運転者がハンドルを両手でしっかり持っているとき
- ・方向指示器が作動していないとき
- ・ESC システムが正常に作動しているとき

⚠警 告

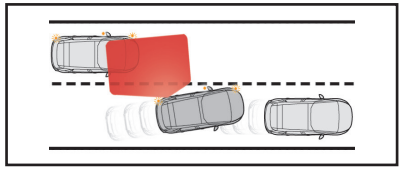
レーンキープアシストは、脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意や雨、霧などの視界不良を補助するものではありません。ハンドルをしっかり持ち、前方に注意し安全運転に努めて走行してください。安全の確保は運転者の義務です。
また、長時間の運転などで疲れているときは適度な休憩をとってください。

MEMO

- ●ハンドル操作の自動修正が行われるとき、運転者がハンドルをしっかり持っていないと判断すると、システムはハンドル操作の自動修正を中断し、警告を表示して運転者に注意を促します。
- ●方向指示器が作動している間と方向指示器の作動停止後の数秒間は、車両が車線を逸脱する可能性があると判断されても、システムは運転者による意図的な車線変更と判断し、ハンドル操作の自動修正を行いません。

MEMO

●アクティブブラインドスポットモニターが他車を検知して、ドアミラーに警告が点灯している間は、方向指示器が作動していても、車両が車線を逸脱する可能性があると判断した場合、システムはハンドル操作の自動修正を行い運転者に注意を促します。



●システムの作動と解除

レーンキープアシストの作動と解除は、タッチスクリーンで設定します。

MEMO

イグニッションをオフにしてもシステムの設定の記憶は残ります。

以下のようなときは、システムが正常に作動しないことがあります。

- 視界が悪いとき（周囲が十分に明るくない、雪、雨、霧など）
- 前方から強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けたとき
- 路面の水たまりの反射光が強いとき
- トンネルの出入り口など、明るさに急な変化があったとき
- カメラの前のフロントウィンドウに泥や雪、汚れなどが付着しているとき
- 車線マーカーが検知しにくいとき（不明瞭、汚れや雪などで隠れている）
- 消された車線マーカーがまだ見えている道路を走行するとき
- 道路のつなぎ目、線状の補修痕などがあるとき
- 前方の車両に近付きすぎたとき
- 細く曲がりくねった道路を走行するとき

●警告表示

インストルメントパネルの表示	意味
	レーンキープアシストは解除されています。
	レーンキープアシストは作動していますが、動作条件を満たしていません。
	トレーラーをけん引している、スペースセーバータイヤを装着しているなどを検知し、レーンキープアシストが自動的に解除された、または作動を中止しました。
	車線マーカーを検知しました。 時速 65km 以上で走行しています。
	・ 車両が車線を逸脱する可能性があると判断し、ハンドル操作の自動修正をしました。 この表示の場合、システムは車両が左側の車線を逸脱する可能性があると判断しています。 ・ ハンドル操作の自動修正中、システムは運転者がハンドルをしっかり持っていないと判断し、ハンドル操作の自動修正を中断しました。警告音とともにメッセージが表示され、運転者が適切なハンドル操作を行うように注意を促します。 ・ ハンドル操作の自動修正中、車両が車線を逸脱したと判断しました。警告音とともにメッセージが表示され、運転者が適切なハンドル操作を行うように注意を促します。

MEMO

インストルメントパネルのディスプレイモードは**ドライブ**に設定してください。

●システムの異常



システムに異常がある場合、警告音とともに警告灯が点灯し、メッセージが表示されます。シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。

●作動が中止される条件

レーンキープアシストは、以下のいずれかの条件に当てはまったときに、作動が中止します。

- ESC システムが解除されたとき
- ESC システムが車両を制御しているとき
- 時速 65km 以下で走行しているとき
- トレーラー等をけん引したとき
- スペースセーバータイヤを装着したとき（運転者の操作により作動を解除してください）
- 急なハンドル操作、アクセル操作、ブレーキ操作を検知したとき
- 道路上に車線マーカーがないとき
- 方向指示器を作動させたとき
- 角度のきついカーブを走行しているとき
- カーブ内側の車線マーカーに近付いたとき
- ハンドル操作の自動修正中に運転者の対処が行われなかったとき

⚠警 告

以下のようなときは、レーンキープアシストを解除してください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 路面状態の良くない道路を走行しているとき
- 滑りやすい路面を走行しているとき
- 不安定な路面を走行しているとき
- 悪天候のとき
- サーキットなどを走行しているとき
- 点検などで車両をローラーに乗せて走行しているとき
- トレーラー等をけん引しているとき

MEMO

フロントウィンドウに泥や雪などが付着するとカメラが正常に作動しません。常に汚れを落としてください。

ドライバーアテンション アラート

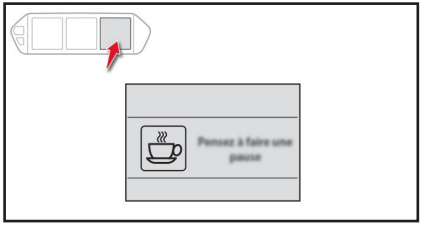
ドライバーアテンションアラートには以下の2つの機能が備わっています。

・ 連続運転警告
・ 疲労検知システム *

⚠警 告

ドライバーアテンションアラートは、運転時間やハンドル操作から運転者の疲労増加や注意力の低下を検知し、運転者へ休憩をとるように促すシステムです。疲労時の運転を補助するものではありません。システムを過信せず、十分に休憩をとり、安全運転に努めて適切なハンドル操作をしてください。

●連続運転警告



連続運転警告は、運転者が休憩をとらずに時速 65km 以上で 2 時間以上走行したとシステムが検知したとき、警告音とともにメッセージを表示し、運転者に休憩をとるように促します。

MEMO

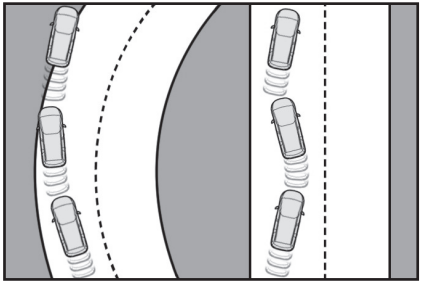
時速 65km 以下で走行しているときは走行時間として積算されません。

連続運転警告は、次のような対処が行われるまで、1 時間おきに警告を表示します。

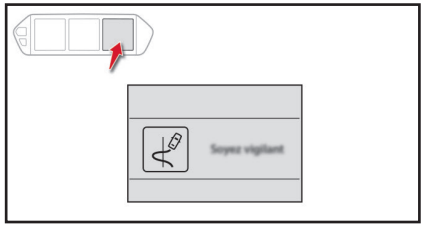
・ エンジンがかかっている状態で、15 分以上停止した
・ イグニッションをオフにして数分間経過した
・ 運転席のシートベルトをはずしてドアを開けた

* 仕様により異なります。

●疲労検知システム*



疲労検知システムは、フロントウィンドウ上部のカメラで走行車線の車線マーカーを検知し、車両のふらつきから運転者の疲労増加や注意力の低下を判断し、警告音とともにメッセージを表示して運転者に休憩をとるように促します。
高速道路や自動車専用道路など、時速65km 以上で走行しているときの使用が効果的です。



疲労検知システムが車両のふらつきを検知すると、警告音とともにメッセージを表示します。
走行状態が改善されない場合、4 回目の警告からは異なる警告音とともにメッセージが表示されます。

MEMO

路面の状態が悪い道路の走行中や、強い風が吹いているときなどは、運転者の疲労の増加や注意力の低下の程度に関わらず、警告を表示することがあります。

●システムの作動と解除

ドライバーアテンションアラートの作動と解除は、タッチスクリーンで設定します。

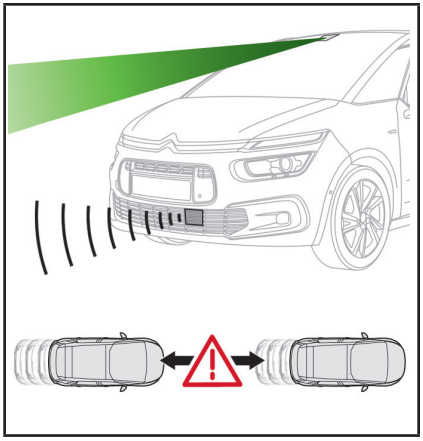
以下のようなときは、システムが正常に作動しないことがあります。

- 視界が悪いとき（周囲が十分に明るくない、雪、雨、霧など）
- 前方から強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けたとき
- 路面の水たまりの反射光が強いとき
- トンネルの出入り口など、明るさに急な変化があったとき
- カメラの前のフロントウィンドウに泥や雪、汚れなどが付着しているとき
- 車線マーカーが検知しにくいとき（不明瞭、汚れや雪などで隠れている）
- 消された車線マーカーがまだ見えている道路を走行するとき
- 道路のつなぎ目、線状の補修痕などがあるとき
- 前方の車両に近付きすぎたとき
- 細く曲がりくねった道路を走行するとき

MEMO

フロントウィンドウに泥や雪などが付着するとカメラが正常に作動しません。常に汚れを落としてください。

アクティブセーフティブレーキ



アクティブセーフティブレーキは、フロントウィンドウのカメラとフロントバンパーのレーダーにより同じ方向に走行している前方の車両や停車中の車両、歩行者を検知します。

アクティブセーフティブレーキには以下の 3 つの機能が備わっています。
- ディスタンスアラート
- エマージェンシーブレーキ
- インテリジェントエマージェンシーブレーキアシスト

システムは時速 7km 以上で走行中に作動します。時速 5km 以下では作動しません。

アクティブセーフティブレーキは、以下のようなときは、前方の車両や歩行者を検知しないことがあります。
- 視界が悪いとき（周囲が十分に明るくない、雪、雨、霧など）
- 前方から強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けたとき
- 路面の水たまりの反射光が強いとき
- トンネルの出入り口など、明るさに急な変化があったとき
- カメラの前のフロントウィンドウに泥や雪、汚れなどが付着しているとき

⚠警 告

●アクティブセーフティブレーキは、どのような状況下でも衝突を回避できるシステムではありません。システムを過信せず、安全運転に努めて適切な車間距離を保って走行してください。安全の確保は運転者の義務です。

●ブレーキの作動をアクティブセーフティブレーキのみに頼らないでください。衝突事故を起こすことがあります。常に車間距離に注意して走行し、運転者の判断でブレーキを踏むなどの適切な操作をしてください。

MEMO

アクティブセーフティブレーキは、以下の車両などは検知しません。
- 対向車線を走行している車両
- 前方を横切って通過する車両
- 自転車、オートバイ、動物
- 路上の落下物

●ディスタンスアラート

前方の車両との車間距離や走行車線に進入した歩行者との距離が設定した警告時間を下回ると警告を表示します。

ディスタンスアラートの警告表示機能



警告レベル 1：設定した警告時間を下回っているときに警告が表示され、メッセージが表示されます。



警告レベル 2：警告レベル 1 の状態が持続し、さらに前方の車両との接近状況から、そのままでは衝突に至ると判断されたときは、警告が表示されるとともに警告音が鳴り、メッセージが表示されます。

MEMO

- ●警告レベル 2 は、車間距離だけではなく自車両および前方の車両の速度差や自車両の運転操作の状態、旋回中かどうかなどの情報を総合して表示されます。
- ●自車両の接近速度が高いとき、警告レベル 1 を経ずに警告レベル 2 が表示されることがあります。

警告時間の設定

警告を開始する時間の設定は、タッチスクリーンで行います。

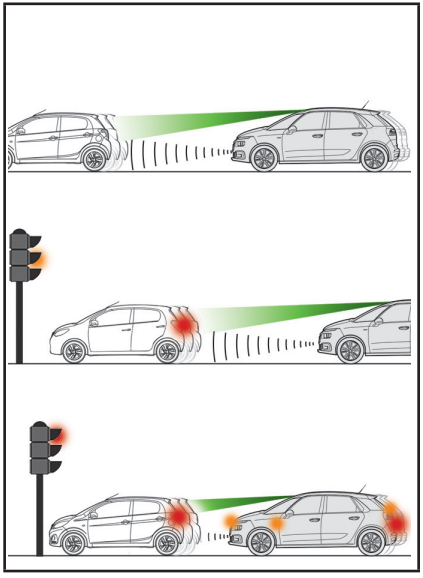
警告時間は以下の 3 種類から選択できます。

- **長**：早めに警告が表示されます。
- **ノーマル**：標準的な警告時間です。
- **車間距離　短**：やや遅れて警告が表示されます。

MEMO

- ●警告時間を**車間距離　短**に設定すると、警告レベル 1 を経ずに警告レベル 2 が表示されます。
- ●イグニッションをオフにしても、警告時間の設定の記憶は残ります。

●エマージェンシーブレーキ



ディスタンスアラートの警告が表示された後も運転者が衝突回避動作を取らなかったとき、自動ブレーキが作動し、衝突回避を支援したり、衝突時の速度を低減します。

エマージェンシーブレーキの作動中は、警告灯が点滅します。

ただし、エマージェンシーブレーキが作動しても、運転者が適切なハンドル操作を行い、しっかりと停止するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

MEMO

- ●次のようなときは、システムによるブレーキの作動が解除されます。
  - ・アクセルペダルを踏み込んだとき
  - ・ハンドルを大きく、または素早くきったとき
- ●運転者がハンドル操作をしているとき、アクセルペダルやブレーキペダルを踏んでいるときは、エマージェンシーブレーキの作動が遅れたり、作動しない場合があります。
- ●エマージェンシーブレーキによる自動ブレーキで車両が停止すると、車両が停止してから約 2 秒後にブレーキが自動的に解除されます。ブレーキペダルを踏んでクリープ現象による車の発進を防止してください。
- ●自動ブレーキの作動中はストップランプが点灯します。

動作条件

エマージェンシーブレーキは以下のときに作動します。

- ・時速 5km 以上で走行中に、走行中の前方車両を検知したとき
- ・時速 80km 以下で走行中に、停車中の前方車両を検知したとき
- ・時速 60km 以下で走行中に、歩行者を検知したとき
- ・ESC システムが正常に作動しているとき
- ・乗員全員がシートベルトを着用しているとき
- ・直線道路を一定の速度で走行しているとき

●インテリジェントエマージェンシーブレーキアシスト

運転者のブレーキ操作が不十分でも、衝突の危険があるときに自動ブレーキが作動します。

MEMO

インテリジェントエマージェンシーブレーキアシストは運転者がブレーキ操作を行ったときにのみ作動します。

●システムの作動と解除

アクティブセーフティブレーキの作動と解除は、タッチスクリーンで設定します。



システムを解除すると、警告灯が点灯します。

MEMO

エンジンを始動すると、システムは作動状態になります。

●システムの異常



システムに異常が発生したときは、警告音とともに警告灯が点灯し、メッセージが表示されます。

警告が表示されたら、カメラの前のフロントウィンドウやフロントバンパーのレーダーに泥や雪、汚れなどが付着していないか確認してください。
警告が消えない場合は、シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。

MEMO

事故の後や大きな衝撃を受けるとシステムが自動的にオフになります。シトロエン指定サービス工場でシステムをオンにしてください。

⚠警告

以下のようなときは、アクティブセーフティブレーキを解除してください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

- トレーラー等をけん引しているとき
- ルーフ上に長い荷物を積んでいるとき
- エンジンを始動したまま自走式の洗車機を使用するとき
- 点検などで車両をローラーに乗せて走行しているとき
- エンジンを始動した状態でけん引されるとき
- スペースセーバータイヤを装着して走行しているとき
- フロントウィンドウのカメラ周辺に衝撃を受けたとき
- フロントバンパーに損傷があるとき
- ストップランプが故障しているとき

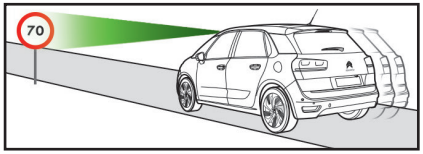
注 意

●フロントウィンドウ上部のカメラ付近をステッカーなどで覆ったり、物を置いてカメラの視界を遮らないでください。
システムの妨げとなり、正常に機能しません。
●ルーフ上に積載した荷物などがカメラの視界を遮らないように注意してください。
●冬期に、ルーフやボンネットに雪が積もっているときは取り除いてください。

MEMO

●フロントウィンドウやフロントバンパーに泥や雪などが付着するとカメラやレーダーが正常に作動しません。常に汚れを落としてください。
●フロントバンパーの塗装や塗装面の修復はシトロエン指定サービス工場にご相談ください。塗料の種類によってはレーダーが正常に作動しなくなることがあります。

スピードリミットインフォメーション



スピードリミットインフォメーションは、カメラが車両の速度規制標識を認識して、インストルメントパネルに制限速度を表示する機能です。
インストルメントパネルに表示された制限速度は、クルーズコントロール*、スピードリミッター、アクティブクルーズコントロール * やアクティブクルーズコントロール（ブレーキサポート付）* の走行速度に設定することができます。

⚠警 告

スピードリミットインフォメーションが正しく作動するために、スピードメーターの速度の単位は必ず km/h 表示を使用してください。誤って mph 表示（マイル）にすると、正確な速度を認識できず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●スピードリミットインフォメーションの作動／解除

スピードリミットインフォメーションの作動／解除は、タッチスクリーンで設定します。

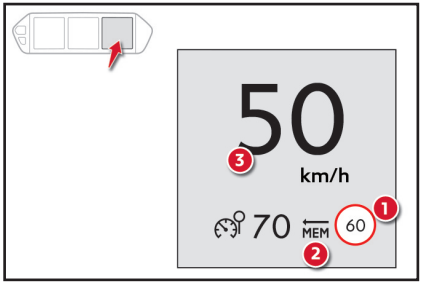
以下のようなときは、システムが正常に作動しないことがあります。
- 視界が悪いとき（周囲が十分に明るくない、雪、雨、霧など）
- フロントウィンドウが汚れている、曇っている、雪が積もっている、ステッカーを貼っている、カメラ部分が覆われているとき
- カメラが故障したとき
- 速度規制標識が車、立木、汚れなどによって見えにくいとき
- 速度規制標識が損傷するなどしていて見えにくいとき

以下のような個別の状況に応じて規制された速度制限は認識されません。
- 悪天候（雨、雪、霧など）
- 大気汚染
- トレーラー等のけん引
- スペースセーバータイヤやスノーチェーンを装着しての走行
- パンク修理キットで応急修理をしたタイヤでの走行

* 仕様により異なります。

●インストルメントパネルの表示

スピードリミットインフォメーションの情報は、インストルメントパネル内のディスプレイに表示されます。



①：速度規制標識の制限速度表示



制限速度を示します



速度規制区間が終了したことを示します

②：速度設定可能表示
③：現在のスピード表示

●制限速度の表示



スピードリミットインフォメーションは作動していますが、認識した速度規制標識はありません。



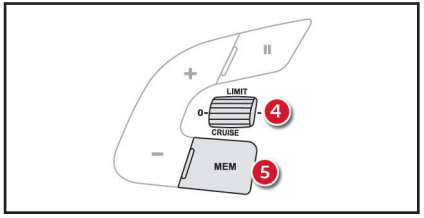
表示された制限速度が設定速度として記憶されました。



スピードリミットインフォメーションが速度規制標識を認識し、制限速度を表示しました。

●速度の設定

インストルメントパネルに表示された制限速度をクルーズコントロール *、スピードリミッター、アクティブクルーズコントロール * やアクティブクルーズコントロール（ブレーキサポート付）* の走行速度に設定することができます。



1. 速度を設定したい機能に合わせ、ステアリングのスピードリミッター／クルーズコントロール切り替えスイッチ④を回します。



2. スピードリミットインフォメーションが速度規制標識を認識し、制限速度を表示したら、**MEM** が点滅します。



3. ステアリングのスイッチ⑤を押して、表示された制限速度を設定速度として受け付けます。



4. 再度ステアリングのスイッチ⑤を押して設定速度を記憶します。

MEMO

認識された速度制限と現在の設定速度の差が 10km 以下のときは、**MEM** は表示されません。

* 仕様により異なります。

⚠警告

●スピードリミットインフォメーションは、法定速度を守った走行や、安全運転を支援する機能です。システムを過信せず、運転者の責任の元で速度規制標識を確認し、走行速度には十分注意してください。
●速度規制標識の角度や配置、汚れ、気象条件(雨、雪、光など)によっては、カメラが速度規制標識を正しく読み取ることができなかったり、制限速度を表示しない場合があります。

MEMO

泥や雪などが付着するとフロントウィンドウにあるカメラが正常に作動しません。常に汚れを落としてください。

アクティブクルーズコントロール*

アクティブクルーズコントロールは、アクセルペダルを踏まなくてもドライバーによって設定された速度を一定に保って走行し、前方の車両との距離が接近した場合には自動的に速度を落としてあらかじめ設定した車間距離を保つ機能です。設定できる速度は時速 40km 以上です。設定できる車間距離は**車間距離　短**、**標準**、**車間距離　長**の 3 段階です。また、シフトモードセレクターが **D** または **M** で 2 速以上のときに作動します。

注 意

アクティブクルーズコントロールでは、減速はエンジンブレーキのみで行ない、ブレーキの自動操作は行ないません。このため、前方の車両が急速に速度を落としたり、下り坂を走行している場合などに、車間距離が設定した距離よりも短くなることがあります。

●作動が中止される条件

アクティブクルーズコントロールは、以下のいずれかの条件に当てはまったときに、作動が中止します。

- ステアリングのシステムの一時停止／復帰スイッチを押したとき
- ブレーキペダルが踏まれたとき
- ESC が作動したとき
- エレクトリックパーキングブレーキが操作されたとき
- 前方の車両に、設定した距離よりも接近したとき
- 前方の車両の速度が、一定の速度より低下したとき
- 自車両の速度が、設定速度より時速 30km 以上低下したとき

⚠警 告

●速度を変更するときに急加速または急減速することがありますので、十分注意してください。

●交通量が多い道路や滑りやすい路面では、アクティブクルーズコントロールを使用しないでください。思わぬ事故を起こすおそれがあります。

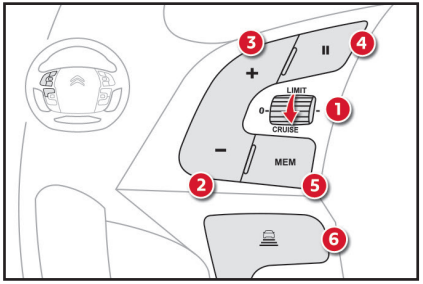
●アクティブクルーズコントロールシステムを作動させている場合においても、常に車間距離に注意して走行してください。前を走行している車両との車間距離を適切に保つのは、運転者の義務です。

●アクティブクルーズコントロールシステムを使用しない場合には、アクティブクルーズコントロール機能をオフにしてください。誤ってシステムが働いてしまうのを防止します。

●道路状況や交通状況に応じた車速を設定してください。誤った速度設定は事故につながる恐れがあります。

* 仕様により異なります。

●コントロールスイッチ



アクティブクルーズコントロールは、ステアリング左側のスイッチを使用して設定します。

①：スピードリミッター／クルーズコントロール切り替えスイッチ
②：速度設定／設定速度の減少
③：速度設定／設定速度の増加
④：システムの一時停止 ／復帰
⑤：スピードリミットインフォメーションの表示速度受付
⑥：車間距離の表示と設定

●インストルメントパネルの表示

クルーズコントロールの情報は、インストルメントパネル内のディスプレイに表示されます。



⑦：クルーズコントロールオン／オフ状況表示
⑧：クルーズコントロールモード選択表示／速度調整状況表示
⑨：設定スピード表示

●アクティブクルーズコントロールとクルーズコントロールの切り替え

アクティブクルーズコントロール機能を使用するには、事前にクルーズコントロールとアクティブクルーズコントロールの切り替えが必要です。
切り替えは、タッチスクリーンで設定します。

●アクティブクルーズコントロールの設定

ステアリングのスピードリミッター／クルーズコントロール切り替えスイッチ①を **CRUISE** 側に回すと、アクティブクルーズコントロール機能が使用可能になりますが、速度は設定されていません。**O** または **LIMIT** の位置に回すとオフになります。

MEMO

車間距離の初期設定は**標準**になっています。

●走行速度の設定

希望する速度（時速 40km 以上）で走行中にスイッチ②か③を押すと、その速度が記憶されて自動的にその速度を維持して走行します。
スピードリミットインフォメーションが認識した速度規制標識の制限速度を、スイッチ⑤の操作で走行速度に設定することができます。詳細は「スピードリミットインフォメーション」項を参照してください。

MEMO

イグニッションをオフにすると、設定された内容が初期化されます。

●設定速度の変更

定速走行中に、スイッチ②を押すと設定速度が減少し、スイッチ③を押すと増加します。短く押すと 1km ／ h ずつ、長く押すと 5km ／ h ずつ速度が変化します。またはアクセルペダルを踏んで加速した後にスイッチ②か③を押すと、あらためてその速度にセットされます。

●車間距離の設定

スイッチ⑥の操作で希望する車間距離を設定します。

1. スイッチ⑥を押して車間距離設定を表示させます。
2. スイッチ⑥を押して車間距離を切り替えます。

設定できる車間距離は、**車間距離　短**、**標準**、**車間距離　長**の 3 段階です。
イグニッションをオフにしたり、スピードリミッター／クルーズコントロール切り替えスイッチを **O** または **LIMIT** に回すとオフになりますが、車間距離の設定の記憶は残ります。

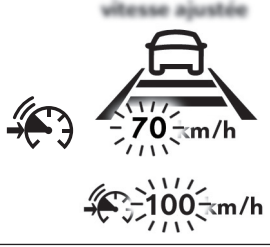
●システムの異常

システムに異常がある場合は、警告音とともにメッセージが表示されます。シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。

MEMO

- ●クルーズコントロールを使用中でも、アクセルペダルを踏んで加速することができます。その際、速度の表示が点滅します。アクセルペダルから足を離すと元の速度で走行します。
- ●急な下り坂など、アクセルペダルを踏まなくても設定の速度を超えてしまう場合にも速度表示が点滅します。
- ●距離を測定しているレーダーはフロントバンパー部にあります。泥や雪などが付着するとレーダーが正常に作動しません。常に汚れを落としてください。
- ●フロントバンパーの塗装や塗装面の修復はシトロエン指定サービス工場にご相談ください。塗料の種類によってはレーダーが正常に作動しなくなることがあります。

●距離と速度調整状況の表示

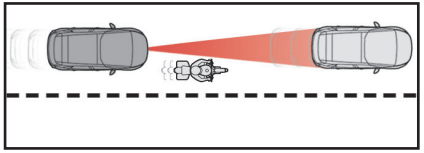
インストルメントパネルの表示	意味
	検知範囲内の前方に車両がいません。通常のクルーズコントロールとして作動しています。
	検知範囲内の前方に車両がいますが、設定した距離以上の車間が空いています。通常のクルーズコントロールとして作動しています。
	設定した距離以内に車両がいます。自動的にエンジンブレーキをかけて設定された車間を保っています。速度が時速 97km になりました。メッセージが表示されます。
	速度の調整範囲（時速 30km まで）を超えました。速度表示が点滅し、アクティブクルーズコントロール機能が中止されることをお知らせします。メッセージが表示されます。
	速度の調整範囲（時速 30km まで）を超えましたが、運転者の反応（車線変更や速度の変更）がないため、アクティブクルーズコントロール機能を中止しています。警告音とメッセージが表示されます。

MEMO

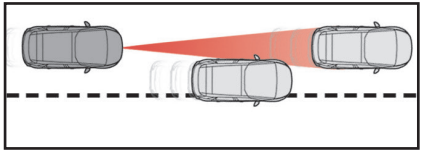
●一度中止されたアクティブクルーズコントロールは、スイッチ②か③を押して新たな速度を設定する、またはスイッチ④を押して元の速度で再開することができます。
●インストルメントパネルの表示モードは**ドライブ**に設定してください。

●レーダーが検知できない状況

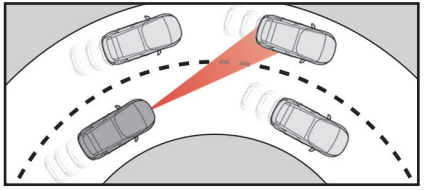
オートバイなどの幅の狭い車両



車線の中央を走行していない車両



車線変更や旋回時



MEMO

アクティブクルーズコントロールでは、
以下の車両は検知しません。
・停止している車両
・対向車線を走行している車両

＊仕様により異なります。

アクティブクルーズコントロール（ブレーキサポート付）*

アクティブクルーズコントロール（ブレーキサポート付）は、アクセルペダルを踏まなくてもドライバーによって設定された速度を一定に保って走行し、前方の車両との距離が接近した場合には自動的に速度を落としてあらかじめ設定した車間距離を保ったり、ブレーキの自動操作を行い車両を停止させる機能です。自動ブレーキの作動中はストップランプが点灯します。

設定できる速度は時速 30km 以上です。設定できる車間距離は**車間距離　短**、**標準**、**車間距離　長**の 3 段階です。また、シフトモードセレクターが **D** または **M** のときに作動します。

●作動が中止される条件

アクティブクルーズコントロールは、以下のいずれかの条件に当てはまったときに、作動が中止します。

- ステアリングのシステムの一時停止／復帰スイッチを押したとき
- ESC システムが作動したとき
- ブレーキペダルが踏まれたとき
- エレクトリックパーキングブレーキが操作されたとき
- シフトモードセレクターを **D** から **N** にしたとき

⚠警 告

●速度を変更するときに急加速または急減速することがありますので、十分注意してください。

●アクティブクルーズコントロールシステムを作動させている場合においても、常に車間距離に注意して走行してください。前を走行している車両との車間距離を適切に保つのは、運転者の義務です。

●アクティブクルーズコントロールシステムを使用しない場合には、アクティブクルーズコントロール機能をオフにしてください。誤ってシステムが働いてしまうのを防止します。

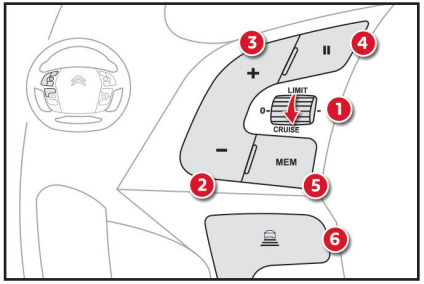
⚠警 告

●以下のようなときは、アクティブクルーズコントロールを解除してください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 市街地
- 交通量が多い道路
- 滑りやすい路面
- 曲がりくねった道路
- 勾配の激しい道路
- 旋回するとき
- ラウンドアバウトに進入するとき
- 細い車両の後方を走行しているとき
- 雪が降っているとき
- フロントバンパーに損傷があるとき
- ストップランプが故障しているとき
- 車両のフロント部にアクセサリーを取り付けたり、塗装をしたとき
- サーキットなどを走行しているとき
- 点検などで車両をローラーに乗せて走行しているとき
- スノーチェーンやスパイクタイヤを装着して走行しているとき
- スペースセーバータイヤを装着して走行しているとき
- トレーラー等をけん引しているとき

●道路状況や交通状況に応じた車速を設定してください。誤った速度設定は事故につながる恐れがあります。

●コントロールスイッチ

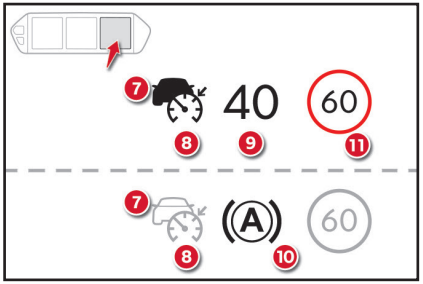


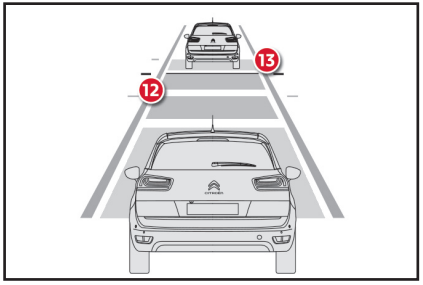
アクティブクルーズコントロールは、ステアリング左側のスイッチを使用して設定します。

①：スピードリミッター／クルーズコントロール切り替えスイッチ
②：速度設定／設定速度の減少
③：速度設定／設定速度の増加
④：システムの一時停止／復帰
⑤：スピードリミットインフォメーションの表示速度受付
⑥：車間距離の表示と設定

●インストルメントパネルの表示

クルーズコントロールの情報は、インストルメントパネル内のディスプレイに表示されます。





⑦：前方車両の有無表示
⑧：クルーズコントロールオン／オフ状況表示
⑨：設定スピード表示
⑩：自動ブレーキによる車両停止時の表示
⑪：速度規制標識の制限速度表示
⑫：車間距離設定表示
⑬：前方車両の位置表示

MEMO

インストルメントパネルの表示モードを**ドライブ**に設定すると、車間距離設定表示⑫と前方車両の位置表示⑬が表示されます。

●アクティブクルーズコントロール（ブレーキサポート付）の設定

ステアリングのスピードリミッター／クルーズコントロール切り替えスイッチ①を **CRUISE** 側に回すと、アクティブクルーズコントロール機能が使用可能になりますが、速度は設定されていません。**O** または **LIMIT** の位置に回すとオフになります。

MEMO

車間距離の初期設定は**標準**になっています。

●走行速度の設定

希望する速度（時速 30km 以上）で走行中にスイッチ②か③を押すと、その速度が記憶されて自動的にその速度を維持して走行します（クルーズコントロールオン／オフ状況表示⑧が緑色に点灯）。スピードリミットインフォメーションが認識した速度規制標識の制限速度を、スイッチ⑤の操作で走行速度に設定することができます。詳細は「スピードリミットインフォメーション」項を参照してください。

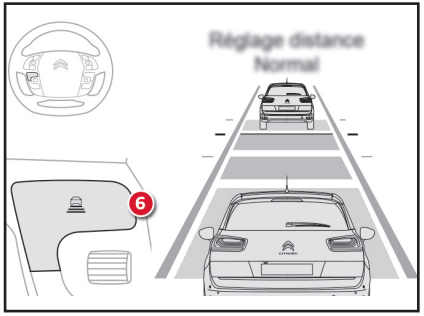
MEMO

イグニッションをオフにすると、設定された速度が初期化されます。

●設定速度の変更

定速走行中に、スイッチ②を押すと設定速度が減少し、スイッチ③を押すと増加します。短く押すと 1km ／ h ずつ、長く押すと 5km ／ h ずつ速度が変化します。またはアクセルペダルを踏んで加速した後にスイッチ②か③を押すと、あらためてその速度にセットされます。

●車間距離の設定



スイッチ⑥の操作で希望する車間距離を設定します。

1. スイッチ⑥を押して車間距離設定を表示させます。
2. スイッチ⑥を押して車間距離を切り替えます。

設定できる車間距離は、**車間距離　短**、**標準**、**車間距離　長**の 3 段階です。
イグニッションをオフにしたり、スピードリミッター／クルーズコントロール切り替えスイッチを **0** または **LIMIT** の位置に回すとオフになりますが、車間距離の設定の記憶は残ります。

●システムの異常

システムに異常がある場合は、警告音とともに警告灯が点灯し、メッセージが表示されます。シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。

MEMO

- ●クルーズコントロールを使用中でも、アクセルペダルを踏んで加速することができます。その際、速度の表示が消灯します。アクセルペダルから足を離すと元の速度で走行します。
- ●距離を測定しているレーダーはフロントバンパー部にあります。泥や雪などが付着するとレーダーが正常に作動しません。常に汚れを落としてください。
- ●フロントバンパーの塗装や塗装面の修復はシトロエン指定サービス工場にご相談ください。塗料の種類によってはレーダーが正常に作動しなくなることがあります。

●距離と速度調整状況の表示

インストルメントパネルの表示	意味
	検知範囲内の前方に車両がいません。 クルーズコントロールは作動していません。 メッセージが表示されます。
	検知範囲内の前方に車両がいますが、設定した距離以上の車間が空いています。 クルーズコントロールは作動していません。 メッセージが表示されます。
	検知範囲内の前方に車両がいません。 通常のクルーズコントロールとして作動しています。 メッセージが表示されます。
	検知範囲内の前方に車両がいますが、設定した距離以上の車間が空いています。 通常のクルーズコントロールとして作動しています。 メッセージが表示されます。
	運転者がアクセルペダルを踏み込んで加速しました。 一時的にアクティブクルーズコントロール機能を中止しています。 メッセージが表示されます。
	状況に応じて、アクセルペダルを踏み込んで加速するか、ブレーキペダルを踏んで速度を落としてください。 警告音とともにメッセージが表示されます。
	前方の車両との車間距離が急激に短くなりました。 そのままでは衝突に至ると判断されたため、ブレーキペダルを踏むなど、すぐに運転者の操作が必要です。 警告音とともにメッセージが表示されます。

インストルメントパネルの表示	意味
(70) または (70) 	車両の走行速度や道路状況が適さないために、アクティブクルーズコントロール機能を作動できません。 メッセージが表示されます。
(A) または (A) 	自動ブレーキにより車両が停止しました。アクティブクルーズコントロール機能を中止しています。 発進するには、アクセルペダルの操作が必要です。 メッセージが表示されます。

⚠警 告

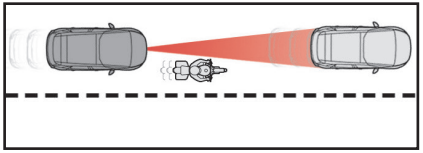
以下のようなときは、ブレーキペダルを踏むなど、すぐに運転者の操作を行ってください。
・前方の車両が急速に速度を落としたとき
・前方の車両と自車両の間に急に別の車両が進入したとき

MEMO

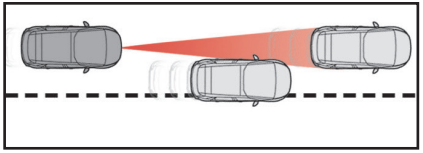
●一度中止されたアクティブクルーズコントロールは、スイッチ②か③を押して新たな速度を設定する、またはスイッチ④を押して元の速度で再開することができます。
●自動ブレーキにより車両が停止した後、運転者による操作がない場合は、数分後に自動的にエレクトリックパーキングブレーキが作動します。
●インストルメントパネルの表示モードは**ドライブ**に設定してください。

●レーダーが検知できない状況

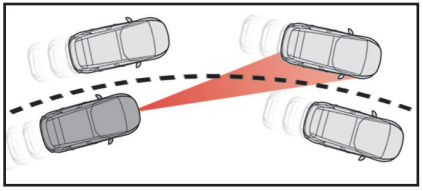
オートバイなどの幅の狭い車両



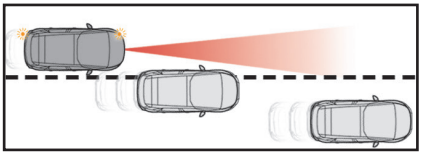
車線の中央を走行していない車両



旋回時



車線変更時

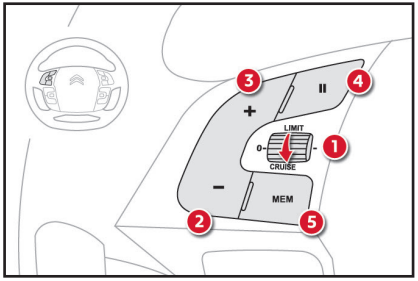


MEMO

●アクティブクルーズコントロールでは、以下の車両や歩行者などは検知しません。
・停止している車両
・対向車線を走行している車両
・前方を横切って通過する車両
・歩行者、自転車、動物

クルーズコントロール*

クルーズコントロールは、ドライバーによって時速 40km 以上で設定された速度（シフトモードセレクター D またはマニュアルモードのときは 2 速以上）を、アクセルペダルを踏まなくても道路の状態にかかわりなく常に一定に保って走行する機能です。



クルーズコントロールは、ステアリング左側のスイッチを使用して設定します。

①：スピードリミッター／クルーズコントロール切り替えスイッチ
②：速度設定／設定速度の減少
③：速度設定／設定速度の増加
④：システムの一時停止／復帰
⑤：スピードリミットインフォメーションの表示速度受付

●表示パネル

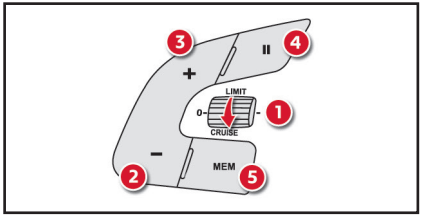


クルーズコントロールの情報は、インストルメントパネル内のディスプレイに表示されます。

⑥：クルーズコントロールオン／オフ状況表示
⑦：クルーズコントロールモード選択表示
⑧：設定スピード表示

* 仕様により異なります。

●クルーズコントロールの設定



ステアリングのスピードリミッター／クルーズコントロール切り替えスイッチ①を CRUISE 側に回すと、クルーズコントロール機能が使用可能になりますが、速度は設定されていません。
0 または LIMIT の位置に回すとオフになります。

●走行速度の設定

希望する速度（時速 40km 以上）で走行中にスイッチ②または③を押すと、その速度が記憶されて自動的にその速度を維持して走行します。
スピードリミットインフォメーションが認識した速度規制標識の制限速度を、スイッチ⑤の操作で走行速度に設定することができます。詳細は「スピードリミットインフォメーション」項を参照してください。

⚠警 告

クルーズコントロールを過信せず、走行速度には十分注意してください。

MEMO

クルーズコントロールを使用中でも、アクセルペダルを踏んで加速することができます。その際、速度の表示が点滅します。アクセルペダルから足を離すと元の速度で走行します。
急な下り坂など、アクセルペダルを踏まなくても設定の速度を超えてしまう場合にも速度表示が点滅します。

●設定速度の変更

定速走行中に、スイッチ②を押すと設定速度が減少し、スイッチ③を押すと増加します。短く押すと 1km ／ h ずつ、長く押すと 5km ／ h ずつ速度が変化します。またはアクセルペダルを踏んで加速した後にスイッチ②か③を押すと、あらためてその速度にセットされます。

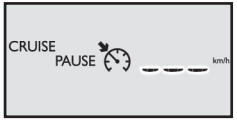
●設定速度の解除

スイッチ④を押すか、ブレーキペダルを踏むと、クルーズコントロールが解除されます。また、最低速度や使用ギアの範囲を超えたとき、ESC が作動したときにも解除されます。
解除後、再度スイッチ④を押すと最後の設定速度に戻ります。

●設定速度の消去

イグニッションをオフにしたり、スピードリミッター／クルーズコントロール切り替えスイッチを 0 にすると設定速度の記憶が消去されます。

●システムの異常



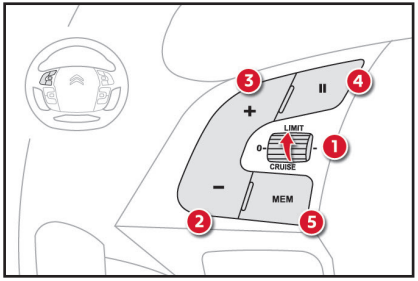
速度表示が消えてーが数秒間点滅しているときは、システムに異常があります。シトロエン指定サービス工場でシステムの点検を受けてください。

⚠警 告

- ●スイッチ②または③を押し続けて速度を変更するとき、急加速または急減速することがありますので十分注意してください。
- ●交通量が多い道路や滑りやすい路面では、クルーズコントロールを使用しないでください。思わぬ事故を起こすおそれがあります。
- ●クルーズコントロールシステムを作動させている場合においても、適切な車間距離を保って走行してください。前を走行している車両との車間距離を適切に保つのは、運転者の義務です。
- ●クルーズコントロールシステムを使用しない場合には、クルーズコントロール機能をオフにしてください。誤ってシステムが働いてしまうのを防止します。
- ●道路状況や交通状況に応じた車速を設定してください。誤った速度設定は事故につながるおそれがあります。

スピードリミッター

スピードリミッターは、あらかじめドライバーが設定した速度（最低時速 30km 以上）を越えて走行しないようにする機能です。設定速度以上にアクセルペダルを踏み込んでも加速しません。



スピードリミッターは、ステアリング左側のスイッチを使用して設定します。

①：スピードリミッター／クルーズコントロール切り替えスイッチ
②：速度設定／設定速度の減少
③：速度設定／設定速度の増加
④：システムの一時停止／復帰
⑤：スピードリミットインフォメーションの表示速度受付

⚠警 告

スピードリミッターを過信せず、走行速度には十分注意してください。

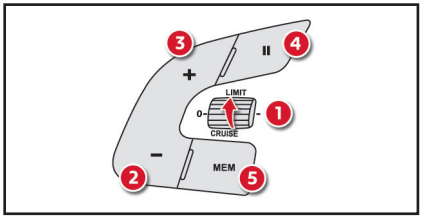
●表示パネル



スピードリミッターの情報は、インストルメントパネル内のディスプレイに表示されます。

⑥：スピードリミッターオン／オフ状況表示
⑦：スピードリミッターモード選択表示
⑧：設定スピード表示

●スピードリミッターの設定



ステアリングのスピードリミッター／クルーズコントロール切り替えスイッチ①を LIMIT 側に回すと、スピードリミッター機能が使用可能になり、設定速度が表示されます。
イグニッションをオフにしたり、スピードリミッター／クルーズコントロール切り替えスイッチを O または CRUISE にするとシステムはオフになりますが、設定速度の記憶は残ります。

●最高速度の設定

ステアリングのスイッチ②か③を押して、希望する速度を設定します。スイッチ②を押すと設定速度が減少し、スイッチ③を押すと増加します。
短く押すと 1km ／ h ずつ、長く押すと 5km ／ h ずつ速度が変化します。
スピードリミットインフォメーションが認識した速度規制標識の制限速度を、スイッチ⑤の操作で走行速度に設定することができます。詳細は「スピードリミットインフォメーション」項を参照してください。

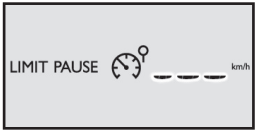
●スピードリミッターの作動

スイッチ④を押すと、スピードリミッターが作動します。アクセルペダルを踏み込んでもその速度以上では走行しません。再度スイッチ④を押すと、解除されます。

MEMO

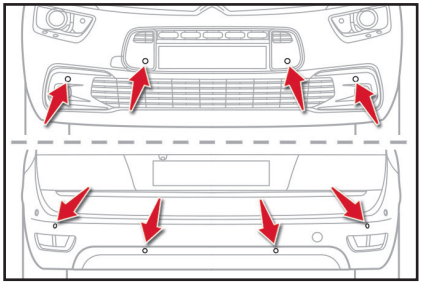
スピードリミッターが作動中でも、アクセルペダルをいっぱいに踏みこむことで一時的に加速することができます。その際、速度の表示が点滅します。急な下り坂など、アクセルペダルを踏まなくても設定速度を超えてしまう場合にも速度の表示が点滅します。

●システムの異常



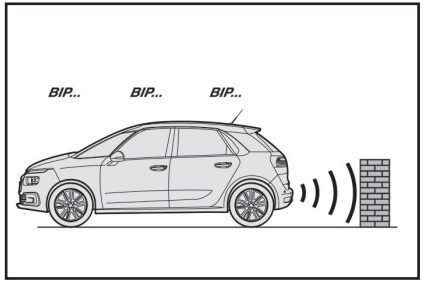
速度表示が消えてーが数秒間点滅しているときは、システムに異常があります。シトロエン指定サービス工場でシステムの点検を受けてください。

バック／フロントソナー



フロント／リアバンパーに埋め込まれたセンサーが障害物（歩行者、車、立木、門など）を検知します。
システムは、以下のときに作動します。
・ エンジン回転中にシフトモードセレクターを **R** に入れる
・ 時速 10km 以下で前進しているとき

システムは、以下のときに解除になります。
・ シフトモードセレクターを **R** 以外に入れる
・ 時速 10km 以上で前進する
・ 前進方向で 3 秒以上停止する





障害物に接近すると警告音の頻度が上がり、およそ **30cm** 以内に接近すると連続した警告音に変わり、危険を表すアイコンが表示されます。

●システムの設定

P OFF

システムの機能をオン／オフするには、タッチスクリーンで設定します。機能がオフのときは、表示灯が点灯します。

●システムの異常

SERVICE

この機能に異常があると、シフトモードセレクターを **R** に入れると警告音とともにメッセージが表示され、警告灯が数秒間点滅し、その後点灯します。
シトロエン指定サービス工場にご連絡ください。

⚠警 告

障害物の形状によってはセンサーが検知できないことがあります。システムを過信せず、目視で障害物の有無を確認してください。

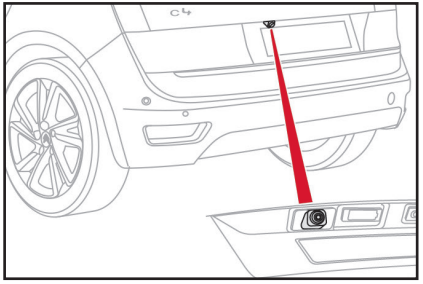
注 意

洗車場などで高圧洗浄する場合、洗浄ノズルを少なくとも 30cm 以上フロントバンパーおよびリアバンパーにあるセンサーから離してご使用ください。

MEMO

- フロント／リアバンパーのセンサーが、泥や雪などで覆われていると障害物の検知ができません。
- フロント／リアバンパーの真下付近は検知しません。
- けん引するときや自転車用リアキャリアを装着しているときは、システムを解除する必要があります。
- 走行中、車、トラック、ドリルなどの騒音によって警告音が鳴ることがあります。

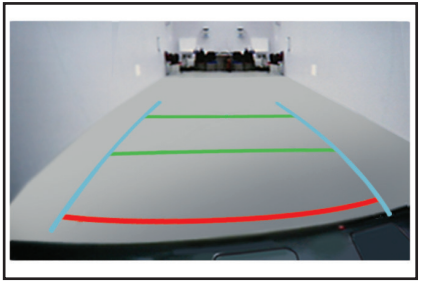
バックカメラ



シフトモードセレクターを R に入れると、テールゲートの番号表示灯横に取り付けられたカメラからの映像がインストルメントパネルに映し出されます。

MEMO

バックカメラは、テールゲートが閉まった状態でご使用ください。



映像には距離や車幅の目安となるラインが表示されます。

- 青いライン：ドアミラーを除いた車幅の目安です。
- 赤いライン：バンパーの後方約 30cm の目安です。
- 緑色のライン：それぞれバンパーから 1m、2m 後方の目安です。

⚠警 告

●バックカメラは運転を補助する機能です。システムを過信せず、安全運転に努めて適切な操作をしてください。安全の確保は運転者の義務です。

●バックカメラの映し出す映像を過信せず、必ず目視での確認も行ってください。

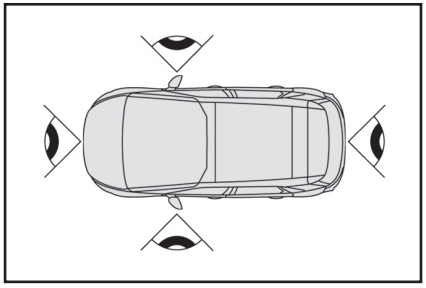
⚠注 意

カメラより上の部分は映し出されません。高さのある障害物などには注意してください。

注 意

洗車場などで高圧洗浄する場合、洗浄ノズルを少なくとも 30cm 以上カメラから離してご使用ください。

360° ビジョン



フロントバンパー、テールゲート、ドアミラーに取り付けられた 4 台のカメラがインストルメントパネルに車両周囲の映像を映し出し、駐車や出庫の際の安全確認を補助します。
システムは時速 15km 以下で走行しているときに作動し、時速 30km 以上で解除されます。

⚠警 告

●360° ビジョンは運転を補助する機能です。システムを過信せず、安全運転に努めて適切な操作をしてください。安全の確保は運転者の義務です。
●360° ビジョンの映し出す映像を過信せず、必ず目視での確認も行ってください。

●システムの作動と解除

システムをオン／オフするには、タッチスクリーンで設定します。

1.  タッチスクリーンのこのボタンをタッチします。
2. **ドライビング機能**をタッチします。
3. **360° ビジョン**をタッチします。
4. 以下のアイコンをタッチして、インストルメントパネルに映し出したい映像を選択または解除します。

 フロントカメラ

 360° カメラ

 リアカメラ

 システムの解除

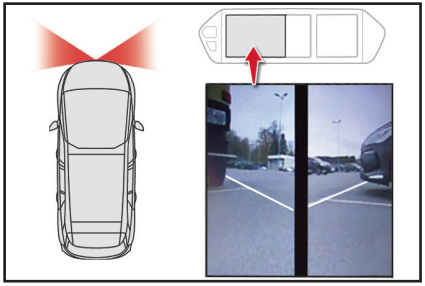
注 意

洗車場などで高圧洗浄する場合、洗浄ノズルを少なくとも 30cm 以上カメラから離してご使用ください。

MEMO

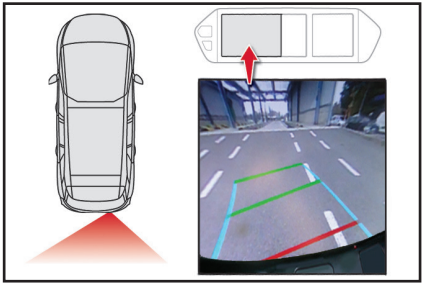
●時速 15km 以上で走行するとインストルメントパネルの映像がオフになります。
●カメラレンズの特性により映像がゆがむことがあります。
●気象条件などにより、映像が見えにくくなることがあります。また、夜間など暗い場所では画質が低下します。
●カメラに泥や雪などが付着すると映像の映りが悪くなります。常に汚れを落としてください。

●フロントビュー



フロントバンパーに取り付けられたカメラがインストルメントパネルに車両左右前方の映像を映し出します。

●リアビュー



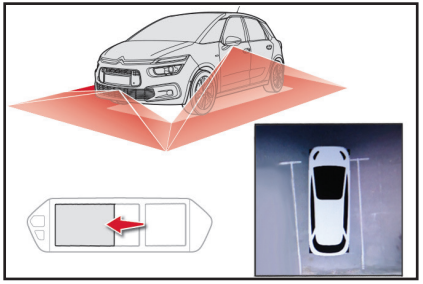
テールゲートに取り付けられたカメラがインストルメントパネルに車両後方の映像を映し出します。
映像には距離や車幅の目安となるラインが表示されます。

- 青いライン：ドアミラーを除いた車幅の目安です。
- 赤いライン：バンパーの後方約 30cm の目安です。
- 緑色のライン：それぞれバンパーから 1m、2m 後方の目安です。

MEMO

シフトモードセレクターが **R** の位置にあるときは自動的に作動します。

●360° ビジョン



フロントバンパー、テールゲート、ドアミラーに取り付けられたカメラがインストルメントパネルに車両を上から見たような映像を映し出します。

MEMO

ドアやテールゲートを開けるとインストルメントパネルに映し出されたリアビュー、360° ビジョンの映像が乱れます。

パークアシスト

パークアシストは、センサーによって駐車可能なスペースを検知し、自動的にステアリング操作を行います。
運転者は画面に表示された指示に従って、アクセルペダル、ブレーキペダルおよびシフトモードセレクターの操作を行います。駐車スペースによっては、数回切り返しを行なうことがあります。
また、パークアシストは以下の条件で解除されます。

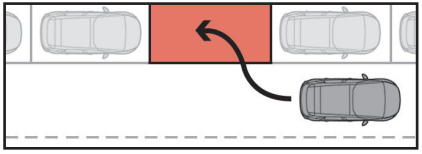
・ けん引しているとき
・ 運転席側ドアが開いているとき
・ 時速 70km 以上で走行しているとき

⚠警 告

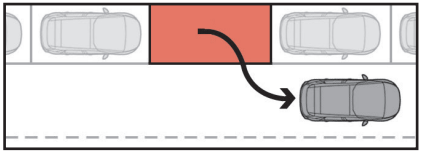
●パークアシストは運転を補助する機能です。システムを過信せず、安全運転に努めて適切な操作をしてください。安全の確保は運転者の義務です。
●センサーは、小さな障害物を検知しないことがあります。必ず目視での確認も行ってください。

パークアシストでは、以下の 3 種類の駐車および発進を行うことができます。

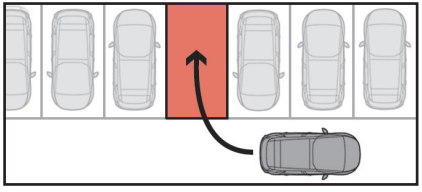
・ 縦列駐車する



・ 縦列駐車から発進する



・ 垂直に駐車する



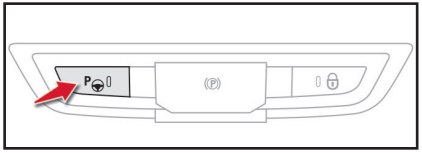
⚠注 意

自動操作によってステアリングホイールが速く動くことがあります。スポーク部に手を入れたり、ステアリングホイールに巻き付くようなものは、遠ざけてください。

MEMO

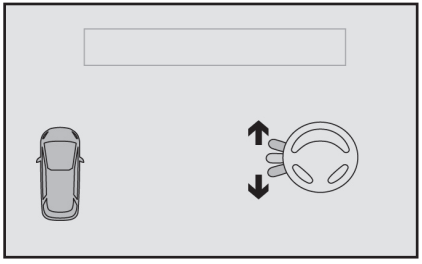
●パークアシストは切り返しを 4 回まで行ないます。4 回の切り返しでも正しく駐車（発進）できなかった場合は、手動で操作してください。
●パークアシストが駐車可能スペースを測定しているときは、バック／フロントソナーは作動しません。
●パークアシストがステアリングアシストを行っているときは、バック／フロントソナーが自動的に作動し、30cm 以内の障害物を検知した場合に警告音が鳴ります。
●パークアシストの作動中は、ブラインドスポットセンサーは作動しません。

●縦列駐車する

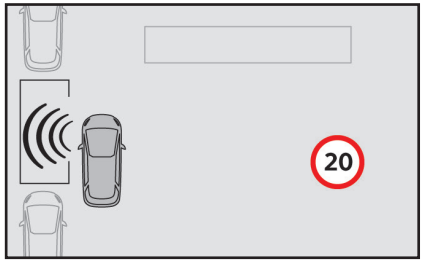


1. 駐車できそうな場所の手前でスイッチを押します。
   オプションのナビゲーションや、TVが表示されているときは、スイッチを押す前にナビゲーション以外の画面にしておいてください。

2. タッチスクリーンの「**縦列駐車**」をタッチします。



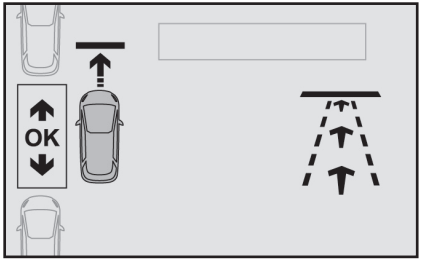
3. 方向指示器で、駐車スペースがある方向を指定します。



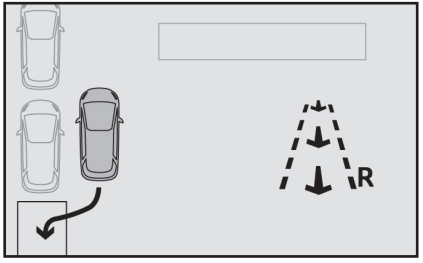
4. 指示に従って、ゆっくり（時速20km以下）前進します。

注 意

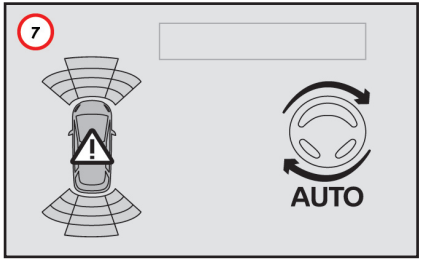
駐車している車両との間の距離を0.5m～1.5mとって走行してください。



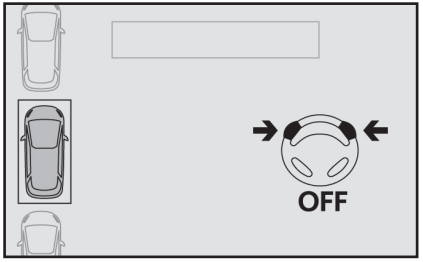
5. センサーが駐車可能かどうか測定します。前進の表示が消えチャイムが鳴るまで前進を続けてください。



6. 車を止め、シフトモードセレクターをRに入れます。



7. アクセルペダルを踏み、ゆっくり（時速 7km 以下）後退します。
8. 自動的にステアリング操作が行われます。ステアリングから手を離してください。

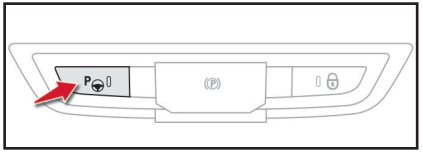


9. 駐車が完了すると自動的にパークアシストが終了します。

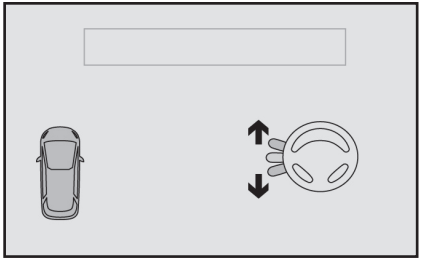
MEMO

切り返しが必要な場合は前進や後退の指示が表示されます。画面に従ってシフトモードセレクターとアクセルペダルの操作を行ってください。前進や後退をするたびに自動的にステアリングが操作されます。

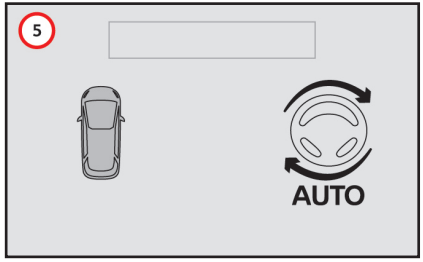
●縦列駐車から発進する



1. スイッチを押します。
   オプションのナビゲーションや、TVが表示されているときは、スイッチを押す前にナビゲーション以外の画面にしておいてください。
2. タッチスクリーンの「**縦列から出る**」をタッチします。



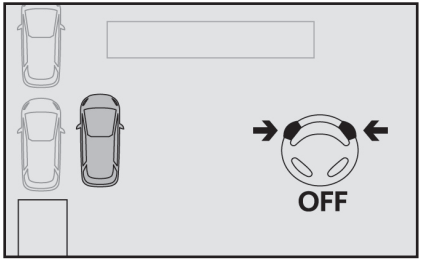
3. 方向指示器で、発進する方向を指定します。



4. アクセルペダルを踏み、ゆっくり（時速 5km 以下）前進します。
5. 自動的にステアリング操作が行われます。

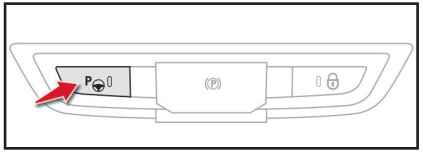
MEMO

切り返しが必要な場合は前進や後退の指示が表示されます。画面に従ってシフトモードセレクターとアクセルペダルの操作を行ってください。前進や後退をするたびに自動的にステアリングが操作されます。

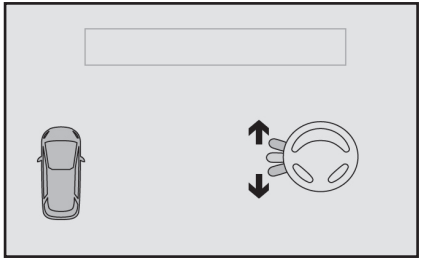


6. 駐車スペースから出ると自動的にパークアシストが終了します。

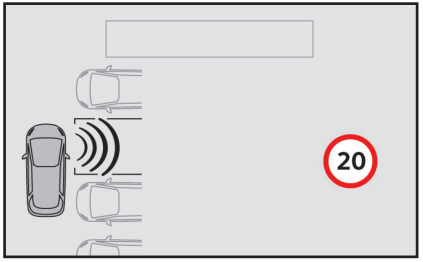
●垂直に駐車する



1. 駐車できそうな場所の手前でスイッチを押します。
   オプションのナビゲーションや、TVが表示されているときは、スイッチを押す前にナビゲーション以外の画面にしておいてください。
2. タッチスクリーンの「**並列駐車**」をタッチします。



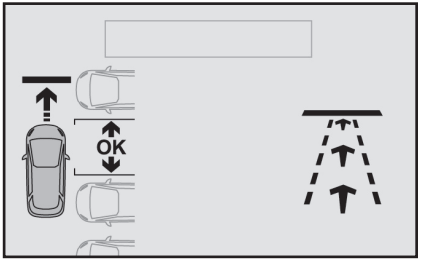
3. 方向指示器で、駐車スペースがある方向を指定します。



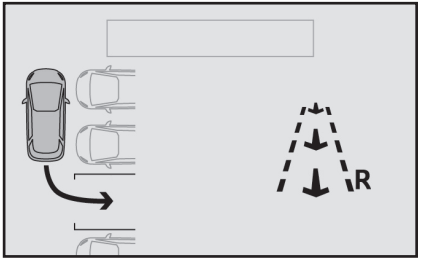
4. 指示に従って、ゆっくり（時速20km以下）前進します。

注 意

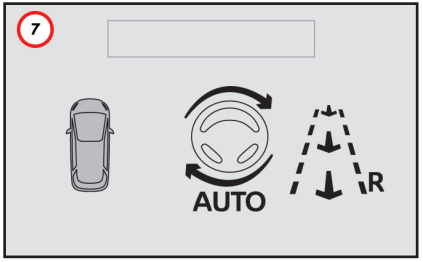
駐車している車両との間の距離を0.5m～1.5mとって走行してください。



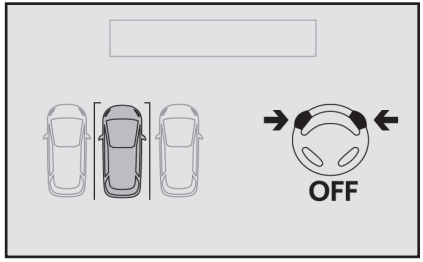
5. センサーが駐車可能かどうか測定します。前進の表示が消えチャイムが鳴るまで前進を続けてください。



6. 車を止め、シフトモードセレクターを**R**に入れます。



7. アクセルペダルを踏み、ゆっくり（時速 7km 以下）後退します。
8. 自動的にステアリング操作が行われます。ステアリングから手を離してください。



9. 駐車が完了すると自動的にパークアシストが終了します。

MEMO

切り返しが必要な場合は前進や後退の指示が表示されます。画面に従ってシフトモードセレクターとアクセルペダルの操作を行ってください。前進や後退をするたびに自動的にステアリングが操作されます。

●パークアシストの解除

パークアシストの動作中に再度スイッチを押すとパークアシストを解除することができます。
また、以下のときには、パークアシストが自動的に解除されます。

- イグニッションをオフにしたとき
- エンジンが停止したとき
- 駐車方法を選択してから 5 分以上運転操作が行われなかったとき
- 長時間車を停止させているとき
- ESC が作動したとき
- 速度が制限を超えたとき
- 運転者がステアリング操作を行ったとき
- 4 回切り返しを行ったとき
- 運転席側ドアが開いたとき
- フロントタイヤへの衝撃が検知されたとき

●システムの異常



システムに異常がある場合は、警告音とともにこの警告灯が点滅します。シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。
パークアシストの動作中はこの表示灯が点灯します。動作中に異常が発生した場合には消灯します。



パワーステアリングに異常がある場合には、この警告灯が点滅するとともにメッセージが表示されます。シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。

注 意

洗車場などで高圧洗浄する場合、洗浄ノズルを少なくとも 30cm 以上センサーから離してご使用ください。

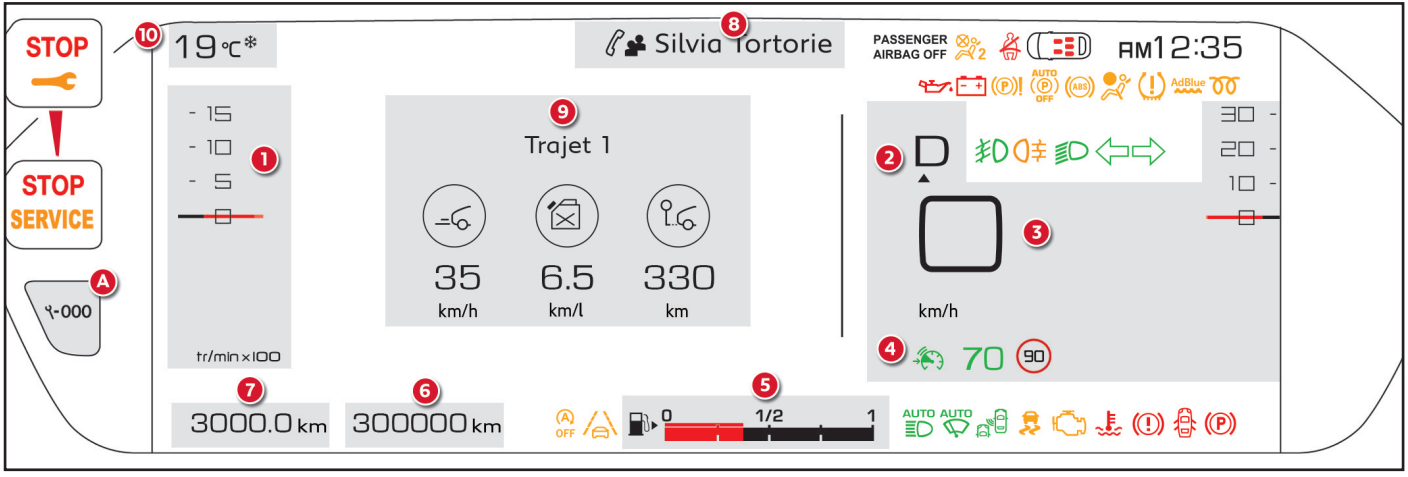
MEMO

●駐車可能スペースが広すぎるとセンサーが正確に距離を測定できません。また、システムはスペースの中央に車両を誘導しますので、2 台分のスペースが連続してあるときは手動で位置を修整する必要がある場合があります。
●自車両の外形寸法からはみ出すような積載物（スキーなど）を積んでいる場合は、取りはずしてください。
●泥や雪などが付着するとセンサーが正常に作動しません。常に汚れを落としてください。
●駐車や発進の際、バックカメラや 360° ビジョンを併用することをお勧めします。

第4章　メーター・ライト・ワイパー装置の使いかた

インストルメントパネル ····· 4-2
表示灯類 ····· 4-6
警告灯類 ····· 4-11
冷却水温度計 ····· 4-19
サービスインジケーター ····· 4-20
エンジン油量インジケーター ····· 4-22
インストルメントパネルの調整（リセット、明るさ調整）··· 4-23
ライト類（ヘッドランプ、フォグランプ、方向指示器、
ハザードランプ）····· 4-25
ワイパー／ウォッシャー ····· 4-35
間接式タイヤ空気圧警告 ····· 4-39
ドライブコンピューター ····· 4-40

インストルメントパネル



●メーター

1. タコメーター（表示モードにより異なります）
2. シフトポジション
3. デジタルスピードメーター
4. クルーズコントロール／スピードリミッター表示
5. 燃料計
6. オドメーター
7. トリップメーター
8. 現在再生中のメディア*
9. ドライブコンピューター（表示モードにより異なります）
10. 外気温度計（青色警告灯：凍結のおそれあり）

●スイッチ

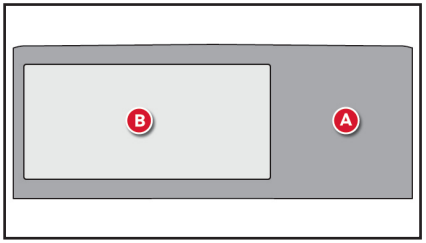
A. サービスインジケーター
呼び出しボタン／リセットボタン
走行可能距離表示ボタン（ディーゼル車）

⚠警 告

スピードメーターの速度の単位は必ずkm/h 表示を使用してください。誤ってmph 表示（マイル）にすると、正確な速度を認識できず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

* 仕様により異なります。

●インストルメントパネルのディスプレイゾーン



ディスプレイゾーン A

ディスプレイゾーン **A** には以下が表示されます。

- スピードメーター
- 警告灯
- 燃料計
- その他の表示灯など

MEMO

●警告灯および表示灯は、重要度の高い順に左から表示されます。
●機能のオン／オフを示す表示灯は、所定の位置に表示されます。

ディスプレイゾーン B

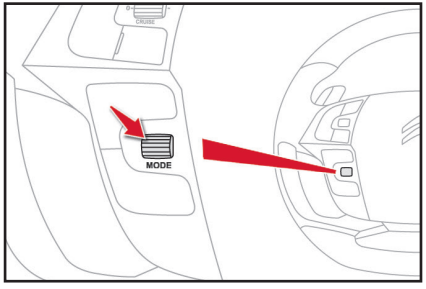
ディスプレイゾーン **B** には以下の 4 種類の表示モードから画面を選択して表示することができます。

- **ダイヤル**
- **ドライブ**
- **最少**
- **パーソナル**

MEMO

表示モードを**最少**に設定すると、インストルメントパネルのディスプレイゾーン **A** に最小限の情報のみ表示されます。

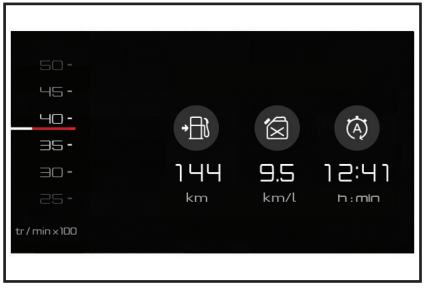
●表示モードの設定



ステアリングスイッチのモードダイヤルを回すとインストルメントパネルのディスプレイゾーン B の表示モードが切り替わります。

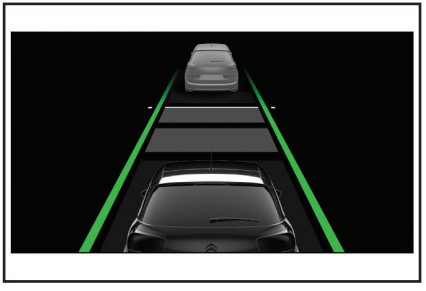
表示モードの種類

ダイヤル



ドライブコンピューター、タコメーターが表示されます。

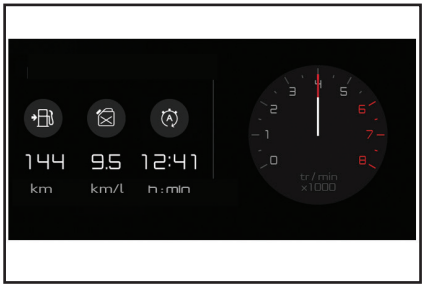
ドライブ



車間距離表示の画面などが表示されます。

* 仕様により異なります。

パーソナル



ドライブコンピューター、メディア *、タコメーター、冷却水温度計などを、お好みに合わせて表示することができます。

パーソナルの表示は、タッチスクリーンで設定します。

●言語の設定

インストルメントパネルとタッチスクリーンの言語を切り替えるには、タッチスクリーンで設定します。

MEMO

初期設定は日本語になっています。

●カラースキームの設定

カラースキームを選択して、インストルメントパネルの画面のデザインを変更することができます。カラースキームの選択は、タッチスクリーンで設定します。
インストルメントパネルのカラースキームは、タッチスクリーンのカラースキームの設定と連動しています。

MEMO

システムのバージョンによって、設定できる項目や表示内容が異なります。

表示灯類

表示灯は、作動状態を表示するものと機能停止を表示するものがあります。
いくつかの表示灯は、点灯状態と点滅状態で異なる意味を表すものがあります。また、ひとつの表示灯で通常の作動状態を表示している場合と、故障を表している場合とがあります。
　例：パーキングブレーキがかかっている／ブレーキシステムに異常がある。

●作動状態を表示する表示灯

表示灯		状態	意味	対処方法
	**左方向ウインカー**	点滅／ブザー	ライトスイッチレバーが下に動かされています。	ライトスイッチレバーを水平にすると消灯します。
	**右方向ウインカー**	点滅／ブザー	ライトスイッチレバーが上に動かされています。	同上
	**ポジションランプ**	点灯	ライトスイッチがポジションランプの位置にあります。	ライトスイッチレバーを **O** にすると消灯します。
	**ロービーム**	点灯	ライトスイッチがロービームの位置にあります。	同上
	**ハイビーム**	点灯	ライトスイッチレバーが手前に引かれています。	ライトスイッチレバーを再度手前に引くとロービームに戻ります。

表示灯		状態	意味	対処方法
	インテリジェントハイビーム	点灯	タッチスクリーンの設定で機能が有効になっていて、ライトスイッチが AUTO の位置にあります。 周囲の明るさや運転状況により、ロービームが点灯しています。	フロントウィンドウ上部のカメラが周囲の明るさや運転状況を検知し、ハイビーム／ロービームの切り替えを行います。 詳細は「インテリジェントハイビーム」項を参照してください。
		点灯	タッチスクリーンの設定で機能が有効になっていて、ライトスイッチが AUTO の位置にあります。 周囲の明るさや運転状況により、ハイビームが点灯しています。	
	フロントフォグランプ	点灯	ライトスイッチレバーのリングを前方へ回しました。	ライトスイッチレバーのリングを後方へ回すと消灯します。
	リアフォグランプ	点灯	ライトスイッチレバーのリングを 2 回前方へ回しました。	ライトスイッチレバーのリングを後方へ回すと消灯します。
	エレクトリックパーキングブレーキ	点灯	エレクトリックパーキングブレーキがかかっています。	アクセルペダルを踏むと、エレクトリックパーキングブレーキが自動的に解除されます。
				ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキスイッチを押してエレクトリックパーキングブレーキを解除してください。

表示灯		状態	意味	対処方法
	**予熱表示灯（ディーゼル車）**	点灯	START/STOP スイッチを押しました。	予熱表示灯が消灯したら、ブレーキペダルを踏んでいるときにエンジンが始動します。 予熱表示灯の点灯時間は、気温によって変化します（最長約 30 秒）。 エンジンがかからないときは、イグニッションをオフにし、再度エンジン始動の操作を行い、予熱表示灯が消灯するのを待ってください。
	**ブラインドスポットセンサー**	点灯	ブラインドスポットセンサー機能が作動しています。	詳細は「ブラインドスポットモニター」項を参照してください。
	**パークアシスト**	点灯	パークアシスト機能が作動になっています。	詳細は「パークアシスト」項を参照してください。
	**オートワイパー**	点灯	オートワイパー機能が有効になっています。	OFF にするには、レバーをもう一度押し下げるか、または **O** 以外のポジションに戻します。
	**助手席エアバッグ ON**	点灯	助手席エアバッグキャンセルスイッチが **ON** の位置にあります。助手席エアバッグは作動可能です。チャイルドシートを進行方向に対して後ろ向きに取り付けないでください。	助手席エアバッグを作動しないようにしたいときは、OFF 位置にしてください。この場合、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けることができます。

表示灯		状態	意味	対処方法
Ⓐ	ストップ＆スタート	点灯	赤信号などで停止したときに、ストップ&スタートによってエンジンが停止しています。	発進時には警告灯が消灯し、自動的にエンジンがかかります。
		数秒間点滅して消灯	停止モードが一時的に使用不可、または自動的にスタートモードになりました。	詳細は「ストップ&スタート」項を参照してください。

●機能停止を表示する表示灯

表示灯		状態	意味	対処方法
	**助手席エアバッグ OFF**	点灯	助手席エアバッグキャンセルスイッチが OFF 位置にあります。助手席エアバッグは作動しません。チャイルドシートを進行方向に対して後ろ向きに取り付けることができます。	助手席エアバッグを作動するようにしたいときは、ON 位置にしてください。この場合、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けないでください。
	**アクティブセーフティブレーキ OFF**	点灯／メッセージ	アクティブセーフティブレーキ機能が解除されています。	詳細は「アクティブセーフティブレーキ」項を参照してください。
	**ストップ & スタート**	点灯	ストップ & スタートシステムが解除されています。	タッチスクリーンの設定からシステムを復帰させてください。

警告灯類

イグニッションがオンになると、警告灯類が数秒間点灯します。エンジンが始動するとそれらの警告灯は消えます。
いずれかの警告灯が、車が動き出す前まで点灯していたり、走行中に点灯または点滅したときは、関連する情報を参照してください。
いくつかの警告灯は、点灯状態と点滅状態で異なる意味を表すものがあります。また、ひとつの警告灯で通常の作動状態を表示している場合と、故障を表している場合とがあります。
　例 : パーキングブレーキがかかっている／ブレーキシステムに異常がある。
また、警告音やメッセージ表示とともに点灯するものがあります。
　例 : パーキングブレーキがかかっている／ブレーキシステムに異常がある。

警告灯		状態	意味	対処方法
STOP	STOP	点灯／警告音／メッセージ	エンジン、ブレーキ、パワーステアリングなどに異常が発生しています。	直ちに車を安全な場所に停止させ、エンジンを止め、シトロエン指定サービス工場へご連絡ください。
SERVICE または 	SERVICE	点灯(一時的)／メッセージ	軽微な不良が発生しているおそれがあります。	表示されたメッセージと連動しています。 ・ ドア、テールゲート、ボンネットの開閉状況 ・ DPF（ディーゼルパティキュレートフィルター）にススが一定量堆積した（ディーゼル車）、など 解決しない場合は、直ちにシトロエン指定サービス工場へご連絡ください。
		点灯／メッセージ	重大な不良が発生しているおそれがあります。	表示されたメッセージと連動しています。 直ちにシトロエン指定サービス工場へご連絡ください。

警告灯		状態	意味	対処方法
SERVICE または 	**SERVICE（ディーゼル車）**	点灯（サービスインジケーターのスパナマークが点滅し、その後点灯）	定期点検整備時期を経過しています。	直ちにシトロエン指定サービス工場で定期点検整備を受けてください。
	**レーンキープアシスト**	点灯	レーンキープアシスト機能が解除または中止されています。	詳細は「レーンキープアシスト」項を参照してください。
		点滅	方向指示器が作動していないとき、車線マーカーを逸脱する可能性があると判断されました。ハンドル操作の自動修正が行われます。	
 SERVICE		点灯／警告音／メッセージ（**SERVICE** 警告灯も点灯）	レーンキープアシスト機能に異常があります。	レーンキープアシスト機能が作動していません。 注意して走行し、シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。

警告灯		状態	意味	対処方法
	エレクトリックパーキングブレーキ	点滅	走行中：エレクトリックパーキングブレーキが解除されていません。	スイッチを押して、パーキングブレーキを完全に解除してください。 問題が解消されない場合は、直ちに安全で水平な場所に車を停止させ、シトロエン指定サービス工場にご連絡ください。
			停車中：エレクトリックパーキングブレーキは作動していますが、締結のための十分な力を発生しません。	直ちに安全な場所に停車して、シフトモードセレクターを **P** にして輪止めをしてください。
	エレクトリックパーキングブレーキ故障	点灯	エレクトリックパーキングブレーキに故障が発生しています。	直ちに停車させ、シトロエン指定サービス工場にご連絡ください。 パーキングブレーキは手動操作のみ可能です。詳細は「エレクトリックパーキングブレーキ」項を参照してください。
	オートマチックエレクトリックパーキングブレーキ	点灯 （メッセージ）	オートマチックエレクトリックパーキングブレーキ機能に異常があるか、解除されています。	オートマチックエレクトリックパーキングブレーキ機能がオンのときに自動作動しない場合は、シトロエン指定サービス工場にご連絡ください。
	ブレーキ	点灯	ブレーキ液量が大幅に低下しています。	直ちに安全な場所に車を停止させ、シトロエン推奨のブレーキ液を補給してください。 問題が解消されない場合は、シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。
		点灯 (ABS 警告灯も点灯)	電子式制動力制御装置 (EBFD) に異常が発生しています。	直ちに安全な場所に車を停止させ、シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。

警告灯		状態	意味	対処方法
	ABS（アンチロックブレーキ）	点灯	アンチロックブレーキシステムに異常が発生しています。	通常のブレーキとして機能します。 注意して速度を下げて走行し、直ちにシトロエン指定サービス工場にご連絡ください。
	ESC	点灯	ESC システムに異常が発生しています。	シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。
		点滅	ESC システムが作動中です。	システムは正常です。 安定した走行に戻ると消灯します。
	アクティブセーフティブレーキ	点滅	アクティブセーフティブレーキの自動ブレーキが作動中です。	前方の車両との衝突速度を抑制するために自動的にブレーキが作動しました。ブレーキを踏んでスピードを落としてください。
		点灯／警告音／メッセージ	アクティブセーフティブレーキ機能に異常があります。	シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。
	自動診断	点灯	排気ガス浄化システムに異常が発生しています。	エンジンを始動しても警告灯が消えない場合は、直ちにシトロエン指定サービス工場にご連絡ください。
		点滅	エンジン制御システムに異常が発生しています。	触媒コンバーターが損傷するおそれがあります。 シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。
	燃料残量	点灯／警告音／メッセージ	燃料の残量が約 6 リットル以下になりました。	燃料が少なくなっています。 早めに燃料を補給してください。 イグニッションをオンにするたびに警告灯は点灯します。 燃料タンクの容量は、ガソリン車が約 57 リットル、ディーゼル車が約 55 リットルです。 燃料がなくなるまで、走行を続けないでください。 排気ガス浄化システムおよび点火系統が損傷するおそれがあります。

警告灯		状態	意味	対処方法
	シートベルト	点灯または点滅／警告音	シートベルトを着用していません。 着用していたシートベルトをはずしました。	ベルトを引き出しバックルに差し込んでください。 警告音はシートベルトを着用するまで続きます。
	エアバッグ	点灯（一時的）	システムの点検中です。（数秒間点灯した後に消灯）	エンジンを始動すると消灯します。 警告灯が消えない場合は、シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。
		点灯	エアバッグまたはシートベルトプリテンションシステムに異常が発生しています。	シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。
	助手席エアバッグ	点滅	助手席エアバッグシステムに異常が発生しています。	助手席に乗車しないでください。 シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。
	ディレクショナルヘッドライト	点滅	ディレクショナルヘッドライトに異常が発生しています。	シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。
	半ドア	点灯／メッセージ（時速 10km 以下）	ドアまたはテールゲートが開いています。	ドアまたはテールゲートを閉めてください。
		点灯／警告音／メッセージ（時速 10km 以上）		
	バッテリー	点灯	充電機能に異常が発生しています。	エンジンを始動すると消灯します。 警告灯が消えない場合は、シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。

警告灯		状態	意味	対処方法
	**冷却水温**	赤く点灯	冷却水の温度が過大に上昇しています。	直ちに安全な場所に車を停車させてください。冷却水の補給が必要な場合は、エンジンが冷えてから補給してください。 問題が解消されない場合は、シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。
	**エンジン油圧**	点灯	油圧が不足しています。	直ちに安全な場所に車を停車させ、シトロエン指定サービス工場にご連絡ください。
	**タイヤ空気圧**	点灯／警告音／メッセージ	タイヤの空気圧に異常があります。	タイヤの空気圧を確認して必要な処置をしてください。
		点滅後に点灯（**SERVICE**警告灯も点灯）	タイヤ空気圧警告システムに異常が発生しています。システムは作動していません。	タイヤの空気圧を確認して必要な処置をしてください。 シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。

警告灯		状態	意味	対処方法
AdBlue	AdBlue®（ディーゼル車）	点灯／警告音／メッセージ	AdBlue® の残量が少なくなっています。 走行可能距離は 600km から 2400km です。	早めにシトロエン指定サービス工場で AdBlue® の補充をしてください。
AdBlue SERVICE		点滅／警告音／メッセージ（SERVICE 警告灯も点灯）	AdBlue® の残量がわずかになっています。 走行可能距離は 600km 以内です。	すみやかにシトロエン指定サービス工場で AdBlue® の補充をしてください。
			AdBlue® の残量がなくなりました。 エンジンを始動できません。	直ちにシトロエン指定サービス工場で AdBlue® の補充をしてください。

警告灯		状態	意味	対処方法
AdBlue SERVICE 	**SCR システム（ディーゼル車）**	点灯／警告音／メッセージ（**SERVICE** 警告灯と自動診断警告灯も点灯）	SCR システムに異常が発生しています。	一時的に警告が表示されることがありますが、その後、警告灯が消灯すれば SCR システムの異常は解消されています。 SCR システムの異常が解消されない場合は、エンジンを始動するたびに警告が表示されます。 シトロエン指定サービス工場でシステムの点検を受けてください。
		点滅／警告音／メッセージ（**SERVICE** 警告灯と自動診断警告灯も点灯）	SCR システムに異常が発生しています。 走行可能距離は 1100km 以内です。	直ちにシトロエン指定サービス工場でシステムの点検を受けてください。
			SCR システムの異常によりエンジンを始動できません。	直ちにシトロエン指定サービス工場でシステムの点検を受けてください。

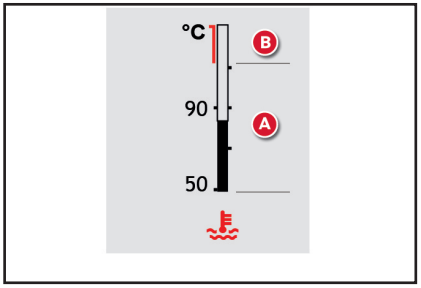
⚠警 告

●STOP 警告灯と連動して警告灯が表示されたときは直ちに車を停止させてください。
●警告灯が表示される故障は、深刻なケガや車両へのダメージを引き起こすおそれがあります。安全な場所に停車し点検してください（6-3 ページ参照）。

MEMO

高速道路など自動車専用道路での燃料切れは、道路交通法違反になります。走行前に燃料が十分あることを確認してください。

冷却水温度計



冷却水温度計が **A** のゾーンにあるときは、水温は適正です。
冷却水温度計が**B**のゾーンにあるときは、オーバーヒートの状態です。冷却水温警告灯と**STOP**警告灯が点灯して、警告音とともにメッセージが表示されます。
直ちに車を安全な場所に止めて、ボンネットを開けてください。
そのまましばらく冷却水温度計が下がるのを待ってください。
シトロエン指定サービス工場へご連絡ください。

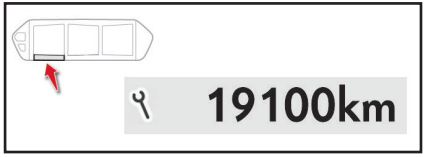
⚠警 告

エンジンが冷えてから、冷却水を補充してください。冷却系等には圧力がかかっています。やけどを防ぐために、キャップを 2 回転ほど回し、圧力を逃してから、キャップをはずして冷却水を補充してください。

MEMO

冷却水温度計は、インストルメントパネルの表示モードが**パーソナル**で、冷却水温度計が選択されているときに表示されます。

サービスインジケーター



サービスインジケーターは、お客様に次回のメーカー推奨点検時期がいつ頃かをお知らせするものです。

●作動

次回の点検まで 3000km 以内になったとき、イグニッションをオンにした後の数秒間、スパナのマークが表示され、次回の点検までのおよその残りキロ数が表示されます。
また、表示が消えた後、リセットボタンを押すと数秒間表示されます。

例：次回の点検までおよそ 2800km であることを示しています。この表示は数秒間表示されます。



その後は本来の機能に戻り、オドメーターとして機能します。

次回の点検まで 900km であることを示しています。この表示は数秒間表示されます。



その後はオドメーターとして機能しますが、1000km 以内の場合はスパナのマークは残ります。

●点検時期を経過した場合

イグニッションをオンにした後の数秒間、スパナのマークが点滅し、点検時期経過後のおよその走行キロ数がマイナス表示されます。

SERVICE ディーゼル車は、SERVICE 警告灯も点灯します。

例：点検時期を経過してからおよそ 300km 走行したことを示しています。この表示は数秒間表示されます。



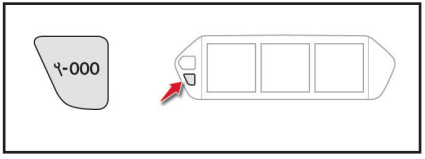
その後はオドメーターとして機能しますが、スパナのマークは残ります。



MEMO

●点検時期のお知らせは、走行距離と前回の点検時期から割り出されています。最後の点検から２年を経過した場合にもスパナマークが点灯します。
●ディーゼル車は、エンジンオイルの状態からも点検時期のお知らせを割り出しています。
運転の状況により、通常より早くスパナマークが点灯する場合があります。

●ゼロリセット



リセットはシトロエン指定サービス工場にて点検終了後に行いますが、お客様がご自分でリセットする際には以下の方法で行います。

1. イグニッションをオフにします。
2. インストルメントパネルのリセットボタンを押し続けます。
3. イグニッションをオンにします。
4. 数字のカウントダウンが始まります。
5. カウントダウンが終了したら、押していたリセットボタンを離します。
6. リセットが完了。スパナのマークが消えます。

MEMO

●シトロエン指定サービス工場では、定期点検が完了したときにサービスインジケーターをリセットして、次の定期点検時期をお知らせするようにしています。もし、サービスインジケーターを継続してご使用になりたいときは、車をお預けの際にシトロエン指定サービス工場の担当者にお伝えください。
●リセット直後にバッテリーをはずすと、リセットが無効になります。ドアを施錠して少なくとも５分間待ってから、バッテリーをはずしてください。
●リセットボタンを押すと、数秒間点検時期を再表示させることができます。

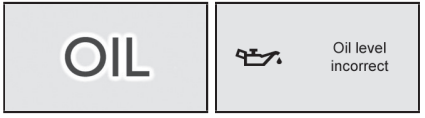
エンジン油量インジケーター*

イグニッションをオンにすると、インストルメントパネルに油量の状態が数秒間表示されます。
油量は、車体が水平な場所にあってエンジン停止後 30 分以上経過しているときに正確に表示されます。

エンジンオイル量は正常です。

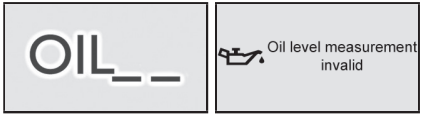


エンジンオイル量が少なくなっています。



メッセージが表示されます。エンジンオイルレベルゲージで正確な量を確認し、少ないときは補充してください。エンジンオイルが少ないまま使用すると、エンジンが損傷するおそれがあります。

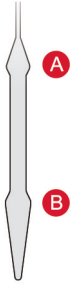
オイルレベルセンサーの故障



車体を水平な場所に置き、エンジン停止後 30 分以上経過してからエンジンオイルレベルゲージで測定してください。油量に問題がなければ、オイルレベルセンサーが故障しているので、シトロエン指定サービス工場にご連絡ください。

MEMO

オイルレベルゲージ



ゲージには 2 ヶ所のマークがあります。

A：オイル量最大
これを超えないようにしてください。

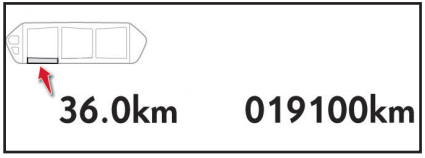
B：オイル量最少
A と **B** の間になるようにオイルを補充してください。

* 仕様により異なります。

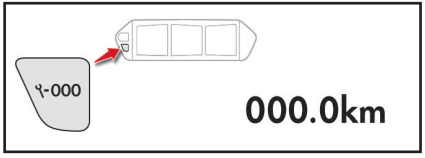
インストルメントパネルの調整（リセット、明るさ調整）

●オド／トリップメーター

運転席ドアを開ける、またはイグニッションをオンにするとオド／トリップメーターが表示されます。



左：指定した区間の距離数（トリップメーター）
右：総距離数（オドメーター）

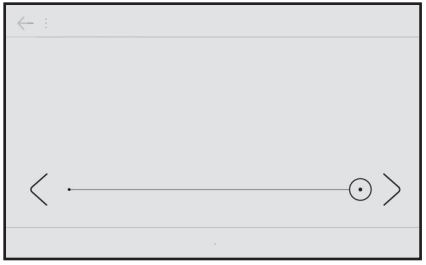


トリップメーターをリセットするには、リセットボタンを数秒間押します。

MEMO

距離の単位は必ず km 表示を使用してください。
設定はタッチスクリーンで行います。

●インストルメントパネル／タッチスクリーン照度調整



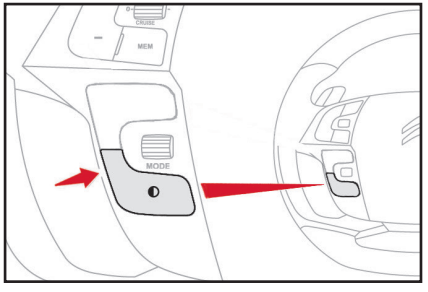
タッチスクリーンで設定します。
＜または＞をタッチするか、カーソルを動かして調整してください。

MEMO

照度調整はライトスイッチをオンにして行ってください。

●ブラックパネルモード

夜間走行時、不要な照明を消して最低限のインストルメントパネルだけを点灯するブラックパネルモードがあります。



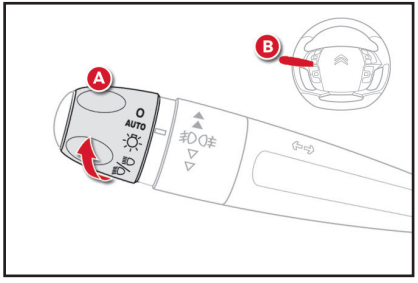
イグニッションをオンにして、ライトスイッチをオンにしてからステアリングスイッチのボタンを押してください。
ブラックパネルモードを解除するには、ステアリングスイッチのボタンを再度押してください。

●ブラックスクリーンモード

タッチスクリーンの画面を消灯することができます。タッチスクリーンで設定します。
解除するには、タッチスクリーンの画面をタッチしてください。

ライト類（ヘッドランプ、フォグランプ、方向指示器、ハザードランプ）

●ヘッドランプ



MEMO

●低温高湿度のとき、ヘッドランプやテールランプのレンズ内側が曇ることがありますが異常ではありません。点灯して数分後になくなります。
●電球の交換が必要な場合など、ランプ類に異常があるときはメッセージが表示されることがあります。

●ライトスイッチ（リングA）

ヘッドランプの操作は、レバーのリング A を回します。

O すべてのランプが消灯します。

AUTO オートライトモード

ポジションランプが点灯します。

⚠警 告

ポジションランプは、他の車からあなたの車を確実に確認できるほどの十分な明るさではありません。事故のおそれがありますので、周囲が暗いときや視界が悪いときは、ヘッドランプを点灯してください。

ヘッドランプのロービーム／ハイビームが点灯します。

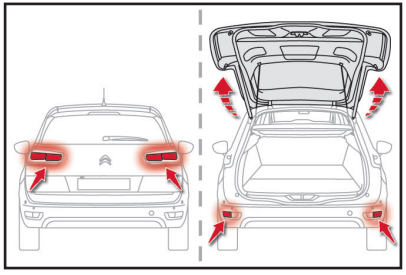
ヘッドランプをハイビームに切り替えるときは、スイッチレバー B を手前に引きます。再度、手前に引くとロービームに切り替わります。

●パッシング

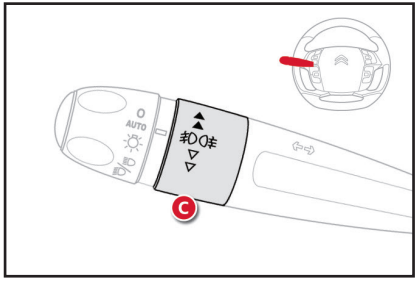
スイッチレバー B を浅く手前に引くと、パッシングライトとして使用できます。

MEMO

●インストルメントパネルの表示灯でライト類の点灯の確認ができます。
●リアポジションランプと方向指示器はテールゲートに取り付けられています。点灯中にテールゲートを開けると消灯し、代わりにリアバンパーのポジションランプと方向指示器が点灯します。



●フロント／リアフォグランプ



ポジションランプまたはヘッドランプがオンのときに使用できます。



リング **C** を前方へ1回まわすとフロントフォグランプが点灯します。リング **C** をさらに前方へ1回まわすとリアフォグランプも点灯します。

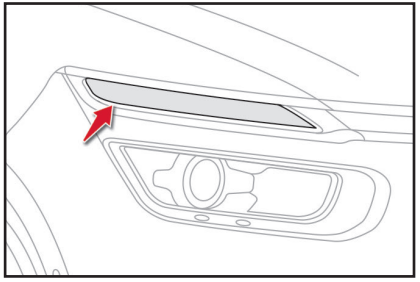
⚠警 告

リアフォグランプは晴天時や雨天時には使用しないでください。後続車に眩惑を与えます。

MEMO

- ●エンジン回転中にオートライトで消灯してもフォグランプは点灯し続けます。リングを回して消灯してください。
- ●テールゲートを開けるとリアフォグランプが自動的に消灯し、インストルメントパネルの表示灯も消灯します。リアフォグランプを再度点灯するには、テールゲートを閉じた後、リングを回して点灯してください。

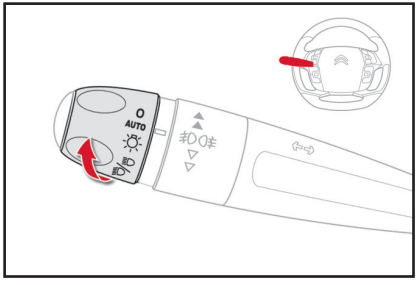
●フロントLEDランプ*



エンジンを始動すると、ライトスイッチが **O** または **AUTO** で周囲が明るいときにヘッドランプ内の LED ランプだけが自動的に点灯します。これ以外のランプやインストルメントパネル内のポジションランプ表示灯は点灯しません。

* 仕様により異なります。

●オートライト



周囲が暗くなったりワイパーが作動すると、自動的にポジションランプやヘッドランプが点灯します。周囲が明るくなったりワイパーの使用をやめると、自動的に消灯します。

作動
リングを **AUTO** 位置に回します。

機能解除
リングを **AUTO** 以外の位置に回します。オートライトが解除されたことが表示されます。

⚠注 意

- ●昼間の霧や雪のときは、周囲が明るいのでオートライトが作動しないことがあります。
  安全のため、手動でライトを点灯してください。
- ●フロントウィンドウの照度センサーを覆わないでください。オートライト機能が正常に作動しません。

SERVICE 照度センサーに異常が発生した場合は、自動的にヘッドランプが点灯するとともにインストルメントパネルに警告が表示され、警告音とともに故障の発生を通知します。シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。

MEMO

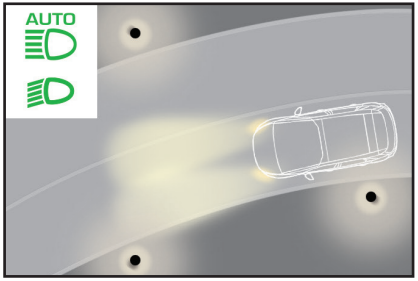
- ●マニュアルモードでライト点灯中に、イグニッションがオフの状態でライトスイッチをオンにしたまま運転席側のドアを開けると、ライト消し忘れブザーが鳴ります。ライトスイッチをオフにするとブザーは止まります。イグニッションがオフの状態でライトを点灯したままにすると、バッテリー上がりを防止するために一定の時間後自動的に消灯します。
- ●イグニッションをオフにすると、すべてのライトが消灯します(フォローミーホーム機能がオンのときを除く)。ライトスイッチを **AUTO** からいったん **O** にすることによって、ライトを再点灯することができます。

●インテリジェントハイビーム

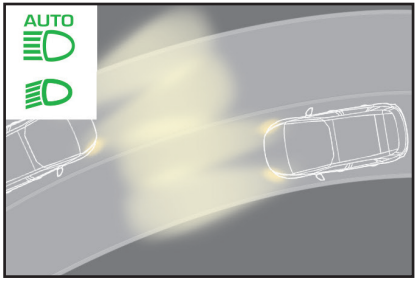
フロントウィンドウ上部に備えられたカメラによって周囲の明るさと運転状況を検知し、ヘッドライトのロービームとハイビームを自動的に切り替える機能です。

⚠警 告

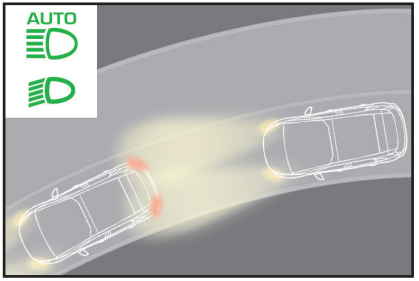
インテリジェントハイビームは操作を補助する機能です。運転者の責任の元で、点灯状態、視界、道路状況などを把握し、他の車の妨げにならないよう、また法律で義務付けられた方法に従って、正しく使用してください。



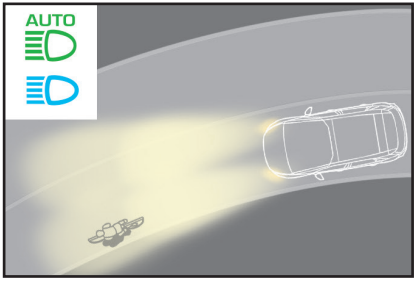
ロービーム点灯 : 周囲が明るいためハイビームが不要な場合



ロービーム点灯 : 対向車がある場合



ロービーム点灯 : 先行車がある場合



ハイビーム点灯 : ハイビームが必要な場合

機能をオンにする



1. リングを **AUTO** 位置に回します。



2. タッチスクリーンのこのボタンをタッチします。

3. **ドライビング機能**をタッチします。
4. **インテリジェントハイビーム**をタッチします。

MEMO

インテリジェントハイビームは時速 25km 以上で作動します。時速 15km 以下になると作動が停止します。

ハイビーム／ロービームの切り替え条件

以下のときにロービームが点灯します。

・周囲の明るさが十分にあり、運転状況がハイビームの点灯に適さないとき



ロービームが点灯すると、この表示灯が点灯します。



以下のときにハイビームが点灯します。

・周囲の明るさが十分になく、運転状況がハイビームの点灯に適したとき

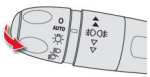


ハイビームが点灯すると、この表示灯が点灯します。



作動を中断する

システム作動中でも、インテリジェントハイビーム機能を中断し、オートライトモードに切り替えることができます。



1. ライトスイッチレバーを手前に引きます。オートライトモードに切り替わります。

インテリジェントハイビームに戻したいときは、再度ライトスイッチレバーを手前に引きます。

MEMO

機能を中断または再度作動させると、状況により、ハイビームまたはロービームが点灯します。

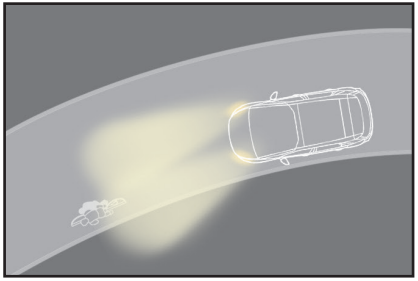
機能をオフにする

インテリジェントハイビーム機能をオフにするには、タッチスクリーンで設定します。

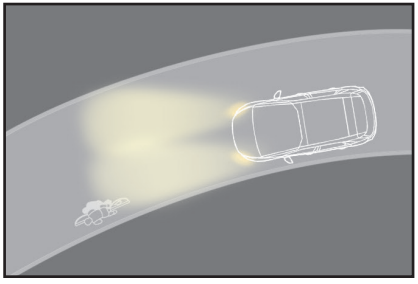
MEMO

- ●ライトスイッチレバーの操作ではインテリジェントハイビームをオフにできません。
- ●以下のようなときは、機能が正確に作動しないことがあります。
  - ・降雪、豪雨、濃霧などの悪環境のとき
  - ・フロントウィンドウが汚れている、曇っている、ステッカーを貼っているなど、カメラ部分の視界が不十分なとき。
  - ・看板や標識などに反射した強い光が車両に当たっているとき。
- ●カメラは以下のような対象物は検知しません。
  - ・歩行者のように光を発しないもの
  - ・高速道路の中央分離帯などで光をさえぎられている車両
  - ・急勾配な坂の頂上やふもと、曲がりくねった道、交差点などにおける周囲の車両

●ディレクショナルヘッドライト



作動時



非作動時

ヘッドランプ点灯時、ハンドルの切れ角にしたがって、照射方向が変わり、障害物を発見しやすくする機能です。

ディレクショナルヘッドライトをオン／オフするには、タッチスクリーンで設定します。

故障時には、警告音とともに表示灯と **SERVICE** 警告灯が点灯し、メッセージが表示されます。シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。

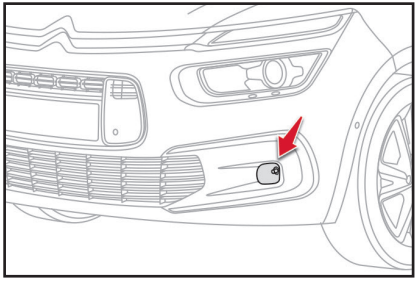
SERVICE

MEMO

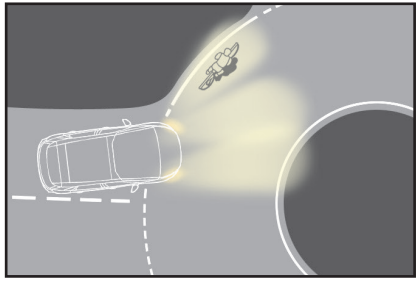
停止中、低速走行中、または、シフトモードセレクターを **R** に入れたときはこの機能は作動しません。

* 仕様により異なります。

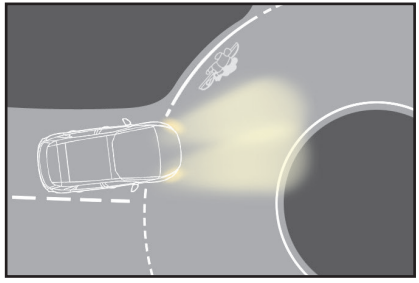
●コーナリングライト*



カーブの内側を照らし、交差点や駐車中の障害物を発見しやすくする機能です。
時速 40km 以下で走行中に作動します。



作動時



非作動時

作動条件

・ 方向指示器が作動している
・ ステアリングが一定の角度以上回っている

非作動条件

・ ステアリングが一定の角度まで回っていない
・ 時速 40km を超えている
・ シフトモードセレクターが **R** に入っている

●エクステリアウェルカムランプ

周囲が暗いときや夜間に、ライトスイッチが AUTO で車外でリモコンの解錠ボタンを押すと、ヘッドランプなどが点灯して乗車をサポートします。

点灯



リモコンの解錠ボタンを押します。
ドアの解錠とともに、ヘッドランプのロービームおよびポジションランプが点灯します。

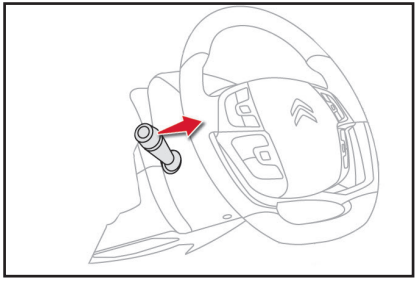
消灯

イグニッションをオンにする、またはドアを施錠すると自動的に消灯します。

設定

エクステリアウェルカムランプのオン／オフの切り替え、点灯時間の設定は、タッチスクリーンで行います。

●フォローミーホーム（駐車時照明機能）



周囲が暗いときや夜間にイグニッションをオフにした後しばらくの間、ヘッドランプが点灯したままになります。

オート操作

オートライトモードになっていると自動的にこの機能が作動します。

マニュアル操作

ライトスイッチの位置にかかわりなく作動させることができます。
イグニッションをオフにして、パッシング（スイッチレバーを浅く手前に引く）してから車を降りて施錠してください。

キャンセル操作

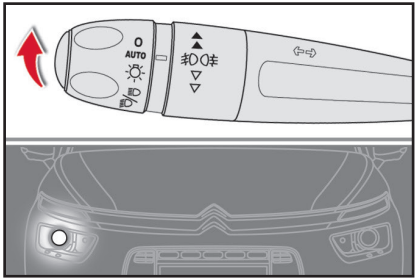
パッシング（スイッチレバーを浅く手前に引く）してから車を降りて施錠してください。

設定

フォローミーホームのオン／オフの切り替え、点灯時間の設定は、タッチスクリーンで行います。

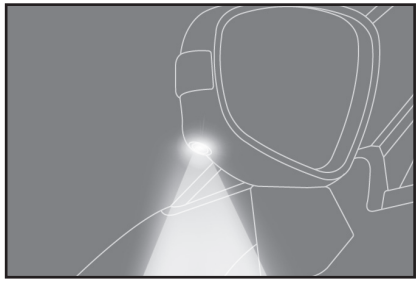
* 仕様により異なります。

●パーキングライト*



路肩に駐車する場合、ポジションランプを片側（通常は車両通行側）のみ点灯させることができます。
イグニッションをオフにして、1 分以内にライトスイッチレバーを点灯させたい側に操作します。警告音とともに表示灯(ウインカー）が点灯し、片方のポジションランプが点灯します。
レバーを戻すと、ポジションランプは消灯します。

●エクステリアサイドランプ



点灯

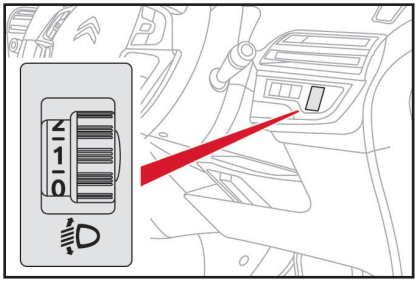
フロントルームランプのスイッチがこの位置にあるとき、次の操作を行うと点灯します。

- ドアロックを解除したとき
- イグニッションをオフにしたとき
- ドアを開けたとき
- 車外からスマートキーが操作されたとき

消灯

約 30 秒後に自動的に消灯します。

●ヘッドランプ照射角度調整*

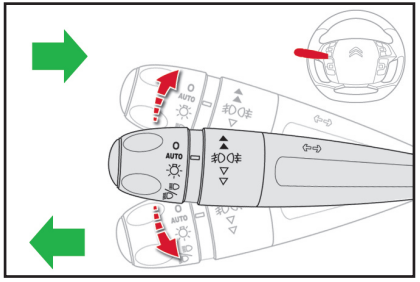


ラゲッジルームに重量物を積んでヘッドランプが上向きになったときは、対向車にまぶしくないよう照射角度を下向きにしてください。

車内から調整するときの目安：

0 前席に 1 人または 2 人乗車したとき
1 フル乗車で、車載制限いっぱいの荷物を積んだとき
2 1 人乗車で、車載制限いっぱいの荷物を積んだとき
3 フル乗車で、ラゲッジルームがいっぱいのとき

●方向指示器

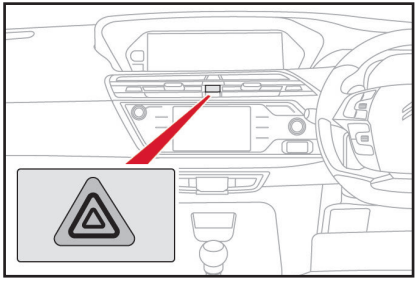


右方向に出す場合：ライトスイッチレバーを上に動かします。
左方向に出す場合：ライトスイッチレバーを下に動かします。
ハザードランプスイッチを押しているときは、方向指示器は作動しません。

MEMO

車線変更などのとき、ライトスイッチレバーを 1 回軽く動かして離すと、動かした方の方向指示器が 3 回点滅します。

●ハザードランプ



イグニッションキーの位置に関係なくスイッチを押すと作動します。
他車に緊急停車中であることを示します。

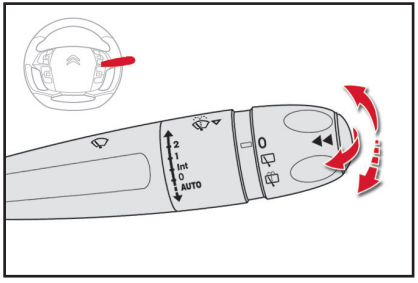
MEMO

渋滞の最後尾についたときは、ハザードランプを点滅させて、他の運転者に警告してください。

緊急制動表示灯
急ブレーキをかけると減速度によってハザードランプが自動的に点滅を始めます。
車が加速を始めると自動的に解除されますが、スイッチを押して解除することもできます。

ワイパー／ウォッシャー

●フロントワイパー



ワイパーレバーは以下のように５段階で作動します。

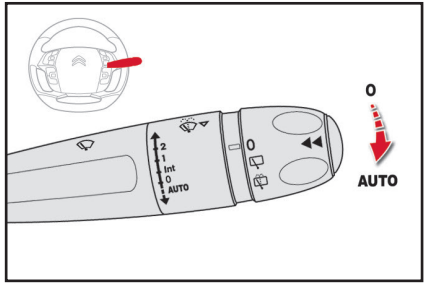
2	高速作動
1	通常作動
Int	間欠作動
0	停止
AUTO↓	自動作動／１回作動

間欠作動は、車速に応じて休止時間が変化します。

●オートワイパー

ワイパーを AUTO モードにしておくと、降る雨の量に応じて自動的にワイパーが作動します。

作動

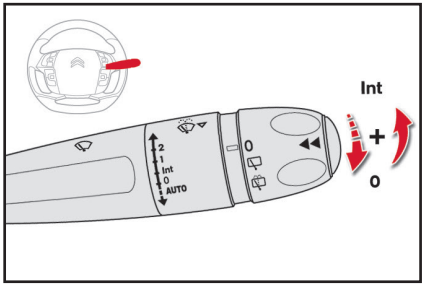


レバーを押し下げると AUTO モードが作動します。その後はレバーを手前に引くたびに１回作動します。

AUTO インストルメントパネルの表示灯が点灯し、メッセージが表示されます。

システムに異常が発生すると、ワイパーレバーが AUTO の位置では間欠作動となります。シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。

解除



レバーをもう一度押し下げるか、もしくは 0 以外のポジションに動かします。

AUTO インストルメントパネルの表示灯が消灯し、メッセージが表示されます。

MEMO

イグニッションを１分以上オフにすると、AUTO モードは解除されます。AUTO モードを使用する場合は再度レバーを押し下げてください。

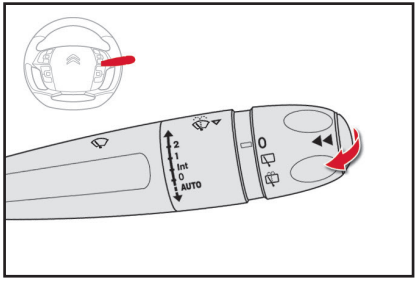
⚠注 意

洗車する際は、オートワイパー機能を解除してください。水滴によってオートワイパーが突然作動して、ケガをしたり、車を損傷するおそれがあります。

注 意

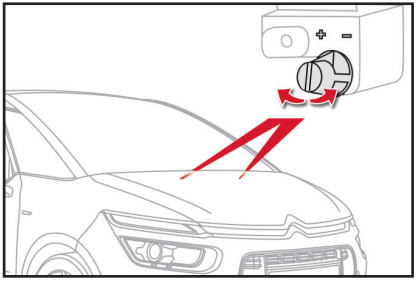
●ルームミラーの裏側にある雨滴センサーを覆わないでください。
●フロントウィンドウが凍結しているときは、氷等が完全に溶けるまでオートワイパーの使用を控えてください。

●ウィンドウウォッシャー



レバーを手前に引くとウォッシャー液が噴射され、ワイパーが数秒間作動します。
レバーを浅く手前に引くと、ウォッシャー液は噴射されずにワイパーが１回だけ作動します。

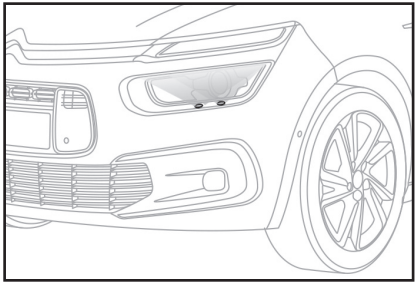
ウィンドウウォッシャー液の噴射高さ調整



ウォッシャー液の噴射高さの調整ができます。
＋の方向（反時計方向）に回すと高くなります。
－の方向（時計方向）に回すと低くなります。

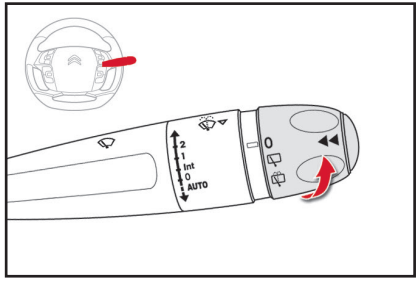
＊仕様により異なります。

●ヘッドライトウォッシャー*



ロービーム点灯中にワイパーレバーを手前に引くと、ウィンドウウォッシャーとともにヘッドライトウォッシャーが作動します。
ヘッドライトウォッシャーは、1回の走行についてウィンドウウォッシャーを7回作動するごとに1回、または、40km走行するごとに1回作動します。

●リアワイパー



リングを回すとリアワイパーが作動します。

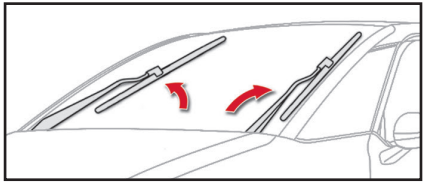
- 0 停止
- 間欠作動
- ウォッシャー作動

シフトモードセレクター連動機能
フロントワイパーを作動中にシフトモードセレクターをRに入れると、リアワイパーが作動します。
シフトモードセレクターをRから変更すると、リアワイパーは停止します。
この機能のオン／オフを切り替えるときは、タッチスクリーンで設定します。

MEMO

リアウィンドウに雪が積もっているときは、この機能をオフにすることをおすすめします。

●ワイパーブレードの交換



ワイパーブレードの交換は、ワイパーをメンテナンスポジションにしてから行います。

1. イグニッションをオフにしてから 1 分以内にワイパーレバーを操作するとワイパーが中央に停止します。（メンテナンスポジション）
2. ワイパーブレードを交換するときはこの位置にしてください。
3. イグニッションをオンにしてワイパーレバーを操作すると、ワイパーは元の位置に戻ります。

⚠警 告

傷んだり汚れたワイパーブレードは視界を妨げ、安全性を損ない思わぬ事故につながるおそれがあります。すべてのウィンドウで良好な視界が確保された状態で走行してください。

MEMO

●ワイパーブレードを長持ちさせるには、次のことに気をつけてください。
・丁寧に取り扱ってください。
・せっけん水で定期的に洗ってください。
・ワイパーゴムが摩耗しているときは、早めに交換してください。
●ワイパーアームの交換はシトロエン指定サービス工場にお申し付けください。

間接式タイヤ空気圧警告

ESC システムが検知しているタイヤの回転に関する情報をもとにして、タイヤの空気圧に大きな変化があった場合に、警告をする機能です。

この機能は、以下のような状況のときに正常に作動します。
・初期化がされている。
・時速 5km 以上の速度で走行している。

警告灯が点灯した場合は速やかに停止し、タイヤの空気圧を確認して必要な処置をしてください。

MEMO

- ●タイヤの空気圧に 20%以上の変化があった場合に警告灯が点灯します。
- ●異常が検知された場合は、8 分以内に警告灯が点灯します。

●間接式タイヤ空気圧警告システムの初期化

タイヤの空気圧を調整したり、ホイールを変更したりした場合は、必ず間接式タイヤ空気圧警告機能を初期化してください。
これにより、その時点までの計測値をクリアして新たな標準値の取得とタイヤの回転情報の収集を開始します。

1.  タッチスクリーンのこのボタンをタッチします。
2. **ドライビング機能**をタッチします。
3. **タイヤ空気圧警告　初期化**をタッチします。
4. **Yes** をタッチします。

●システムの異常



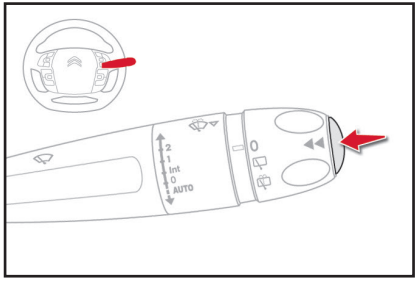
間接式タイヤ空気圧警告システムに異常が発生した場合は、間接式タイヤ空気圧警告灯が点滅したのち連続点灯します。また、警告音とともに **SERVICE** 警告灯が点灯し、メッセージが表示されます。シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。

⚠注 意

- ●初期化を行う前に、すべてのタイヤの空気圧が適正であることを確認してください。
- ●間接式タイヤ空気圧警告機能は、初期化時の空気圧が適正であるかどうかを検知することはできません。

ドライブコンピューター

●コントロールスイッチ



ドライブコンピューターは、ワイパーレバー先端のスイッチを押すことにより燃費や走行距離の情報を切り替えて表示します。

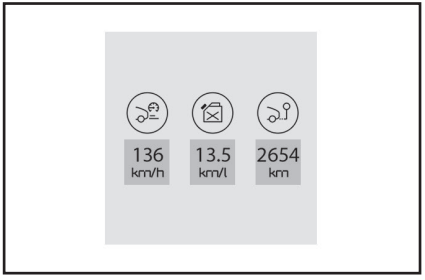
MEMO

インストルメントパネルの表示モードが**ダイヤル**の場合、または**パーソナル**でドライブコンピューターを選択している場合は、インストルメントパネル内のディスプレイにドライブコンピューターの情報が常に表示されます。

●ルートの選択

ワイパーレバー先端のスイッチを押すことにより、2 つのルートの情報を切り替えて表示します。
例えば、ルート 1 を月間の走行の平均に、ルート 2 を旅行用に、と使い分けます。

●ドライブコンピューター



ドライブコンピューターは、インストルメントパネルのディスプレイに以下の情報を表示します。

		1	2
走行可能距離	○		
瞬間燃料消費量	○		
エンジン停止時間	○		
平均速度		○	○
平均燃料消費量		○	○
走行距離		○	○

●走行可能距離

タンク内に残っている燃料で、あとどのくらい走行できるかを表示します。

過去数キロに消費された燃料の情報をもとに、今後も同じ割合で燃料が消費されるものと想定して表示します。
走行可能距離が 30km 以下になると、距離の表示はされません。
燃料の補給後は、数値が 100km 以上になると再度表示されます。

MEMO

走行中に数値のかわりにーが連続して表示されるときは、シトロエン指定サービス工場へご連絡ください。

●瞬間燃料消費量

過去数秒間の燃料消費量を表示します。
ただし、車の速度が時速 30km 以上のときのみ作動し、表示します。

●エンジン停止時間

ストップ&スタートによってエンジンが停止した時間を表示します。イグニッションをオンにするたびにゼロにリセットされます。

●平均速度

コンピューターをリセットしてから現在までの平均速度を表示します。

ただし、イグニッションスイッチをオンにしている状態の時間をもとに計算します。

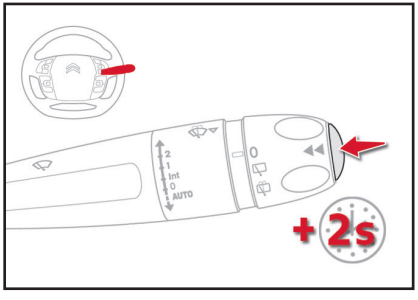
●平均燃料消費量

コンピューターをリセットしてから現在までの平均燃料消費量を表示します。

●走行距離

コンピューターをリセットしてから現在までの走行距離を表示します。

●リセット

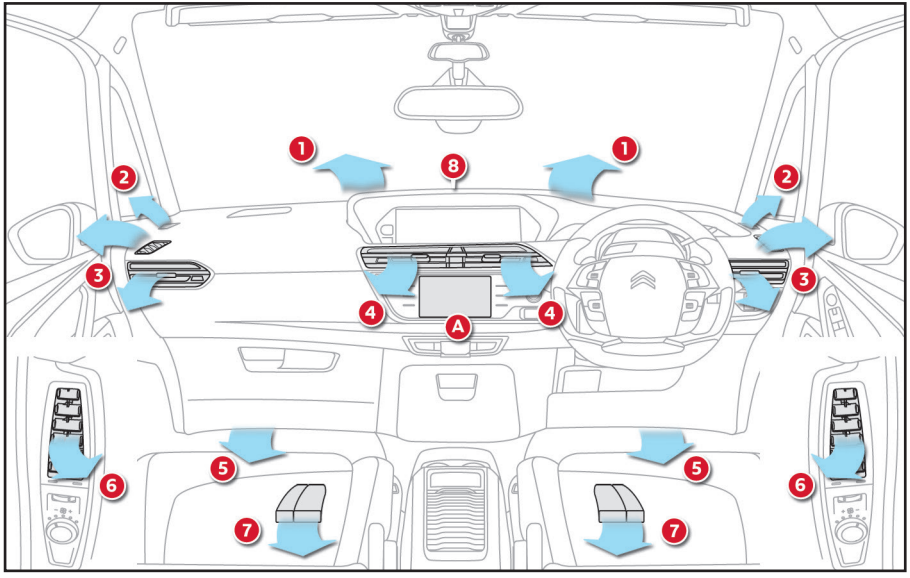


コンピューターをリセットするときは、ワイパーレバー先端のスイッチを 2 秒以上押し続けます。リセットはルートごとに行うことができます。リセット後しばらくはデータ不足のために正確な値が表示されないことがあります。
数字の代わりに水平なセグメントだけが表示されるときは、シトロエン指定サービス工場にご連絡ください。

第5章　室内装置の使いかた

エアコンディショナー ····· 5-2
タッチスクリーン ····· 5-12
ラゲッジルームのレイアウト（5シーター）····· 5-19
ラゲッジルームのレイアウト（7シーター）····· 5-21
ルームランプ ····· 5-23
インテリアレイアウト ····· 5-27

エアコンディショナー



A：空調コントロールパネル

①：フロントウィンドウ吹き出し口
②：サイドウィンドウ吹き出し口
③：ダッシュボード左右吹き出し口
④：ダッシュボード中央吹き出し口
⑤：ダッシュボード足元吹き出し口
⑥：２列目吹き出し口
⑦：後席用足元吹き出し口
⑧：日射センサー

ダッシュボード中央および左右の吹き出し口には、ルーバーやシャッターが付いています。これを使用すると、風向や風量の調整、他の吹き出し口へより多くの風を送るなどができます。

⚠警 告

エアコンを停止させると、空気の循環が全く行われません。ウィンドウが曇るので、一時的な停止にとどめてください。

⚠注 意

ストップ＆スタートによってエンジンが停止しているときは、暖房や冷房も止まります。必要に応じてストップ＆スタートを解除してください。

MEMO

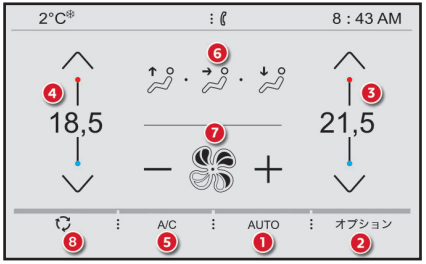
●室内の空気の入れ替えが十分に行えるように、装置を適切にコントロールしてください。
・室内が設定温度と差があっても、設定温度は変更する必要はありません。自動制御により、できるだけ早く温度差を解消します。
●冬期のエアコンから吹き出す風量は、エンジンが温まる前の冷たいときは少なく、温度が上昇するのに合わせて多くなります。
●空気の流れをスムーズにするために、次のことに注意してください。
・ボンネット内の外気取り入れ口がふさがれてないか。
・前席下のエアダクトや吹き出し口がふさがれてないか。
・ラゲッジルーム内の空気排出口がふさがれてないか。
●フロントウィンドウ下部に車内に空気を取り入れるグリルがあります。
・グリルが落ち葉、雪、泥などでふさがれていないか定期的に点検してください。
・高圧洗車機を使用するときは、高圧の水がグリルに入らないようにしてください。
●ダッシュボードには日射センサーがあります。この上に物を置いたり、布を被せるなどしないでください。エアコンが正しく作動しない場合があります。
●エアコンを長期間、快適に使用するためにも、1ヶ月に1度は5分から10分間の使用を推奨しています。
●エアコンシステムはエンジンの動力を使用しています。エアコンシステムを作動させると燃費がわずかに悪化します。外気温度が高温のときに負荷の多いトレーラーを坂道で引くときは一時的にエアコンを停止することをお勧めします。
●長時間、高温の場所に停車すると、室内の温度は非常に高くなります。吹き出し風量を最大にして数分間、換気を行ってください。
●車外からの花粉や粉じん、悪臭の侵入を防ぐフィルターが装備されています。このフィルターは定期的に交換する必要があります。詳しくはシトロエン指定サービス工場にお問い合わせください。
●シトロエンのエアコンシステムにはオゾン層破壊の原因となる有害フロンを使用していません。
●エアコンを正しくお使いいただくため、定期的に点検することを推奨しています。
●湿度が高いときなど、エアコンを使用していると車体の下から無色の水が流れ出ることがあります。これは空気中の水分が凝結したもので、異常ではありません。
●エアコンを使用していても冷気が出ないときは、使用を中止してシトロエン指定サービス工場にご連絡ください。

●左右独立式オートエアコン

運転席と助手席とで、別々に温度の設定ができます。
オートモードでは、ディスプレイに表示されているそれぞれの数値になるまで、エアコンのオン／オフ、内気／外気の切り替えや風量、吹き出し口が選択されます。

⚠注 意

寒冷時や雨天時には、ウィンドウの曇りを防ぐためにオートモードを選択してください。



●エアコン設定の表示

エアコンの設定は、タッチスクリーンで行います。

このボタンをタッチして、エアコン設定画面を表示させてください。

MEMO

タッチスクリーン画面上部のエアコン表示をタッチすると、エアコンの設定画面にアクセスできます。この画面では、温度の設定および風量の調整をすることができます。

* 仕様により異なります。

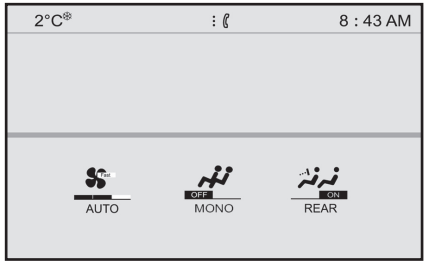
●オートモード

①：オート設定ボタン

AUTO　このボタンをタッチすると、インジケーターが点灯しオートモードになります。

②：オプションボタン

オプション：このボタンをタッチすると、オートモードの作動モードを変更できます。



SOFT: 室内の送風量を制限し、静かで穏やかに作動します。
NORMAL：室内の温度を最適に保ちながら、エアコンの作動音を抑えて作動します。
FAST: 室内の送風量制御を効果的に最大限活かして作動します。

助手席側の温度設定を運転席側の設定に合わせます。助手席側で温度設定が操作された場合には、この機能は自動的にオフになります。

２列目＊／３列目＊吹き出し口の調整が可能になります。このボタンをタッチして **ON** にすると、リアブロアの操作が可能になります。停止するには、再度ボタンをタッチして **OFF** にします。

MEMO

- ●オートモードでは、エアコンが適切に制御できるよう、各吹き出し口を開いた状態にしてください。
- ●ウィンドウが開いていると設定した温度を保てないことがあります。

③・④：温度設定ボタン
ボタン③：運転席側
ボタン④：助手席側



ディスプレイの表示を希望の数値に合わせます。
∧ボタンをタッチすると温度が上がり、∨ボタンをタッチすると温度が下がります。この値は室内温度ではなく、快適さのレベルを表しています。
21 に設定しておくと、快適な室内となりますが、お好みにより **14** ～ **28** の間を設定してください。

MEMO

左右の温度設定の差が **3** 以上にならないように設定してください。

●マニュアルモード
オートモードで設定された条件は個々に変更できます。
変更した条件を元に戻すときは、オート設定ボタンをタッチするとオートモードになります。

MEMO

温度を最高に設定したいときは、ディスプレイに **HI** が表示されるまで∧ボタンをタッチし、最低に設定したいときは、**LO** が表示されるまで∨ボタンをタッチします。

⑤：エアコンのオン／オフボタン

A/C　このボタンをタッチするとエアコン（冷房・除湿機能）は停止します。エアコンを作動させるには、再度ボタンをタッチします。インジケーターが点灯してエアコンが作動します。

⑥：吹き出し口の切り替えボタン
ボタンをタッチして吹き出し口を選択します。


フロントウィンドウとサイドウィンドウ


ダッシュボード中央と左右の吹き出し口


足元

5

⑦：風量調整ボタン

ボタンをタッチすると風量が増減します。

+

−

MEMO

ディスプレイのファンの羽根が消えて**OFF**が表示されるとエアコンが停止します。室温の調整は行われませんが走行により微量の風が吹き出し口から出ます。
風量調整ボタンをタッチすると、停止時の設定でエアコンが作動します。

⚠注 意

エアコンを停止させると、空気の循環が全く行われません。ウィンドウが曇るので、一時的な停止にとどめてください。

⑧：内／外気の切り替えボタン

外気が車内に入るのを防ぎます。外のいやな臭いの遮断や急速に冷暖房するときに使用します。

ボタンを押すたびに内気モード／外気モードが切り替わります。ボタンのインジケーターランプが消灯しているときは外気モード、点灯しているときは内気モードになっています。
内気モードでの長時間の使用は避けてください。換気が行われず、ウィンドウが曇ることがあります。

⚠警 告

内気循環モードは、必要以外は使用しないでください。ウィンドウが曇るだけでなく、車内の空気が新鮮でなくなり、運転者の集中力が低下したり疲れやすくなるため、事故やケガにつながるおそれがあります。

●視界の確保

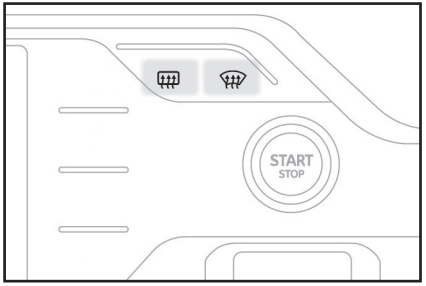
天候や乗車状況によっては、オートモードを選択していてもウィンドウガラスが曇ることがあります。フロント／リアそれぞれの視界確保モードボタンを押して曇りを取ってください。

⚠警 告

すべてのウィンドウの視界が保たれないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

MEMO

このモードを使用しているときは、ストップ&スタートの停止モードは使用できません。



フロントウィンドウ

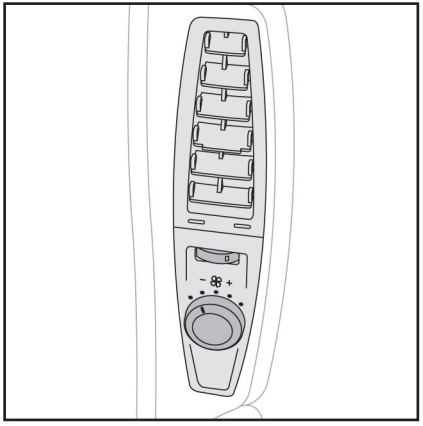
このボタンを押すとインジケーターが点灯し、システムは自動的に曇りを取り除くようにエアコンのオン／オフ、内気／外気の切り替えや風量、吹き出し口を選択してコントロールします。
このモードを解除するときは再度ボタンを押すか、オート設定ボタンをタッチします。インジケーターが消灯します。

リアウィンドウ

エンジンがかかっているときにこのボタンを押すと、リアウィンドウやドアミラーの曇りを取ります。スイッチは自動的に切れます。
このモードを解除するときは再度ボタンを押します。

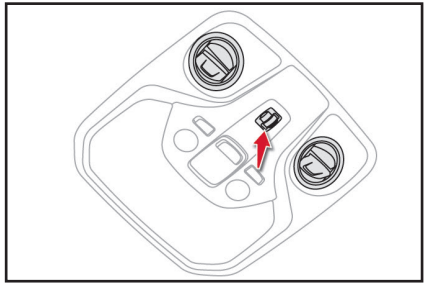
* 仕様により異なります。

●2列目吹き出し口の調整*



タッチスクリーンでリアブロアをオンにし、ツマミで風量を調節してください。風量は 4 段階で調整できます。

●3列目吹き出し口の調整*



吹き出し口のカバーを押し、ホイールで風量を調節してください。風量は 3 段階で調節できます。吹き出し口のカバーを回して風向きを調節してください。

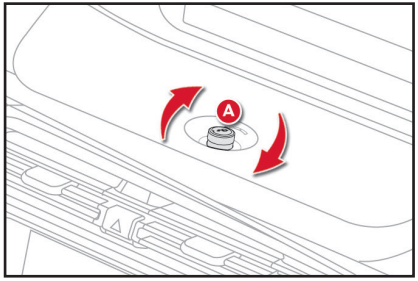
●換気モード

イグニッションをオンにしてから数分間、エンジンが停止していてもエアコン設定画面で風量と吹き出し口の切り替えを操作することができます。

MEMO

- ●換気モードは、バッテリーの電力が十分なときに作動します。
- ●換気モードでは、エアコン（冷房・除湿機能）は作動しません。

●パルファムエアフレッシュナー*



必要に応じダイヤル **A** を調整して、あらかじめセットされた芳香剤を室内に拡散させる機能です。

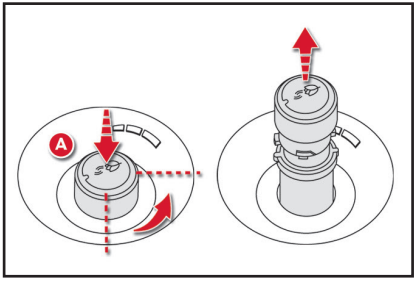
●ダイヤルの調整

ツマミを右 (時計方向) に回すと香料がでます。ツマミを左 (反時計方向) に回すと香料はでません。

MEMO

- ●パルファムエアフレッシュナーを使用するときは、ダッシュボード中央吹き出し口を開けてください。
- ●香りの強度は、風量とエアコンの設定に依存します。
- ●カートリッジを長く使用していただくため、使用しないときはダイヤルを回して芳香剤の拡散を止めてください。

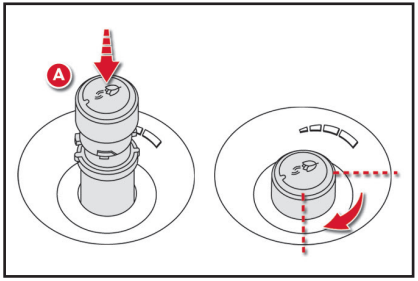
●カートリッジの交換



取りはずし

1. ツマミ **A** を押しながら左へ 1/4 回転させます。
2. ツマミをダッシュボードから取りはずします。
3. 専用のキャップに入れます。

* 仕様により異なります。



取り付け

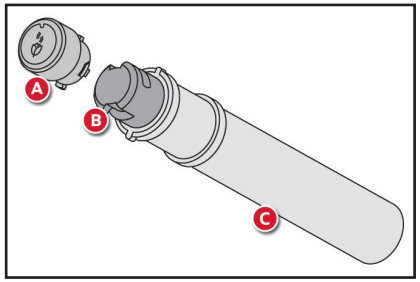
1. カートリッジをキャップからはずします。
2. 花柄を上にしてツマミをダッシュボードに入れます。
3. ツマミを押し込み、右へ 1/4 回転させます。

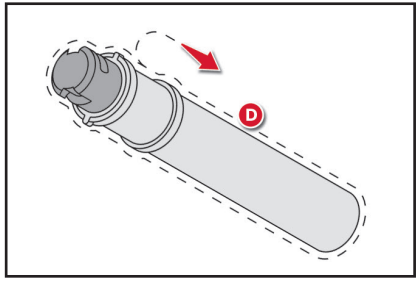
MEMO

オリジナルのカートリッジは保管しておいてください。
芳香剤を使用しないときのふたとなります。

芳香剤カートリッジ

芳香剤を入れたカートリッジは簡単に取りはずすことができます。
パルファムエアフレッシュナーの効果がなくなったら、次の手順でカートリッジの交換を行ってください。
交換用の芳香剤カートリッジをお求めの場合、シトロエン販売店にご連絡ください。





1. 新しいカートリッジの外装フィルム **D** をはずします。
2. カートリッジ **B** の先端をパルファムエアフレッシュナーのツマミ **A** に差し込みます。
3. カートリッジのホルダー **C** が動かなくなるまで約 1/4 回転させ、ツマミにカートリッジが固定されたら、ホルダー **C** を取りはずします。
4. パルファムエアフレッシュナーを車の取り付け位置に挿入します。

⚠警 告

- ●運転中はカートリッジに触らないでください。
- ●カートリッジを分解しないでください。
- ●シトロエン純正部品以外の芳香剤を補充しないでください。
- ●芳香剤が目に入ったり皮膚に触れないようにしてください。
- ●カートリッジはお子さまやペットが触れない場所に保存してください。
- ●エアフレッシュナーの内容物を誤って口に入れた場合、すぐに医師の診断を受けてください。

タッチスクリーン

コンソールのタッチスクリーンから、車の設定やオーディオシステムの操作など、以下のような操作や表示が行なえます。

- エアコンの操作
- 車の機能の設定
- オーディオの設定
- タッチスクリーンの設定
- ハンズフリー通話の設定
- パークアシストやバックモニターの画面表示と設定
- カーナビゲーション

⚠警 告

安全上の理由から、各種設定などの複雑な操作は、車両を停止し、イグニッションをオンにした状態で実施してください。

MEMO

エンジンを停止した後、またはイグニッションをオフにした後は、タッチスクリーンの画面と音声がしばらくの間保持されます。運転席側ドアを開けるとタッチスクリーンがオフになります。

●タッチスクリーンの基本操作

タッチスクリーンを操作する際は、一本の指でやや強めにタッチおよびフリック（タッチした状態での指の移動）を行ってください。

MEMO

スクリーンを拭く際は、市販の不織布（メガネ拭き等）をご使用いただけます。

ページの移動

← 前のページに戻ります。

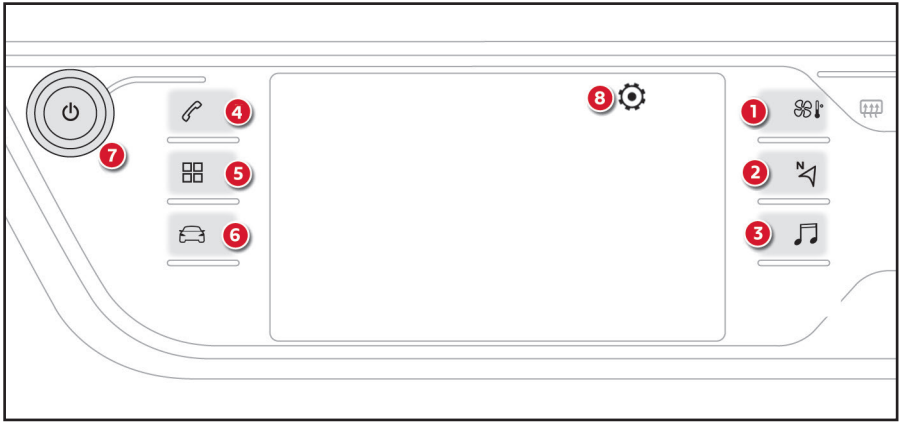
MEMO

タッチスクリーンのグレーアウトされたエリアをタッチすると前のページに戻ります。

設定の変更

OK 設定項目の変更後、変更画面にある OK ボタンにタッチして設定を有効にします。

●メニューボタン



タッチスクリーンのメニューボタンをタッチするとそれぞれ以下のような設定が行えます。

①：エアコンの設定画面を表示します。

②：ナビゲーションを表示します。（装着車のみ）

③：オーディオやラジオの再生・設定画面を表示します。

④：ハンズフリー通話の通話・設定画面を表示します。

⑤：画像ファイルの表示など、その他の設定画面を表示します。

⑥：車の機能の設定を表示します。

⑦：ツマミを回して音量を調節できます。ツマミを押すと、ミュート（消音／停止）になります。

⑧：タッチスクリーンの設定画面を表示します。

MEMO

●オーディオやハンズフリー通話に関しては、付録を参照してください。
●ナビゲーションに関しては、ナビゲーションの取扱説明書を参照してください。

●日付と時刻の設定

時刻の設定

1.  タッチスクリーンのこのボタンをタッチします。
2.  をタッチします。
3.  をタッチします。
4. **時刻**をタッチします。
5. 時間をタッチしてタッチスクリーンで数値を入力します。
6. **OK**をタッチします。

日付の設定

1.  タッチスクリーンのこのボタンをタッチします。
2.  をタッチします。
3.  をタッチします。
4. **日付**をタッチします。
5. 日付にタッチし、画面をスクロールして、日付を設定します。

MEMO

●日付と時刻は、時刻設定画面の **GPS 同期**を **OFF** にしてから設定してください。
●時刻設定画面の **GPS 同期**を **ON** にしたときは、**標準時設定**を**ソウル**、**東京**、**イルクーツク**に設定してください。

* 仕様により異なります。

●設定項目一覧

ボタン			設定項目	追加設定項目
	ドライビング機能	インテリジェントハイビーム	ボタンをタッチすると、インテリジェントハイビームがオン／オフします。	-
		レーンキープアシスト	ボタンをタッチすると、レーンキープアシストがオン／オフします。	-
		360˚ ビジョン	360˚ ビジョンの設定を行います。	-
		ストップ&スタート	ボタンをタッチすると、ストップ&スタートがオン／オフします。	-
		アクティブクルーズコントロール *	ボタンをタッチすると、アクティブクルーズコントロールがオン／オフします。	-
		パーキングセンサー	ボタンをタッチすると、バック／フロントソナーがオン／オフします。	-
		ブラインドスポットモニター	ボタンをタッチすると、ブラインドスポットセンサーがオン／オフします。	-
		タイヤ空気圧警告　初期化	間接式タイヤ空気圧警告の初期化を行ないます。	-
		トラクションコントロール	ボタンをタッチすると、ASR システムがオン／オフします。	-
		ダイアグノシス	不具合の発生状況を呼び出します。	-

ボタン				設定項目	追加設定項目
	車両設定	ライト	ディレクショナルヘッドランプ	ボタンをタッチすると、ディレクショナルヘッドライトがオン／オフします。	-
			フォローミーホームライト	ボタンをタッチすると、フォローミーホームがオン／オフします。	点灯時間を設定することができます。
			ウエルカムランプ	ボタンをタッチすると、エクステリアウェルカムランプがオン／オフします。 リモコンによって解錠したときに一定時間ライトが点灯します。	点灯時間を設定することができます。
		コンフォート	リバース連動式リヤワイパー	ボタンをタッチして、オン／オフします。 リバース時にリアワイパーが作動します。	-
			リバース時のドアミラー自動調整 *	ボタンをタッチすると、オン／オフします。 リバース時にドアミラーが下向きになります。	-
			アンビエンスライト	ボタンをタッチすると、アンビエンスイルミネーションがオン／オフします。	明るさを調整することができます。

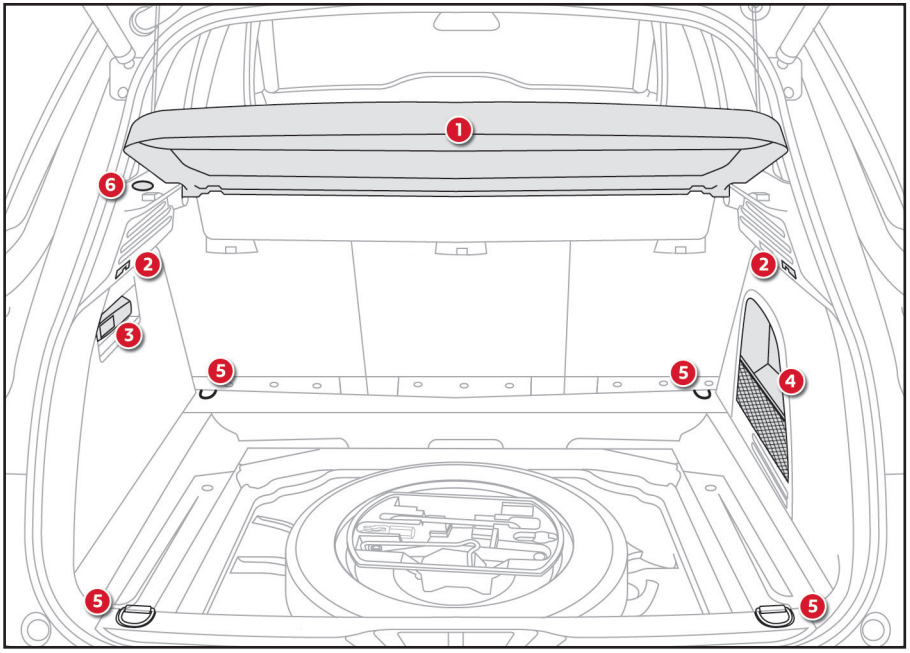
5

* 仕様により異なります。

ボタン				設定項目	追加設定項目
	車両設定	車両へのアクセス	開錠：運転席側ドアのみ	ボタンをタッチすると、オン／オフします。選択解錠モードになります。	-
			トランクのみ開錠	ボタンをタッチすると、オン／オフします。テールゲートだけを解錠することができます。	-
			電動テールゲート *	ボタンをタッチすると、エレクトリックテールゲートがオン／オフします。	-
			ハンズフリー電動テールゲート *	ボタンをタッチすると、ハンズフリーエレクトリックテールゲートの機能がオン／オフします。	-
			ハンズフリー　ロック *	ボタンをタッチすると、ハンズフリー電動テールゲート閉時の車両の自動施錠がオン／オフします。	-
		セキュリティー（セーフティー）	ディスタンスアラート設定	ボタンをタッチすると、アクティブセーフティブレーキがオン／オフします。	車間距離を設定することができます。
			疲労検知システム	ボタンをタッチすると、ドライバーアテンションアラートがオン／オフします。	-
			制限速度の表示	ボタンをタッチすると、スピードリミットインフォメーションがオン／オフします。	-

ボタン		設定項目	追加設定項目
		タッチスクリーンの画面が消灯します。	-
		インストルメントパネルとタッチスクリーンの画面の明るさを調整します。	-
		タッチスクリーンのプロファイルを設定します。	-
		**Units**	温度の単位や燃費表示の単位を設定します。	-
		初期設定	タッチスクリーンの初期化を行います。	-
		システム情報	タッチスクリーンのシステム情報を参照します。	-
		**明るさ**	インストルメントパネル * とタッチスクリーンの画面の明るさを調整します。	-
		アニメーション	画面のアクションなどを設定します。	-
		画面のデザイン（カラースキーム）を変更します。	-
		インストルメントパネルのゾーン B に表示される項目を選択します。	-
		言語を設定します。	-
		日時を設定します。	-
		日本仕様車では使用できません。	-

ラゲッジルームのレイアウト（5シーター）



⚠警 告

ラゲッジルームに荷物を積む際には、しっかりと荷物を固定してください。固定されていないと荷物が突然動き、走行に影響をおよぼしたり、急ブレーキや事故の際に、荷物により乗員がケガをするおそれがあります。

●各部の名称

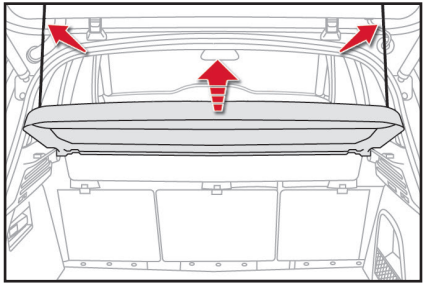
①：ラゲッジカバー
②：フック
③：懐中電灯 *
④：固定ネット
⑤：固定リング
⑥：12V 電源ソケット
（最大使用電力：120W）

注 意

ラゲッジルームに工具入れが装備されている場合は、荷物を積む前に工具入れを元の位置に戻してください。
工具入れはラゲッジルームの床の支えを兼ねていますので、ないと床が変形します。

* 仕様により異なります。

●ラゲッジカバー

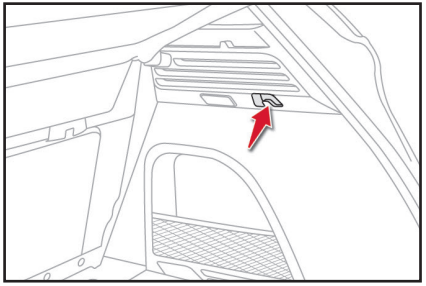


カバーのはずしかた

1. 2 つのひもをはずします。
2. カバーを持ち上げてはずしてください。

ラゲッジカバーを使用しないときは、立ててフロントシートの裏、またはリアシートの裏側に平らに格納できます。

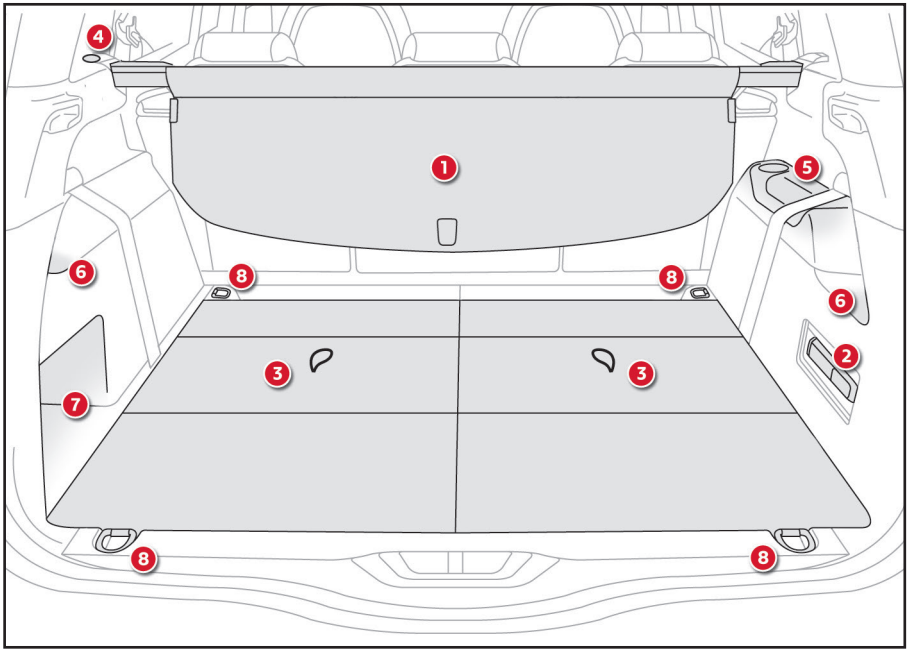
●フック



買い物袋などを引っかけるのに便利なフックです。

* 仕様により異なります。

ラゲッジルームのレイアウト（7シーター）



●各部の名称

①：ラゲッジルームカバー
②：懐中電灯 *
③：ラゲッジルームボード
④：12V 電源ソケット（最大使用電力：120W）
⑤：アームレスト（カップホルダー／小物入れ）
⑥：ラゲッジルームカバー収納位置
⑦：収納スペース
⑧：固定リング

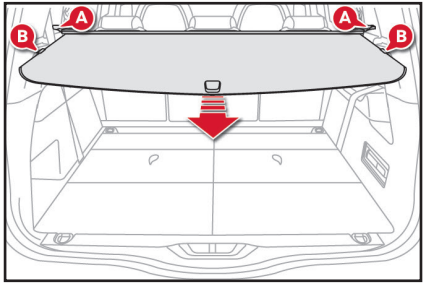
⚠警 告

ラゲッジルームに荷物を積む際には、しっかりと荷物を固定してください。固定されていないと荷物が突然動き、走行に影響をおよぼしたり、急ブレーキや事故の際に、荷物により乗員がケガをするおそれがあります。

●ラゲッジルームカバー

5シート時に2列目シート後方をラゲッジルームカバーで隠すことができます。

ラゲッジルームカバーの取り付け

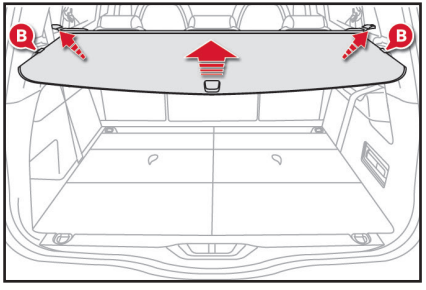


1. ラゲッジルームカバーの可動式フラップを車両前方に向け、ローラーの両端をサポート部 **A** に置きます。
2. カバーを引き出し、ピラー部 **B** のレールに差し込みます。

MEMO

ラゲッジルームカバーの可動式フラップは、2列目シートをコンフォートポジションにするときに使用します。

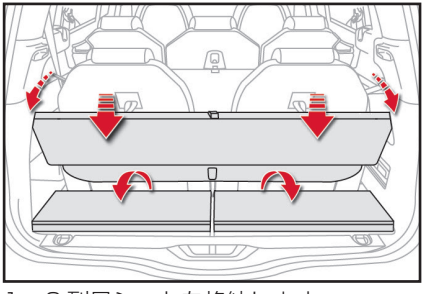
ラゲッジルームカバーの取りはずし



1. ラゲッジルームカバーを後方に引いて、ピラー部 **B** のレールから取りはずし巻き取ります。
2. サポート部のグリップを押してロックをはずし、ローラーを取りはずします。

ラゲッジルームカバーの収納

7シートのときはラゲッジルームカバーを3列目シートの後ろに収納してください。

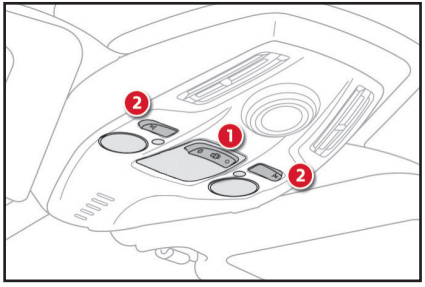


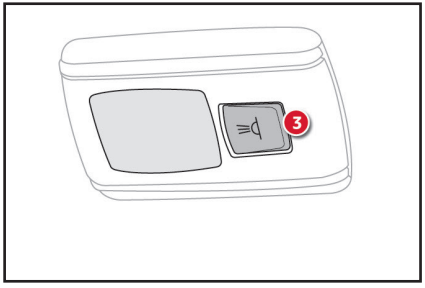
1. 3列目シートを格納します。
2. ラゲッジルームボードを後方に2回折りたたみます。
3. 可動式フラップが下を向くようにローラーの両端をアームレストの上部から片方ずつ挿入し、ピラー部のレールに差し込んで奥までスライドさせます。

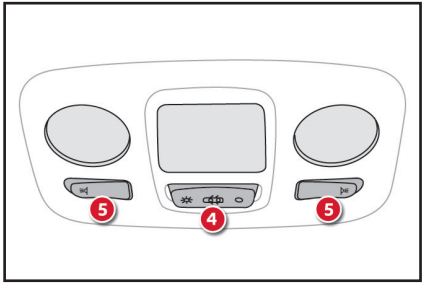
MEMO

ラゲッジルームカバーを3列目シートの後ろに収納しているとき、3列目シートを格納する場合は、ラゲッジルームボードを立ててから、3列目シートのロックを解除するストラップを操作してください。

ルームランプ







①：フロントルームランプ
②：フロントマップランプ
③：リアリーディングランプ
④：リアルームランプ *
⑤：リアマップランプ *

●フロント／リア*ルームランプ

フロント／リアルームランプは、スイッチ①④の位置を切り替えると点灯条件が変更できます。

次の状況でフロントとリアルームランプは徐々に点灯します。

- ドアのロックを解除したとき
- ドアを開けたとき
- イグニッションをオフにしたとき
- 車外からスマートキーが操作されたとき

MEMO

フロント／リアルームランプのスイッチがこの位置にあるときは、エクステリアサイドランプも点灯します。

また、次の状況では徐々に暗くなって消灯します。

- ドアをロックしたとき
- イグニッションをオンにしたとき
- イグニッションがオフで、最後のドアが閉まって 30 秒後

消灯したままになります。

点灯したままになります。

点灯時間は、次の状況で変わります。

- イグニッションをオフにして約 10 分間
- エコノミーモードで約 30 秒間
- エンジンを始動すると無制限

MEMO

フロントルームランプスイッチが「常時点灯」の位置にあるときは、リアルームランプスイッチが「消灯」以外の位置にある場合、リアルームランプも連動して点灯します。

* 仕様により異なります。

●フロント／リア*マップランプ

イグニッションがオンのときに、スイッチ②⑤の位置を切り替えると点灯／消灯します。

●リアリーディングランプ

点灯

イグニッションをオンにして、スイッチ③を 1 回押すと点灯します。
次の状況では徐々に点灯します。

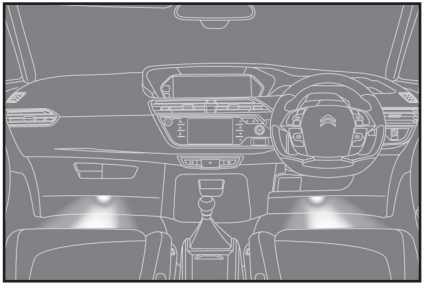
- ドアのロックを解除したとき
- ドアを開けたとき
- イグニッションをオフにしたとき
- 車外からスマートキーが操作されたとき

消灯

次の状況では徐々に暗くなって消灯します。

- ドアをロックしたとき
- イグニッションをオンにしたとき
- イグニッションがオフで、最後のドアが閉まって 30 秒後

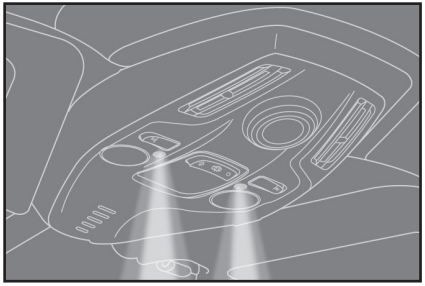
●足元照明*



ドアが開くと、ルームランプとともに点灯し、足元を照らします。

* 仕様により異なります。

●アンビエンスイルミネーション



点灯
周囲が暗いときや夜間にポジションランプを点灯すると、照明が自動的に点灯します。

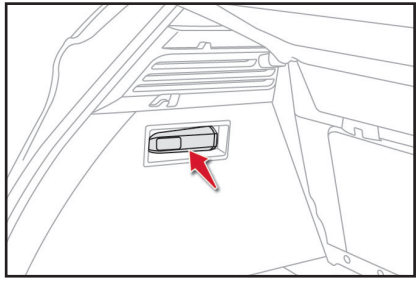
消灯
ポジションランプを消灯すると、照明が自動的に消灯します。

アンビエンスイルミネーションのオン／オフは、タッチスクリーンで設定します。

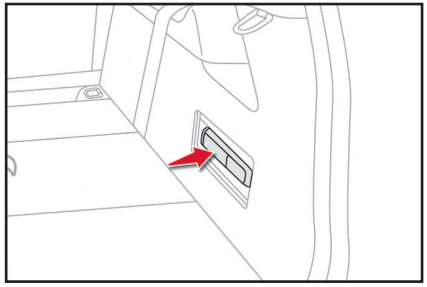
注 意

ルームランプに何も物が触れないようにしてください。

●エマージェンシートーチ*



5 シーター



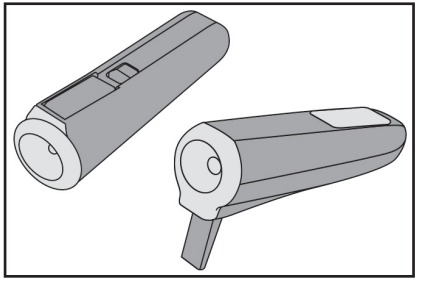
7 シーター

ラゲッジルーム脇に、走行中に充電可能なニッケル水素充電池タイプのエマージェンシートーチがあります。約 45 分間使用できます。

注 意

●エマージェンシートーチを取り付けるときは、電極の位置を合わせて正しく取り付けてください。
●充電池の代わりに乾電池を使用しないでください。

使用するときは



エマージェンシートーチの前側を引き上げて取りはずします。
エマージェンシートーチのスイッチを押すとライトがオン／オフします。

MEMO

スタンドを開くとタイヤ交換のときなど、エマージェンシートーチを上向きにして使用できます。

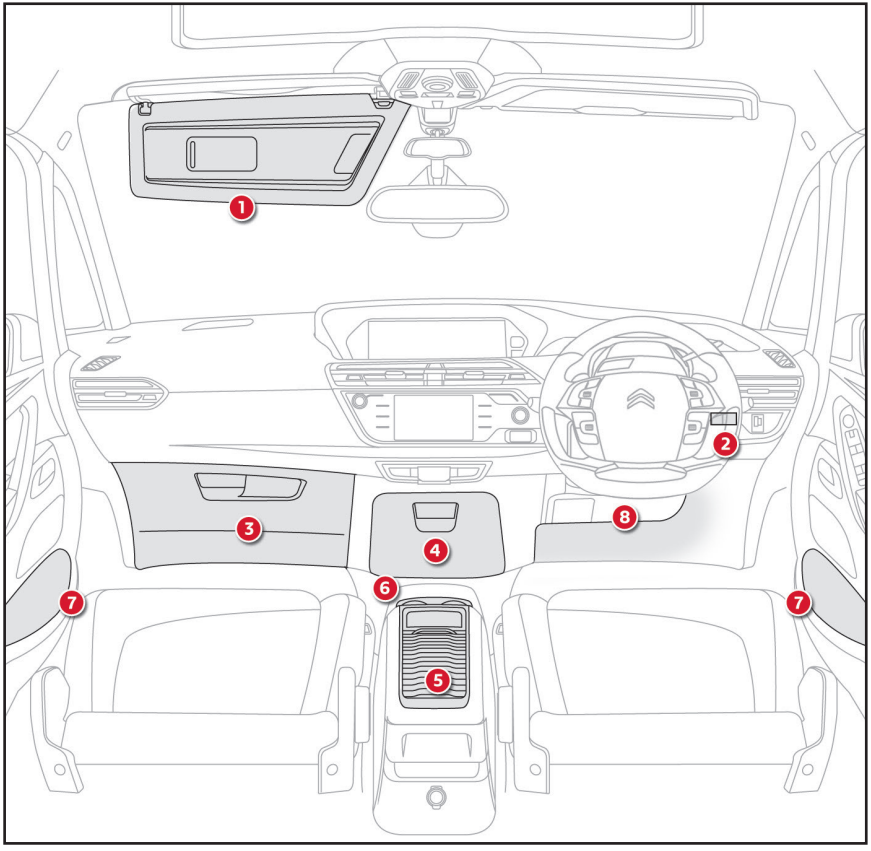
格納するときは

エマージェンシートーチの後ろ側から元の位置に押し戻します。格納すると、自動的にライトがオフになります。

注 意

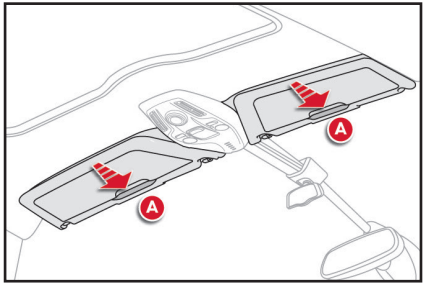
正しく取り付けられていないと、充電ができなかったり、テールゲートを開けたときに点灯しない場合があります。

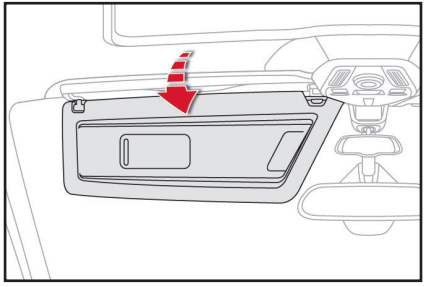
インテリアレイアウト



①：サンバイザー
②：チケットホルダー
③：グローブボックス
④：センターコンソール
(12V 電源ソケット／ USB ポート)
⑤：脱着式センターコンソール
⑥：カップホルダー
⑦：ドアポケット
⑧：ブックホルダー

●スライディングサンバイザー





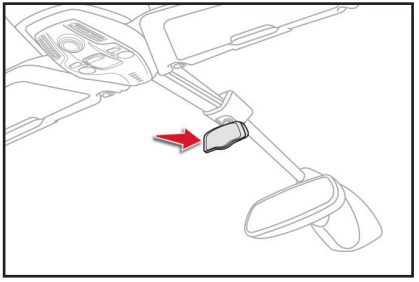
手動で位置を調整できます。前方からの光が眩しいときは、サンバイザーの **A** 部に指をかけ、前方にスライドさせるとブラインドが伸びてサンバイザーが前方へ移動します。また、横からの光が強いときは、中央部のクリップからはずしてサイドウィンドウ側に回すことができます。

サンバイザーをサイドウィンドウ側に回すには、最初にサンバイザーを垂直の状態にしてから、中央部のクリップからはずしてください。ロック機能があるため、垂直の状態にないとクリップからはずれません。

注 意

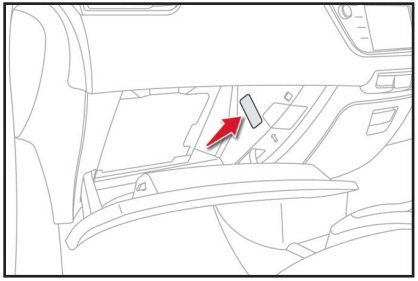
サンバイザーをスライドさせるレール部分には、物を取り付けたり、つり下げたりしないでください。

●チャイルドウォッチミラー



運転中も容易に後部座席の確認ができるよう、チャイルドウォッチミラーがルームミラー上部に装備されています。
夜間に後続車のヘッドランプが眩しいときは、台座部を回転させてミラーの向きを調節することができます。

●グローブボックス



ハンドルを引くと開きます。中の照明が点灯します。
エアダクトから、室内と同じ空調されたエアを導入することができますが、冷蔵庫や温蔵庫の機能はありませんので、飲食物の保存はできません。

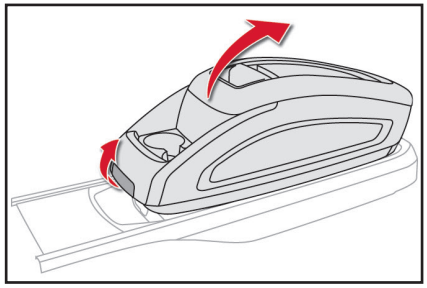
⚠警 告

グローブボックスのふたを開けたまま走行しないでください。急ブレーキ時や衝突時に身体がぶつかり、ケガをするおそれがあります。

●脱着式センターコンソール

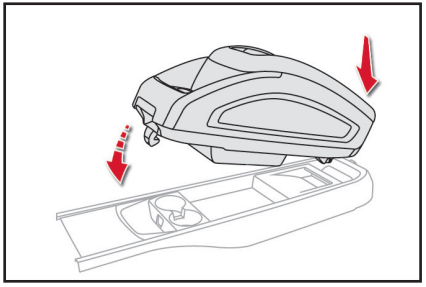
取りはずし可能なセンターコンソールです。収納スペースとカップホルダーが 2 つあります。

取りはずし



1. センターコンソールの前部にあるハンドルを引き上げてロックを解除します。
2. センターコンソールの前部を持ち上げてから後部を持ち上げて取りはずします。

取り付け

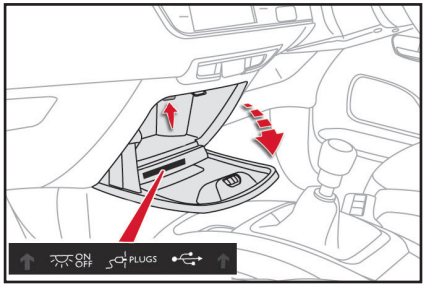


取りはずしの逆の手順で行います。
取り付け後は、しっかりと固定されているか確認してください。

⚠注 意

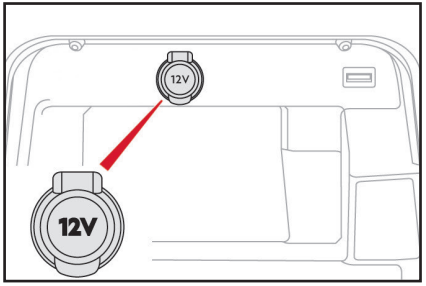
取りはずしたセンターコンソールはラゲッジルームに積んで、ネットやベルトを使用して固定してください。急ブレーキをかけたときや衝突の際、飛び出してケガをするおそれがあります。

●センターコンソール



センターコンソールには 12V 電源ソケットおよび USB ポートが装備されています。
ハンドルを引くと開き、中の照明が点灯します。
コンソール内上部のスイッチを押すと照明が点灯しなくなります。

12V 電源ソケット

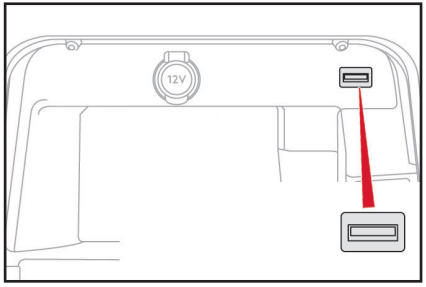


12V 電源（最大使用電力：120W）を使用する際は、カバーを持ち上げてはずし、適切なアダプターを接続します。

注 意

- ●12V 電源ソケットを使用するときは、最大使用電力を守ってください。規定容量を超える電気製品を使用すると、車両ヒューズが切れることがあります。
- ●接続する機器によっては、車に適合しなかったり正常な作動を妨げる可能性があります。

USB ポート



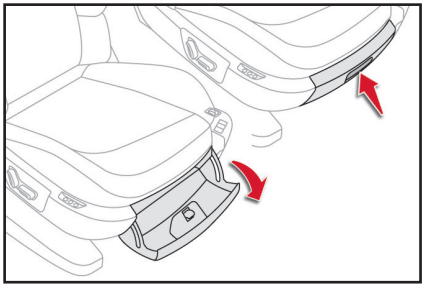
USB ポートにさまざまなデバイスをつなげ、保存された音楽を車両スピーカーで楽しむことができます（接続する機器やファイル形式により再生できないものもあります）。
ステアリングスイッチおよびタッチスクリーンで再生操作が行えます。
USB ポートを使用すると、接続したデバイスが自動的に検出されます。

MEMO

- ●USB ポートへ接続すると、自動的に接続した機器の充電が行われます。
- ●使用電力が規定容量を超える機器を使用するとメッセージが表示されることがあります。

* 仕様により異なります。

●フロントシート収納ボックス*

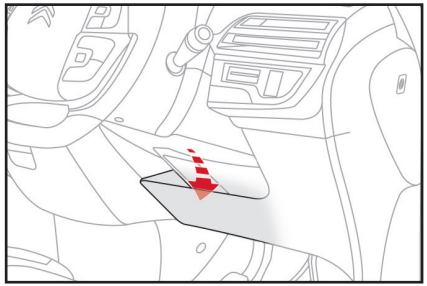


ハンドルを引き上げると開きます。

MEMO

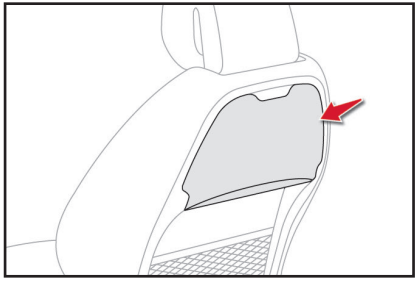
フロントシート収納ボックスに重たいものを収納しないでください。

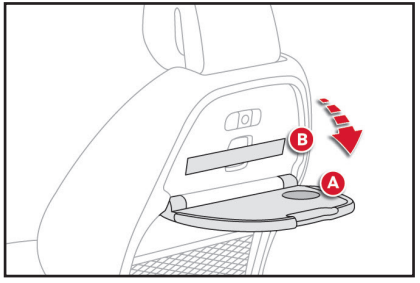
●ブックホルダー



取扱説明書やメンテナンスノートなどが収納できます。

●フロントシートバックテーブル／リーディングランプ*



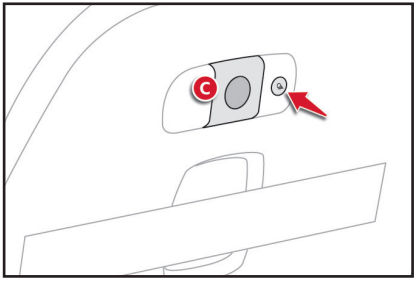


フロントシートのバックレスト背面には、可倒式のテーブルが装備されています。テーブルを開くとカップホルダー **A**、ストラップ **B** が使用できます。

MEMO

安全のため、テーブルに強い力がかかるとバックレスト側に倒れます。

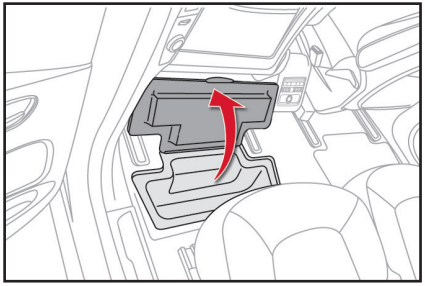
テーブルを使用するときは、取っ手を持って下側に開きます。
テーブルを収納するときは、テーブルを上げてカチッと音がしてロックするまで押します。



リーディングランプ **C** は、テーブルを開いているときのみ使用できます。ランプ右側のボタンを押して点灯／消灯します。

* 仕様により異なります。

●2列目フロア収納ボックス



2 列目シートの足元にフロア収納ボックスが 2 つあります。取っ手を持って開けます。

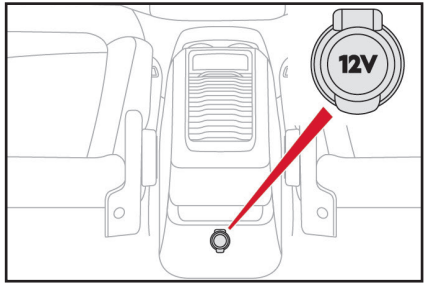
⚠注 意

走行中、2 列目フロア収納ボックスのふたは必ず閉めてください。

●3列目の収納

3 列目のサイドパネルには、収納スペースとカップホルダーがあります。

●12V電源ソケット

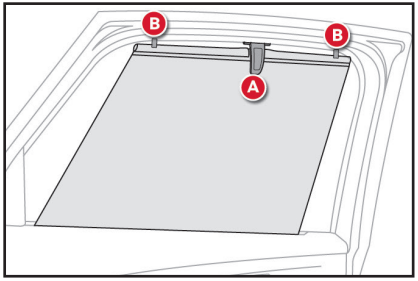


12V 電源ソケットを使用する際はカバーを開き、適切なアダプターを接続してください。
（最大使用電力：120W）

注 意

- ●12V 電源ソケットを使用するときは、最大使用電力を守ってください。規定容量を超える電気製品を使用すると、車両ヒューズが切れることがあります。
- ●接続する機器によっては、車に適合しなかったり正常な作動を妨げる可能性があります。

●2列目シートのサンシェード



2 列目シート用のサンシェードは、後席ドアに装備されています。
サンシェードを閉めても外の景色を見ることができます。

使用するとき

1. タブ **A** を引き上げてサンシェードを引き出します。
2. フック **B** に引っ掛けて固定します。

⚠注 意

サンシェード周辺部 (サンシェードやサンシェードフックなど) に、重たい物を取り付けたり、つり下げたりしないでください。

第6章　お手入れ・メンテナンス

外装のお手入れ…… 6-2
内装のお手入れ…… 6-2
エンジンルームの点検…… 6-3
電球の交換 …… 6-7
ヒューズの交換 …… 6-16
燃費の改善について ……6-20
推奨交換時期 ……6-21
推奨油脂類 ……6-21
推奨点検時期 ……6-22

外装のお手入れ

自動車の使用される環境はさまざまで、工場地帯の酸を含んだ空気、鉄道沿線の鉄粉、沿岸部の塩分を含んだ風、積雪地帯の融雪剤などは車体に対して腐食、錆といった悪影響を与えます。
長期間にわたって車を美しく安全に使用していただくためには、こまめなお手入れをお勧めします。

●洗車機による洗浄

通常のお手入れは、洗車機による洗浄で十分です。
ただし、ボンネットの合わせ目、ドアの下などは汚れが残ることが多いので、手洗いをお勧めします。

●手による洗浄（手洗い）

まずホースでたくさん水をかけて、ほこりを落とします。
次にスポンジと適当に薄めたカーシャンプーで車体の上から下へと洗います。
最後に車体の下側をホースで水をかけてきれいにします。

内装のお手入れ

●レザーシート

レザーは、汚したままにしておくと摩耗してもろくなります。
定期的にお手入れすることをお勧めします。
清掃は、水につけてかたくしぼった布で表面を拭き、その後やわらかい清潔な布で空ぶきします。
汚れがひどいときは、市販の皮革用洗剤を使用します。

●ビニール（インストルメントパネル、ドアトリムパッド、ヘッドライニング）

やわらかい布に温かい石けん液を含ませ、よくしぼって拭きます。

●シートベルト

石けん水をつけた固くしぼった布で、ベルト部分だけを拭きます。
清掃時は、金属部分に水が付かないようにしてください。
シトロエン販売店では、シートベルトに使用できるクリーニング製品を取り扱っています。

●ウィンドウガラス、ミラー

市販のガラス専用クリーナーで洗浄してください。

●フロアマット、カーペット

車外に取りはずし、ほこりや砂を十分に落として内装用洗剤で洗ってください。

●長期間使用しないとき

車を長期間使用しないときは、保管中の故障を防ぐために以下の保守を行ってください。

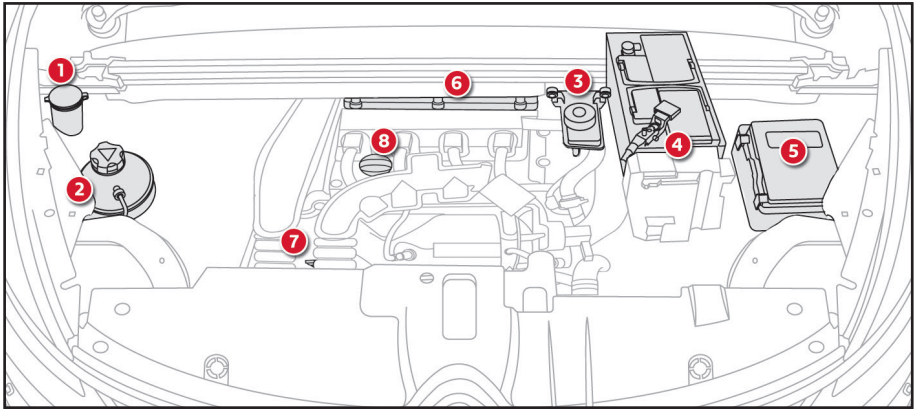
保管前に行うこと

- タイヤのフラットスポット（変形）を防ぐために、タイヤ空気圧を規準より30～50% ぐらい上げてください。
- バッテリーの端子をはずしてください。
- 必要に応じて、ボディーカバーをかけてください。

保管中に行うこと

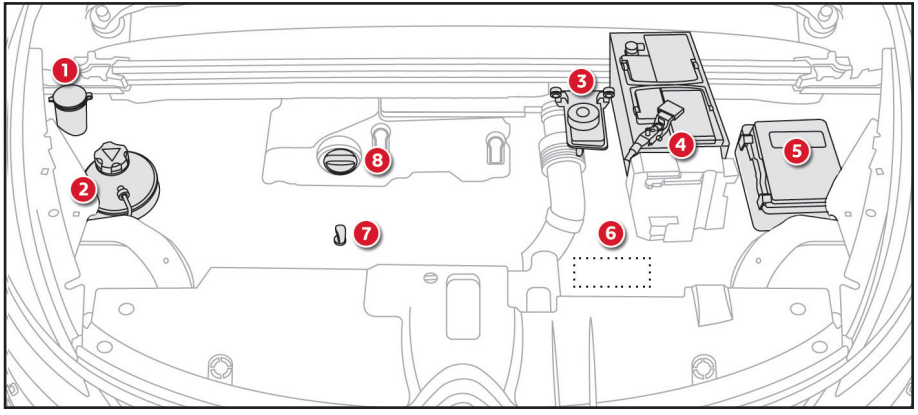
1ヶ月に1回程度、バッテリーの端子を接続してエンジンを数分～数十分かけてバッテリーを充電してください。

エンジンルームの点検



ガソリンエンジン

①：ウィンドウウォッシャーとヘッドライトウォッシャー液タンク
②：クーラント（冷却水）タンク
③：ブレーキフルードタンク
④：バッテリー／ヒューズ
⑤：ヒューズボックス
⑥：エアフィルター
⑦：エンジンオイルレベルゲージ
⑧：エンジンオイル注入口



ディーゼルエンジン

①：ウィンドウウォッシャーとヘッドライトウォッシャー液タンク
②：クーラント（冷却水）タンク
③：ブレーキフルードタンク
④：バッテリー／ヒューズ
⑤：ヒューズボックス
⑥：エアフィルター
⑦：エンジンオイルレベルゲージ
⑧：エンジンオイル注入口

⚠警 告

- ●エンジンルーム内の点検をする前に、エンジンが冷えていることを確かめてください。
- ●エンジンが熱いときは、イグニッションがオフになっていてもファンが回りだして、思わぬケガをすることがあります。
- ●エンジンルームから蒸気や冷却水が噴き出ている場合は、ボンネットを開けないでください。やけどやケガを負うおそれがあります。
- ●作業手順が分らない場合や、必要な工具が不足していたり工具の使用方法がわからない場合は、作業を行わないでください。
- ●エンジンが停止しているのを確認し、キーを車外に出してください。また、シフトモードセレクターを **N** に入れ、パーキングブレーキをかけてください。
- ●ディーゼルエンジンは高圧の燃料噴射装置を採用しています。点検や整備はシトロエン指定サービス工場にお申し付けください。

⚠警 告

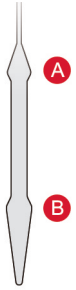
熱くなっているエンジンの部品には触れないでください。また、熱くなっているエンジンやエキゾーストシステムの上に、オイル等の液体をこぼさないでください。やけどや火災のおそれがあります。

⚠注 意

エンジンルームのカバー類を取りはずすときは、止めているクリップを損傷しないように注意してください。また、取り付けるときにも注意して取り付けてください。
カバーがしっかりと取り付けられていないと、走行中にはずれて可動部に巻き込まれるなどして、故障や事故の原因になることがあります。

●エンジンオイルの点検

1. 車を水平な場所に停めます。
2. エンジンを停止して 30 分以上経過してからオイルレベルゲージを抜き取り、布でオイルを拭き取ります。
3. 元の穴にいっぱいに差し込み、再び静かに抜いてゲージに付いたオイルで油量を調べます。



レベルゲージに付着したオイルの汚れ具合も点検します。
オイルはエンジンの回転によって消費されますので、次のオイル交換までの間にオイルを補充しなければいけないことがあります。
走行 5000 ｋｍ毎にオイルレベルを点検し、必要に応じて補充してください。

A：上限
B：下限

オイルの消費量が急に増えたり、汚れがひどくなったときは、シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。

注 意

遠方へのお出かけ前だけでなく、日頃からエンジンオイルの点検をしてください。

●エンジンオイルの補給

補充する前に、オイルレベルゲージを抜き取っておきます。オイルレベルが上限を超えないようにしてください。補充が完了した後は、キャップの閉め忘れに注意してください。

●エンジンオイルの交換

交換頻度は、この章の「推奨交換時期」をご覧ください。
ただし、市街地や山岳地の走行が多いときには、オイル交換を早めに行います。

注 意

●エンジンを正常な作動状態に保つため、エンジンオイルに添加剤を入れることは避けてください。
●オイルの交換の際は、騒音や排気ガス規制を遵守するためにも、シトロエン純正部品のご使用をお勧めします。

●オイルフィルター
交換頻度は、この章の「推奨交換時期」をご覧ください。
交換するオイルフィルターは、シトロエンの純正部品をご使用ください。

●燃料フィルター（ディーゼル車）
交換頻度は、この章の「推奨交換時期」をご覧ください。
交換する燃料フィルターは、シトロエンの純正部品をご使用ください。

●冷却水の点検
点検は、エンジンを停止してから 1 時間以上経過して、冷却水が冷えていることを確認してから行ってください。冷却水が少ないときは、冷却水を補給します。冷却水の減りが著しいときは、シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。
冷却水の補給には、シトロエン純正クーラントを使用してください。

⚠警 告

ラジエター内の圧力が低下する前にキャップをはずすと、高温の冷却水が噴出し火傷の原因になります。

MEMO

冷却水の交換は必要ありません。

●ブレーキフルードの量
ブレーキフルードの量は、タンクの MAX レベル付近にあれば適正です。定期的に量を確認してください。

●ブレーキフルードの交換
ブレーキフルードは、時間がたつと吸湿し耐熱温度が低く（ベーパーロックが起こりやすく）なりますので、定期的に交換してください。
交換頻度は、この章の「推奨交換時期」をご覧ください。

⚠警 告

ブレーキフルードが肌に直接触れるのは避けてください。腐食性が強く、健康に害を及ぼすことがあります。

注 意

ブレーキフルードは車の塗装面を傷めますので、付着した際にはすぐに水で洗い流してください。

●ウォッシャー、ヘッドライトウォッシャー液
SERVICE タンク内のウォッシャー液が少ないときは、警告音とともに警告灯が点灯し、メッセージが表示されます。
シトロエンの推奨品を補給してください。

●バッテリー
特に寒冷地の使用では、冬になる前にシトロエン指定サービス工場でのチェックをご依頼ください。

●エアフィルター、室内フィルター
交換頻度は、この章の「推奨交換時期」をご覧ください。
市街地やほこりが多いところでの走行が多いときは、早めに交換してください。
交換はお近くのシトロエン指定サービス工場にご依頼ください。

●ブレーキパッド
ブレーキパッドは運転の状況により消耗の度合いが変わります。定期的に点検を受けてください。ブレーキパッドが摩耗するとブレーキフルードのレベルも下がります。

●ブレーキディスク
ブレーキディスクは消耗部品です。シトロエン指定サービス工場で定期的に点検を受けてください。

●エレクトリックパーキングブレーキ
点検の必要はありませんが、異常が発生した場合は、シトロエン指定サービス工場にご連絡ください。

●オートマチックトランスミッションフルード（ATF）
交換の必要はありません。

●AdBlue® の補充（ディーゼル車）
補充頻度は、この章の「推奨交換時期」をご覧ください。
だたし、運転の状況により消費の度合いが変わります。また、AdBlue® 警告が表示されたら、シトロエン指定サービス工場で補充をしてください。
AdBlue® の残量がなくなると、エンジンを始動できなくなります。

⚠注 意

環境汚染防止のために、使用済みのエンジンオイルやブレーキフルードなどは、絶対に地面や下水に廃棄しないでください。

注 意

- 車のパフォーマンスを最大に引き出すためには、パワーステアリングやブレーキシステム同様、シトロエンが指定する部品を使用することが重要です。
- エンジン本体への高圧洗浄は、電子機器への影響を避けるためにも絶対におやめください。

電球の交換

⚠警 告

- 作業手順がわからない場合や、必要な工具が不足していたり工具の使用方法がわからない場合は、作業を行わないでください。
- 電気回路を改造しないでください。

注 意

- 電球の表面が冷えてから交換してください。消灯直後は電球の表面が高温になっているため、やけどをするおそれがあります。
- 交換する電球には、油等の汚れを付けないでください。もし指紋などが付着した場合は、乾いた布で拭き取ってください。
- ヘッドランプの透明レンズはプラスチック製です。溶剤を使用したり、荒い布などで強くこすらないでください。
- 高圧洗車機を使用するときは、ヘッドランプ付近に長時間当てないでください。塗装がはがれるおそれがあります。

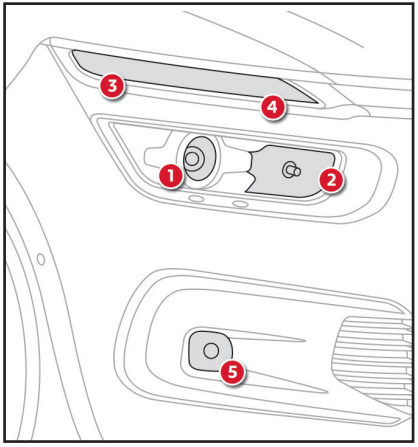
注 意

●交換作業中に電気配線を切断しないように注意してください。
●ヘッドランプを交換するときは、UV カット仕様の電球を使用してください。ヘッドランプのレンズ等が変色するおそれがあります。
●電球の交換の際は、必ず同じ規格の新しい電球を使用してください。

MEMO

低温高湿度のときなど、ヘッドランプの透明レンズの内側が曇ることがありますが、異常ではありません。ライトが点灯すると、数分で消滅します。

●ヘッドランプとフロントフォグランプ



キセノンディレクショナルヘッドライト装着車

①：ロービームヘッドランプ(D5S)
②：ハイビームヘッドランプ
（H7-55 W）
③：フロントランプ＊／ポジションランプ
（LED）
④：方向指示器（LED）
⑤：フロントフォグランプ（H11-55 W）

⚠警 告

キセノンヘッドランプバルブ（D5S）の交換は、シトロエン指定サービス工場にお申し付けください。感電する可能性があり危険です。

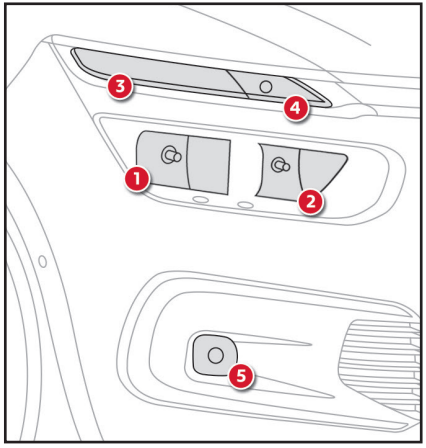
注 意

キセノンヘッドランプバルブは、片側のみが切れた場合でも、左右両方交換することをおすすめします。

MEMO

LED ランプの交換はシトロエン指定サービス工場にお申し付けください。

＊仕様により異なります。

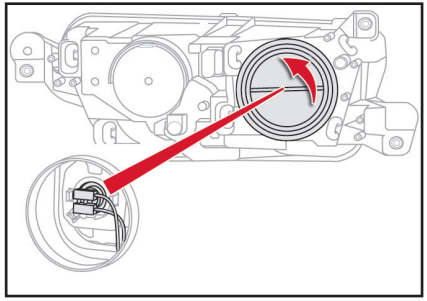


ハロゲンヘッドランプ装着車

①：ロービームヘッドランプ（H7-55 W）
②：ハイビームヘッドランプ（H7-55 W）
③：フロントランプ＊／ポジションランプ（LED）
④：方向指示器（LED）
⑤：フロントフォグランプ（H11-55 W）

MEMO

LED ランプの交換はシトロエン指定サービス工場にお申し付けください。

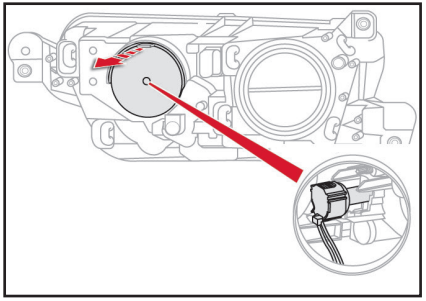


ロービームヘッドランプ用電球（ハロゲンヘッドランプ装着車／ H7-55 W）

1. 交換する電球のカバーを 1 ／ 4 回転させてはずします。
2. コネクターをはずします。
3. クリップをはずします。
4. 電球を交換します。

MEMO

バルブが適切な向きに固定されるように正しく取り付けてください。

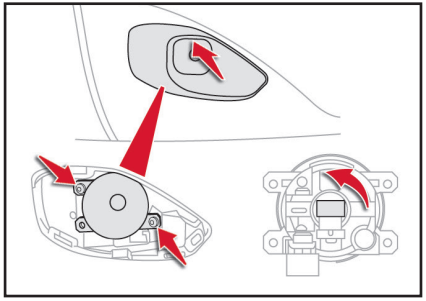


ハイビームヘッドランプ用電球（H7-55 W）

1. タブを引いて、交換する電球のカバーをはずします。
2. コネクターをはずします。
3. 電球を交換します。

MEMO

バルブが適切な向きに固定されるように正しく取り付けてください。



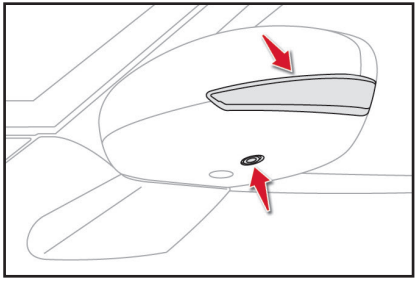
フロントフォグランプ用電球
(H11-55 W)

1. 電球のカバーの上部を引いてはずします。
2. ネジをはずしてランプユニットを取り出します。
3. バルブホルダーを１／４回転させて引き抜きます。
4. 電球を交換します。

⚠注 意

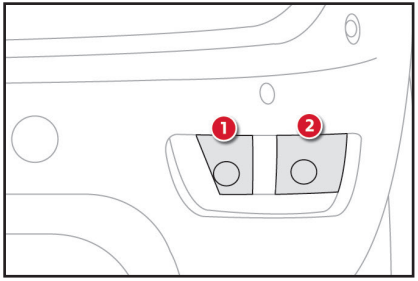
電球を交換した後は、電球のカバーを押して車体にしっかりとはめ込んでください。

●エクステリアサイドランプ／ドアミラーウィンカー(LED)



エクステリアサイドランプ／ドアミラーウィンカーの交換はシトロエン指定サービス工場にお申し付けください。

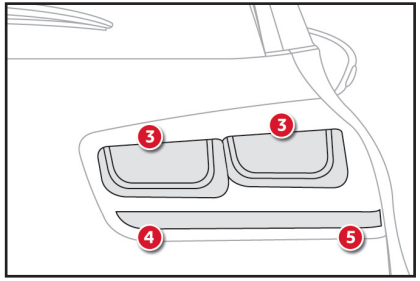
●テールランプ（5シーター）



①：方向指示器（PY21 W アンバー）
②：ポジションランプ／リアフォグランプ（P21 ／ 5 W）

MEMO

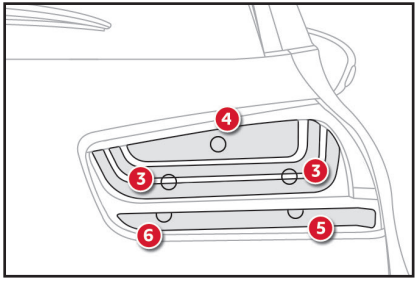
方向指示器①とポジションランプ②は、テールゲートを開けたときだけ点灯します。



LED 装着車
③：ストップランプ／ポジションランプ（LED）
④：リバースランプ（W16 W）
⑤：方向指示器（PY21 W）

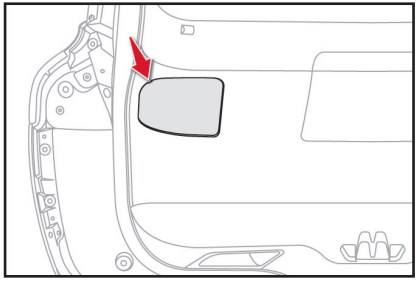
MEMO

LED ランプの交換はシトロエン指定サービス工場にお申し付けください。

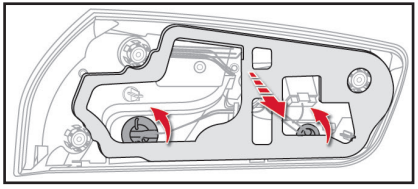


LED 装着車以外
③：ポジションランプ（5 W 5）
④：ストップランプ（P21 W）
⑤：方向指示器（WY16 W）
⑥：リバースランプ（W16 W）

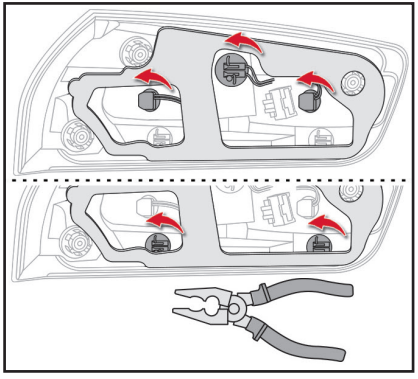
●ストップランプ／ポジションランプ／リバースランプ／方向指示器の交換



1. テールゲートを開けます。
2. プラスチックカバーをはずします。
3. 3 個所あるネジ **A** をはずします。
4. コネクターをはずします。
5. クリップ **B** を押しながら、ランプを外側からはずします。



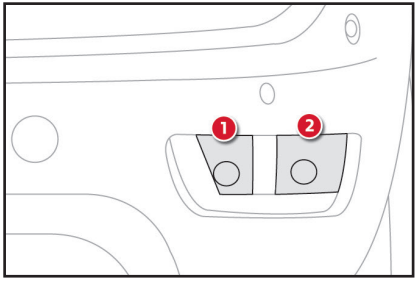
LED 装着車



LED 装着車以外

6. バルブホルダーを反時計回りに 1 ／ 4 回転させてはずします。
   LED 装着車以外の方向指示器⑤とリバースランプ⑥はペンチなどを使用してはずします。
7. 電球を交換します。

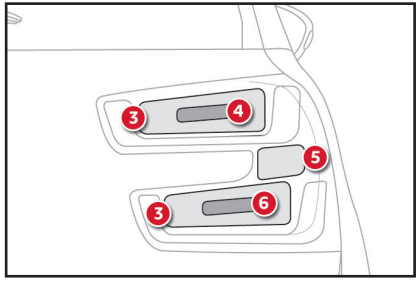
●テールランプ（7シーター）



①：方向指示器（PY21 W アンバー）
②：ポジションランプ／リアフォグランプ（P21 ／ 5 W）

MEMO

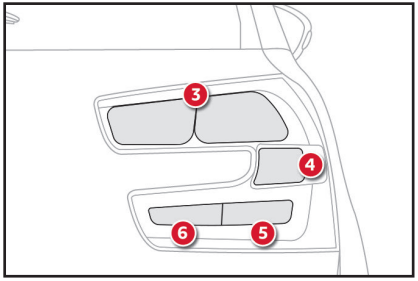
方向指示器①とポジションランプ②は、テールゲートを開けたときだけ点灯します。



LED 装着車
③：ポジションランプ（LED）
④：ストップランプ（LED）
⑤：方向指示器（PY21 W）
⑥：リバースランプ（LED）

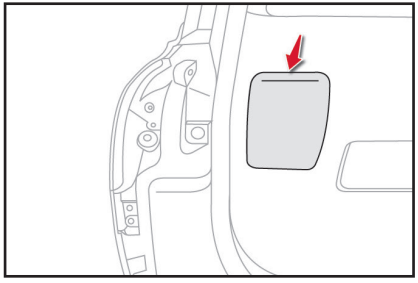
MEMO

LED ランプの交換はシトロエン指定サービス工場にお申し付けください。

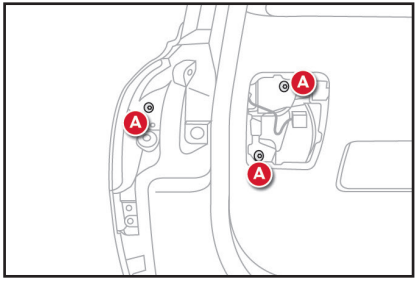


LED 装着車以外
③：ポジションランプ（W5 W）
④：ストップランプ／ポジションランプ（P21 W）
⑤：方向指示器（WY16 W）
⑥：リバースランプ（W16 W）

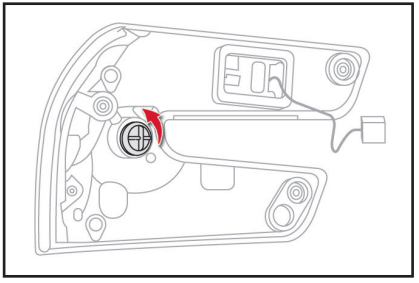
●ポジションランプ／ストップランプ／ポジションランプ／方向指示器／リバースランプの交換



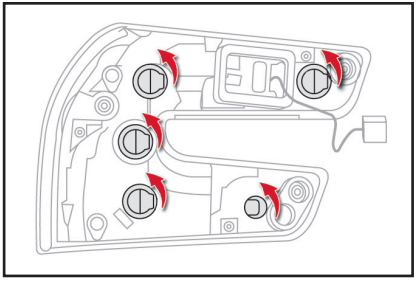
1. テールゲートを開けます。
2. プラスチックカバーをはずします。



3. ネジ **A** を 3 つはずします。
4. コネクターをはずします。
5. ハウジングからランプをはずします。



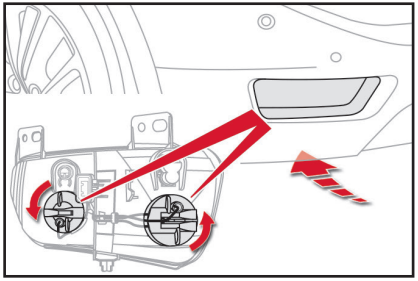
LED 装着モデル



LED 装着モデル以外

6. バルブホルダーを反時計回りに 1 ／ 4 回転させてはずします。
7. 電球を交換します。

●方向指示器／ポジションランプ／リアフォグランプの交換

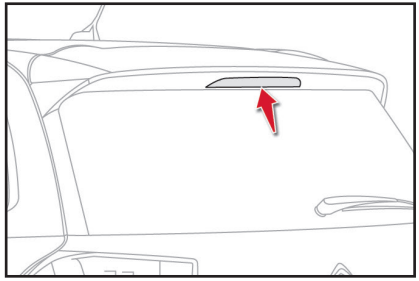


1. バンパーの内側からバルブホルダーを１／４回転させてはずします。
2. 電球を交換します。

MEMO

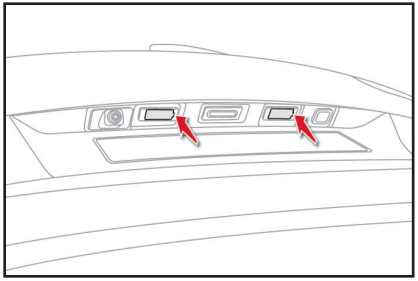
交換ができないときは、シトロエン指定サービス工場にお申し付けください。

●ハイマウントストップランプ（LED）



ハイマウントストップランプの交換はシトロエン指定サービス工場にお申し付けください。

●番号灯（W5 W）

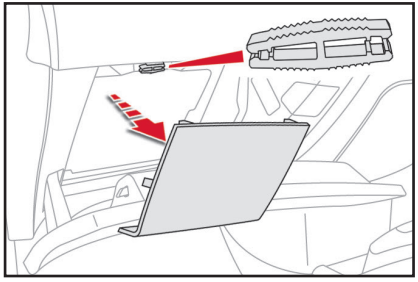


1. マイナスドライバーをレンズの穴に差し込みます。
2. ドライバーで外側に向かってこじってレンズをはずします。
3. 電球を交換します。

⚠注 意

電球を交換した後は、レンズを押して車体にしっかりとはめ込んでください。

ヒューズの交換



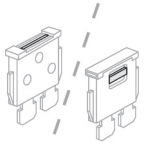
ヒューズボックスは、助手席のグローブボックス内とエンジンルームにあります。

ヒューズ交換を行うときは、エンジンを停止し、すべての電気系統が停止したことを確認してください。

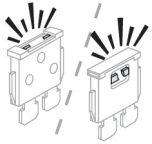
注 意

交換する前に、ヒューズが不良となった原因を見つけて処置をしておいてください。正しい処置をしておかないと、再発するおそれがあります。

ヒューズは容量によって色分けされています。必ず同じ色(容量)のヒューズと交換してください。



正常なヒューズ

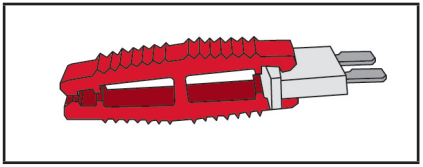


切れたヒューズ

⚠警 告

- ●誤った容量のヒューズに交換した場合、不具合を引き起こし、火災の原因となります。
- ●次の表に記載されていないヒューズの交換をした場合、車の重大な不具合を引き起こす原因となります。これに関わる作業は、シトロエン指定サービス工場にお任せください。

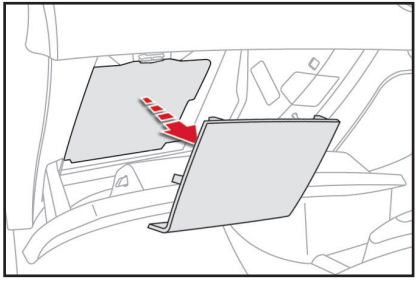
ヒューズを交換するときは、助手席のグローブボックスに備えてある専用ピンセットを使用してください。

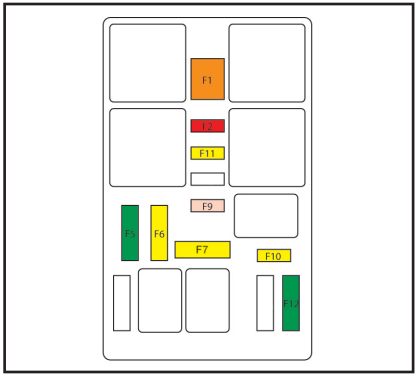


専用ピンセット

●室内側ヒューズ

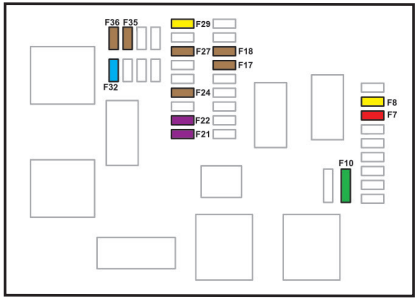
室内側のヒューズボックスは、助手席のグローブボックス内にあります。
ヒューズボックスカバーを手前に引いて取りはずします。





ヒューズボックス 1

ヒューズ位置	容量	機能（仕様により装備が異なるため、ここでは全車に適合する表記をしています。）
F1	40 A	リアウィンドウ熱線
F2	20 A	電動ドアミラー
F5	30 A	パノラミックガラスルーフ
F6	20 A	12V ソケット
F9	25 A	シートヒーター
F10	20 A	トレーラーユニット
F11	20 A	エアコンディショナーファン
F12	30 A	パワーウィンドウ

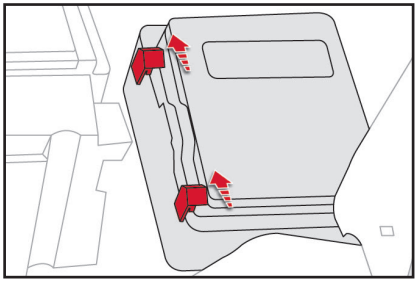


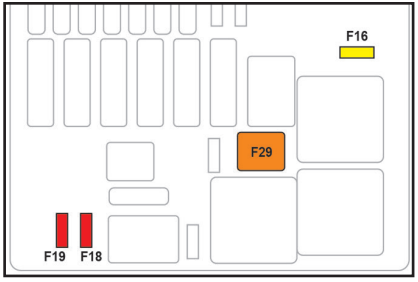
ヒューズボックス 2

ヒューズ位置	容量	機能（仕様により装備が異なるため、ここでは全車に適合する表記をしています。）
F7	10 A	ラゲッジルーム 12V ソケット
F8	20 A	リアワイパー
F10	30 A	ロック
F17	5 A	インストルメントパネル
F18	5 A	オートマチックギアボックスギアセレクター
F21	3 A	START/STOP スイッチ
F22	3 A	雨滴センサー、照度センサー、ウィンドウスクリーンカメラ
F24	5 A	パーキングセンサー、360° ビジョン
F27	5 A	オートマチックギアボックス
F29	20 A	オーディオ
F32	15 A	12V ソケット
F35	5 A	ヘッドランプ照射角度調整、リアウィンドウ熱線、レーダー
F36	5 A	照明（グローブボックス、センターコンソール、ルームランプ、マップランプ）

●エンジンルーム側ヒューズ

ヒューズボックスは、バッテリーの横に取り付けられています。
ヒューズを点検、交換するときは、ラッチを後方へスライドさせてからヒューズボックスカバーを開きます。
作業後は、カバーがきちんと掛かっていることを確認してください。





ヒューズ位置	容量	機能（仕様により装備が異なるため、ここでは全車に適合する表記をしています。）
F18	10 A	右ハイビームヘッドランプ
F19	10 A	左ハイビームヘッドランプ
F29	40 A	ワイパー

⚠注 意

車の電気回路は、出荷時に装着されている装備に合わせて設計、製作されています。
推奨していないアクセサリーの取り付け、アクセサリーの不適切な取り付け、ワイヤーハーネスの加工などは、他の電装品の正常な作動を妨げたり火災の原因となることがあります。
シトロエンでは、当社が供給や推奨していない、10mA 以上の電流を消費するアクセサリーの取り付けや、当社の指示に従わない装着方法によって発生した車、および機器の不具合の修理については、その費用を負担いたしません。
エンジンルーム内ヒューズボックスにある大容量ヒューズには手を触れないでください。整備が必要な場合は、必ずシトロエン指定サービス工場に依頼してください。
アクセサリーその他の電気製品の取り付けは、シトロエン指定サービス工場にご依頼ください。

注 意

ヒューズボックス内に水が入ると、電気系統が故障する原因になります。次のことに注意してください。
・ヒューズボックスカバーを正しく取り付けてください。
・ヒューズボックス内に水などの液体をこぼさないでください。

燃費の改善について

燃費は、車の設計だけではなく、車の状態や運転方法によって大きく影響を受けます。車を最良の状態に保ち燃費を良くするためにも、定期的に点検整備を行ってください。

●エンジンコンディション
主要部品については、少なくとも年に 1 回は点検を受けてください。

●エアフィルター
フィルターがつまるとエンジンの効率が悪化します。ほこりの多い環境や市街地での走行が多いときは、こまめに点検を受けてください。

●手荷物など
ラゲッジルームに不用な手荷物などが積みっぱなしになっていると、車両重量が増加して、燃費の悪化につながります。
ルーフキャリアやスキーキャリアなどのアクセサリーは、風の抵抗を受けて燃費を悪化させます。
必要がなくなったら速やかに取りはずしてください。

●タイヤ
交換するときは、現車と同一サイズでシトロエンが推奨する銘柄、グレードのタイヤを使用してください。

●運転方法
エンジン始動後に長時間の暖機運転は必要ありません。
運転時は、ゆっくり発進し、急加速や空ぶかしを避けてください。
走行中はなるべく高いギアを選択し、一定のスピードを保つようにしてください。
走行速度が上がると燃費も悪化します。
法定速度を遵守して、スムーズな運転を心がけてください。
エンジン始動後の数分間は、適正温度の状態と比較して 2 倍以上燃費が悪化します。
あらかじめ走行経路を考慮して、無駄な走行をなくしましょう。

推奨交換時期

車の使用頻度が高いとき、市街地や高温環境下での使用が多いときは、メンテナンス時期を早めるようにしてください。

エンジンオイル	1 年または 20,000km ごと
オイルフィルター	1 年または 20,000km ごと
ブレーキフルード	2 年または 60,000km ごと
エアフィルターエレメント	2 年または 40,000km ごと
スパークプラグ	2 年または 40,000km ごと
室内フィルター	1 年または 20,000km ごと
燃料フィルター（ディーゼル車）	4 年または 20,000km ごと

●エンジンオイルについて

上記の交換時期は、推奨する化学合成ベースのエンジンオイル（例：TOTAL QUARTZ INEO FIRST 0W-30）を使用した場合です。

●AdBlue® の補充頻度について（ディーゼル車）

AdBlue® の補充は、1 年または 10,000km ごとにシトロエン指定サービス工場で行ってください。

推奨油脂類

エンジンオイル
TOTAL QUARTZ INEO FIRST (0W-30)

ブレーキフルード
シトロエン純正ブレーキフルード（DOT4）

クーラント
シトロエン純正クーラント

注 意

ターボエンジン車には、必ず指定されたオイルのみを使用してください。

推奨点検時期

車の使用頻度が高いとき、通常よりも厳しい状態の使い方をしたときは、メンテナンス時期を早めるようにしてください。

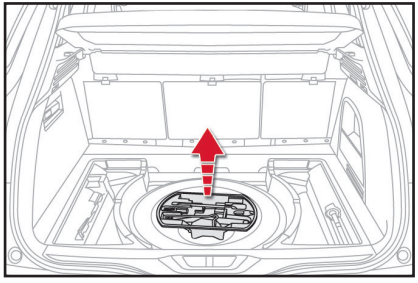
タイミングキットおよびクーラントポンプの点検	100,000km ごと
補機ドライブベルトキットの点検	初回 3 年、次回から 2 年ごと
クーラント pH の点検	初回 3 年、次回から 2 年ごと

もしものとき

ホイール（タイヤ）の交換 ····· 7-2
パンク修理キット ····· 7-10
バッテリーが上がったとき ····· 7-17
けん引されるとき ····· 7-20
AdBlue® （尿素水）の補充(ディーゼル車) ····· 7-22
燃料切れしたとき(ディーゼル車) ····· 7-24

ホイール（タイヤ）の交換*

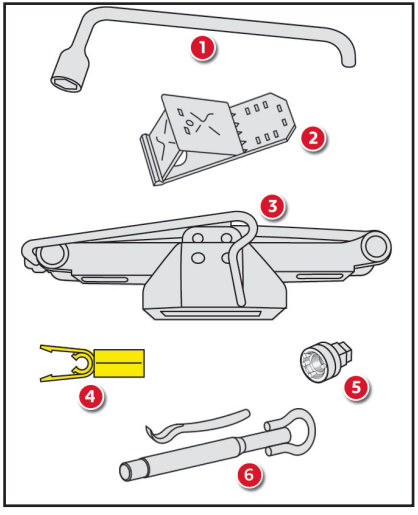
●工具入れの取り出し（5シーター）



ジャッキと工具は、ラゲッジルームの中敷板の下に格納されています。
（工具⑤はグローブボックスの中にあります。）

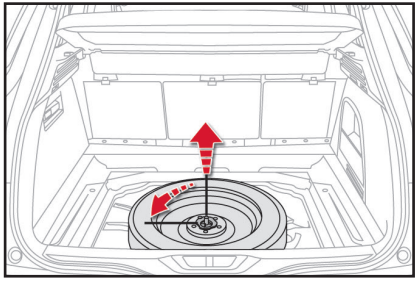
1. 中敷板を取りはずします。
2. 工具入れを取り出します。

●ジャッキと工具



①：ホイールレンチ
②：輪留め
③：ジャッキ *
④：専用ピンセット *
⑤：ホイールレンチアダプター *（盗難防止用ボルト）
⑥：けん引ボルト／カバーオープナー

●スペアタイヤの取り出し

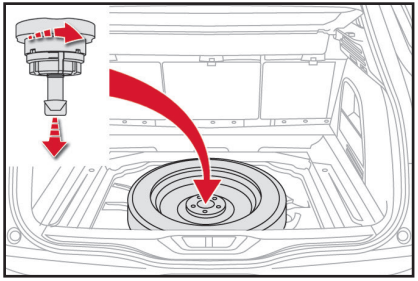


スペアタイヤは、ラゲッジルームの中敷板の下に格納されています。

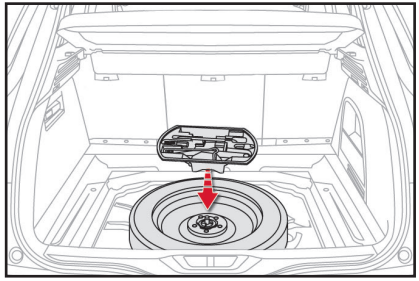
1. 中央のボルトをゆるめます。
2. スペアタイヤを取り出します。

* 仕様により異なります。

●タイヤの格納



1. タイヤを入れます。
2. ボルトを少しゆるめ、ホイールの中央にねじ込みます。
3. タイヤが正確に収まっていることを確認して、きつく締めます。



4. 工具入れをホイールの中央に戻します。

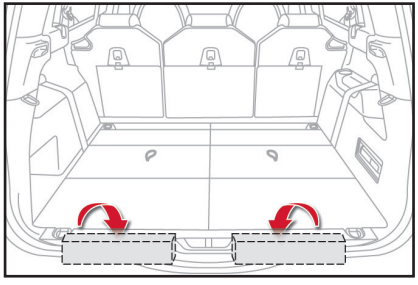
注 意

●工具類を収納するホルダーは、元の位置に戻してください。
ホルダーはラゲッジルームの床の支えを兼ねていますので、ないと床が変形します。
●スペースセーバータイヤを格納する際は、必ずスペーサーを使用してください。

●タイヤ交換後の処理

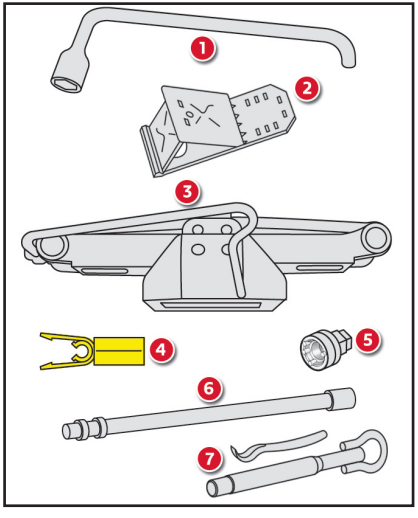
1. 交換したスペアタイヤの空気圧を確認してください。
2. はずしたタイヤの修理を早急に行い、スペアタイヤと交換してください。

●工具入れの取り出し（7シーター）



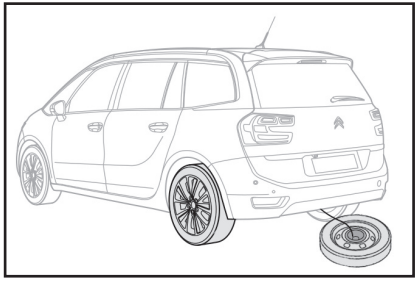
ジャッキ③とピンセット④は車両の下に格納されています。
輪留め②とホイールレンチエクステンション⑥は右側のラゲッジルームシルの下に格納されています。
ホイールレンチ①とけん引ボルト⑦は左側のラゲッジルームシルの下に格納されています。
（ホイールレンチアダプター⑤はグローブボックスの中にあります。）

●ジャッキと工具



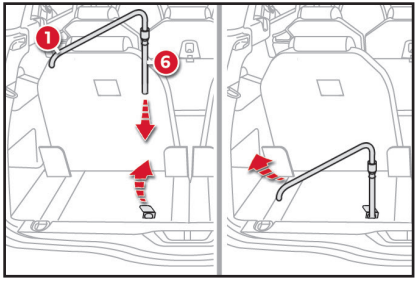
①：ホイールレンチ
②：輪留め
③：ジャッキ *
④：専用ピンセット *
⑤：ホイールレンチアダプター *（盗難防止用ボルト）
⑥：ホイールレンチエクステンション
⑦：けん引ボルト／カバーオープナー

●スペアタイヤの取り出し

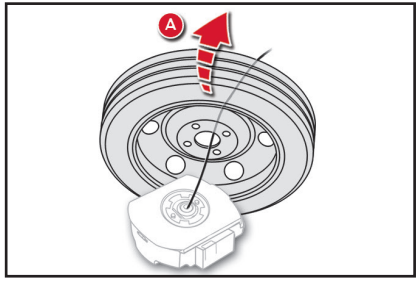


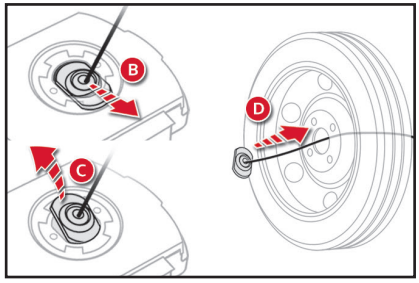
スペアタイヤは、車両後方の床下（外側）にプレート付きフックで固定されています。

* 仕様により異なります。

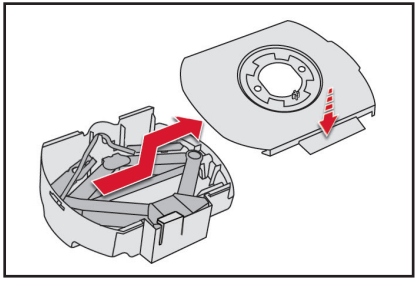


1. ラゲッジルームボードを上げて３列目シートを起こします。
2. ホイールレンチ①とホイールレンチエクステンション⑥を使用してナットをゆるめ、キャリアケーブルをゆるめます（時計回り）。
3. スペアタイヤを引き出し、地面に降ろします。



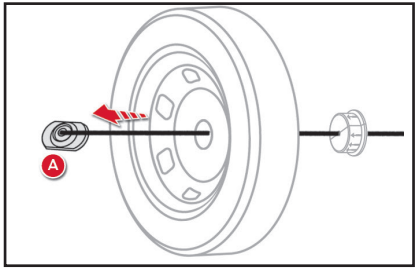


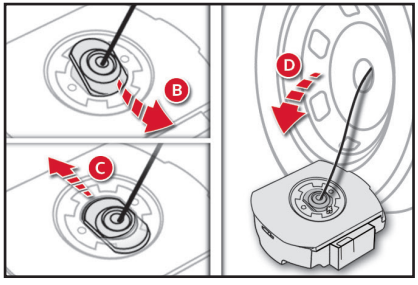
4. タイヤを起こして工具入れを取り出します（A）。
5. イラストのようにプレート付きフックをはずします（B）（C）（D）。



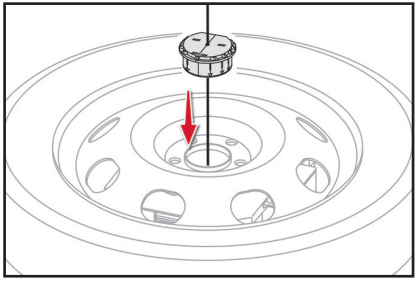
6. 工具入れのカバーをスライドさせてジャッキを取り出します。

●タイヤの格納

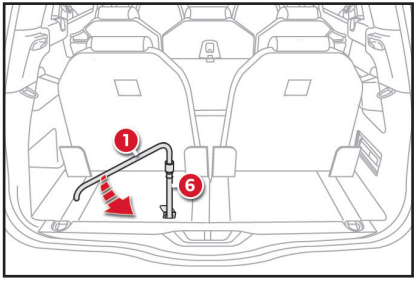




1. ジャッキを工具入れに格納します。
2. ホイールにプレート付きフックを通します（A）。
3. イラストのように、プレート付きフックを工具入れに取り付けます（B）（C）。
4. ホイールを工具入れの中央にかぶせます（D）。



5. ホイールの中央にセンターガイドを取り付けます。
6. ホイールを車両後方の下側に入れます。



7. ホイールレンチ①とホイールレンチエクステンション⑥を使用してナットを締め付けます（反時計回り）。
8. 完全にナットを締め付けた後は、ホイールが水平にしっかりと固定されていることを確認してください。

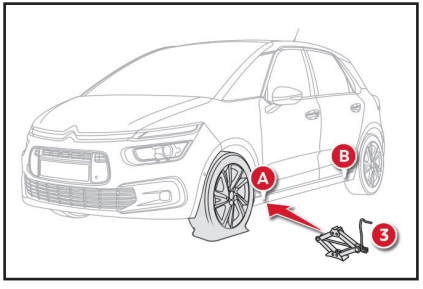
MEMO

交換後の標準サイズのタイヤは車両後方の床下（外側）に格納できません。

●タイヤ交換後の処理

1. 交換したスペアタイヤの空気圧を確認してください。
2. はずしたタイヤの修理を早急に行い、スペアタイヤと交換してください。

●ホイールの取りはずし

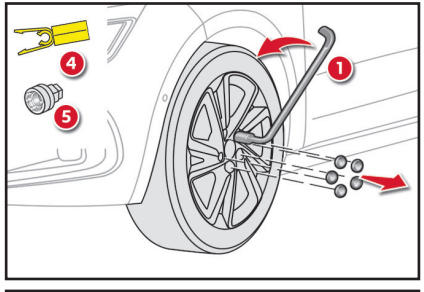


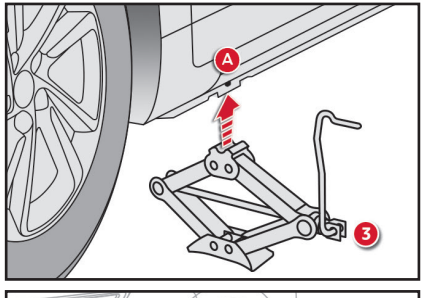
硬く平坦な路面で安全な場所に車を停めます。
パーキングブレーキがかかっていることを確認し、シフトモードセレクターを P に入れてイグニッションをオフにします。インストルメントパネルのブレーキ警告灯とパーキングブレーキレバーのインジケーターが点灯していることを確認します。
取りはずすタイヤと対角位置にあるタイヤに、輪止めを当てます。

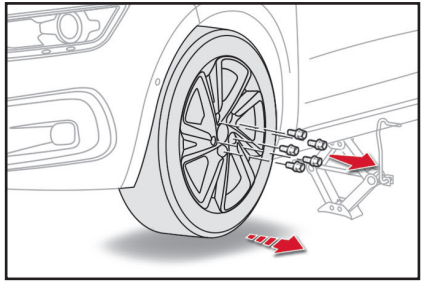
MEMO

ホイールカバー装着車は、ホイールレンチ①の柄の部分を使い、タイヤバルブ付近から徐々にホイールカバーをはずしてからホイールを取りはずします。

●手順







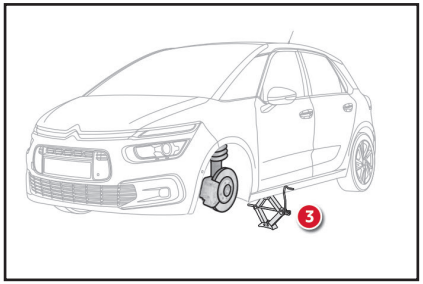
1. 専用ピンセット④を使用して、ボルトカバーをはずします。*
2. ホイールレンチ①でボルトを少しゆるめます。
   盗難防止ボルトをゆるめるときは、ホイールレンチアダプター⑤をホイールレンチ①に取り付けます。*
3. ジャッキ③を車の下側フレーム A 部分（リアは B 部分）にあてがい、軽くジャッキアップしてジャッキが A（もしくは B）に確実に収まっていることを確認してください。
4. タイヤが地面から完全に離れるくらいまでジャッキアップします。
5. ボルトをはずします。なくさないように注意してください。
6. ホイールをはずします。

注 意

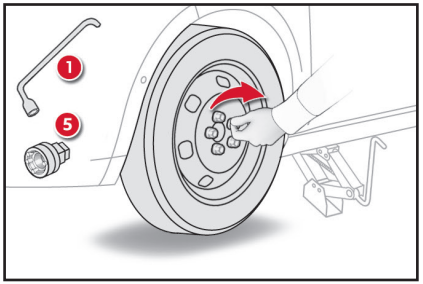
プラスチック仕上げ部分にはジャッキをあてがわないでください。

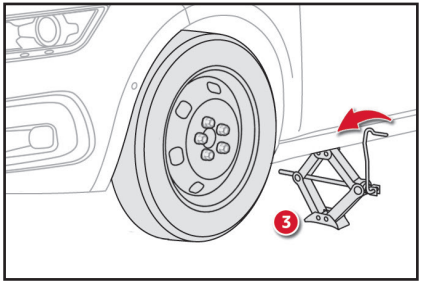
* 仕様により異なります。

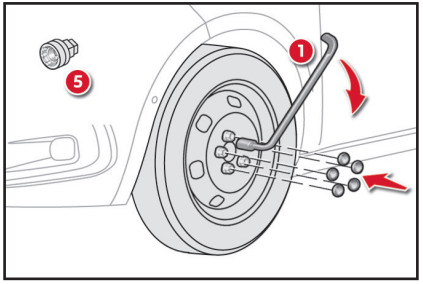
●ホイールの取り付け



●手順







1. ホイールをハブにはめます。
2. ボルトを差し込み、手で止まるまで回します。
3. ホイールレンチ①を使ってボルトを軽く締めます。
   盗難防止ボルトを締めるときは、ホイールレンチアダプター⑤をホイールレンチ①に取り付けます。*
4. ジャッキ③を完全にゆるめ、タイヤを接地させます。
5. ホイールレンチ①を使ってボルトを締めます。
   盗難防止ボルトを締めるときは、ホイールレンチアダプター⑤をホイールレンチ①に取り付けます。*
6. はずしたボルトカバーをそれぞれのボルトに取り付けます。*

* 仕様により異なります。

⚠警 告

●ジャッキアップするときは、必ず輪止めを使用し、絶対に車の下に入らないでください。バランスが崩れた場合に車がジャッキからはずれ、落下するおそれがあります。
●ホイールボルトとハブのネジ部に注油したり、他のボルトを使用しないでください。走行中にネジがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。
●ジャッキアップするときは、乗員を全員車から降ろしてください。
●ジャッキアップ中はエンジンを始動させないでください。エンジンの振動により、ジャッキがはずれるおそれがあります。
●指定された場所以外にジャッキを装着しないでください。車が損傷したり、ジャッキがはずれるおそれがあります。
●スペースセーバータイヤを 2 本以上同時に使用しないでください。

⚠注 意

●タイヤを交換するときは、必ず同サイズ同種類のタイヤを使用してください。他のタイヤを使用すると、安全走行に悪影響をおよぼします。
●スペースセーバータイヤの空気圧は 420kPa です。定期的に点検してください。また、このタイヤ使用時の最高速度は時速 80km です。
●スペースセーバータイヤは一時的な使用に限られています。常用タイヤのパンクなどで使用したときは、早急にパンクの修理を行い交換してください。
●搭載されているジャッキやレンチ、スペアタイヤは、この車専用です。他の車に使用したり、他の車のものを使用しないでください。

注 意

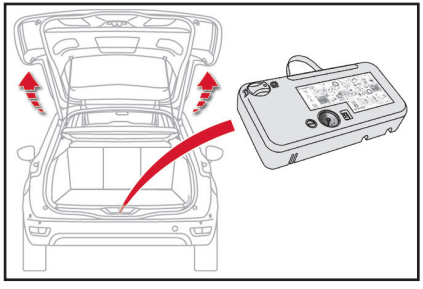
盗難防止ボルトの専用アダプターを使用するときは丁寧に扱ってください。急激な力を加えたり、乱暴にレンチを回すと、ピンを破損することがあります。

MEMO

●盗難防止ボルトの専用アダプターの番号を控えておいてください。紛失した際に、番号から複製を入手することができます。
●ホイールボルトの締め付けトルクは 10daNm (約 9.5kgm) です。
●アルミホイールのかわりにスチールホイールやスペースセーバータイヤを使用するとき、ホイールボルトの平ワッシャーがリムに接せず遊んでいても問題ありません。
●タイヤ交換を行った後は、間接式タイヤ空気圧警告システムのリセットを行ってください。

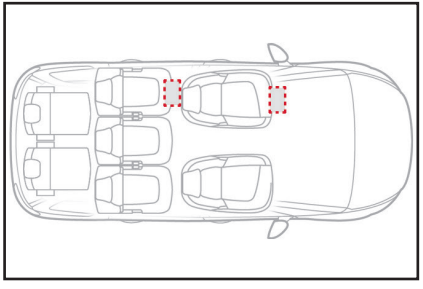
パンク修理キット*

●パンク修理キットの場所（5シーター）



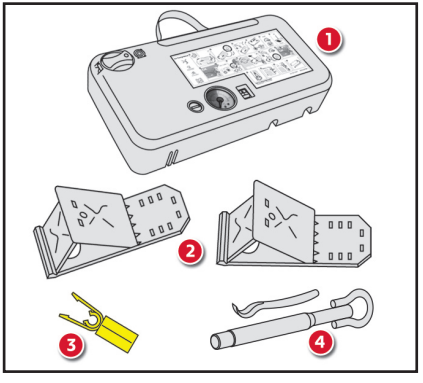
パンク修理キットは、ラゲッジルームの中敷板の下に格納されています。

●パンク修理キットの場所（7シーター）



パンク修理キットは、助手席シートの下または 2 列目シートの足元収納ボックスに格納されています。

●パンク修理キットと工具



①：パンク修理キット
②：輪留め（2 個または 1 個）*
③：専用ピンセット *
④：けん引ボルト／カバーオープナー

MEMO

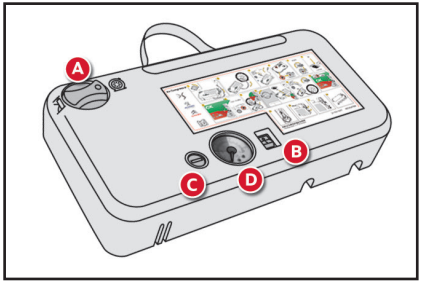
工具はラゲッジルームの中敷板の下（5シーター）、またはラゲッジルームシルの下（7 シーター）に格納されています。

MEMO

- ●パンク修理キットはシトロエン指定サービス工場でお買い求めいただけます。
- ●タイヤのトレッド部またはショルダー部以外の損傷によるパンクは、パンク修理キットを使用して修理することができません。
- ●タイヤに刺さった釘などは抜かずにそのまま応急修理をしてください。
- ●修理キットを使用するときは、すべての手順を行ってください。

* 仕様により異なります。

●各部の名称

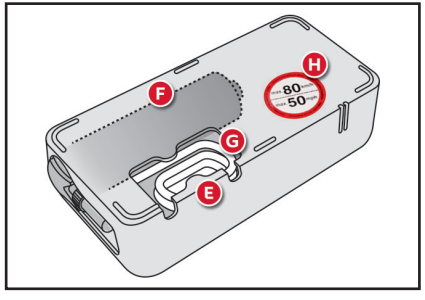


A.「SEALANT」／「AIR」切り替えノブ

: SEALANT

: AIR

B. オン「I」／オフ「O」スイッチ
C. 減圧ボタン
D. 空気圧計 (bars ／ p.s.i)



E. 収納ボックス
ケーブル (12V 電源ソケットアダプター)
F. 修理剤カートリッジ
G. ホース
H. 注意ステッカー

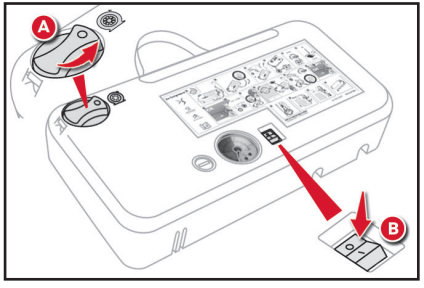
⚠警 告

●パンク修理キットで修理した後は、ケースに貼付されている注意ステッカーをステアリングホイールに必ず貼り付けてください。
●パンク修理キットで修理したタイヤで走行するときは、**時速 80km** 以下で走行してください。

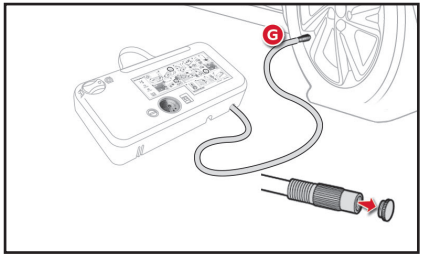
MEMO

パンク修理キットが異なる場合は、パンク修理キットに貼り付けされているシールの手順に従って操作してください。

●使いかた



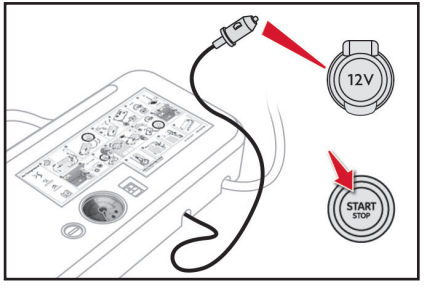
1. イグニッションをオフにします。
2. 切り替えノブ **A** を「SEALANT」に合わせます。
3. スイッチ **B** が **O** になっていることを確認します。



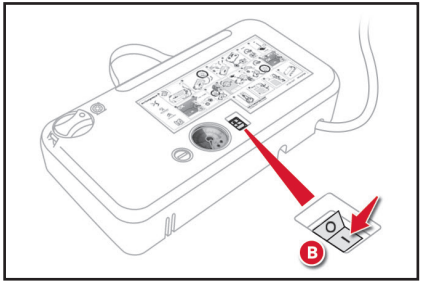
4. ホース **G** を引き出し、キャップをはずします。
5. ホース **G** を修理するタイヤのバルブに接続します。

⚠警 告

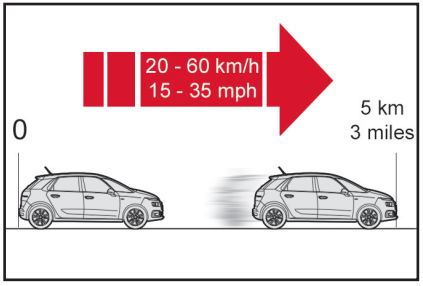
ホースをつなぐ前に、電源を入れないでください。修理剤が吹き出すおそれがあります。



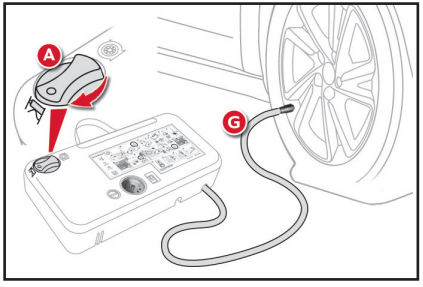
6. コンプレッサーの電源コードをセンターコンソールの 12V 電源ソケットに差し込みます。
7. ケースに貼付されている注意ステッカーをはがして、ステアリングホイールに貼り付けます。
8. エンジンを始動します。



9. スイッチ **B** を **I** にして、空気圧を **2.0bars** まで昇圧します。



10. パンク修理キットを取りはずしてホースにキャップを戻し、直ちに走行してタイヤ内に修理剤を行き渡らせます。このとき、時速 **20** ～ **60km** で約 **5km** 走行します。
11. 空気圧を点検して空気の漏れがないことを確認します。



12. 切り替えノブ **A** を「AIR」に合わせます。
13. ホース **G** を引き出し、キャップをはずします。
14. ホース **G** を修理するタイヤのバルブに接続します。

⚠警 告

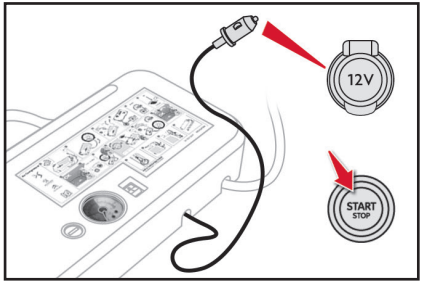
●パンク修理キットはコンプレッサーで圧力をかけて修理剤をタイヤに注入します。修理剤の注入中にホースをバルブから抜かないでください。ホースの口から修理剤が吹き出すおそれがあります。
●修理剤にはエチレングリコールなどが含まれています。目や口に入らないように十分注意してください。
●パンク修理キットはお子さまには使用させないでください。

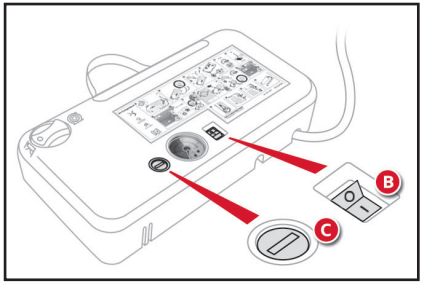
⚠注 意

5 ～**7** 分以内に **2.0bars** まで昇圧しないときは、パンク修理キットを使用して修理できません。シトロエン指定サービス工場にお問い合わせいただくか、レッカーの手配をしてください。

MEMO

パンク修理キットを取りはずすときは、修理剤が車に付着しないように気をつけてください。付着するとシミになるおそれがあります。





15. コンプレッサーの電源コードをセンターコンソールの 12V 電源ソケットに差し込みます。
16. エンジンを始動します。
17. 空気圧が運転席側ドアピラー部に表示されている適正値になるように調整します。
    昇圧：スイッチ **B** を **I** にする。
    減圧：スイッチ **B** を **O** にしてボタン **C** を押す。
18. 空気の漏れがないことを確認します。
19. コンプレッサーを取りはずし、パンク修理キットを元の位置に格納します。
20. 時速 **80km** 以下で走行し、できるだけ早くシトロエン指定サービス工場でタイヤの修理、交換を行ってください。

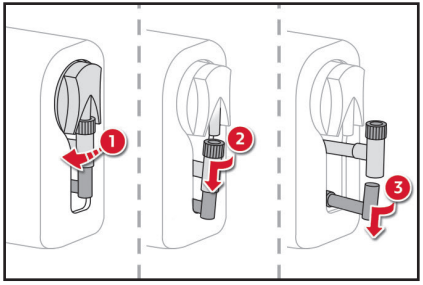
⚠警 告

パンク修理キットで修理した後は、約 **200km** 以上走行しないでください。できるだけ早くシトロエン指定サービス工場でタイヤの修理、交換を行ってください。

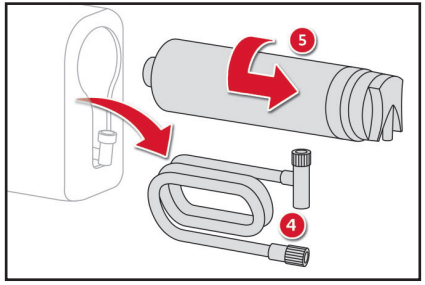
⚠注 意

空気圧が適正値にならないときは、パンク修理キットを使用して修理できません。シトロエン指定サービス工場にお問い合わせいただくか、レッカーの手配をしてください。

●修理剤カートリッジの交換方法



1. パイプユニットを左方向へ押します。
2. パイプ上部を１／４回転させてカートリッジからはずします。
3. パイプユニットを引き出し、パイプ下側を１／４回転させてコンプレッサーのパイプからはずします。



4. パイプユニットを取り出します。
5. コンプレッサーを立て、カートリッジを回して取りはずします。

⚠注 意

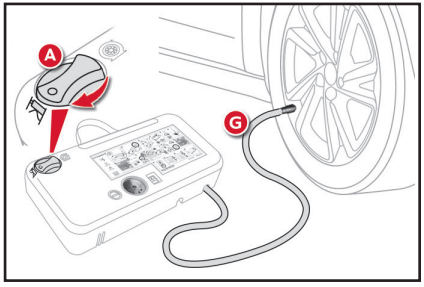
パンク修理剤の有効期限は、製造後約 **8** 年です。有効期限はカートリッジに表示されています。
例：EXP：04/2020
　　||
　2020 年 4 月まで

MEMO

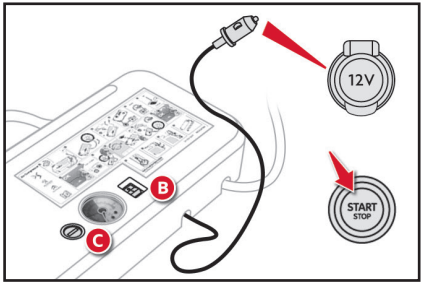
●修理剤は一度しか使用できません。使用後は、新品の修理剤をシトロエン指定サービス工場でお買い求めください。
●使用済みの修理剤カートリッジはシトロエン指定サービス工場までお持ちいただくか、地域条例に従って廃棄してください。

●タイヤの空気圧を点検する

コンプレッサーを使用してタイヤの空気圧を点検することができます。

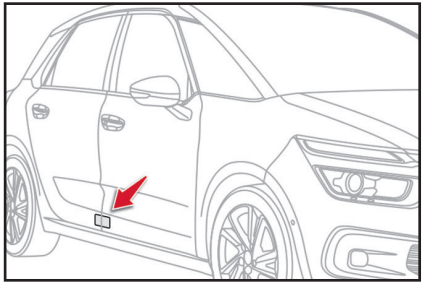


1. 切り替えノブ **A** を「AIR」に合わせます。
2. ホース **G** を引き出し、キャップをはずします。
3. ホース **G** を点検するタイヤのバルブに接続します。



4. コンプレッサーの電源コードをセンターコンソールの 12V 電源ソケットに差し込みます。
5. エンジンを始動します。
6. 空気圧が車両の空気圧ラベルに表示されている適正値になるように調整します。
   昇圧：スイッチ **B** を **I** にする。
   減圧：スイッチ **B** を **O** にしてボタン **C** を押す。
7. コンプレッサーを取りはずし、パンク修理キットを元の位置に格納します。

●空気圧ラベルの位置



タイヤの適正空気圧を示した空気圧ラベルは、運転席側のピラー部にあります。

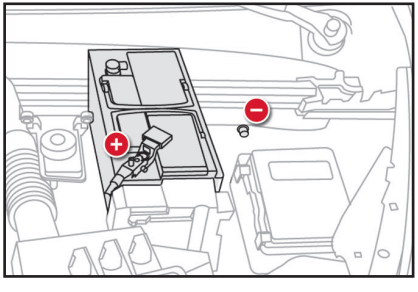
MEMO

タイヤの空気圧を調整したら、必ず間接式タイヤ空気圧警告システムのリセットをしてください。

バッテリーが上がったとき

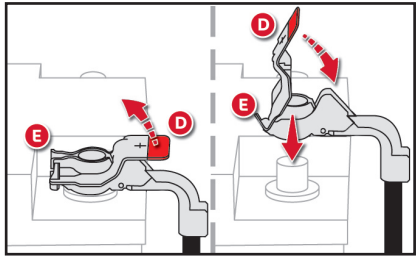
万一バッテリーが上がってしまったときは、充電器（バッテリーチャージャー）で充電するか、同じ電圧（12V）のバッテリーで始動させます。
接続には、市販のブースターケーブルを使用します。ケーブルの接続時は、車の充電系統に損傷を与えないように正しく接続してください。

●バッテリーの位置



バッテリーはエンジンルーム左側（ボンネットを開いて右側）にあります。
充電器のマイナス端子（－）／電源を供給する車のバッテリーのマイナス端子（－）に接続した黒いケーブルは、バッテリー横のボディに接続します。

●ケーブルのはずしかた／接続のしかた

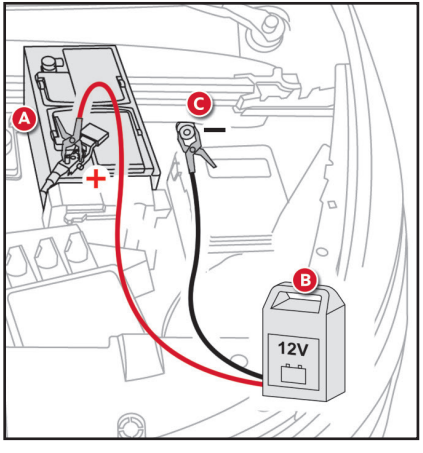


1. ロックタブ **D** をいっぱいまで起こします。
2. クリップ **E** がバッテリーのプラス端子（＋）の上部に来るように位置を合わせ、位置がずれないように、上からバッテリーに押し当てます。
3. ロックタブ **D** を倒してクリップ **E** をロックします。

注 意

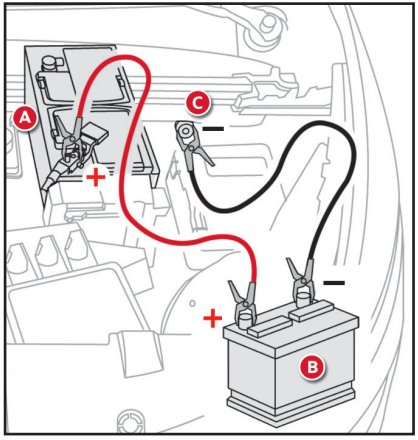
クリップは正しい位置にないとロックしません。無理にロックタブを倒さないでください。

●充電器を使用して充電



1. バッテリー **A** の（＋）ケーブルをはずし、バッテリーの端子に汚れがないことを確認します。
2. 最初に充電器 **B** のマイナス端子（－）を車体 **C** に接続し、次にプラス端子（＋）をバッテリー **A** のプラス端子（＋）に接続します。
3. 充電器の取説に従って充電します。

●他のバッテリーで始動



1. バッテリー A（上がったバッテリー）・B（電源を供給するバッテリー）のプラス端子（+）を赤いケーブルで接続します。
2. 電源を供給する側の車のバッテリー B のマイナス端子（−）に、黒いケーブルを接続します。
3. 未接続の黒いケーブルを、バッテリー上がりを起こした車両の車体 C に接続します。このとき、ケーブルはバッテリーのマイナス端子からなるべく離れた箇所に接続します。
4. スターターを回してエンジンを始動します。
5. アイドリング状態になるのを待ってからエンジンを停止し、ケーブルをはずします。

●バッテリーを再接続したとき

エンジンを始動する前に、イグニッションをオンにしたまま約 1 分間保持します。電子機器の初期化が行われます。

長時間バッテリーの接続をはずしていたときは、次の機能の初期化や再設定が必要な場合があります。

・ リモコン
・ 電動式サンブラインド

また、ストップ＆スタート車では一度バッテリーの接続をはずすと数時間は停止モードになりませんが、これは異常ではありません。

注 意

電子機器に異常を感じたら、シトロエン指定サービス工場にご連絡ください。

MEMO

お車を 1 ヶ月以上使用しない場合は、バッテリーの接続をはずしてください。

⚠警 告

●バッテリーのプラス端子（+）とマイナス端子（-）を逆に接続しないでください。
●エンジンの回転中は、バッテリーのターミナルから車両ケーブルをはずさないでください。
●バッテリーの車両ケーブル（+）を接続したまま充電しないでください。
●アイドリング状態になる前にバッテリーのターミナルからケーブルをはずさないでください。
●ケーブルのプラス端子とマイナス端子を絶対に接触させないでください。
●バッテリーは可燃性のガスを発生しますので、バッテリーの近くでは火気を避けてください。
●バッテリー液は腐食性の強い希硫酸です。万一皮膚にバッテリー液がかかった場合は、大量の水で洗い流してください。
●凍ったバッテリーを充電すると爆発するおそれがあります。バッテリーが凍ったら新品と交換してください。

⚠警 告

●電源を供給するバッテリーは 12V のものを使用してください。
●黒いケーブル（マイナスケーブル）を車体に接続する際には、燃料系統やブレーキホース／パイプに接触させないでください。
●ケーブルやエンジンルーム内の回転部分や可動部分に接触しないよう注意してください。

注 意

●イグニッションをオフにして 4 分経過してからバッテリーの接続をはずしてください。
●バッテリーからケーブルをはずす前に、パワーウィンドウを閉めてください。
閉めていないと、充電後に再度の初期化が必要になります。

MEMO

バッテリーは硫酸や鉛などの有害物質を含んでいます。環境汚染防止のため、正しく廃棄してください。

●バッテリー上がり防止モード

バッテリーの電圧が一定レベル以下の場合、エアコンやリアウィンドウデフォッガーなどの多く電力を消費する機能が自動的にオフになります。オフになった機能は、バッテリーの電圧が回復した後、自動的にオンに戻ります。

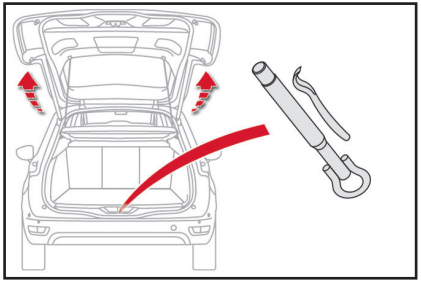
●エコノミーモード

エンジンが停止してからも、オーディオ機器などへの電源供給を走行直後は最大40分行います。電源が切れると、メッセージが表示されます。

エンジンを再始動すると、電源の供給が再開されます。
すぐにアクセサリーを使用したいときは、エンジンを始動して数分間まわしてください。
エンジンをかけていた時間の倍の間、アクセサリーを使用できます。ただし、この時間は5～30分に限られます。

けん引されるとき

●けん引ボルトの場所



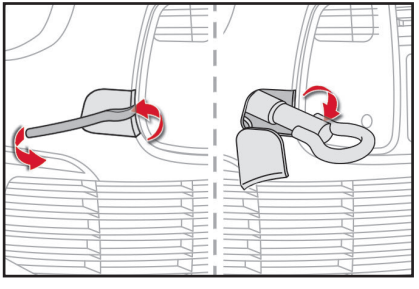
けん引ボルトはラゲッジルーム下に入っています。カバーオープナーはけん引ボルトに取り付けられています。

●けん引について

吊り上げずに（4輪が接地した状態）けん引されるとき

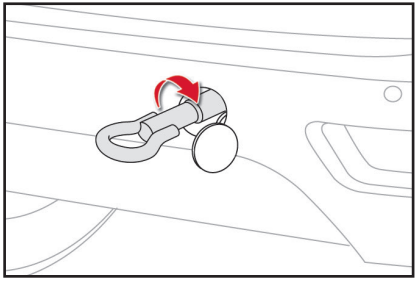
けん引時は、シフトモードセレクターを**N**にしてください。

前からけん引される場合



カバーオープナーでカバーをはずし、けん引ボルトが止まるまでねじ込みます。

後ろからけん引される場合



カバーの下側を押してはずし、けん引ボルトが止まるまでねじ込みます。

吊り上げて（2輪が接地した状態）けん引されるとき

けん引用の車輪に乗せて移動してください。

⚠警 告

エンジンが始動していない状態でけん引される車両は、ブレーキペダルが重く効きが悪くなっています。けん引している前方の車両に追突しないよう注意してください。また、パワーステアリングも作動していません。ハンドルも重くなっていますので注意してください。

注 意

●以下のときは、けん引は専門業者にご依頼ください。
- ・高速道路で走行中に車両が故障した。
- ・シフトモードセレクターが **N** に入らない、ステアリングのロックが解除できない、またはパーキングブレーキが解除できない。
- ・2 輪が接地した状態でけん引される。
- ・この車専用のけん引ボルトが使用できない。

注 意

●けん引されるときは、以下の点にご注意ください。
- ・シフトモードセレクターは **N** にしてください。
- ・50km 以内の距離を、低速（時速 30km 以下）で移動してください。

●この車より重量の重い車両でけん引してください。

●4 輪が接地した状態で車両がけん引されるときは、必ずけん引ボルトを使用してください。

●けん引ボルト以外の箇所にけん引フックをかけないでください。

●けん引される車両は、ハザードランプをオンにしてください。

AdBlue®（尿素水）の補充(ディーゼル車)

シトロエン C4 Picasso は AdBlue® を使用することで、排気ガス中の窒素酸化物を低減します。AdBlue® は走行すると消費され、減少します。
AdBlue® の補充は、シトロエン指定サービス工場にお申し付けください。

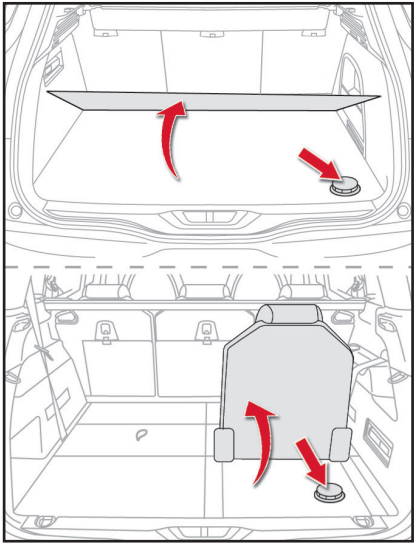
MEMO

- AdBlue® の補充は、シトロエン指定サービス工場での定期点検整備毎に行われます。
- AdBlue® の残量がなくなるとエンジンを始動できなくなります。AdBlue® の補充は早めに行ってください。

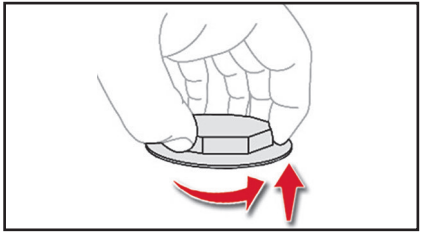
●緊急時にお客様がご自分で AdBlue®を補充する

AdBlue® の残量がなくなり、エンジンが始動できなくなったときは、約 3.8 リットル以上の AdBlue® を補充すると、エンジンを始動できるようになります。
AdBlue® タンクは、ラゲッジルームの下に格納されています。

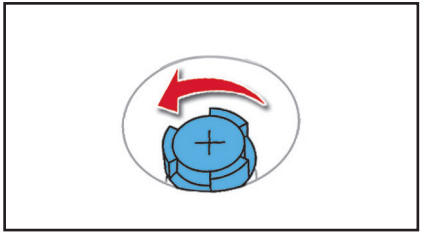
1. 平坦な路面で安全な場所に車を停めます。
2. エンジンを停止します。
3. 5 シーターは、ラゲッジルームの中敷板を取りはずします。
   7 シーターは、3 列目右側シートを取り出します。



4. 黒色のキャップをゆるめ、取りはずします。



5. 青色のキャップをゆるめます。



6. 青色のキャップを取りはずします。
7. 補充が終わったら、青色と黒色のキャップをしっかりと締めて戻します。

MEMO

●AdBlue® の残量がなくなった場合は、AdBlue® の補充後、約 5 分以上待ってからエンジンを始動してください。また、約 5 分以上待つ間、以下の操作は行わないでください。
- 解錠する
- 運転席ドアを開ける
- 車内にスマートキーを持ち込む
- スマートキーをスマートキー挿入スロットに挿入する

エンジン始動時は、イグニッションをオンにして約 10 秒以上待ってから、エンジンを始動してください。
●AdBlue® の補充後は、エンジンの始動に通常よりも数秒間長くかかる場合があります。
●AdBlue®はISO規格(ISO 22241-1)に準拠したものを使用してください。
●AdBlue® タンクの容量は約 17 リットルです。
●AdBlue®（アドブルー）はドイツ自動車工業会(VDA)の登録商標です。

⚠注 意

AdBlue® は、無色、透明、無臭で、身体に触れても無害の尿素水溶液です。
万が一目に入ったり、皮膚に付着したときは、きれいな水で洗い流してください。違和感がある場合は、すぐに医師の診断を受けてください。
また、誤って飲み込んでしまったときは、コップ 1 ～ 2 杯の水または牛乳を飲み、すぐに医師の診断を受けてください。

注 意

●AdBlue® を補充するときは次のことをお守りください。車両の部品や塗装などを損傷するおそれがあります。
- AdBlue® 以外の尿素水を使用しないでください。
- AdBlue® を水道水などで希釈しないでください。
- AdBlue® を他の薬品と混ぜたりしないでください。
- AdBlue® が車両の塗装面に付着したときは、すぐに水で洗い流してください。

注 意

●AdBlue® を保管するときは次のことをお守りください。車両の部品や塗装などを損傷したり、AdBlue® の成分が変質して刺激臭が発生するおそれがあります。
- AdBlue® を車内に放置しないでください。
- AdBlue® を指定以外の容器で保管しないでください。
- AdBlue® は容器を密閉し、直射日光の当たらない風通しの良い、気温が 25℃を超えない場所に保管してください。

MEMO

●AdBlue® は凍結しても、解凍すればそのまま使用できます。
●使用済みの AdBlue® の容器は、地域条例に従って廃棄してください。

燃料切れしたとき(ディーゼル車)

燃料を補給後、以下の操作を行い、燃料系統内のエア抜きをしてください。

1. シフトモードセレクターを **P** の位置にします。
2. パーキングブレーキがかかっていることを確認します。
3. ブレーキペダルを踏まずに **START/STOP** スイッチを押し、イグニッションをオンにします。
4. 約 6 秒間待って、イグニッションをオフにします。
5. 手順 3 から手順 4 の操作を 10 回繰り返します。
6. エンジンを始動します。

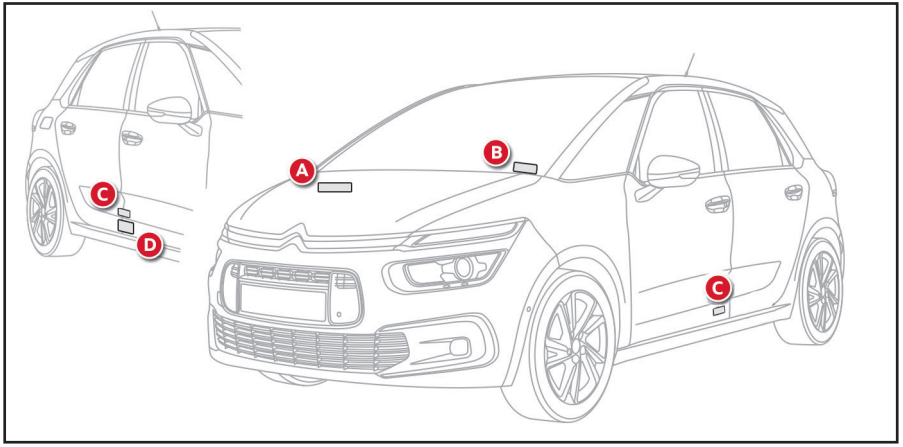
MEMO

●エンジンがかからないときは、イグニッションをオフにし、再度エア抜きをしてください。
●エア抜きの操作を繰り返してもエンジンがかからないときは、シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。

車両データ・アクセサリー類・索引

識別表示 …… 8-2
外形寸法 …… 8-3
アクセサリー類 …… 8-4
索引 …… 8-7
付録 …… 8-13

●識別表示



A　車台番号（エンジンルーム内）
B　車台番号（フロントガラス下側）
C　認証ラベル
D　タイヤ仕様と車体塗色コードラベル
タイヤとホイールサイズ、メーカー名、適正空気圧、車体色などが記載されたラベルが、運転席側のピラー部に貼られています。

車のタイプや車両認識番号は登録証にも記載されています。
シトロエン純正部品は、シトロエン販売店でお求めください。
シトロエン車本来の安全性や耐久性を損なわないためにも、純正の部品やアクセサリー類のご使用をお勧めします。シトロエン純正部品以外の使用は、保証の適用外になります。

⚠注 意

タイヤを交換するときは、必ず同サイズ同種類のタイヤを使用してください。他のタイヤを使用すると、安全走行に悪影響をおよぼします。

注 意

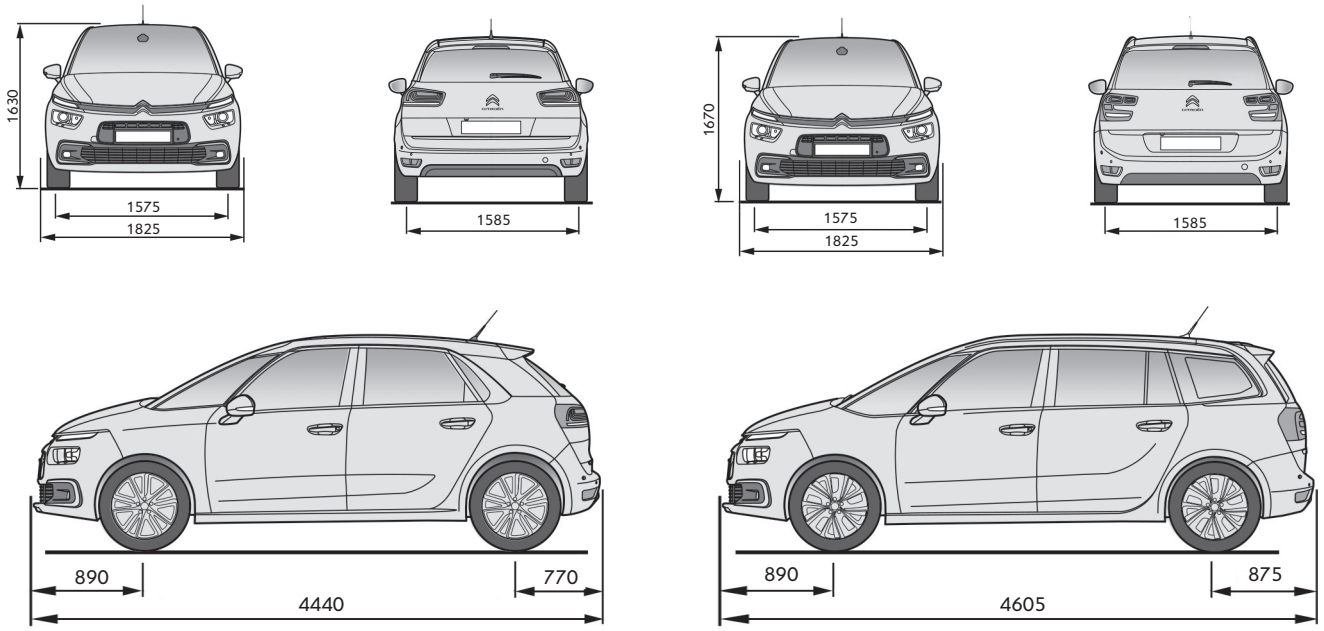
●タイヤのサイズによっては、タイヤチェーンが装着できません。詳しくはシトロエン販売店へお問い合わせください。
●タイヤの空気圧は、走行前少なくとも月一回の割合でチェックしてください。必ずシトロエンが指定する空気圧に調整してください。

MEMO

タイヤの空気圧が低すぎると、燃費が悪くなります。

* ラベルの位置は仕様で異なります。

●外形寸法



5 シーター

7 シーター

* 数値は予告なく変更されることがあります。

アクセサリー類

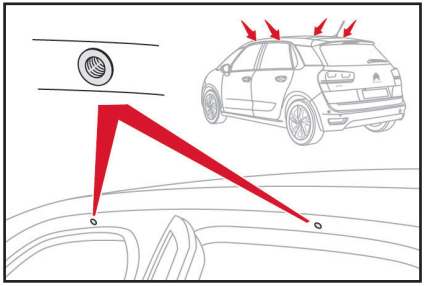
アクセサリー類は、シトロエン純正部品を使用してください。取り付けは、付属の取扱説明書に従ってください。

●ルーフキャリア

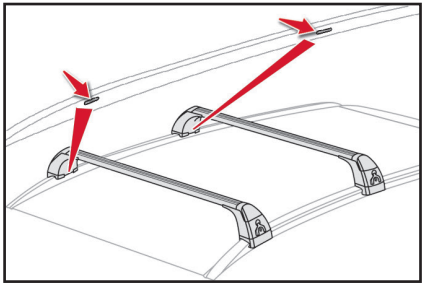
キャリアを含めた許容荷重は 80kgです。

MEMO

使用しないときはルーフキャリアを取りはずしてください。



ルーフキャリアの取り付け（5 シーター）
キャリアを取り付けるときは、ルーフのマークに合わせて取り付けてください。



ルーフキャリアの取り付け（7 シーター）
キャリアを取り付けるときは、ルーフレールのマークに合わせて取り付けてください。
荷物を積んだ後、もう一度キャリアを確実に固定してください。
ルーフレールは取りはずしできません。

⚠警 告

●ルーフキャリアはシトロエン純正品を取扱説明書にしたがって正確に取り付けてください。
●シトロエン純正以外のルーフキャリアを使用したり、指示通りに取り付けなかったりした場合、ルーフキャリアや荷物が落下し、事故やケガにつながるおそれがあります。
●荷物の固定には、細すぎたり、損傷したひもや不適切なひもは使用しないでください。荷物を固定する際には、適切なひもを使用し、しっかりと固定してください。やむを得ず荷物がルーフ部分から突き出る場合は、適切な目印を取り付けて周囲に知らせてください。
●ルーフキャリアに荷物を積む際には、ルーフキャリア許容荷重を超えないようにしてください。
●ルーフに重たい荷物や大きな荷物を積んでいると、車両の重心が変わったり風の抵抗が大きくなり走行に影響を与えます。速度を控えたり、急ブレーキ、急ハンドルを避ける等慎重な運転を心がけてください。

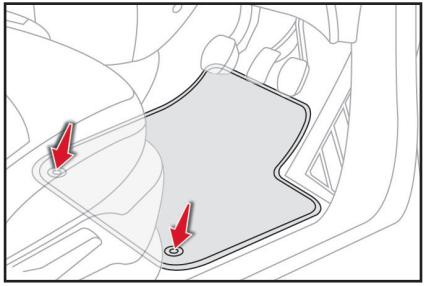
⚠注 意

●キャリアの高さには注意してください。特に高速走行を行うと、予想以上に負荷がかかるので思わぬトラブルの原因となることがあります。
●7 シーターでは、荷物を積むときは、ルーフレールに直接荷物を積んだり、ロープで固定せず、キャリアを使用してください。
●ルーフキャリアに長い荷物を積む際は、エレクトリックテールゲートをオフにしてください。

注 意

テールゲートには自転車キャリアを絶対に取り付けないでください。

●フロアマット*



運転席側のフロアマットを取り付けるときは、フロアマットを正しい位置に合わせ、クリップで留めてください。フロアマットがしっかり固定されていることを確認してください。

⚠警 告

●車両側に装備されている固定フックに適したフロアマットのみ使用してください。また、2 枚以上のフロアマットを重ねて使用しないでください。ペダル操作の妨げになります。

●シトロエン未指定のフロアマットの使用は、ペダル操作の妨げになるだけでなく、クルーズコントロール／スピードリミッター機能の使用の妨げにもなり、重大な事故につながるおそれがあります。

* 仕様により異なります。

数字

12V電源
ソケット ·····5-19、5-21、5-27、5-30、5-33
2列目シート ·····1-13
3列目シート ·····1-16
360° ビジョン ·····3-64
6速エフィシェント・オートマチック・
トランスミッション ·····14、3-5

アルファベット

ABS(アンチロックブレーキシステム)····· 3-16
AdBlue® ····· 3-18、7-22
ASR(トラクションコントロールシステム) ····· 3-16
Bluetooth ····· 8-18
DPF(ディーゼルパティキュレートフィルター)···· 3-21
DSC(ダイナミックスタビリティコントロール) ··· 3-16
ESC(エレクトロニックスタビリティコントロール)··· 3-16
ISOFIXチャイルドシート ····· 1-30、1-31
SCR(選択式還元触媒) システム····· 3-18
START／STOPスイッチ ·····12、3-2
USBポート ·····5-30、8-18

あ

アクセサリー類····· 8-4
アクティブクルーズコントロール ·····3-44
アクティブクルーズコントロール
(ブレーキサポート付)·····3-49
アクティブセーフティブレーキ ·····3-35
アクティブブラインドスポットモニター ····· 3-27
アクティブランバーサポート·····1-5
アンチロックブレーキシステム(ABS) ····· 3-16
イモビライザー(盗難防止システム)····· 2-8
インストルメントパネル····· 4-2
インストルメントパネルのディスプレイゾーン ····· 4-3
インストルメントパネルの表示モード····· 4-4
インテリジェントエマージェンシー
ブレーキアシスト ·····3-38
インテリジェントハイビーム ·····4-28
ウィンドウウォッシャー·····4-36
エアコンディショナー(エアコン) ····· 5-2
エアバッグ ····· 1-33
エアフィルター ·····6-7、6-21
エクステリアサイドランプ ····· 4-33、6-10

エクステリアウェルカムランプ ····· 4-32
エコノミーモード ····· 7-20
エマージェンシートーチ ····· 5-25
エマージェンシーブレーキ ····· 3-37
エレクトリックパーキングブレーキ····· 14、3-10
エレクトリックテールゲート····· 2-17
エンジンオイル ····· 6-21
エンジンオイルの
点検／補給／交換 ·····6-3、6-4、6-5、6-21
エンジンの始動 ····· 3-2
エンジン油量インジケーター····· 4-22
エンジンルームの点検·····6-3、6-4
オーディオ ····· 8-13
オートドアロック ····· 2-10
オートライト ····· 13、4-27
オドメーター ····· 4-23

か

外形寸法 ····· 8-3
間接式タイヤ空気圧警告 ····· 4-39
キセノンディレクショナルヘッドライト ····· 6-8
給油 ····· 6、2-22
緊急用キー ····· 2-9
クルーズコントロール ····· 15、3-56
グローブボックス ····· 5-29
警告灯 ····· 4-11
けん引されるとき····· 7-20
コーナリングライト ····· 4-31
工具 ····· 7-2、7-4、7-10

さ

サービスインジケーター ····· 4-20
サンバイザー ····· 5-28
シートアレンジ ····· 1-18
シートの調整····· 1-2、1-4
シートヒーター ····· 1-6
シートベルト ····· 1-19
シートポジションメモリー····· 1-7
識別表示 ····· 8-2
シフトモードセレクター ····· 3-5

使用燃料について ····· 1-38
触媒コンバーター ····· 1-40
助手席エアバッグキャンセルスイッチ ····· 10、1-34
助手席電動カーフレスト ····· 1-9
推奨交換時期 ····· 6-21
推奨点検時期 ····· 6-22
推奨油脂類 ····· 6-21
スーパードアロック ····· 2-6
ステアリングスイッチ ····· 8-15
ストップ&スタート ····· 3-22
スノーチェーン／スノーネット ····· 1-39
スピードリミッター ····· 15、3-58
スピードリミットインフォメーション ····· 3-40
スライディングサンバイザー ····· 5-28
センターコンソール ····· 5-29、5-30

た

タイヤ空気圧 ····· 1-38、8-2
タイヤの交換 ····· 6-20、7-2
タイヤの点検 ····· 1-37
タッチスクリーン ····· 11、5-12、8-13
チャイルドウォッチミラー ····· 5-28
チャイルドシート ····· 1-23
チャイルドセーフティ ····· 10、2-13
チルト・テレスコピックステアリング ····· 8、3-4
テールゲート ····· 2-16
テールランプの交換 ····· 6-11、6-13
ディスタンスアラート ····· 3-36
ディレクショナルヘッドライト ····· 4-30
電球の交換 ····· 6-7
電池の交換（リモコン） ····· 2-7
ドアミラー ····· 9、1-10
ドアロック ····· 2-9
ドライバーアテンションアラート ····· 3-32
ドライブコンピューター ····· 4-40
トリップメーター ····· 4-23

は

パークアシスト ····· 15、3-66
パーキングブレーキ ····· 3-10

ハザードランプ ····· 4-34
バックカメラ ····· 3-63
バック／フロントソナー ····· 3-61
バックミラー ····· 8、1-11
パッシング ····· 4-25
バッテリーが上がったとき ····· 7-17
パノラミックガラスルーフ ····· 2-14
パルファムエアフレッシュナー ····· 5-10
パワーウィンドウ ····· 10、2-11
パンク修理キット ····· 7-10
ハンズフリーエレクトリックテールゲート ····· 2-20
ヒューズの交換 ····· 6-16
ヒルスタートアシスタンス ····· 3-15
フォグランプ ····· 13、4-26
フォローミーホーム(駐車時照明機能) ····· 4-32
フュエルリッド ····· 6、2-22
ブラインドスポットモニター ····· 3-25
フロントシートバックテーブル ····· 5-32
フロントシートヒーター ····· 1-6
ヘッドライトウォッシャー ····· 4-37
ヘッドランプ ····· 13、4-25
ヘッドランプの交換 ····· 6-7
ヘッドレスト ····· 8、1-3、1-12
ホーン ····· 3-4
保安炎筒 ····· 1-40
方向指示器 ····· 4-34
ボンネット ····· 2-15

ま

ミラー ····· 9、1-10

ら

ライトスイッチ ····· 13、4-25
ラゲッジルーム ····· 5-19、5-21
ラゲッジルームボード ····· 1-16
リアシート ····· 1-13、1-16
リアヘッドレスト ····· 1-12
リジッドボード ····· 1-15
リモコン ····· 2-2

ルーフキャリア ····· 8-4
ルームランプ ····· 5-23
冷却水温度計 ····· 4-19
レーンキープアシスト ····· 3-28

わ

ワイパー ····· 13、4-35
ワイパーブレードの交換 ····· 4-38

MEMO

- ●接続するオーディオ機器によっては動作が異なる場合があります。
- ●このオーディオには盗難防止機能が付いています。他の車両では使用できません。
- ●利用可能な Bluetooth の機能、およびその表示内容は、携帯電話の種類とその設定、および契約内容によって異なります。詳細はお客様がお使いの携帯電話会社へお問合せください。
- ●Bluetooth® は Bluetooth SIG, Inc. の商標です。
- ●Apple は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。
- ●iPhone は Apple Inc. の商標です。
- ●iPhone の商標は、アイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。
- ●MirrorLink ™は Car Connectivity Consortium LLC. の商標です。
- ●タッチスクリーンのシステムのバージョンアップやオプションのナビゲーションの接続によって、操作や表示、アイコンのデザイン、色などが変更されることがあります。

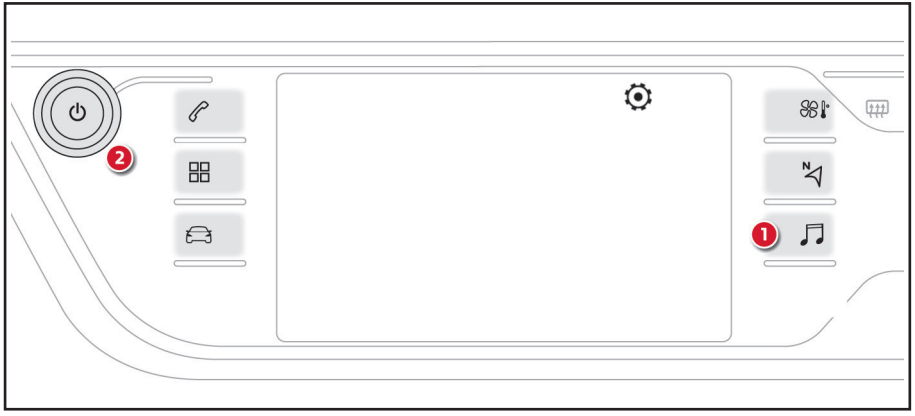
オーディオ／ハンズフリー通話（タッチスクリーン）

基本操作 …… 8-14
ラジオ …… 8-16
USB/Bluetooth …… 8-18
画像ファイルの表示 …… 8-20
ハンズフリー通話 …… 8-21
通話をする …… 8-22
プロファイルの設定 …… 8-27
FAQ（良くある質問） …… 8-29

⚠警 告

安全上の理由から、各種設定など複雑な操作は、車両を停止し、イグニッションを ON にした状態で実施してください。

基本操作



オーディオの操作はタッチスクリーンから行います。

①：このボタンをタッチすると、ラジオやUSBメディアの再生・設定画面に移動します。

●各画面共通のアイコン

各画面では、以下のようなアイコンが表示されます。

←　前のページに戻ります。

OK　設定を有効にします。

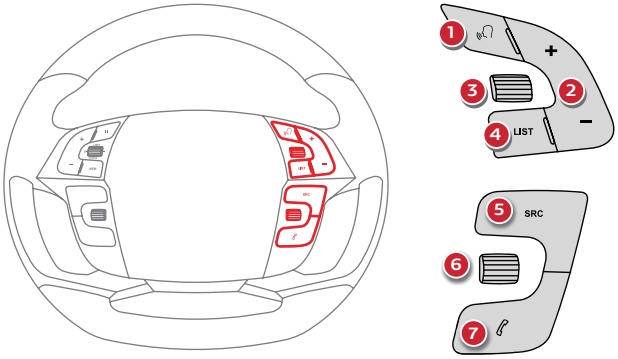
MEMO

タッチスクリーンのグレーアウトされたエリアをタッチすると前のページに戻ります。

●音量の操作

音量の操作は音量調整ツマミ②で行ないます。
音量調整ツマミ②を押すと、音量のオン／オフが行なえます。
その間、USB などの再生メディアは停止しています。

●ステアリングスイッチ

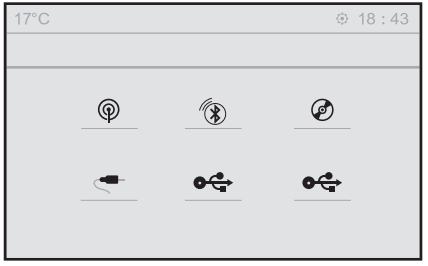


①：音声認識機能起動ボタン
接続する携帯電話などの音声認識機能を使用して電話を発信します。
②：音量調整ボタン
ボリュームが増減します。
③：ラジオ選局／メディア選曲ダイヤル
登録したラジオ放送局やメディアのトラック選択に使用します。
④：**LIST** ボタン
音楽の再生リストやラジオの放送局リストなどを表示します。
⑤：**SRC** ボタン
入力ソースを切り替えます。
⑥：設定ダイヤル
ダイヤルを回して設定項目を選択します。押し込むと、設定項目を決定できます。
⑦：**TEL** ボタン
発着信履歴や連絡先などの表示、ハンズフリー通話の受話および終話などに使用します。

MEMO

オプションのナビゲーションや、TV が表示されているときは、**LIST** ボタン④、**SRC** ボタン⑤または **TEL** ボタン⑦を押す前にナビゲーション以外の画面にしておいてください。

●入力ソースの切り替え



1. をタッチします。
2. タッチスクリーンの**ソース**をタッチします。
3. 入力ソースをタッチします。

MEMO

入力ソースの切り替えは、ステアリングの **SRC** ボタンを押しても行えます。

ラジオ

●ラジオモードへの切り替え

1. をタッチします。
2. タッチスクリーンの**ソース**をタッチします。
3. **ラジオ**を選択します。

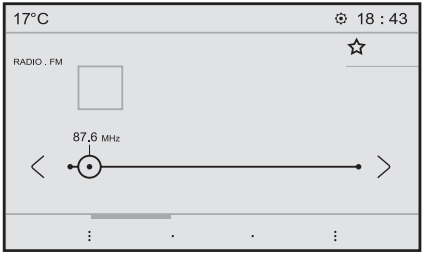
MEMO

入力ソースの切り替えは、ステアリングの **SRC** ボタンを押しても行えます。

●FM／AMの切り替え

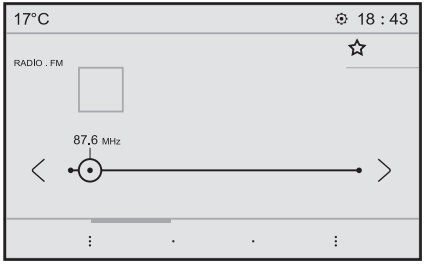
1. をタッチします。
2. タッチスクリーンの**オプション**をタッチします。
3. FM をタッチして AM または FM ラジオを選択します。

●手動サーチ



タッチスクリーンのカーソルを左右に動かすと受信周波数が変わります。
またはカーソルの上の現在受信している放送局周波数をタッチし、タッチスクリーンから周波数を入力して **OK** をタッチします。

●自動サーチ



タッチスクリーンのカーソルの端にある＜または＞をタッチすると、自動サーチが開始され、受信可能な放送局が見つかったところで止まります。

MEMO

自動サーチで合わせたい放送局に止まらない場合は、電波状況が弱いなどが考えられます。手動サーチで放送局を設定してください。

●プリセットへの登録

自動サーチまたは手動サーチでサーチした放送局を各プリセットに登録します。

1. タッチスクリーンの**プリセット**をタッチします。
2.  を長くタッチします。

MEMO

☆ をタッチしてもプリセットへの登録ができます。プリセット済みの放送局はアイコンが黒色で表示されます。

●登録した放送局の呼び出し

1. タッチスクリーンの**プリセット**をタッチします。
2. 呼び出したいプリセット番号をタッチします。

MEMO

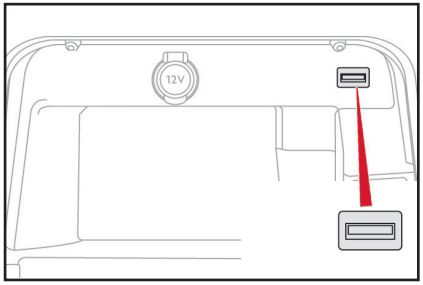
ステアリングのラジオ選局／メディア選曲ダイヤルを上下に回しても登録した放送局の呼び出しができます。

●受信可能放送局リスト

タッチスクリーンの**リスト**をタッチするか、ステアリングの **LIST** ボタンを押すと受信できる放送局のリストが表示されます。
リスト中の放送局を選択するには、タッチスクリーンの放送局リストをタッチするか、ステアリングのラジオ選局／メディア選曲ダイヤルで放送局を選択して、押し込みます。

USB/Bluetooth

●USBポートへの接続



まず、USB ポートにオーディオ機器や音楽ファイルが記録された USB メモリーを接続します。

●Bluetooth接続

Bluetooth での接続を行うには、機器のペアリング／接続をします。手順は、「電話機との接続（ペアリング）」の項を参照してください。

●USB／Bluetoothモードへの切り替え

1.  をタッチします。
2. タッチスクリーンの**ソース**をタッチします。
3. 入力ソースをタッチして選択します。

MEMO

入力ソースの切り替えは、ステアリングの **SRC** ボタンを押しても行えます。

MEMO

- ●接続するオーディオ機器の仕様により認識できないことがあります。
- ●認識可能なファイルフォーマットは WMA（9 のみ）、AAC、FLAC、OGG、MP3 です。
  接続するオーディオ機器の仕様により再生できないことがあります。
- ●再生可能な MP3 のサンプリング周波数は 32kHz 以上です。
- ●ファイル名などの表示できる文字数や種類には制限があります。
- ●USB ポートに、オーディオ機器以外の USB 装置やハードディスクなどを接続しないでください。オーディオが故障するおそれがあります。
- ●ストリーミング再生は電話機の機能に依存します。
- ●音質は、電話機からの送信品質によって決まります。
- ●オーディオファイルの再生・停止などは、電話機で操作しなければならない場合があります。
- ●接続に必要なケーブルは付属していません。

●再生と停止

メディアを接続すると自動的に再生が始まります。
再生と停止は、タッチスクリーンの**プレーヤー**をタッチし、画面右上の再生／停止ボタンをタッチして行います。音量調整ツマミを押しても再生と停止ができます。

●選曲

ステアリングのラジオ選局／メディア選曲ダイヤルを回すか、タッチスクリーンの**プレーヤー**をタッチし、＜または＞をタッチすると前後の曲に変わります。
タッチスクリーンの＜または＞を長くタッチするか、カーソルを動かすと巻き戻し／早送りできます。

●再生リストの表示

再生リストは以下の手順で表示させます。

1. ステアリングの **LIST** ボタンを押します。
2. ステアリングのラジオ選局／メディア選曲ダイヤルを回してフォルダまたは曲を選択します。
3. ステアリングのラジオ選局／メディア選曲ダイヤルを押し込んで決定します。

MEMO

- ●再生リストはタッチスクリーンの**トラック リスト**や**ライブラリ**をタッチしても表示させることができます。
- ●接続するオーディオ機器の仕様により、ステアリングの **LIST** ボタンで再生リストを表示できない場合があります。

●再生オプション

以下の再生オプションを設定できます。
・ランダム再生
・リピート再生

1.  をタッチします。
2. タッチスクリーンの**オプション**をタッチして再生オプションを表示させます。

●オーディオの設定

再生時の音質などのオーディオの設定を行うことができます。

1.  をタッチします。
2. タッチスクリーンの**オプション**をタッチします。
3.  をタッチしてオーディオの設定画面を表示させます。

オーディオの設定項目一覧

項目名	説明
トーン	プリセットから音質を選択できます。ユーザー設定を選択した場合は、任意の音質に設定できます。
バランス	リスニングポジションに合わせた前後左右の音量バランスを調整します。
サウンド	操作音の音量や、車速感応式自動音量補正機能を設定します。
呼出音（着信音）	着信音量を設定します。

MEMO

●同じ画面に表示される**音声**の設定は日本国内では使用できません。
●接続する機器の仕様により**呼出音（着信音）**の設定ができないことがあります。

●ナビ／TVのレベル調整*

ナビやテレビの音量は、音量調整ツマミで調整します。

画像ファイルの表示

1.  をタッチします。
2.  をタッチします。
3. 表示したい画像が格納されているフォルダをタッチします。
4. 画像をタッチして表示させます。

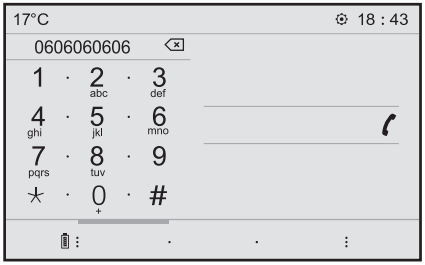
MEMO

●表示できるファイルは、jpeg、bmp、gif、tiff です。
接続する機器の仕様により表示できないことがあります。
●動画の再生はできません。
●同じ画面に表示される **SMS** のアイコンは日本国内では使用できません。

* 仕様により異なります。

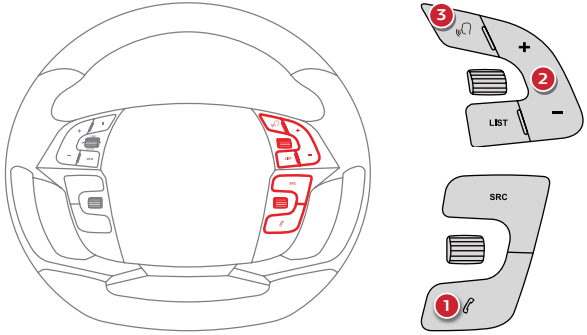
ハンズフリー通話

●ハンズフリーの通話・設定画面への移動



タッチスクリーンのこのボタンをタッチして、ハンズフリーの通話・設定画面に移動します。

●ステアリングスイッチ



①：**TEL** ボタン
着信があった場合に、短く押すと着信を受け付けます。長く押すと着信を拒否できます。
通話中に短く押すと、メニュー（**終話**、**保留**、**リダイヤル**、**マイク OFF**）を表示します。
通話中でないときに短く押すと、メニュー（**連絡先**、**発着信履歴**）を表示します。

②：音量調整ボタン
通話音量を調整できます。

③：音声認識機能起動ボタン
接続する携帯電話などの音声認識機能を使用して電話を発信します。

通話をする

●電話機との接続（ペアリング）

1. 電話機の Bluetooth 機能をオンにして、外部から検索可能な状態に設定します（電話機の説明書を参照）。
2.  タッチスクリーンのこのボタンをタッチします。
3. タッチスクリーンの **TEL** をタッチします。
4.  をタッチします。
5.  をタッチして Bluetooth 機器の検索を行います。
6. リストから接続したい電話機を選択します。
7. タッチスクリーンと電話機に表示されたペアリングコードを確認し、タッチスクリーンの **Yes** をタッチします。電話機側でも同様に操作します。ペアリングに失敗した場合は、イグニッションを OFF にしたり、電話機の電源を OFF にするなどして、再度接続を試みてください。

MEMO

- ●初回接続時は、にタッチした後、にタッチして Bluetooth® 機器の検索を開始します。
- ●電話機名の代わりに電話機の機種名が表示される場合があります。
- ●画面に表示される **MirrorLink** ™ は日本国内では使用できません。

⚠警 告

安全上の理由から、Bluetooth ハンズフリーシステムのペアリングは、車両を停止し、イグニッションを ON にした状態で実施してください。

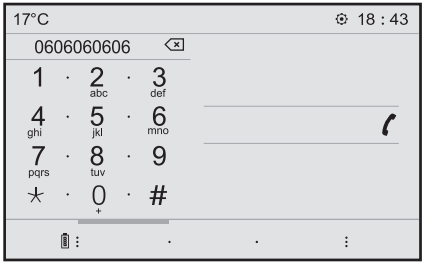
MEMO

- ●電話機として一度に接続できる機器は 1 台だけです。
- ●利用できる機能はネットワーク、SIM カード、および使用する電話機の仕様（互換性）により異なります。
- ●エンジンを始動するたびに自動再接続を可能にするには、電話機側での設定が必要な場合があります。
- ●ペアリングは、電話機から Bluetooth デバイスを検索して開始することもできます。

●電話をかける

発信

1. タッチスクリーンのこのボタンをタッチします。
2. タッチスクリーンの**キーパッド**をタッチして、タッチスクリーンから電話番号を入力します。



3. タッチスクリーンの発信をタッチして発信を開始します。

注 意

電話機から直接発信することも可能です。その場合、安全のため車を駐車してから発信してください。

発着信履歴からの発信

1. タッチスクリーンのこのボタンをタッチします。
2. タッチスクリーンの**発着信履歴**をタッチします。
3. リストをタッチして発信を開始します。

MEMO

- ●発着信履歴は、ステアリングの **TEL** ボタンを短く押し、ステアリングの設定ダイヤルで選択して表示することもできます。
- ●発着信履歴には、接続した電話機により車両経由で行った発信と受信が含まれています。
- ●電話機により、発着信履歴からの発信ができない場合があります。

連絡先からの発信

1. タッチスクリーンのこのボタンをタッチします。
2. タッチスクリーンの**連絡先**をタッチします。
3. リストをタッチします。
4. 表示された電話番号をタッチして発信を開始します。

MEMO

連絡先は、ステアリングの **TEL** ボタンを短く押し、ステアリングの設定ダイヤルで選択して表示することもできます。

音声認識機能を使用した発信

1. 音声認識機能起動ボタンを押します。
2. 「○○○に電話」などと話します。

MEMO

あらかじめスマートフォンの音声認識機能をオンにしてから操作してください。

●電話を受ける

1. 受信通話があると、着信音が鳴り、タッチスクリーンに表示されます。
2. ステアリングの **TEL** ボタンを短く押すか、タッチスクリーンの ✆ をタッチして通話を受けます。

MEMO

- ●着信を拒否するには、タッチスクリーンの ✆ をタッチするか、ステアリングの **TEL** ボタンを長く押します。
- ●着信を保留にするには、タッチスクリーンの ⏸ をタッチします。
- ●受話後、**プライベート通話**をタッチすると、ハンズフリー通話から電話機での通話に切り替わります。
- ●受話後、**マイク OFF** をタッチすると、通話相手に自分の声が聞こえなくなります。

●電話を切る

電話を切るには、タッチスクリーンの**終話**をタッチするか、ステアリングの **TEL** ボタンを短く押し、ステアリングの設定ダイヤルを回して**終話**を選択して、押し込みます。

●着信音量の設定

1.  タッチスクリーンのこのボタンをタッチします。
2. タッチスクリーンの**オプション**をタッチします。
3.  をタッチします。
4. タッチスクリーンのカーソルを左右に動かして着信音量を調整します。

MEMO

接続する機器の仕様により着信音量の設定ができないことがあります。

●連絡先の並べ替え

連絡先を苗字または名前で並べ替えできます。

1.  タッチスクリーンのこのボタンをタッチします。
2. タッチスクリーンの**オプション**をタッチします。
3.  をタッチして苗字または名前で並べ替えます。

MEMO

日本語はひらがな、またはカタカナで登録された連絡先のみ並べ替えできます。

●連絡先の検索

タッチスクリーンで名前を入力して連絡先の検索ができます。

1.  タッチスクリーンのこのボタンをタッチします。
2. タッチスクリーンの**連絡先**をタッチします。
3.  をタッチします。
4. タッチスクリーンから検索したい連絡先の名前を入力します。
5. 表示された連絡先候補の中から連絡先を選択します。

MEMO

日本語はひらがな、またはカタカナで登録された連絡先のみ検索できます。

●応答の保留の設定

着信をしたら自動的に保留に切り替わる設定ができます。

1.  タッチスクリーンのこのボタンをタッチします。
2. タッチスクリーンの**オプション**をタッチします。
3.  をタッチして応答の保留をオンにします。

●接続設定の変更

Bluetooth による電話機との接続には、ハンズフリー接続およびオーディオ接続が含まれます。通常はどちらの機能も自動的に接続されます。

MEMO

電話機によっては、どちらかひとつの接続しかできない場合があります。

1.  タッチスクリーンのこのボタンをタッチします。
2. タッチスクリーンの **TEL** をタッチします。
3.  をタッチして Bluetooth 機器のリストを表示します。
4.  接続設定を変更したい Bluetooth 機器のこのボタンをタッチします。
5. ボックスにチェックをしてプロファイルを選択します。
6. **OK** をタッチします。

●電話機との接続（ペアリング）を切断する

1.  タッチスクリーンのこのボタンをタッチします。
2. タッチスクリーンの **TEL** をタッチします。
3.  をタッチして Bluetooth 機器のリストを表示します。
4. Bluetooth 機器のリストをタッチして接続を切断します。再度タッチすると、接続が再開されます。

●電話機との接続（ペアリング）を削除する

1.  タッチスクリーンのこのボタンをタッチします。
2. タッチスクリーンの **TEL** をタッチします。
3.  をタッチして Bluetooth 機器のリストを表示します。
4.  Bluetooth 機器のリスト右上のアイコンをタッチします。
5.  接続を削除したい Bluetooth 機器のこのアイコンをタッチします。
6. **Yes** をタッチして接続を削除します。

プロファイルの設定

タッチスクリーンの設定を、個別のプロファイルとして 3 つまで、または 1 つの共有プロファイルとして記憶できます。プロファイルには、アンビエンス（カラー）などの設定を記憶できます。

●プロファイルを設定する

1.  タッチスクリーンの画面上部にあるこのボタンをタッチします。
2.  をタッチします。
3. 設定したいプロファイルに合わせてタッチスクリーンの**プロファイル 1**、**プロファイル 2**、**プロファイル 3**、または**共有プロファイル**をタッチします。
4.  をタッチします。
5. タッチスクリーンからプロファイルの名前を入力します。
6. **OK** をタッチして入力内容を保存します。
7.  をタッチしてプロファイルをオンにします。

MEMO

共有プロファイルは名前の設定はできません。

●プロファイルの呼び出し

1.  タッチスクリーンの画面上部にあるこのボタンをタッチします。
2.  をタッチします。
3. 呼び出したいプロファイルに合わせてタッチスクリーンの**プロファイル 1**、**プロファイル 2**、**プロファイル 3**、または**共有プロファイル**をタッチします。
4.  をタッチします。

●プロファイルの初期化

1.  タッチスクリーンの画面上部にあるこのボタンをタッチします。
2.  をタッチします。
3. 初期化したいプロファイルに合わせてタッチスクリーンの**プロファイル 1**、**プロファイル 2**、**プロファイル 3**、または**共有プロファイル**をタッチします。
4.  をタッチします。
5.  をタッチします。
6. **Yes** をタッチします。プロファイルが初期化されます。

⚠警 告

安全上の理由から、プロファイルの設定は、車両を停止し、イグニッションを ON にした状態で実施してください。

FAQ(良くある質問)

ナビゲーション（地図／設定）の操作については、別冊の取扱説明書をお読みください。

質問	回答	対応方法
ラジオの受信感度が徐々に悪くなり、記憶させた放送局が表示されず、すべて同じ周波数が表示されてしまいます。	周囲に放送局がなく、電波を受信することができません。	その場所から移動してください。
	周囲に電波を遮るものがあり、電波を受信することができません。	
	アンテナが故障しています。	シトロエン指定サービス工場にお問い合わせください。
プリセット設定を選択したあと、低音·中·高音の個別設定を行うと、プリセット設定がユーザー設定になってしまいます。	プリセット設定と低音・中・高音の個別設定は同時に行えません。	どちらか片方で音質の調整を行なってください。
USB メモリを接続してから、長い時間反応がありません。	USB メモリを最初に接続すると、メディアに含まれる曲名やアーティスト名を読み込むために少し時間がかかります。	
USB メモリの音楽の再生に時間がかかっています。	音楽ファイル以外のファイルの読み込みには、時間がかかることがあります。	該当のファイルを削除してください。また、ディレクトリの階層を浅くしてください。
自動再生が始まりません。	一部の機器は自動再生に対応していません。	機器の側で再生を行なってください。
ラジオや USB などの入力ソースによって音質が異なります。	ボリュームや低音・中・高音などの音質設定は、入力ソースごとに保存されています。	入力ソースごとに最適な設定を行ってください。
エンジンを切っても、しばらくのあいだオーディオが動作しています。	エンジンを切ってもしばらく動作しますが、走行直後は最大 40 分で自動的に電源が切れます。	引き続きオーディオを使用したい場合は、エンジンを掛けてください。

質問	回答	対応方法
Bluetooth で電話機を接続できません。	電話機の Bluetooth 機能がオフになっているか探索可能な状態になっていません。	Bluetooth 機能を ON にしてください。または、探索可能な状態にしてください。
Bluetooth で接続した電話機の音量が小さくて聞き取れません。	受話音量はオーディオ本体と電話機の両方で調節できます。	電話機の音量を上げる、または、オーディオの音量を上げてください。
電話帳に同じ宛先が複数載っています。	SIM カードと電話機本体の両方に同じ宛先が載っています。	SIM カードまたは電話機本体の電話帳のみを表示させてください。
電話帳の並び順がアルファベット順になっていません。	電話機での並び順設定が優先されています。	電話機側で並び順を変更してください。
SMS（ショートメールなど）が受信できません。	SMS（ショートメールなど）の送受信には対応していません。	
曲名や曲の時間が表示されません。	携帯電話の種類によっては、表示されないことがあります。	
Bluetooth 接続した iPhone を USB ポートにも同時に接続しましたが、音楽ファイルを再生できません。	iPhone を電話機としてハンズフリー接続した場合、自動的にストリーミング機能が優先して USB 再生はできません。	一度 USB ケーブルを外して再度接続することで、USB 再生が優先されるようになります。
再生中の音楽の曲名などが正しく表示されません。	バージョンにより表示されない場合があります。	別の文字を使用してタイトルやフォルダ名を変更してください。

この取扱説明書は、お車のオーナーが最良の状態で車を使用し、維持できるように作成されています。

装備の解説は、このモデルの最上級仕様にもとづいています。

個々のお車においては、販売国の仕様によって、掲載されている装備のいくつかが該当しない場合があります。

テクニカルデータ、仕様、アクセサリーについては予告なく変更される場合があります。

取扱説明書内のイラストは、正確な描写を目的に作成されておりませんので、実車と一致しない場合があります。

オートモビル･シトロエン社の文書による許可を受けていない、この取扱説明書に掲載されている写真、イラスト、文章の一部または全部の転載、複写を禁止します。

編集発行　プジョー・シトロエン・ジャポン　株式会社　2017/11

PMOM - C4P17Ja





http://www.citroen.jp/